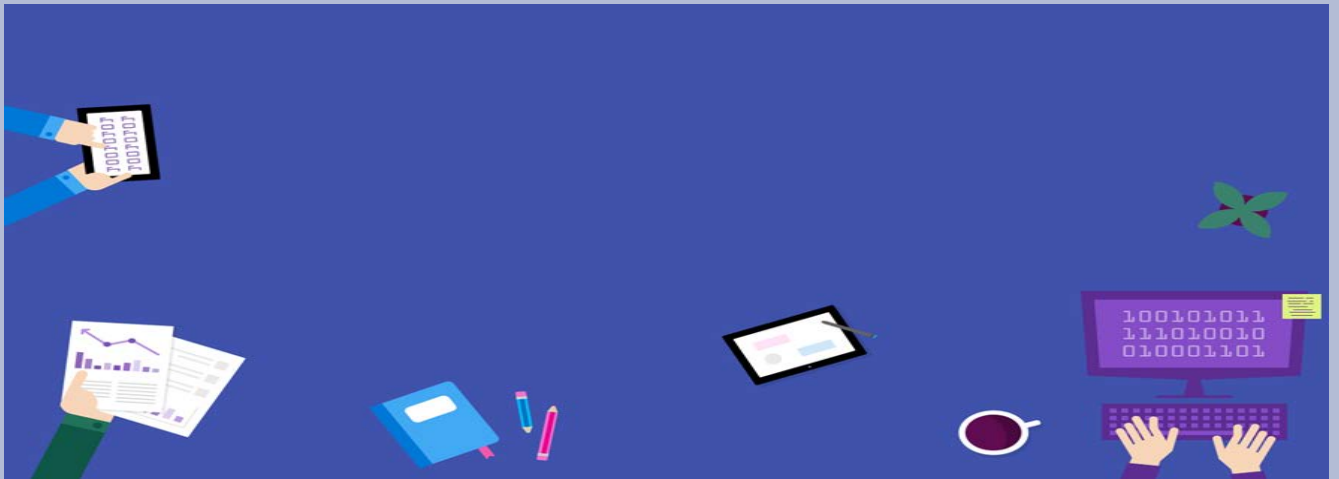




平成29年度（2017年度） 学生生活実態調査報告書・学部生



佐賀大学学生委員会

平成30年3月

ま え が き

佐賀大学は「面倒見の良い大学」を目指して、学生の修学、生活、経済、就職、留学及び課外活動などの支援を全学的におこなっています。平成 29 年度は、大学が学生の経済状況、生活状況等の学生生活の実態及び大学からの支援への要望等を把握し、学生を取り巻く環境の整備と学生生活支援の充実のための基礎資料を得ることを目的として、「学生生活実態調査」を実施しました。前回の調査は平成 19 年におこないましたので、10 年ぶりの実施でした。

佐賀大学には、学部学生、大学院生を合わせて、約 7,000 人の学生が在籍しています。そのうち最も多いのは福岡県出身の学生で全学生の約 40% を占めます。また、その約半数が自宅から通学しています。一方、佐賀県出身は約 30% で、過半数が自宅からの通学です。このように近年は自宅から通学出来る大学だからという理由で、本学への進学を決めた学生が増加している状況です。これまで大学での学習については、様々な形で調査がおこなわれていますが、学生の生活実態に関する全学的調査は、おこなわれて来ませんでした。今回の調査を実施するにあたり、学生委員会の中にワーキング・グループを設け、教員と学生生活課の職員が一体となって調査内容及び調査方法を検討しました。今回は、学生生活実態調査としては初めて紙のアンケート用紙ではなく、ウェブ上のアンケートシステムを利用して実施されました。既に、毎学期の授業評価アンケートがウェブアンケートシステムを利用して実施されているため、回答する側の学生にとっては目新しいものではなく、戸惑いは無かったようです。それでも、質問項目を精選するなど、回答しやすい形式を意識して実施しました。もちろん、自由記述形式で幅広い項目について、回答してもらいました。この報告書では、基礎的データの調査結果をグラフ形式で示し、また、自由記述回答は項目別に掲載しました。

本調査の結果を参考に、学生委員会は本学の今後の学生支援の在り方を検討したいと考えています。また、自由記述による学生の意見は、関係する部署により対応していき、学生の声に伝えることにしています。教職員の皆様におかれましては、本調査報告書に目をとおり、今後の教育、運営の参考にして頂ければ幸いです。最後になりましたが、本調査を実施してくださいましたワーキンググループメンバー及び学生生活課職員の皆様にお礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

学生委員会委員長 兒玉浩明

目 次

まえがき

調査の概要	1
Ⅰ. 基本事項	2
Ⅱ. 生活環境に関する事項	3
Ⅲ. 生活に関する事項	5
Ⅳ. 健康に関する事項	7
Ⅴ. 不安と悩みに関する事項	9
Ⅵ. 経済状況に関する事項	11
Ⅶ. アルバイトに関する事項	14
Ⅷ. 授業料免除に関する事項	16
Ⅸ. 奨学金に関する事項	16
X. 学業に関する事項	17
XⅠ. 進路に関する事項	22
XⅡ. 本学図書館の利用に関する事項	24
XⅢ. 学内における部活動・サークル活動に関する事項	27
XⅣ. ボランティア活動に関する事項	29
XⅤ. 海外渡航に関する事項	30
XⅥ. ハラスメントに関する事項	31
XⅦ. 交通安全及び学内の治安等に関する事項	32
XⅧ. 大学の施設・設備などに関する事項	34
XⅨ. その他	36
調査の組織	45

あとがき

平成29(2017)年度学生生活実態調査・学部生の概要

1. 調査の目的

学生生活実態調査は、大学が学生の経済状況、生活状況等の学生生活の実態及び大学からの支援の要望等を把握し、学生を取り巻く環境を整備するために支援・改善事項を計画・実行して、学生生活を質的に向上させるために行う。

2. 調査の対象

学部、大学院毎に在学生全員を対象とする

3. 調査方法

WEB調査(「Office365ポータル」のアンケートシステム)により実施する

4. 調査期間

平成29年9月19日(火)～10月31日(火)、11月6日(月)～11月12日(日)

5. 回答状況

【学部】

学部名	在学生数	回答人数	回答率
文化教育学部	595	218	36.6%
教育学部	252	119	47.2%
芸術地域デザイン学部	230	169	73.5%
経済学部	1,138	426	37.4%
医学部医学科	656	275	41.9%
医学部看護学科	237	170	71.7%
理工学部	2,206	822	37.3%
農学部	643	368	57.2%
合計	5,957	2,567	43.1%

6. 調査内容

[調査票1](#)、[調査票2](#)

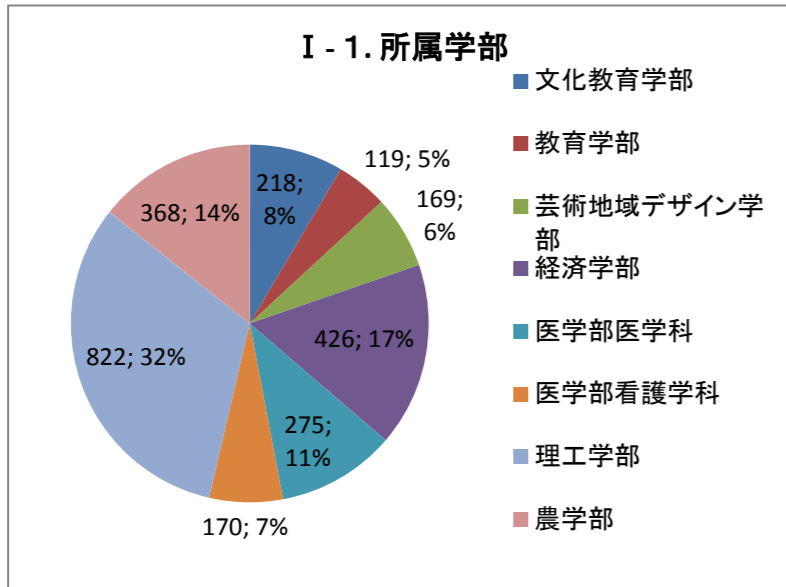
7. 個人情報の取り扱い

平成29年度に実施する佐賀大学学生生活実態調査(以下「実態調査」という。)において取得する個人情報について、適切な管理を行うために次のとおり定める。

[佐賀大学学生生活実態調査における個人情報の取り扱いについて](#)

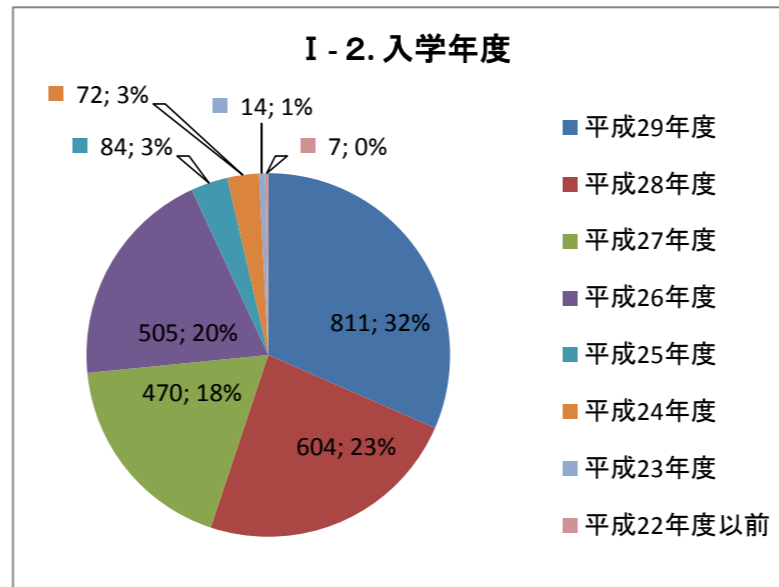
I. 基本事項

I-1.



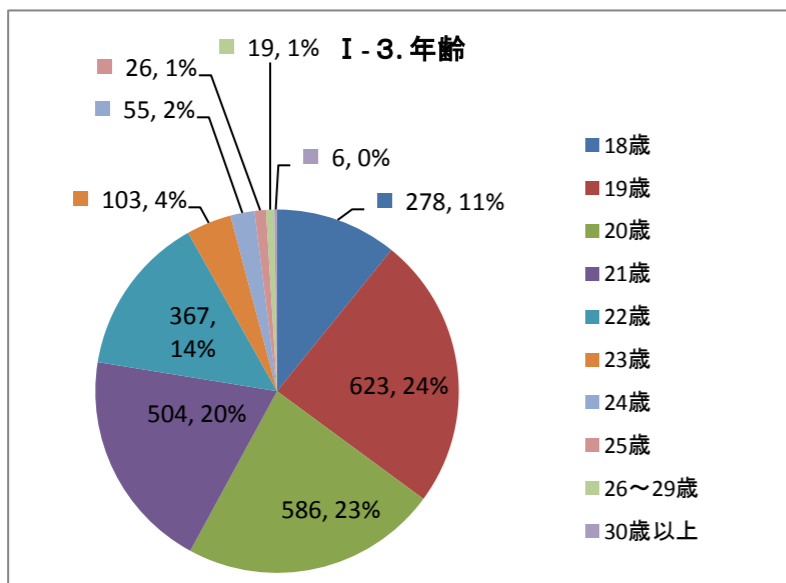
この数字に加えて、各学部ごとの回答率が1ページに記載されている。文化教育学部の36.6%に対して医学部看護学科は71.7%とほぼ倍の回答率であった。

I-2.



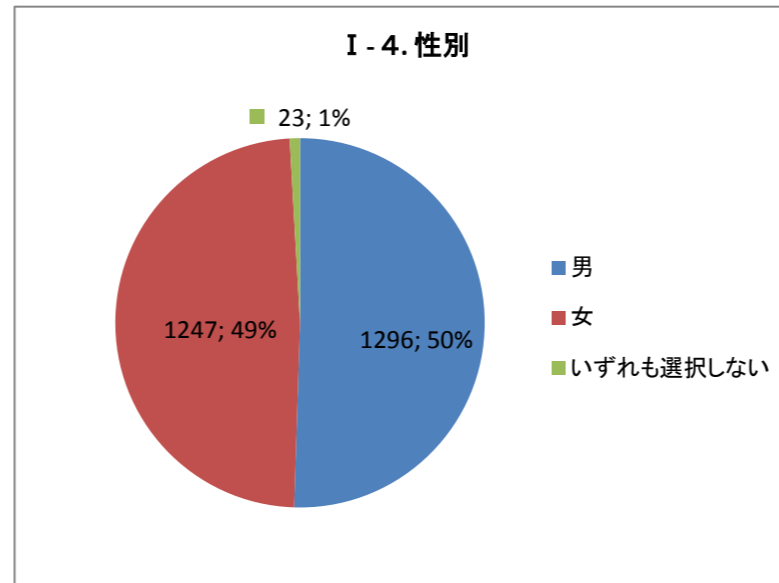
学年が進むにつれて回答率が低くなる傾向が見られた。

I-3.



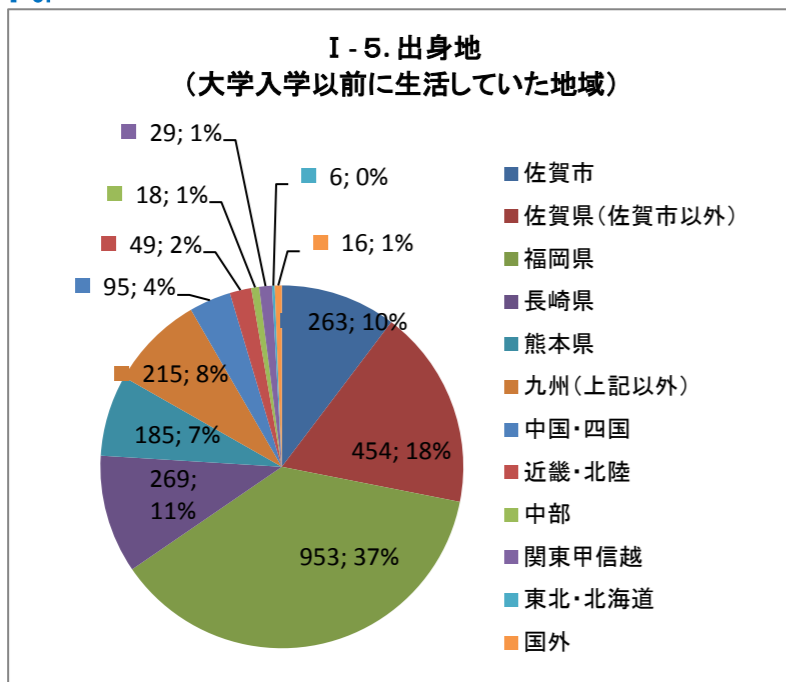
I-2の結果と調査の実施時期(9月から11月)を考えると、妥当である

I-4.



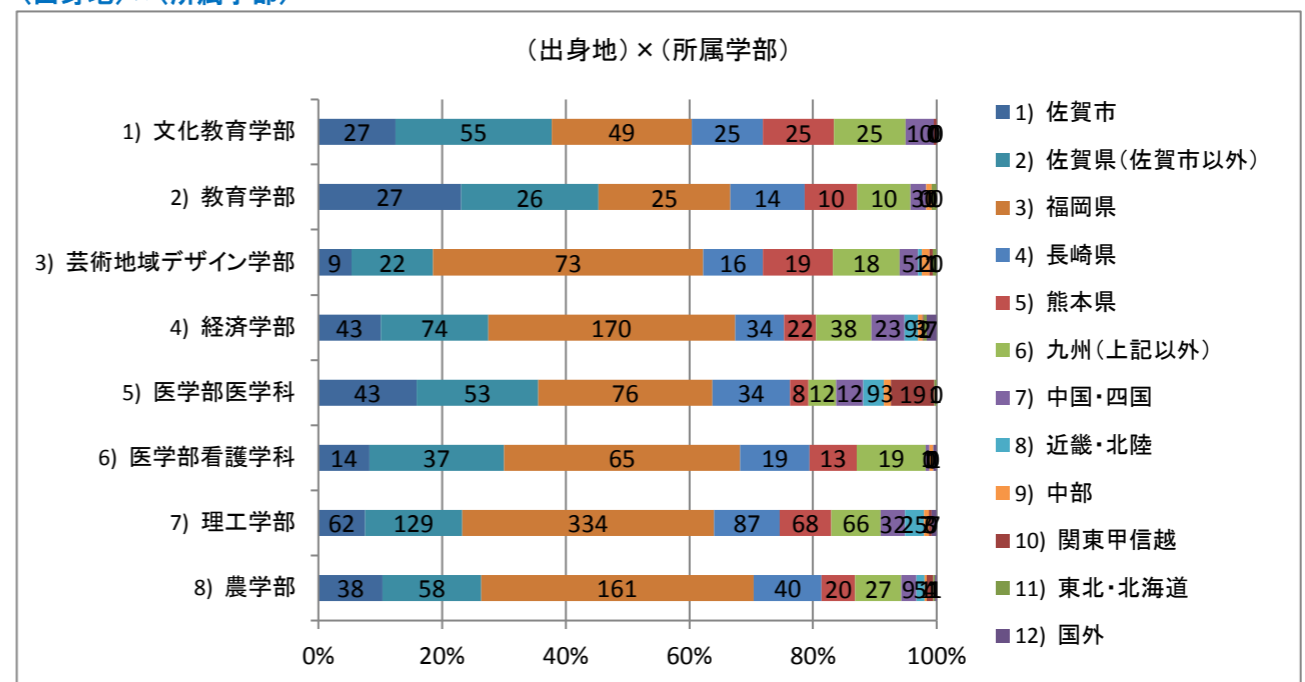
佐賀大学の学部学生の男女比は、ほぼ3:2であることを考えると、女子学生の回答率が高かったことがわかる。

I-5.



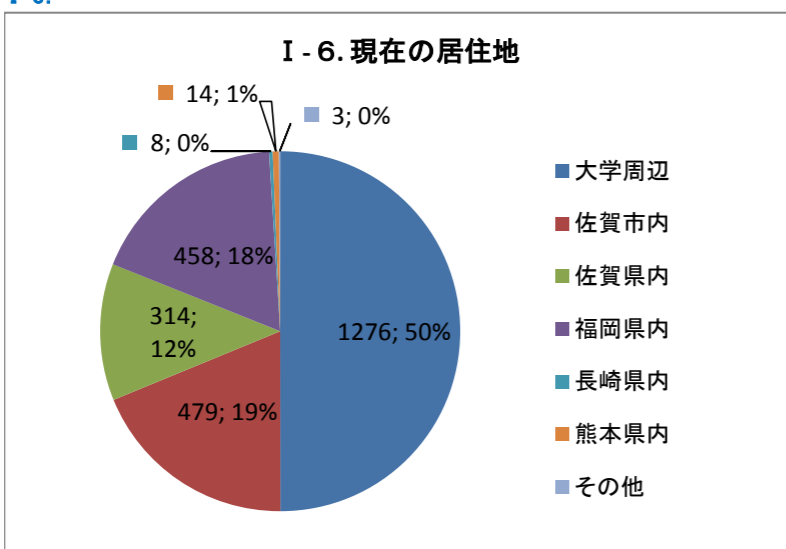
妥当である。

(出身地) × (所属学部)



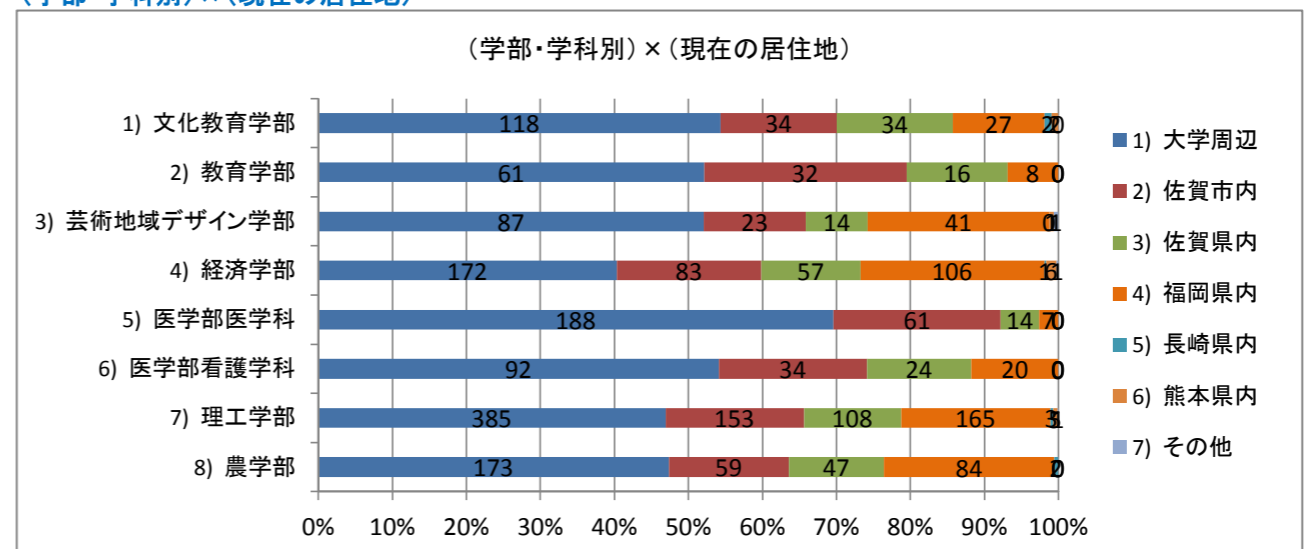
部局による大きなばらつきはないと判断できるが、医学部医学科には関東甲信越出身者が一定数在籍しており、学科の特徴を表している。

I-6.



妥当である。

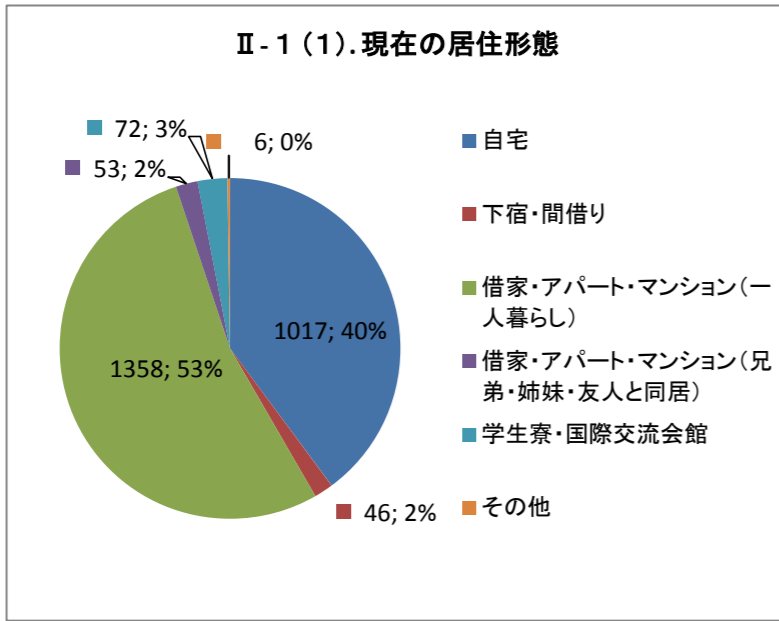
(学部・学科別) × (現在の居住地)



医学部医学科の学生は、大学周辺に居住している割合が高い。医学部の場所や学科の特徴だろうか？

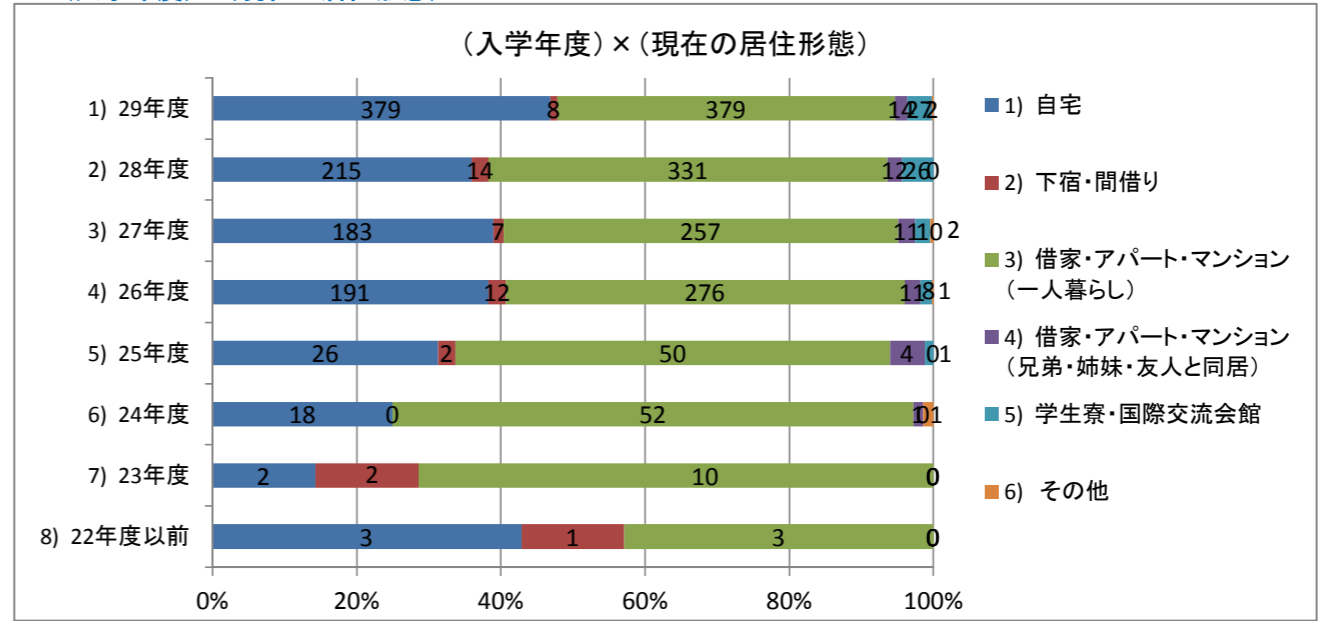
II. 生活環境に関する事項

II-1.



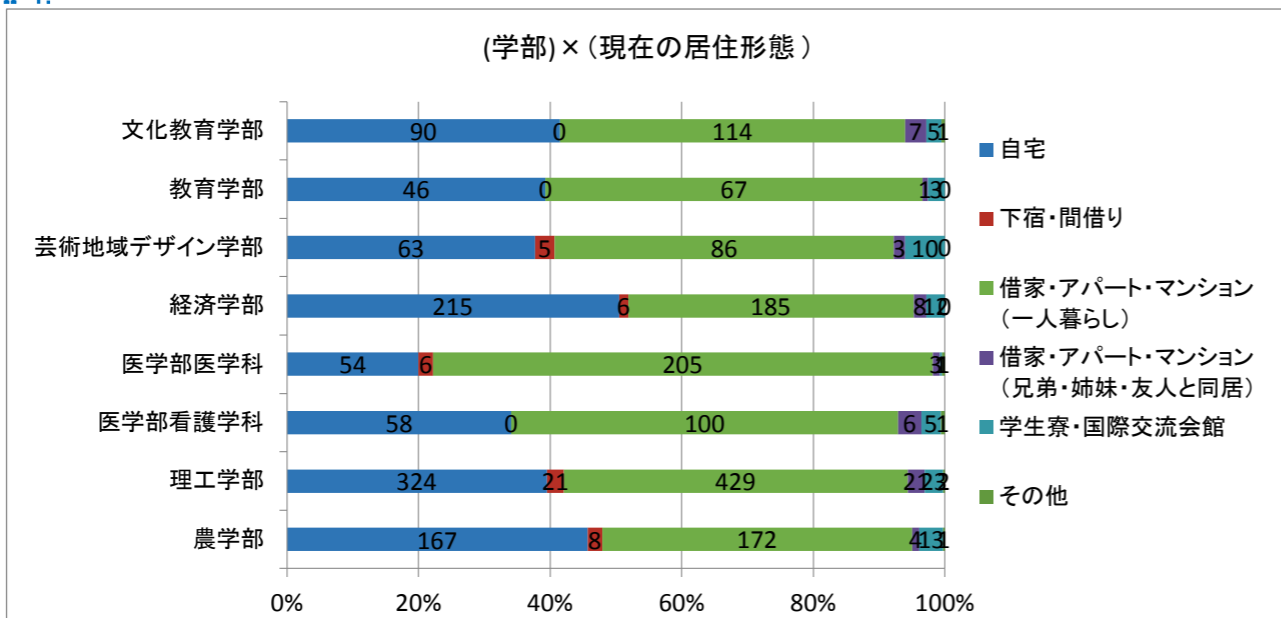
自宅よりも借家・アパート・マンションの方が多結果となった。

(入学年度) × (現在の居住形態)



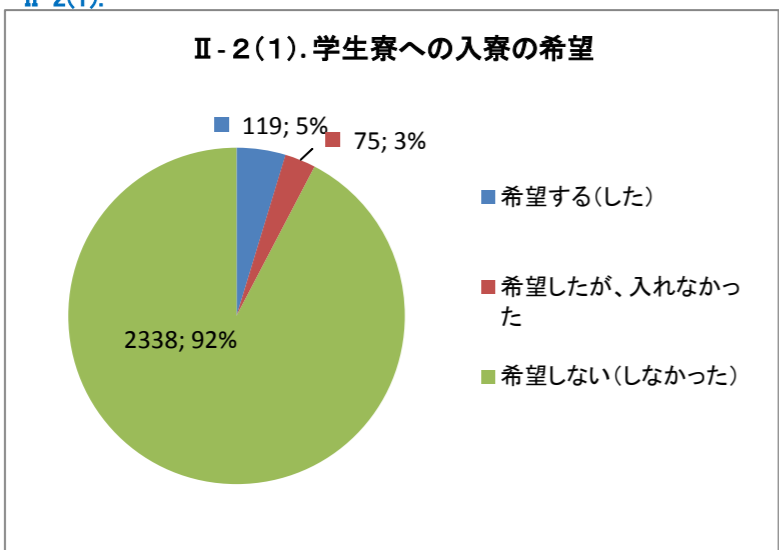
平成26年度から平成29年度に限ればほぼ同じ割合であり、妥当である。

II-1.



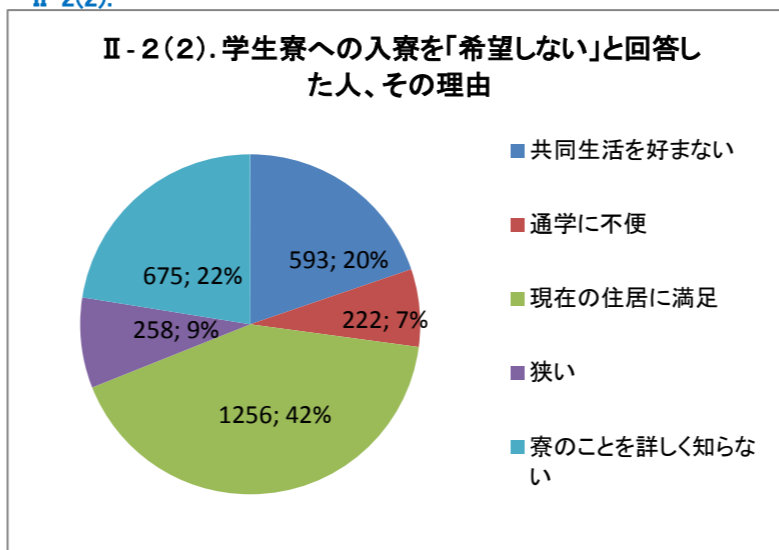
医学部医学科の自宅の割合が低いなど、学部学科の特徴が見られる。

II-2(1).



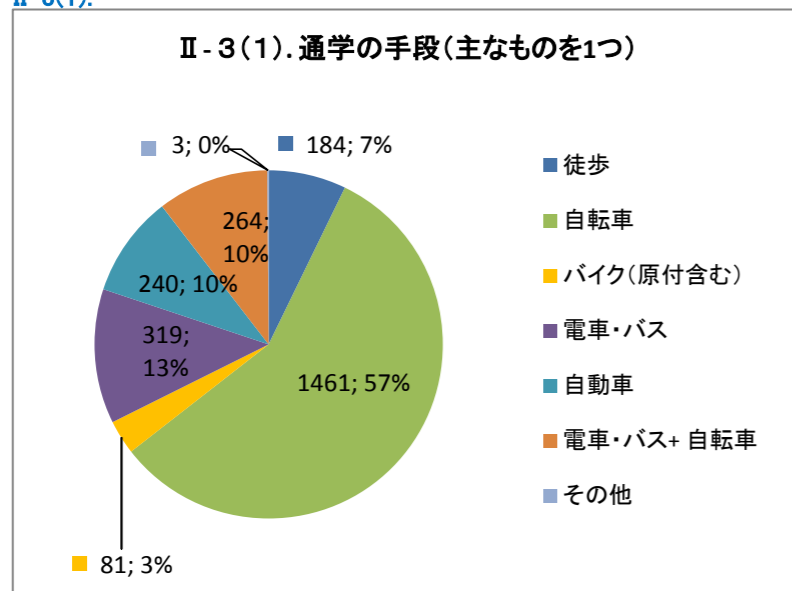
妥当である。住居に関して現状に不満がない学生が多い結果となった。

II-2(2).

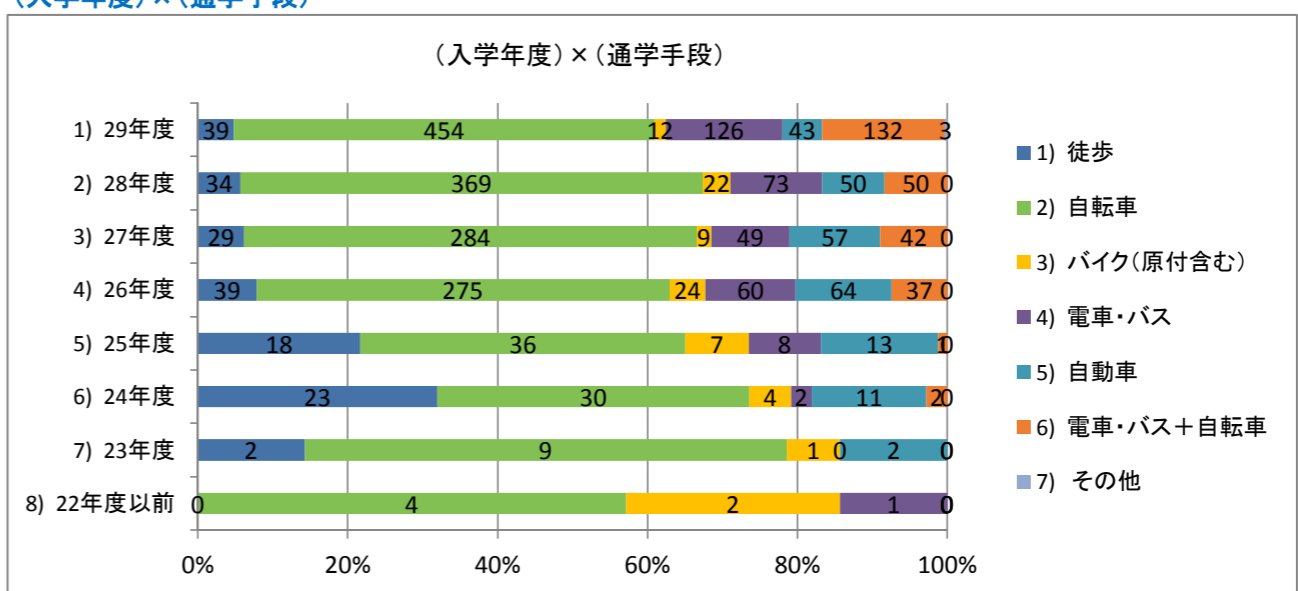


「寮のことを詳しく知らない」が22%となったことを考えると、寮のPRの方法を考える必要があるかもしれない。

II-3(1).

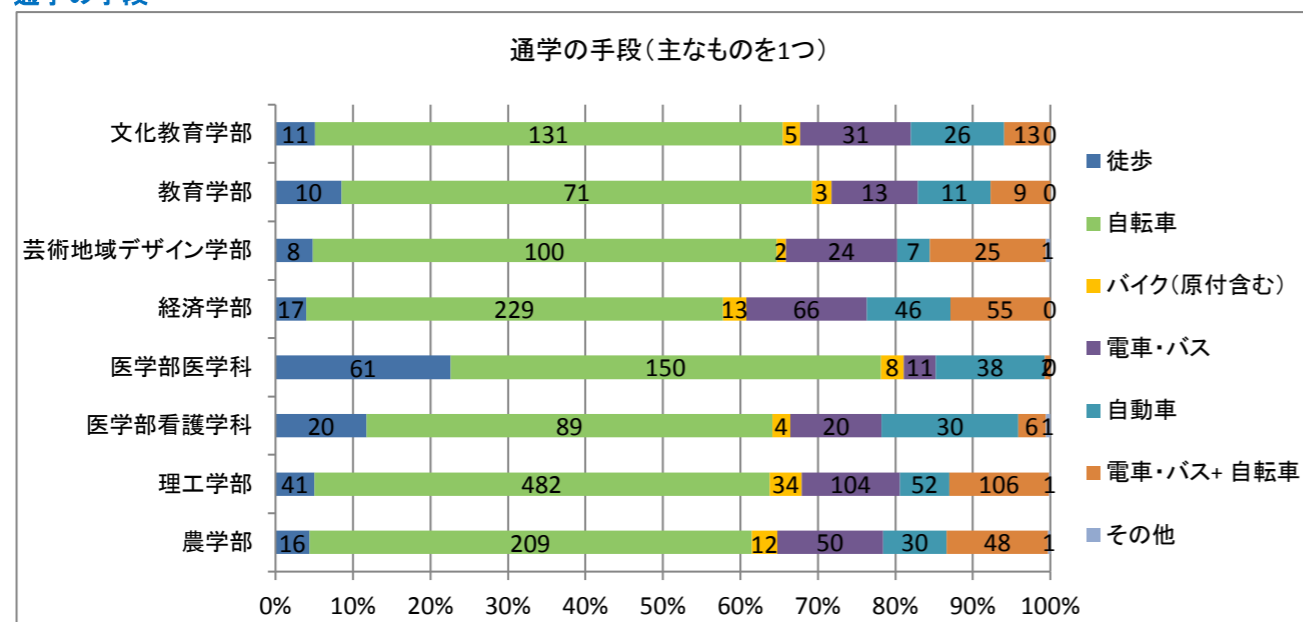


(入学年度) × (通学手段)



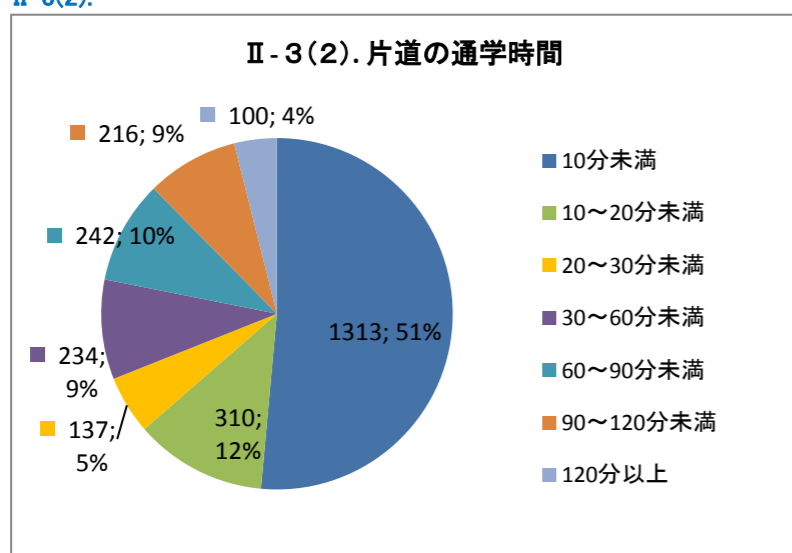
自転車の機動性、地理的環境、公共交通の便、など佐賀の地の特徴を示している。

通学的手段



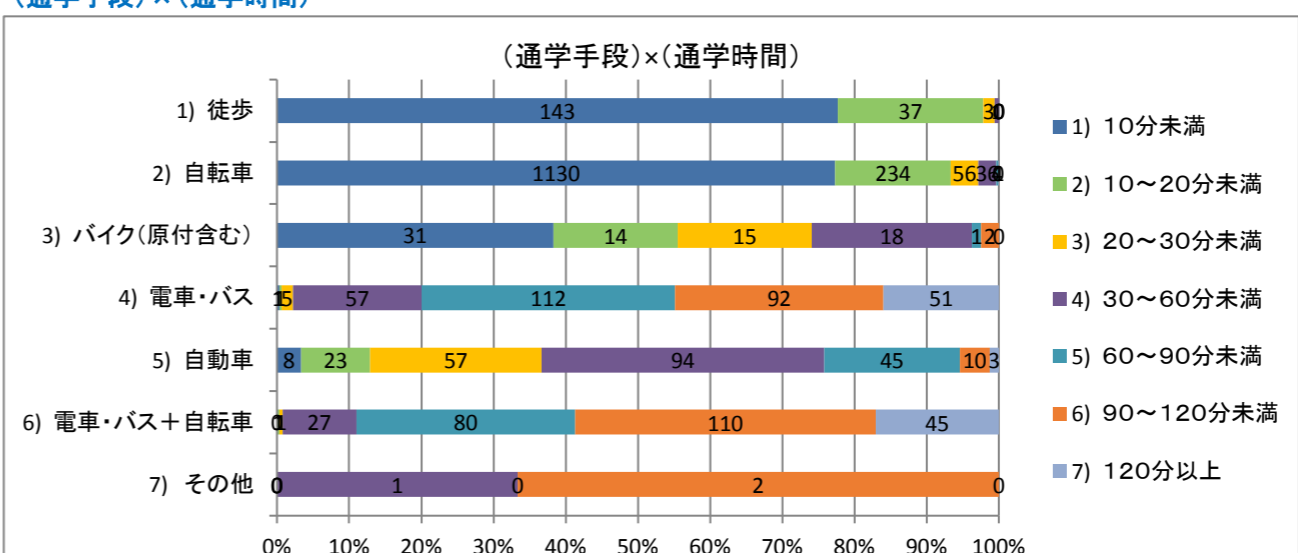
現在の居住地の結果から判断して妥当である。佐賀の交通事情や地形からみて自転車の便利さを示している。

II-3(2).



大学周辺に多くの学生が居住していることから、10分以内の学生が多い結果となった。一方、1時間以上かけて通学している学生も1/4丁通り、福岡県出身者が多いことを反映していると思われる。

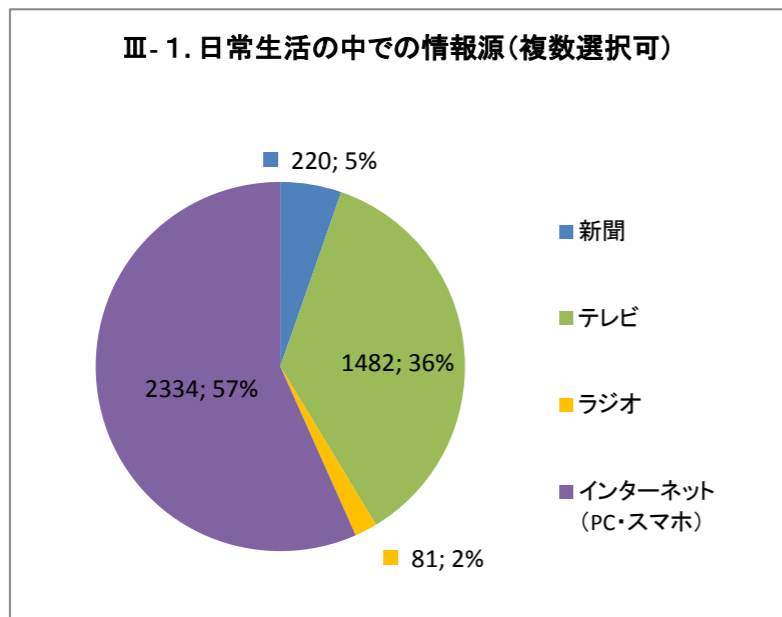
(通学手段) × (通学時間)



妥当である。

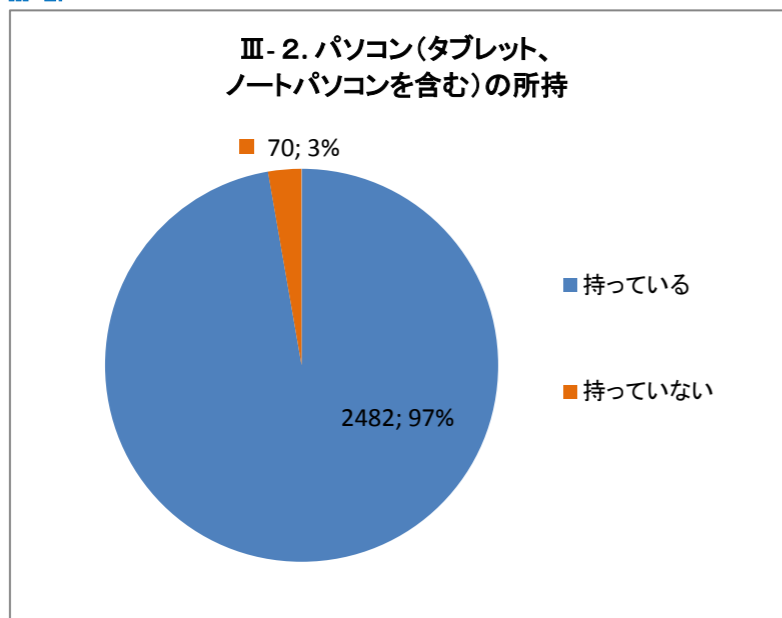
Ⅲ. 生活に関する事項

Ⅲ-1.



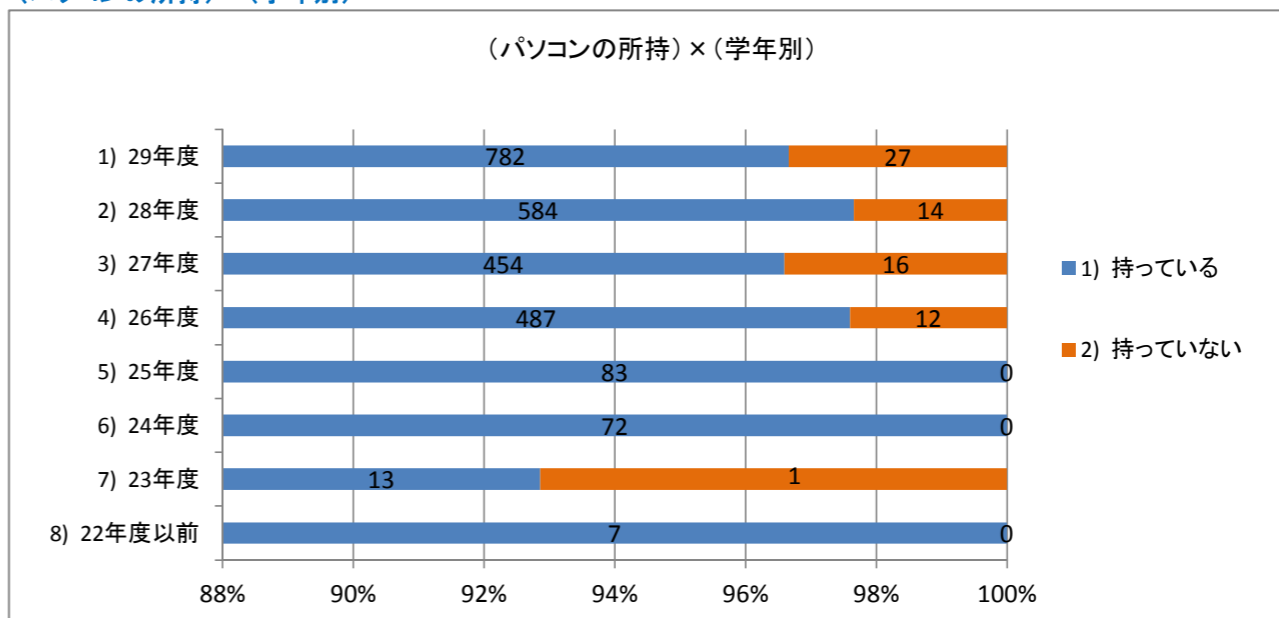
活字以外の視覚情報が大多数を占めている。

Ⅲ-2.

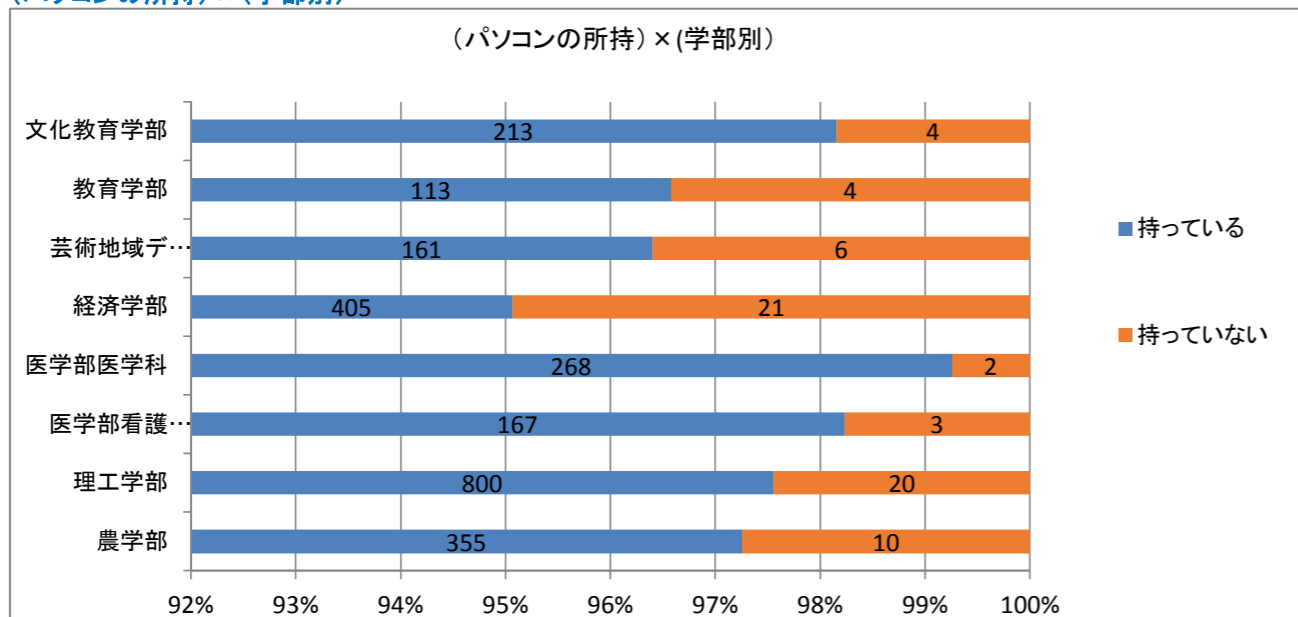


PCについてはほぼ普及している。

(パソコンの所持) × (学年別)

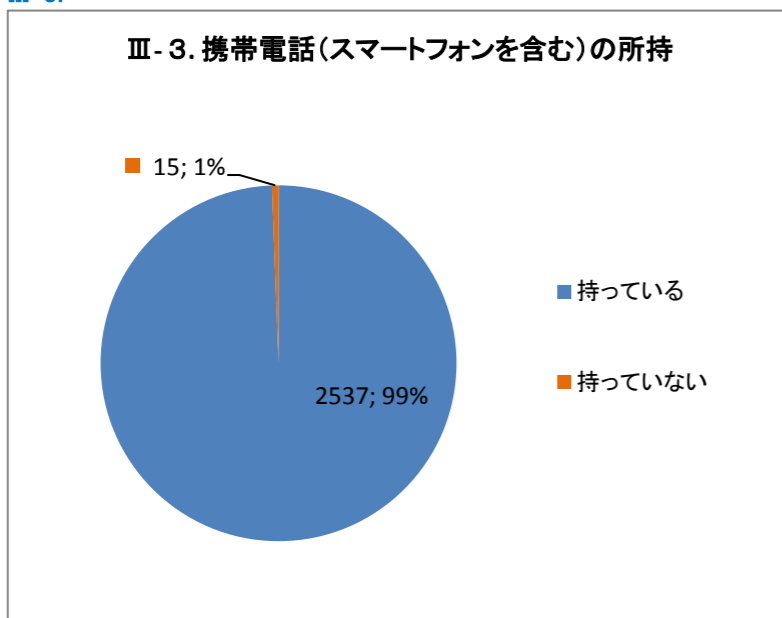


(パソコンの所持) × (学部別)



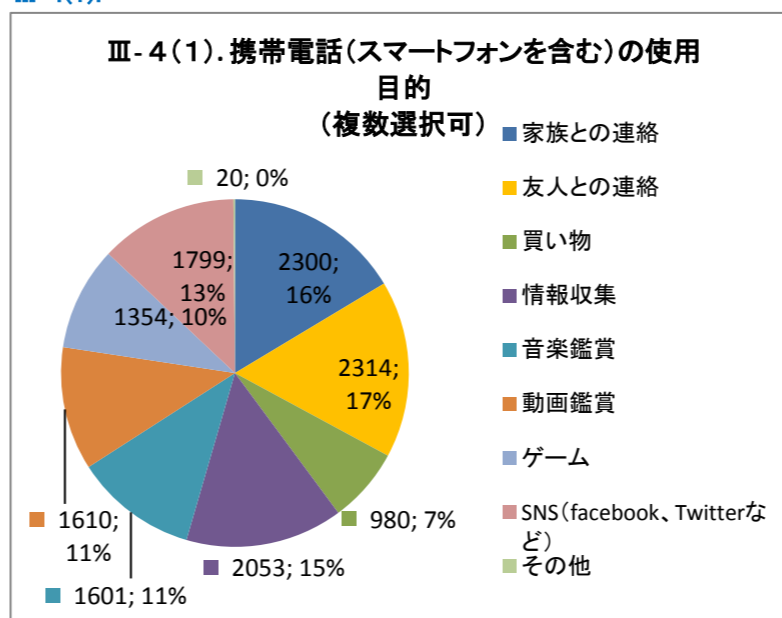
いわゆる文系学部ほど所持率が低い。

Ⅲ-3.



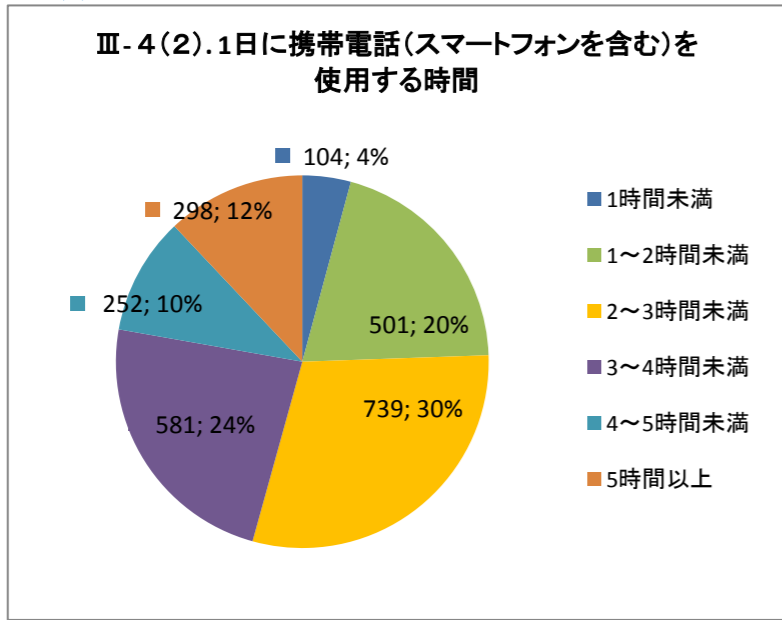
スマホはPCより普及している。

Ⅲ-4(1).



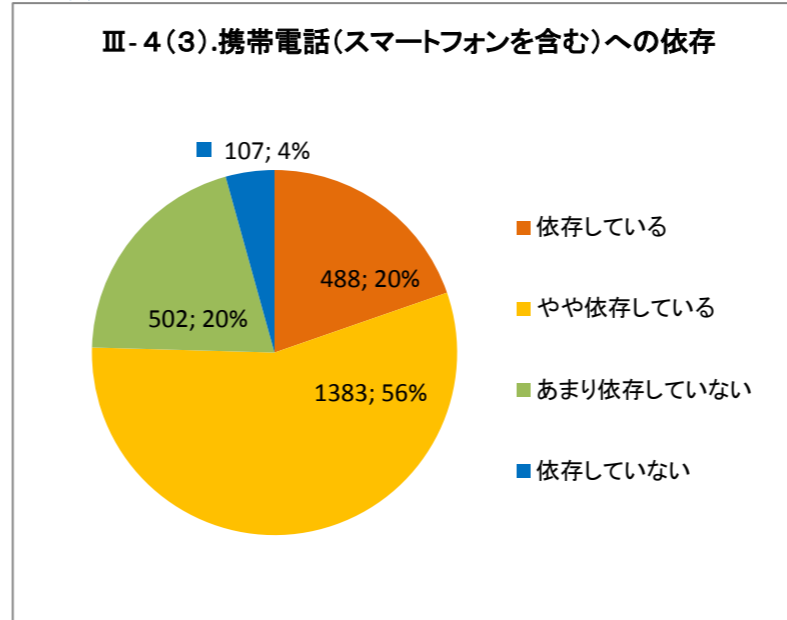
スマホが様々な生活場面で使用されている状況？

III-4(2).



III-4(1)の家族・友人との連絡以外に使用する時間が長い。

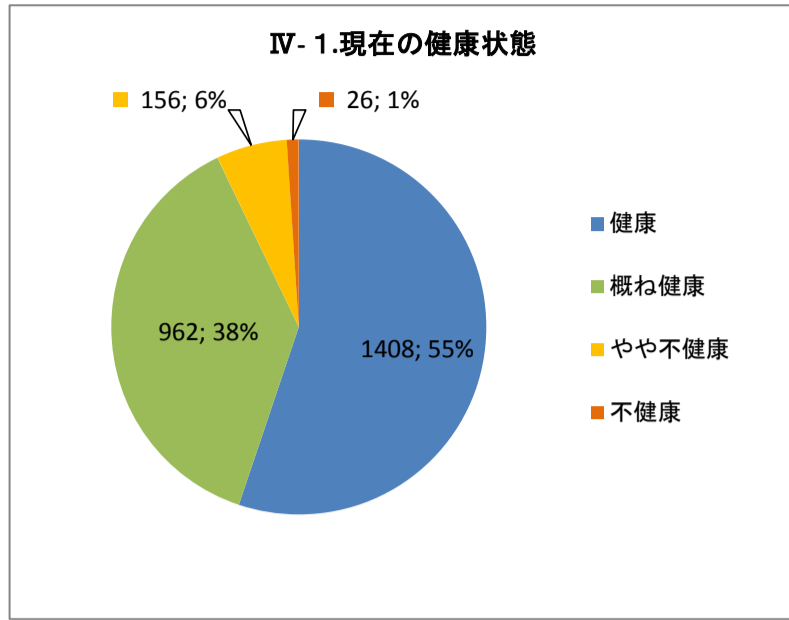
III-4(3).



1/4の学生の依存症への自覚(依存していない)は信頼できるか？

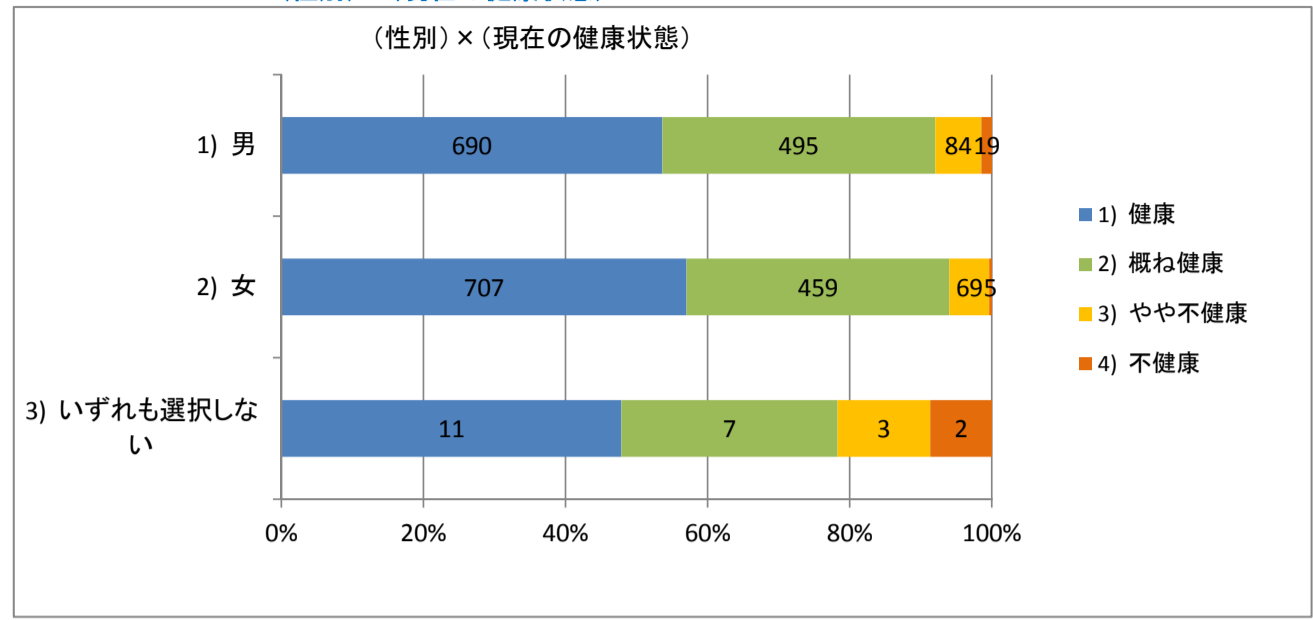
IV. 健康に関する事項

VI-1



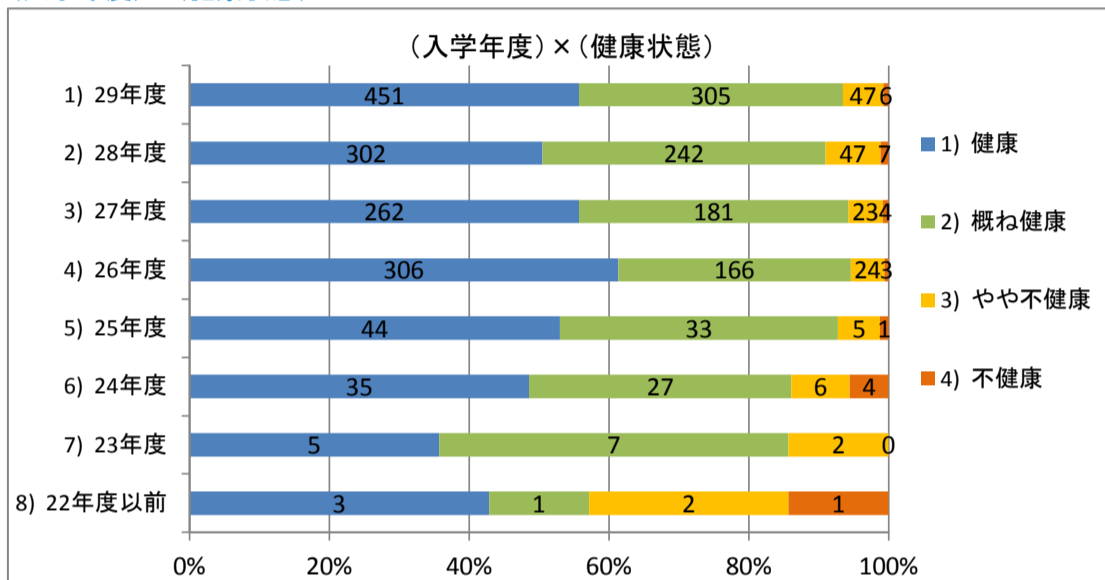
選択肢の割合を相互に比較すると、「健康」「概ね健康」の割合が圧倒的に高いが、「不健康」「やや不健康」と回答した学生もある一定数存在する。

(性別) × (現在の健康状態)



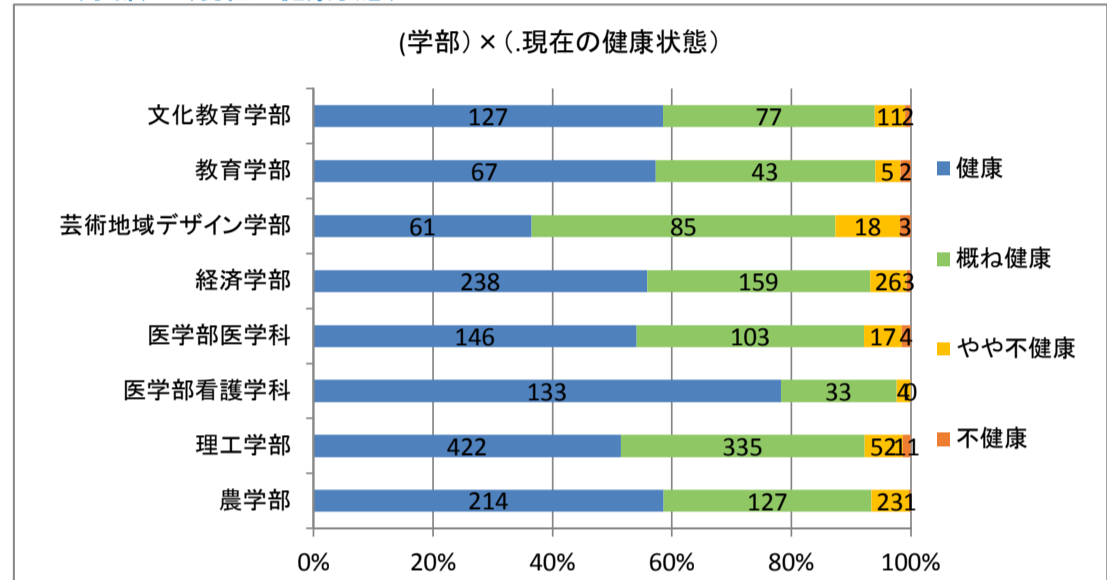
男女別で比較すると回答の傾向に大きな違いはないが、女性の方が若干健康的な傾向がみられる。

(入学年度) × (健康状態)



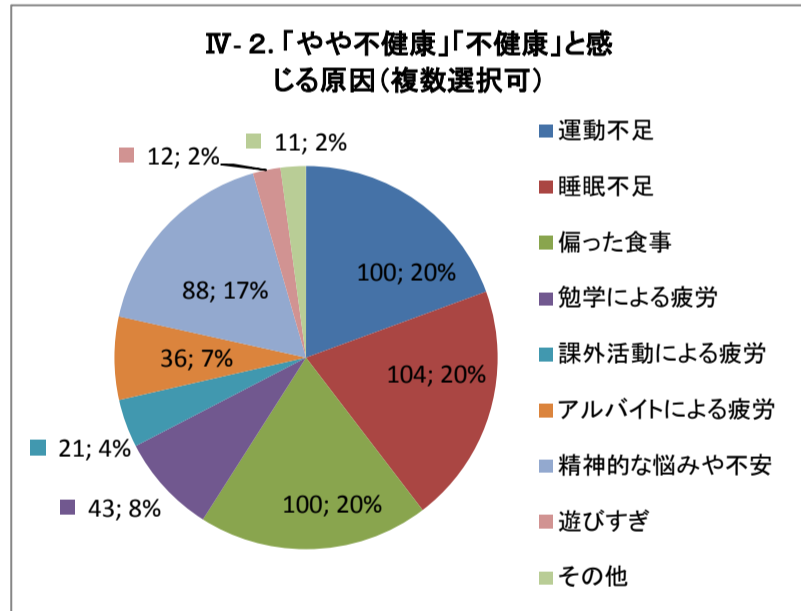
26年度入学生が最も健康的という結果であったが、他の年度と比較してそれほど大きな差ではない。

(学部) × (現在の健康状態)



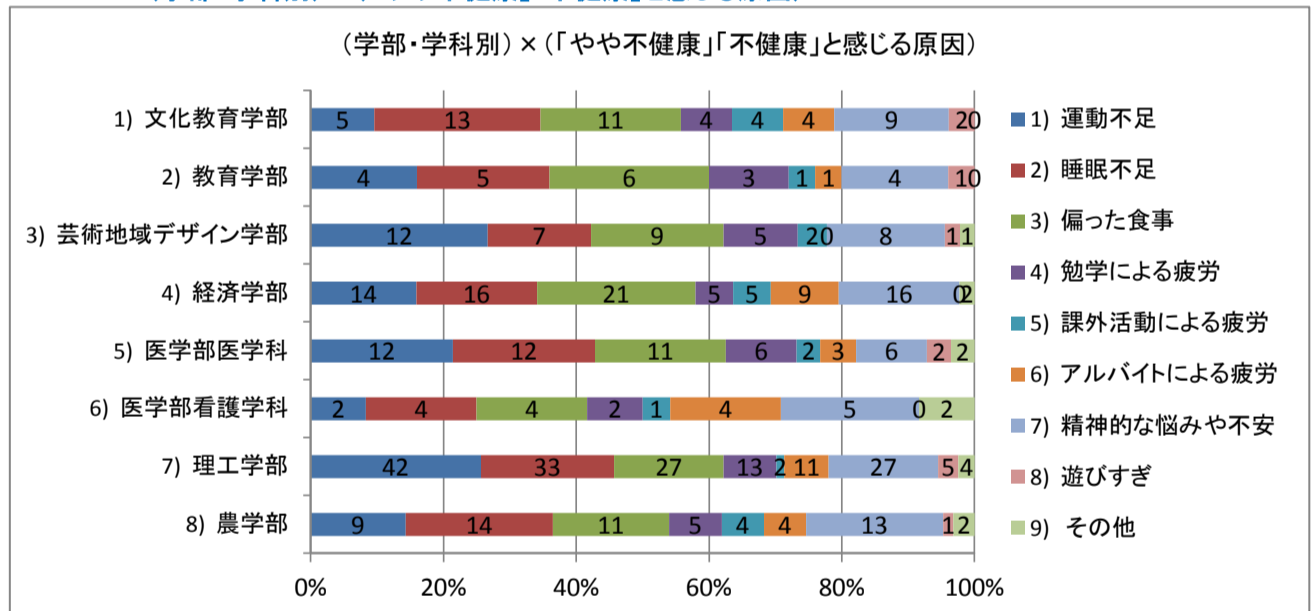
医学部看護学科が「健康」と回答した人の割合が圧倒的に高い。学科の性格上、健康に気を使っていることが伺える。

VI-2



「やや不健康」「不健康」と回答した理由は多岐にわたる。そのなかでも「運動不足」「睡眠不足」「偏った食事」の理由の割合が高い。

(学部・学科別) × (「やや不健康」「不健康」と感じる原因)

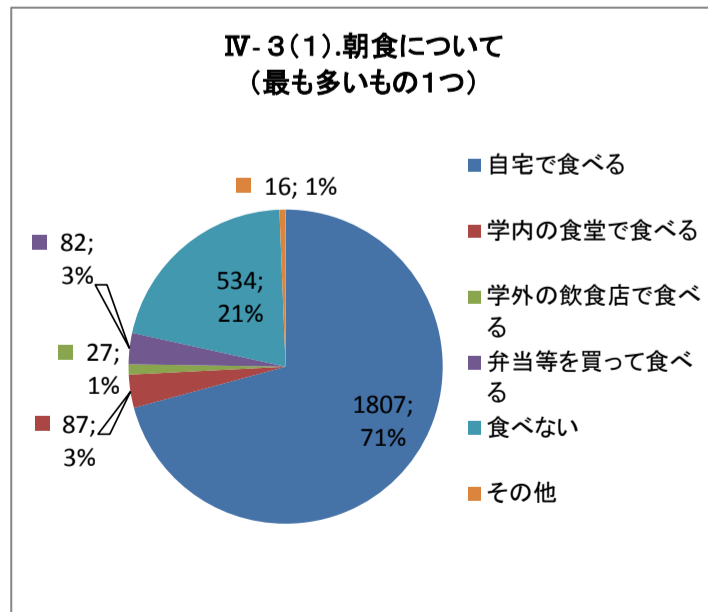


学部ごとに傾向は全く異なり、各学部ごと対策が必要と考えられる。

【その他】

アレルギー、昼夜逆転、持病、過食・嘔吐、椎間板ヘルニア、慢性肺炎、わからない、季節の変わり目による気候の変化、生活リズムの狂い、風邪

VI-3(1)

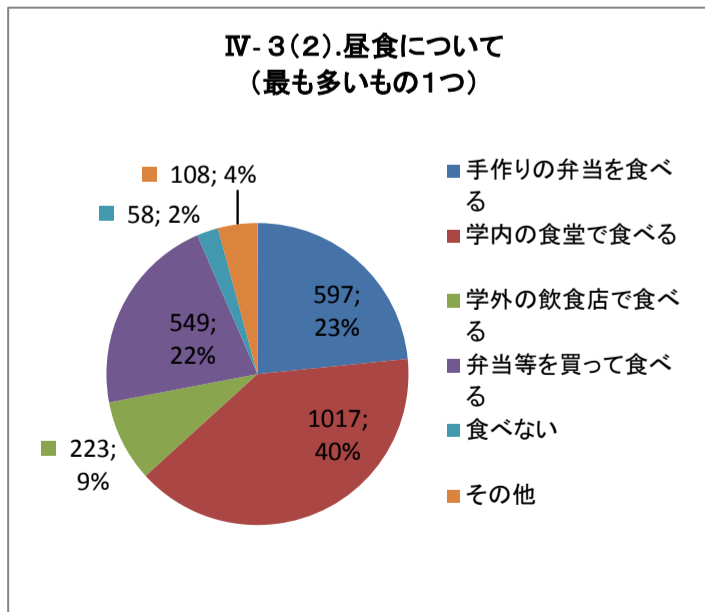


「自宅で食べる」という回答が圧倒的に多いが、一方、「食べない」という回答は次に多く、健康への影響が心配される。

【その他】

通学中(持参した弁当)、電車内、車の中 食べたり食べなかったり

VI-3(2)

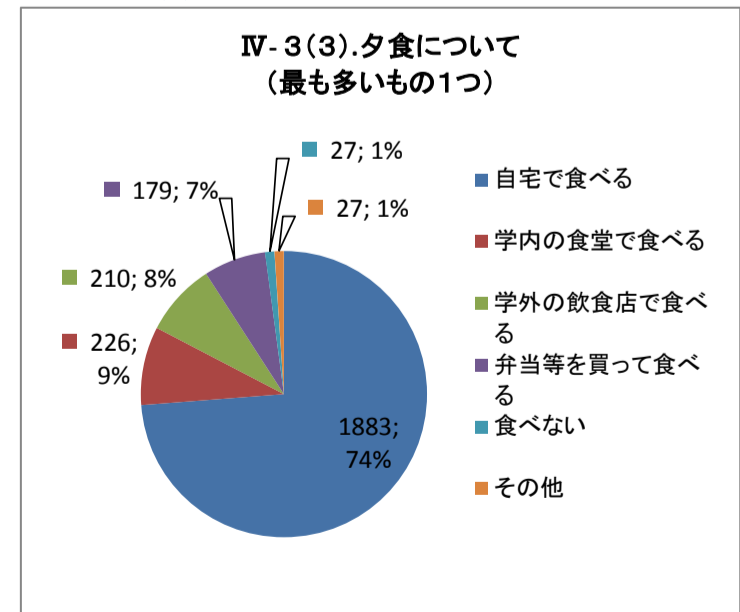


「学内の食堂で食べる」が最も多く、半数近くの学生が利用している。

【その他】

自宅で食べる、何か食べる、学校があるときは基本的に食べない、まかない、弁当か学食、買うと作るが半々、食べたり食べなかったり

VI-3(3)

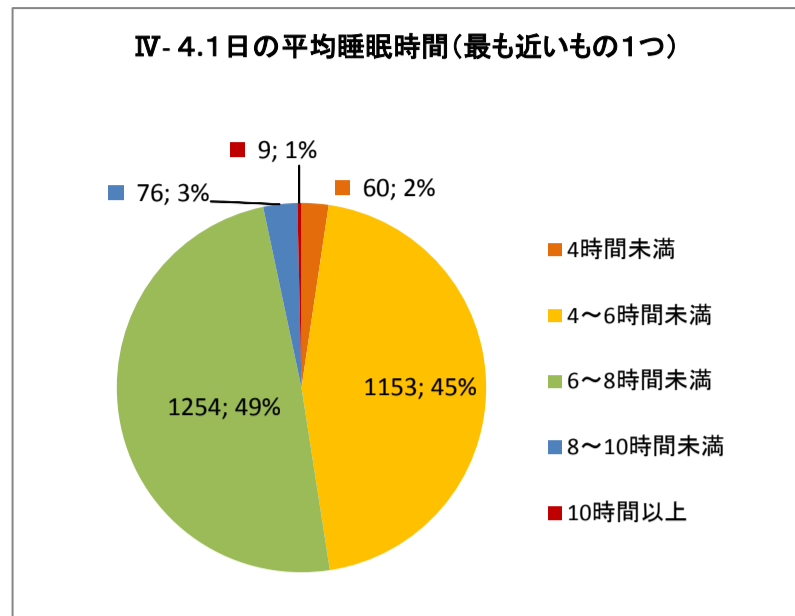


「自宅で食べる」が圧倒的に多いが、次いで「学内の食堂で食べる」と回答した学生も一定数おり、食堂の重要性が伺えた。

【その他】

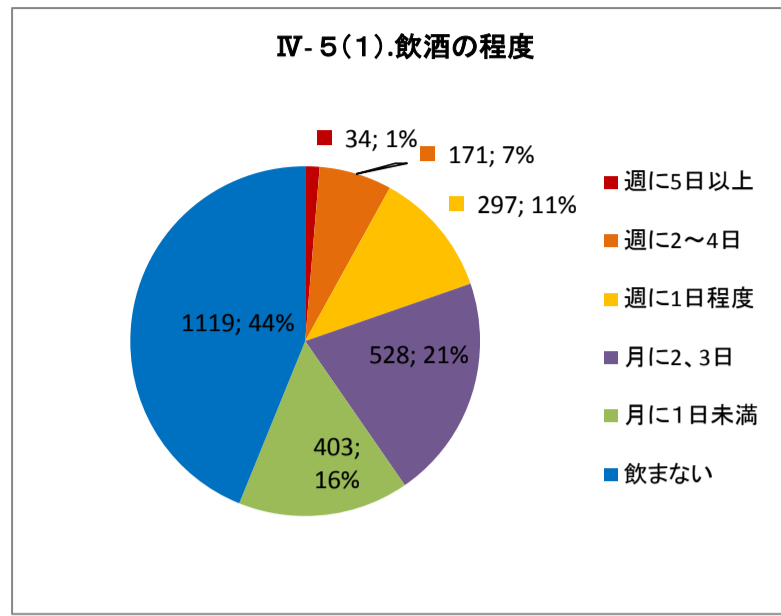
バイト先のまかない、手作りの弁当、自炊、ご飯だけ炊いてカップ麺や缶詰、食べたり食べなかったり

VI-4



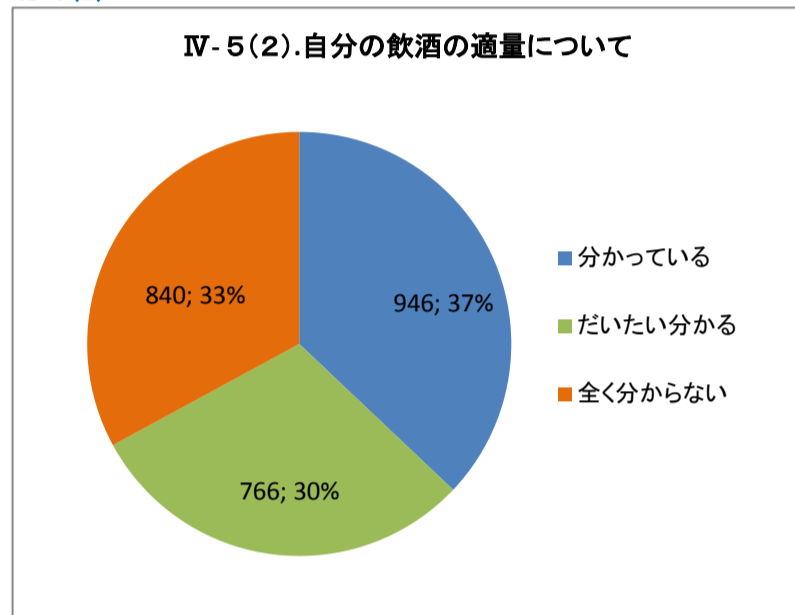
8時間未満の学生が殆どであり、睡眠時間が短い印象である。

VI-5



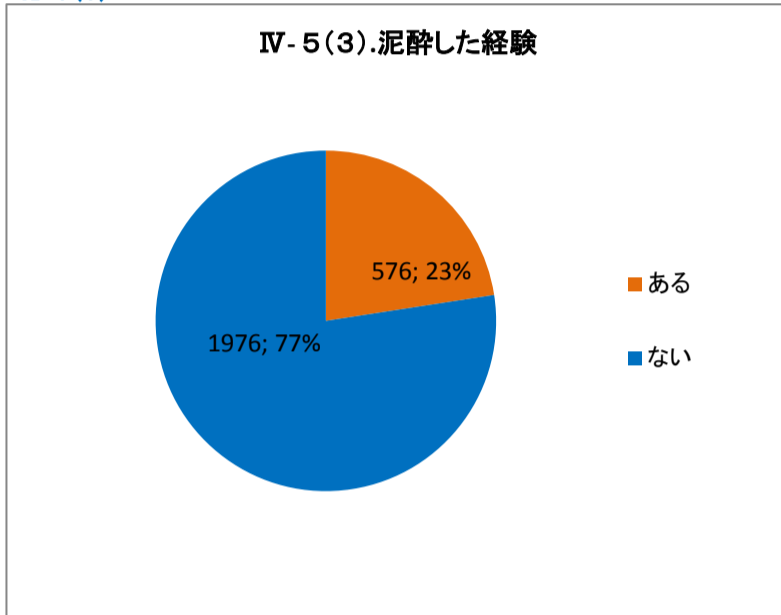
「飲まない」と回答した学生が約半分であり。回答者には未成年者も含まれるので、この結果が多いか少ないか判断が難しい。

VI-5(2)



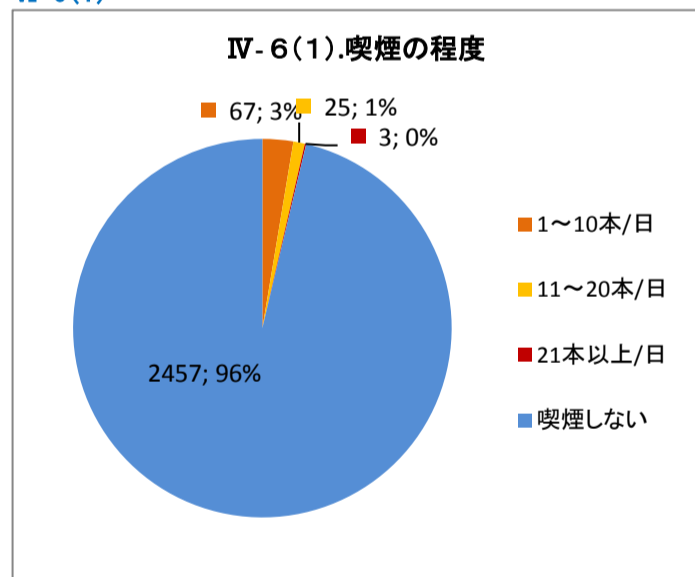
飲酒の適量が「全く分からない」と回答した学生が1/3程度である。回答者には未成年者も含まれるので、この結果が多いか少ないか判断が難しい。

VI-5(3)



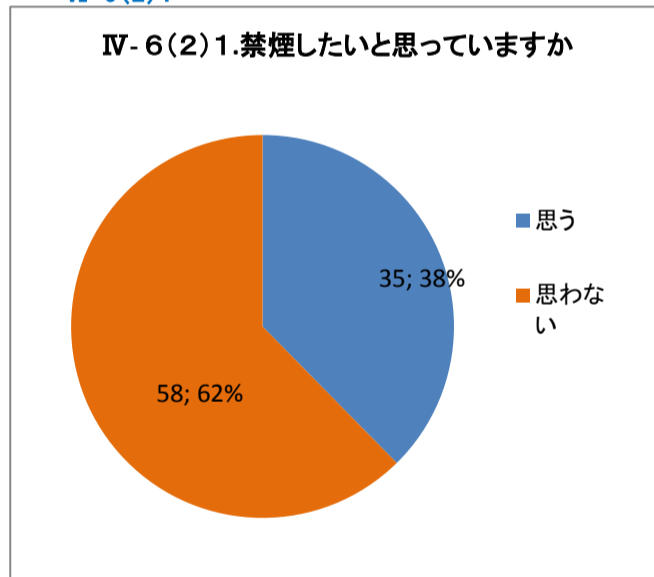
泥酔の経験が「ある」と回答した学生が1/4程度である。回答者には未成年者も含まれるので、この結果が多いか少ないか判断が難しい。

VI-6(1)



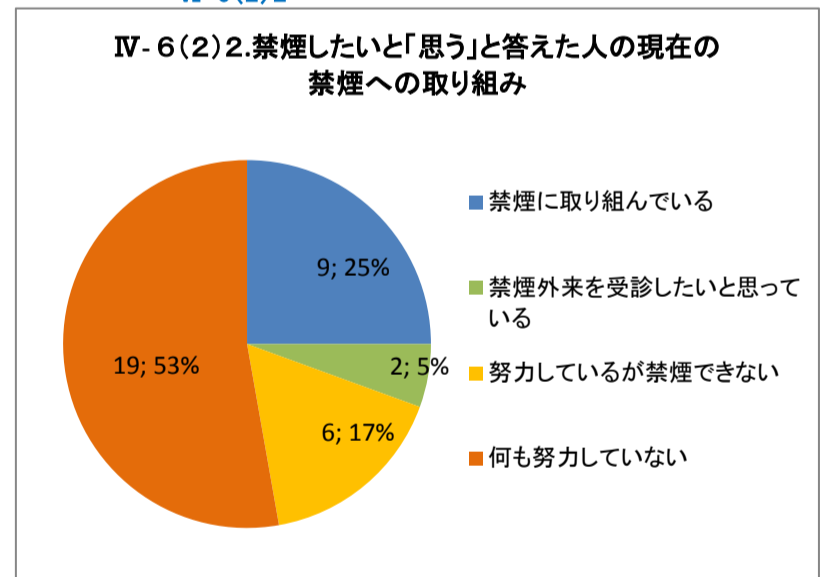
「喫煙しない」という回答が圧倒的に多い。昔に比べるとかなり喫煙者は減少している。

VI-6(2)1



喫煙者の約半分近くは禁煙したいと感じている。禁煙に向けたフォローが必要である。

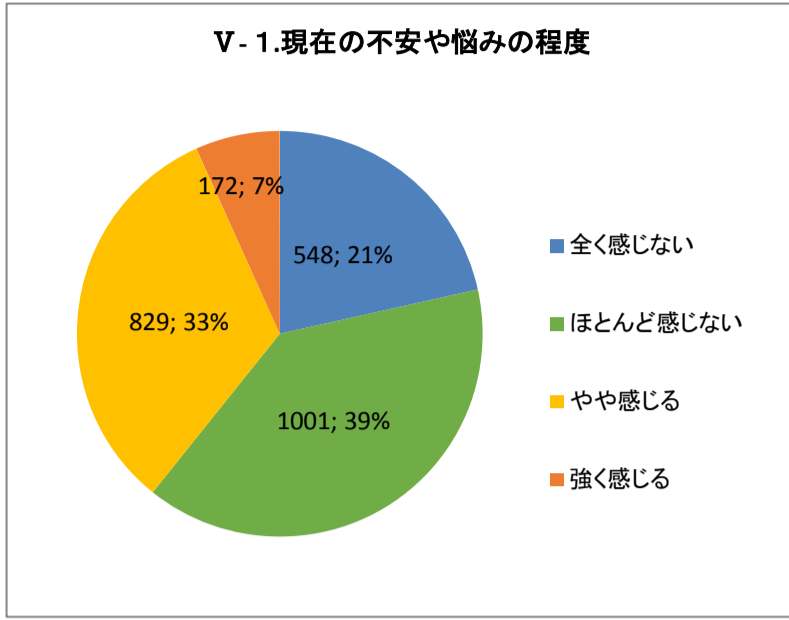
VI-6(2)2



禁煙したいと考えている人の約半数は「何も努力していない」と回答している。禁煙に向けたフォローが必要である。

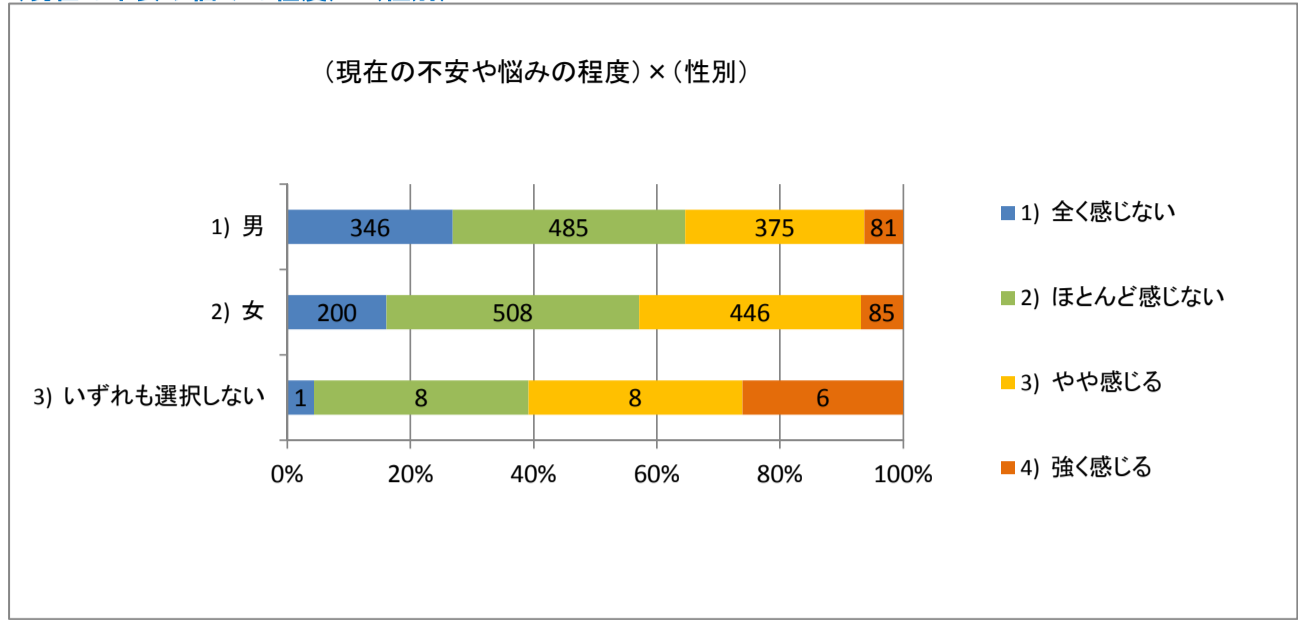
V. 不安と悩みに関する事項

V-1.



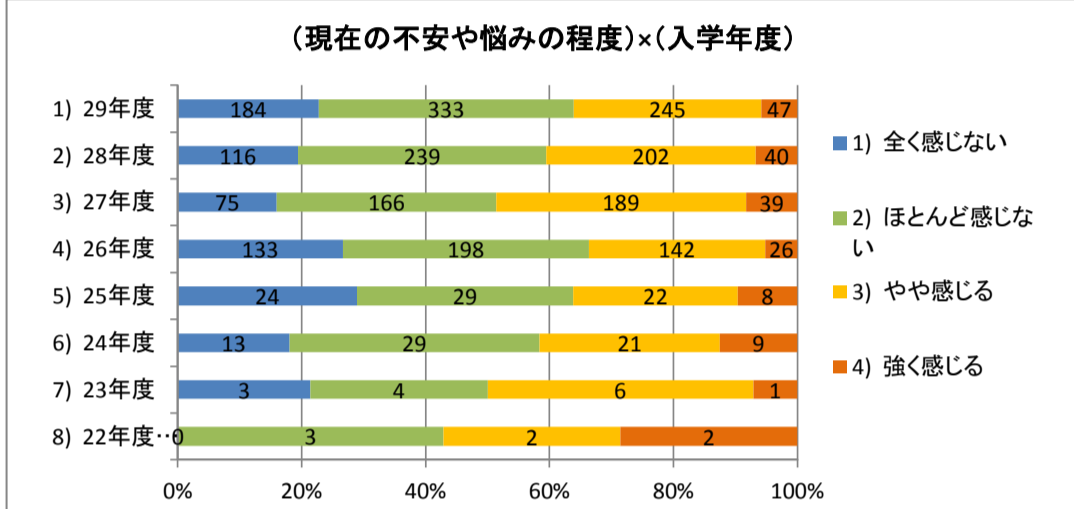
「やや感じる」「感じる」を合わせると、半数近い学生が不安や悩みを感じている。その解消に向けた対応が必要である。

(現在の不安や悩みの程度) × (性別)



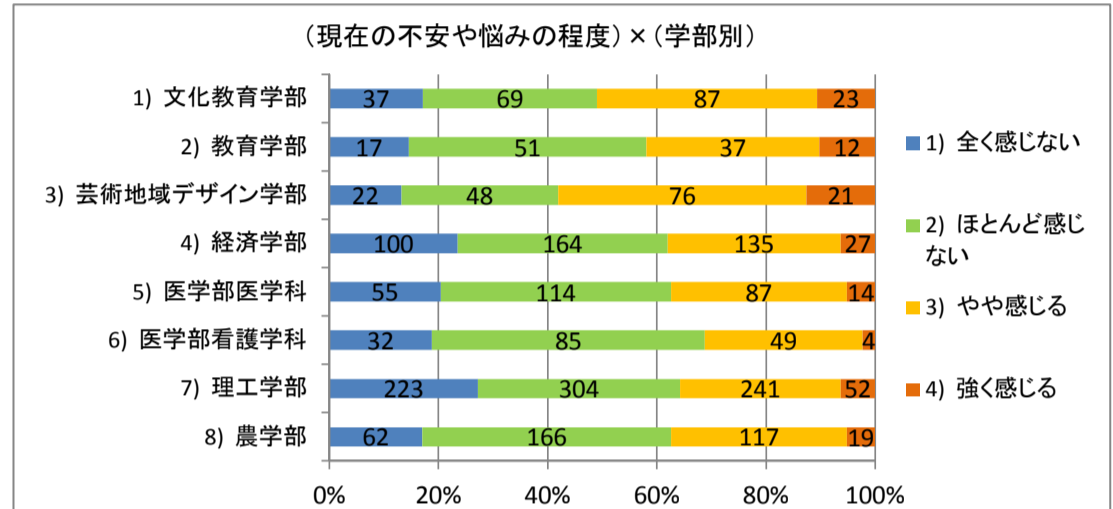
男女を比較するとやや女性の方が不安や悩みを感じている割合が高い。また、性別を選択しなかった学生は多くないものの、不安や悩みを強く感じている。

(現在の不安や悩みの程度) × (入学年度)



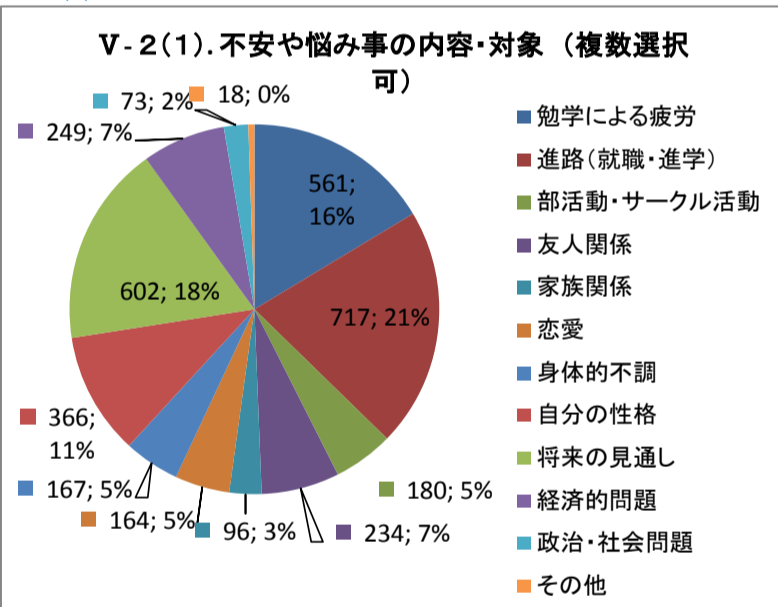
1年次から3年次まで徐々に不安や悩みを抱える学生は増えている。4年次になるとその割合は一旦減少しているが、4年次以降さらに増加する傾向にある。

(現在の不安や悩みの程度) × (学部別)



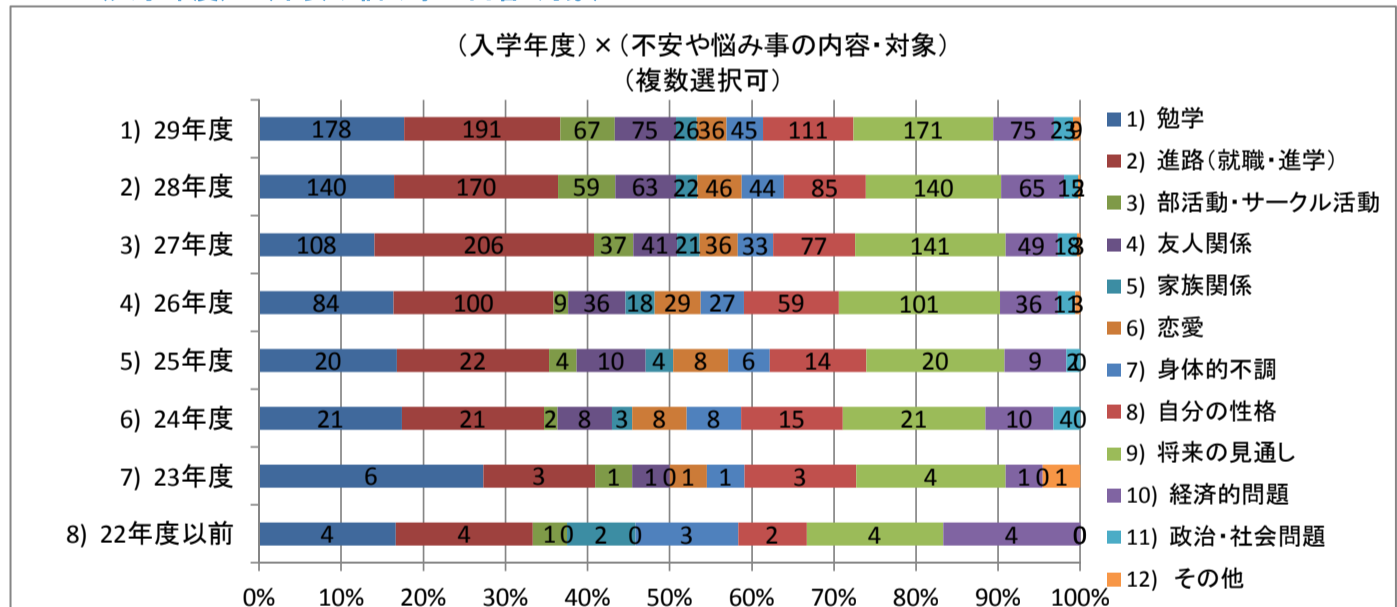
学部ごとに大きく傾向が異なる。学部ごとの対応が求められる。

V-2(1).



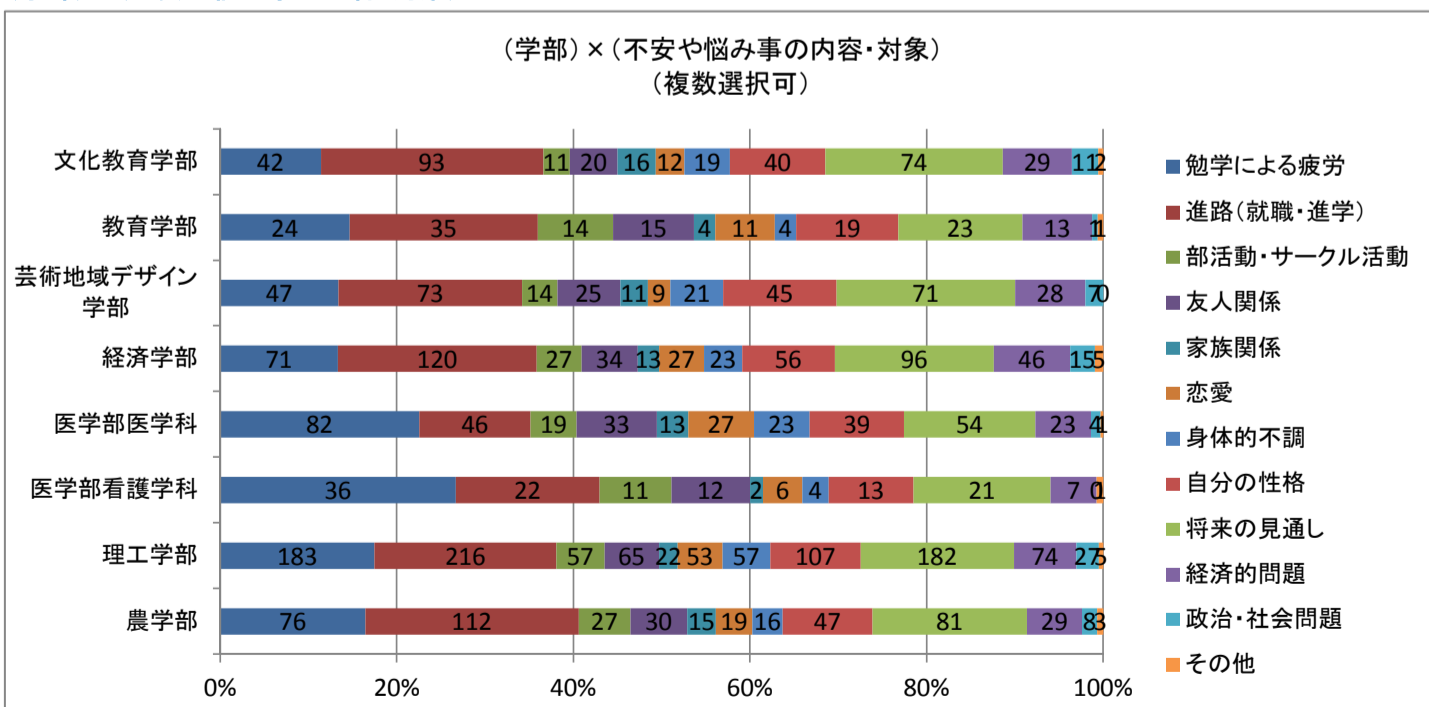
最も割合が高いのが「進路(就職・進学)」であり、ついで「将来の見通し」「勉学による疲労」が続く。進路相談などの重要性が伺える。

(入学年度) × (不安や悩み事の内容・対象)



就職を控えた3年次に「進路(就職・進学)」の割合が高い傾向にあるが、悩みの対象は多岐に亘っている。

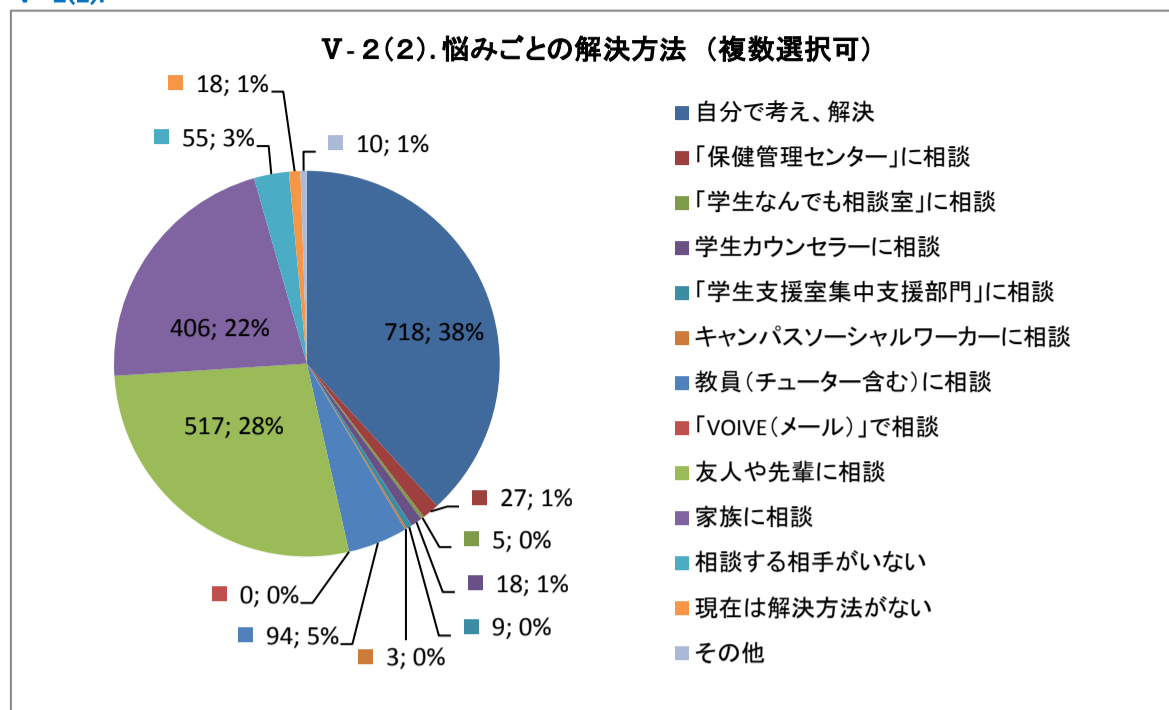
(学部) × (不安や悩み事の内容・対象)



【その他】
車校、バイトしたいけどなかなか踏み出せない
アルバイト、使命、通学時間の長さ、趣味、大学への不信感、実習
質問が後から増えていくが本当に終わるのかという不安
同僚部の人々への不安、死、免許

医学部看護学科、医学部医学科では「勉学による疲労」が他と比較して高い。その他の学部はそれぞれ似た傾向を示している。

V-2(2).



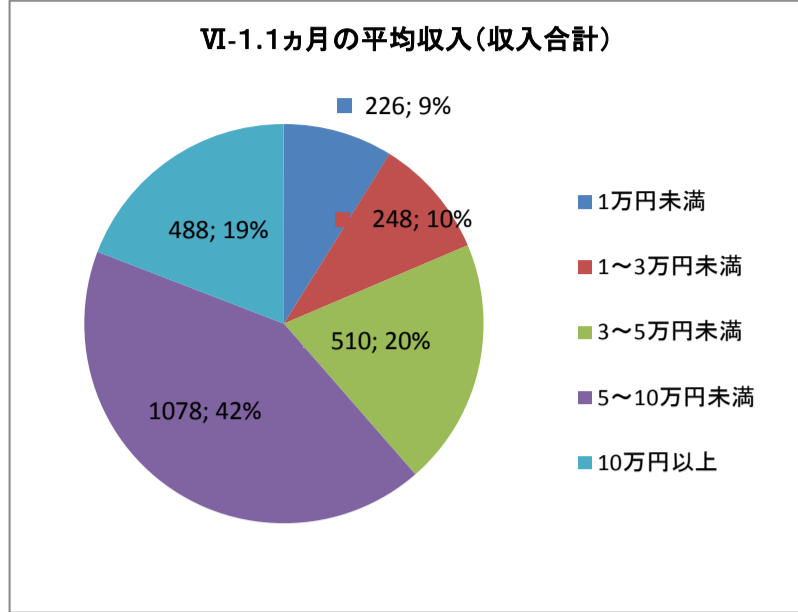
「自分で考え、解決」が最も多く、次いで「友人や先輩に相談」「家族に相談」が多い。身の回りの友人や家族の支えが重要であることが伺える。

【その他】

精神病院、科学の発展、保留
通院中の精神科クリニックの医師・カウンセラーに相談
恋人に相談、精神科クリニックに通院する
twitterでつぶやく、考えない、薬を飲む

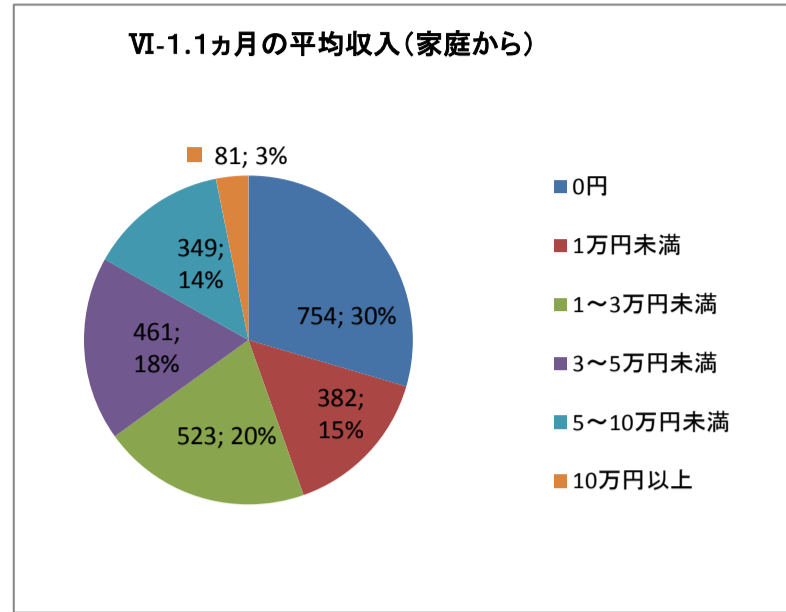
VI. 経済状況に関する事項

VI-1 (収入合計)



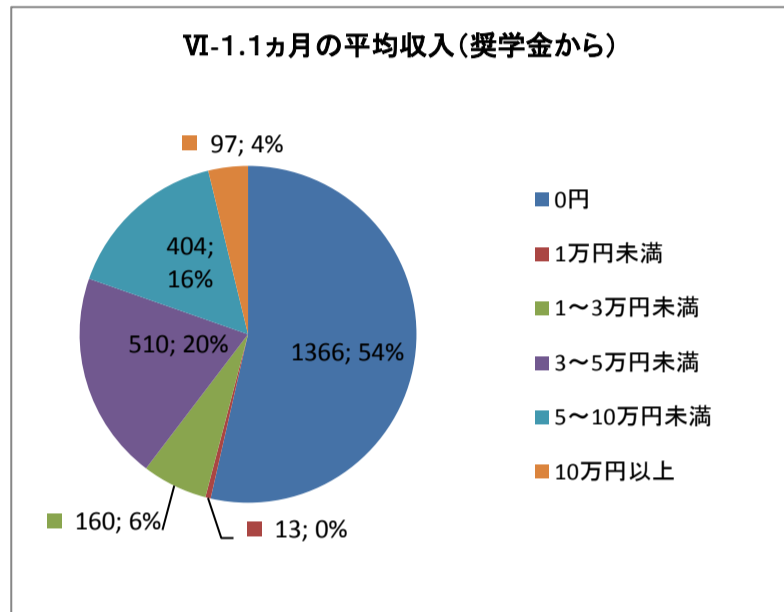
1カ月の平均収入の合計は、5~10万円未満とする回答が42%と最も多く、10万円以上とする回答と合わせると、およそ6割の学生が5万円以上の収入を得ている。

VI-1 (家庭から)



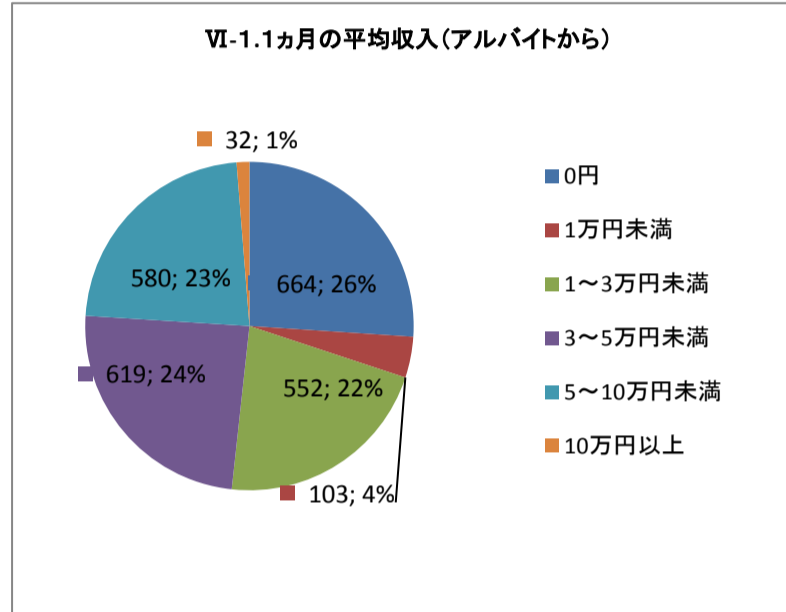
回答者のおよそ3割は、家庭からの収入を得ておらず、残りの7割については、受け取る額は10万円以上の3%を除き、1万円未満から5万円~10万円未満まで、ほぼ均等に分布している。

VI-1 (奨学金から)



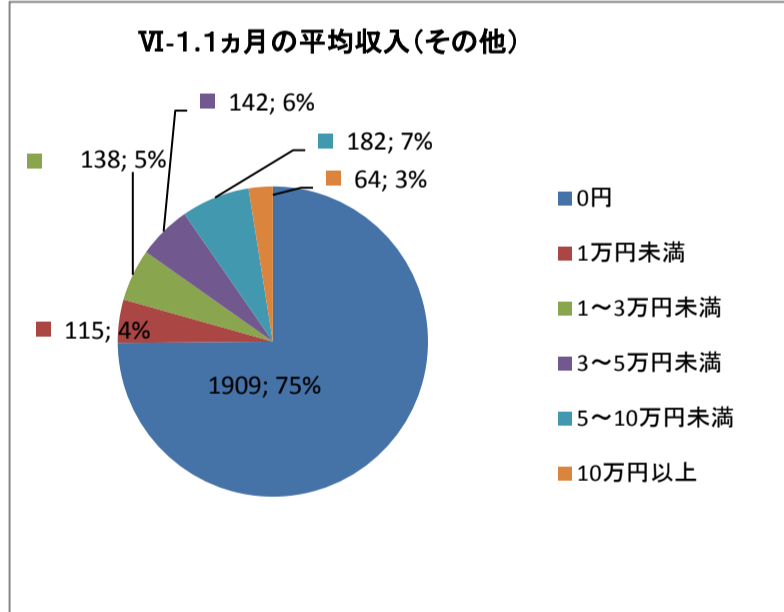
回答者の半数近くが奨学金を受け取っており、そのうち、金額については3~5万円未満、5~10万円未満の順に回答が多く、この二つのグループがおよそ8割を占めている。

VI-1 (アルバイトから)



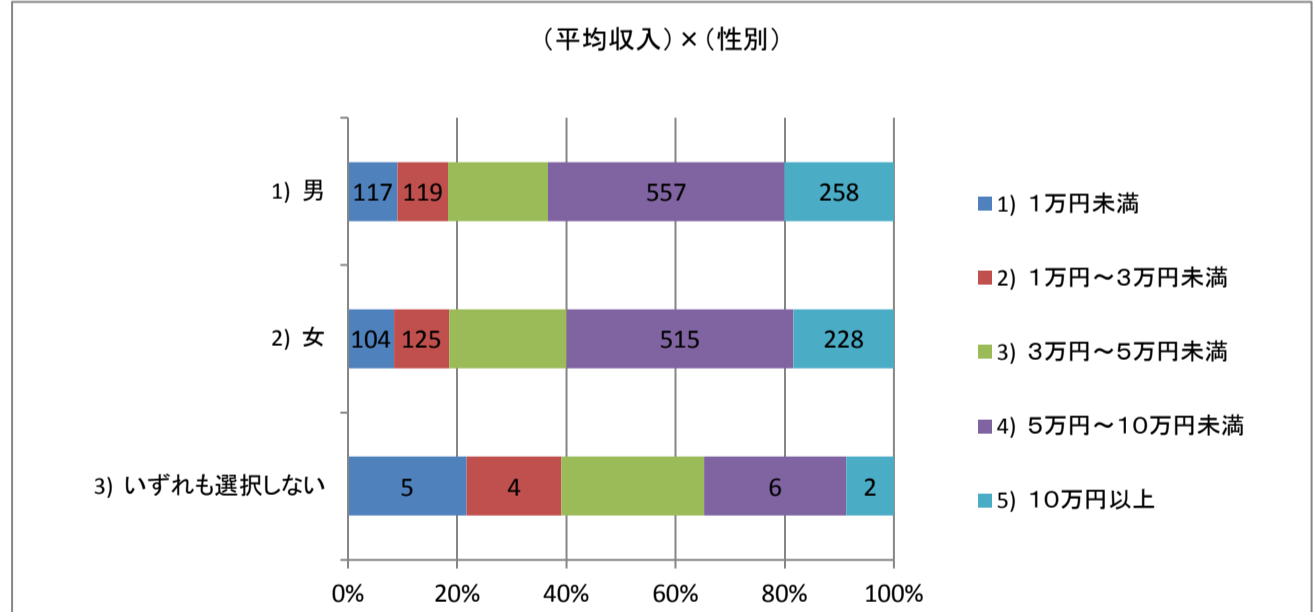
回答者のおよそ4分の3がアルバイトから収入を得ており、金額については、10万円以上の1%、1万円未満の4%を除き、1~3万円未満、3~5万円未満、5~10万円未満とする回答者が、均等に分布している。

VI-1 (その他)



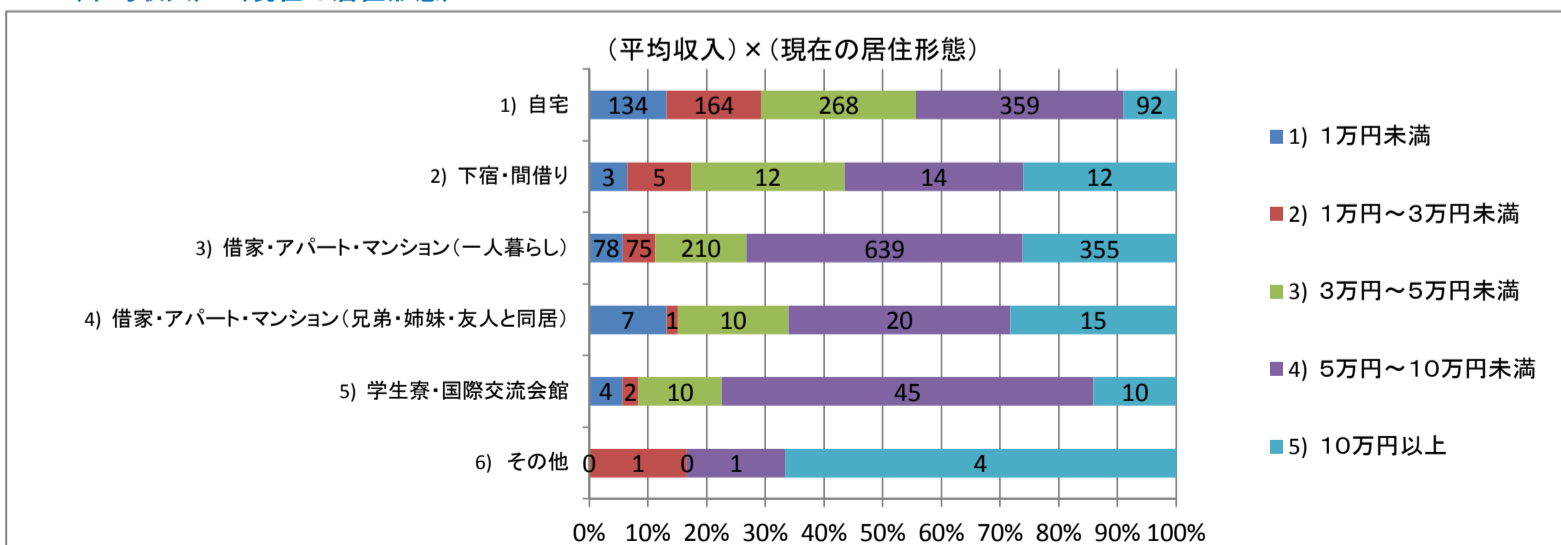
回答者のおよそ4分の1がその他の収入があるとしており、その金額は均等に分布している。

VI-1 (平均収入 × 性別)



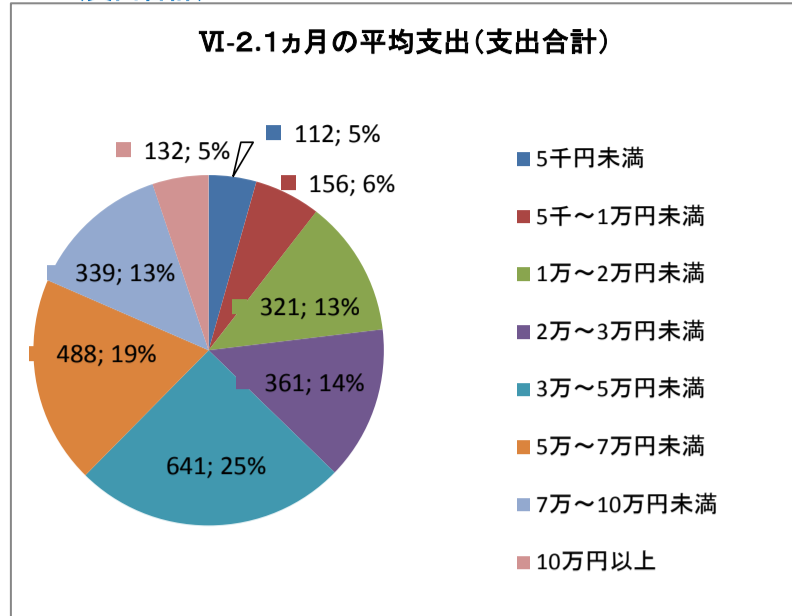
性別による平均収入合計の相違は見られなかった。

VI-1 (平均収入) × (現在の居住形態)



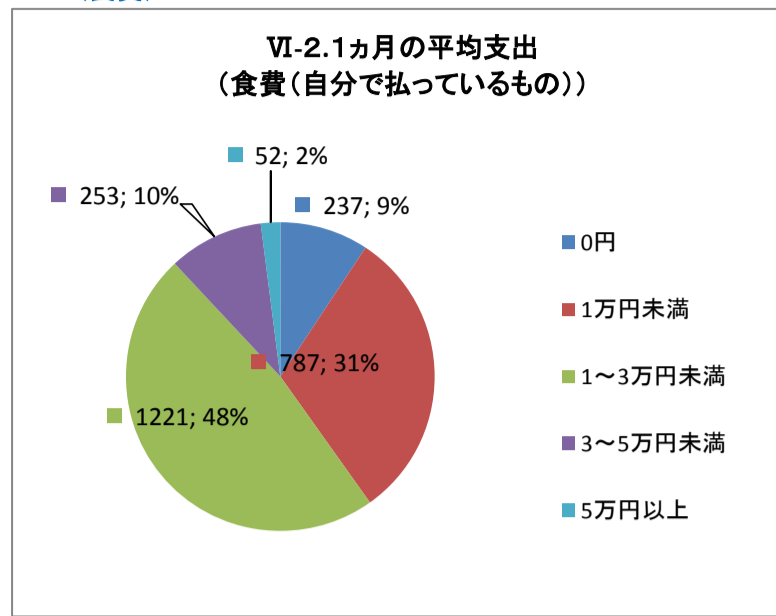
居住形態別に平均収入をみると、自宅と回答した者の半数以上が5万円以下と回答したのに対し、それ以外の居住形態の回答者ではいずれも半数以上が5万円以上と回答しており、特に、借家等での一人暮らし又は寮等と答えた人の7割以上が5万円以上と回答している。

VI-2(支出合計)



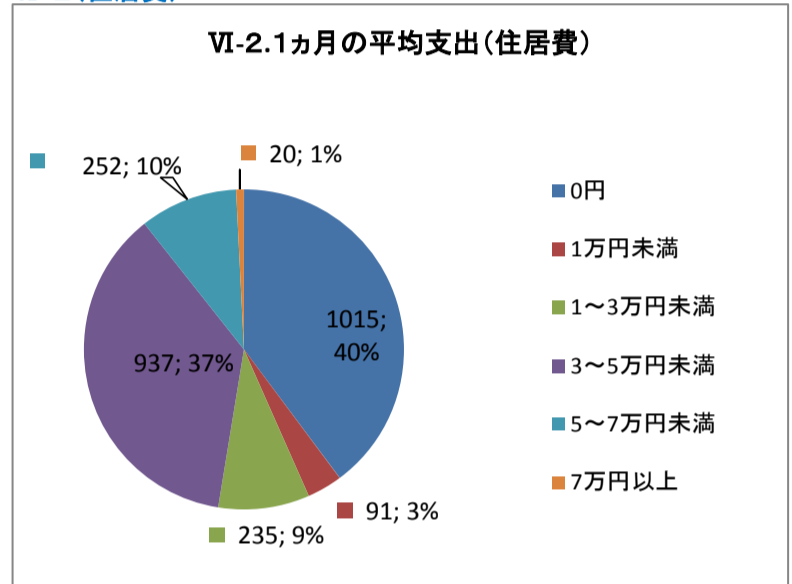
平均支出が3～5万円未満とする回答が25%で最も多い。他方、3万円未満とする回答を合わせると38%、5万円以上とする回答を合わせると37%となっており、支出額に幅が大きいことが分かる。

VI-2(食費)



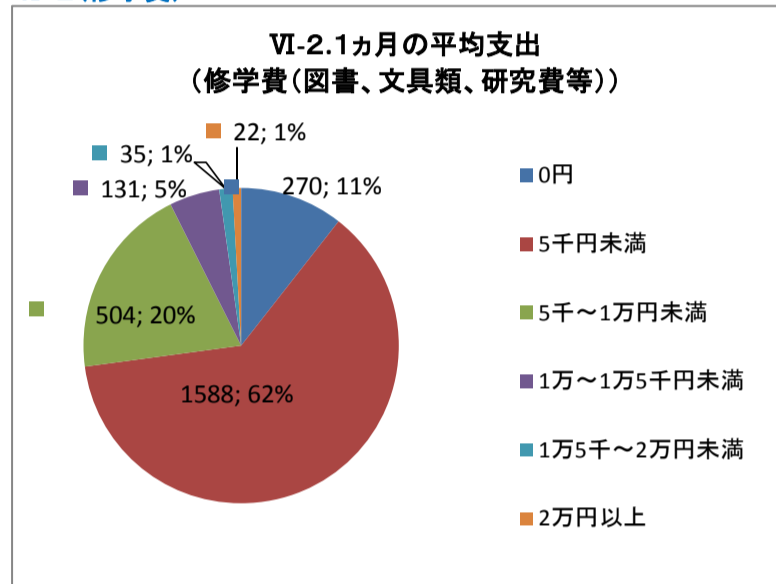
約半数の回答者が1～3万円未満と回答している。0円及び1万円未満とする回答の合計が40%で自宅と回答した割合とほぼ一致することから、1万円以上と回答したものがほとんど自宅以外だと仮定すると、自宅以外の回答者の8割くらいが、食費として1～3万円未満支出していると考えられる。

VI-2(住居費)



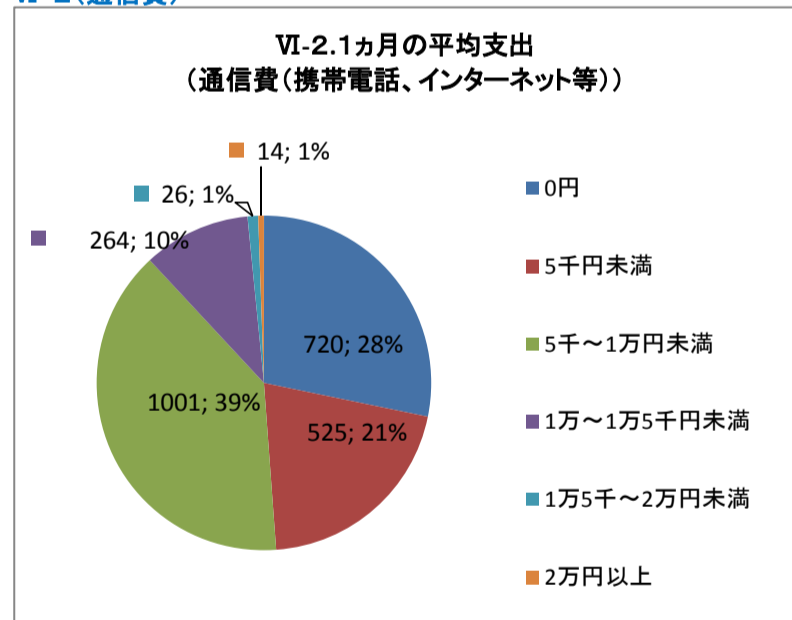
40%の回答が0円、37%の回答が3～5万円未満と回答している。0円とする回答が自宅であると考え、自宅以外の回答者のおよそ6割が3～5万円未満を住居費として支出しており、3万円未満支出している回答者がおよそ2割、5万円以上支出している回答者が2割くらいだと考えられる。

VI-2(修学費)



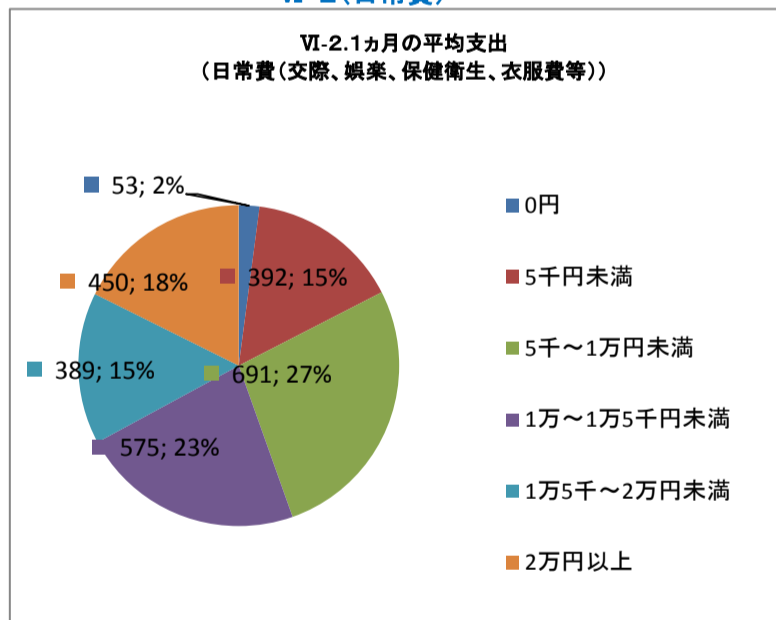
修学費については、62%が5千円未満、20%が5千～1万円未満と回答しており、あわせて8割くらいの学生は1万円未満である。

VI-2(通信費)



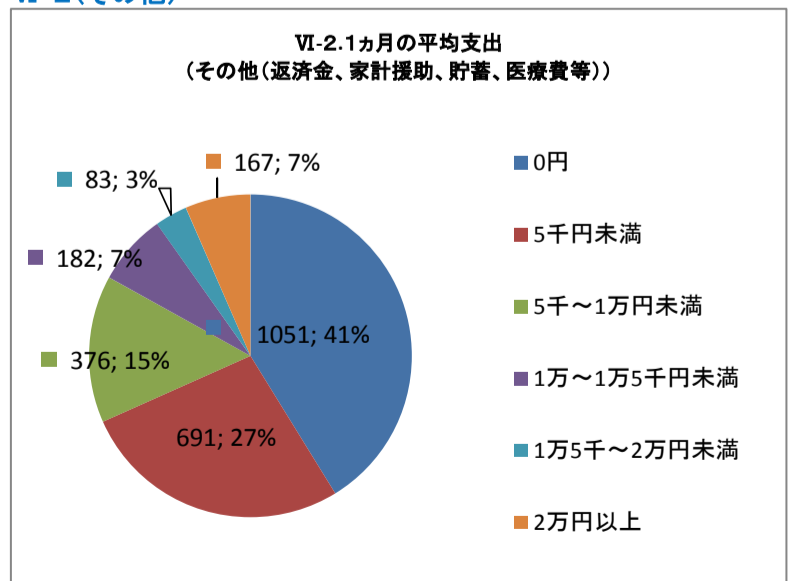
通信費については、5千～1万円未満とする回答がおよそ4割で最も多く、次に0円が約3割、5千円未満が2割と続くが、5千円～1万円未満と1万円以上のすべての選択肢を選んだ回答を合わせると、回答者のおよそ半数に及ぶ。

VI-2(日常費)



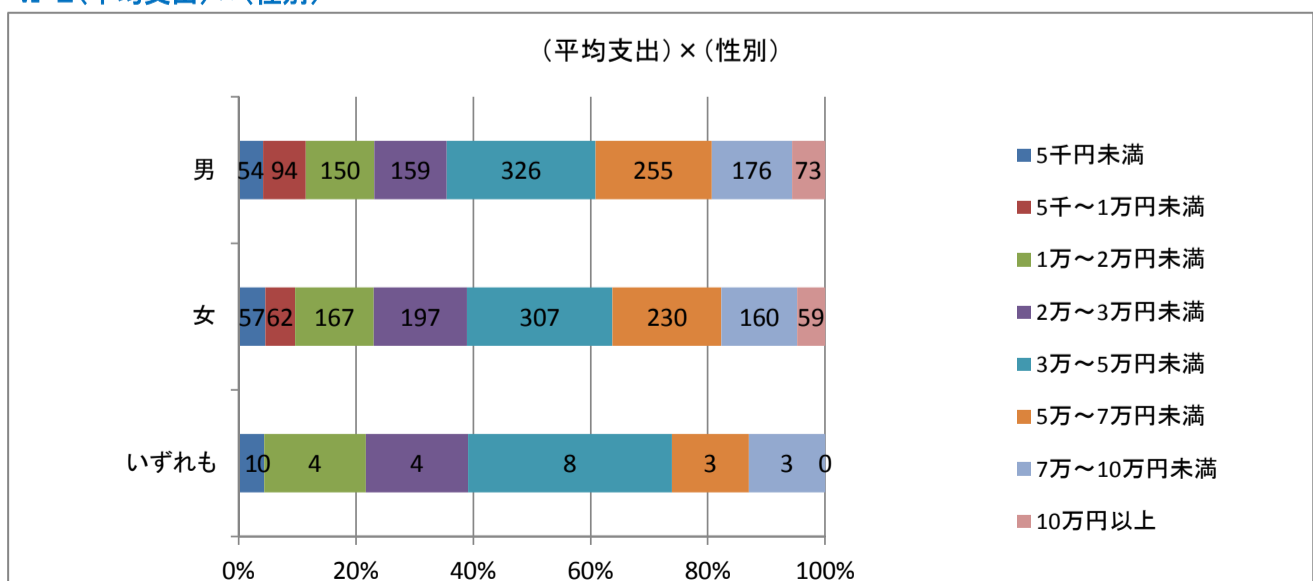
日常費については、5千～1万円未満、1万～1万5千円未満とする回答の順に多いが、全体に均等に分布している。

VI-2(その他)



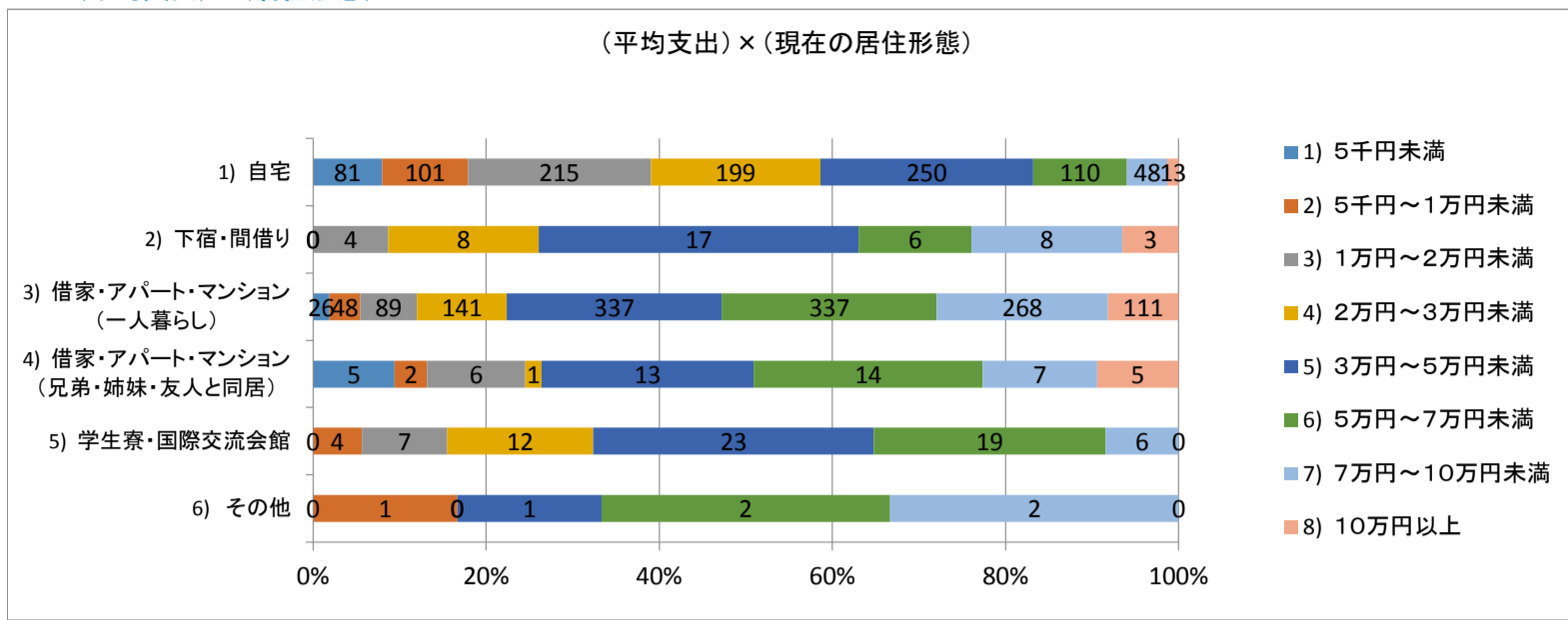
その他の支出については、0円が40%、5千円未満が27%、5千円～1万円未満が15%と金額が増えるにつれ、回答の割合が減少しており、1万円以上とする回答は合わせて17%である。

VI-2(平均支出)×(性別)



性別による平均支出合計の相違は見られなかった。

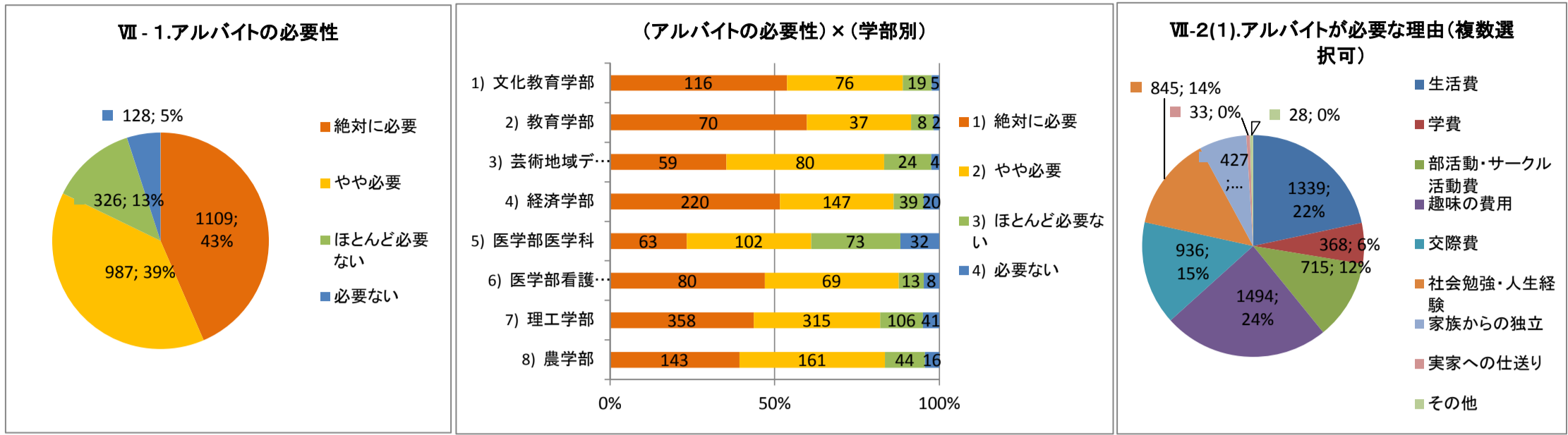
VI-2(平均支出)×(居住形態)



居住形態別の平均支出をみると自宅と回答した者の6割近くが3万円未満、合わせて8割以上が5万円未満と回答している。これに対し、それ以外の居住形態の回答者では、3万円未満とする回答は3割弱、5万円未満とする回答は、居住形態によってばらつきがあるもののおおよそ5割から6割くらいで、5～7万円未満が2割程度7万円を超えるとする回答が寮等に居住する者を除くと、いずれも2割以上ある。

VII. アルバイトに関する事項

VII-1、VII-2(1)



「絶対に必要」とする43%の中には単に「必要」とする場合も含まれるだろうが、それにしても高い割合である。

「絶対に必要」または「やや必要」とする人の中で、「生活費」「学費」を挙げた人は計28%しかいない。

必要性の解釈を緩めない限り、残りの人の「必要」性が正当化できるか疑問である。

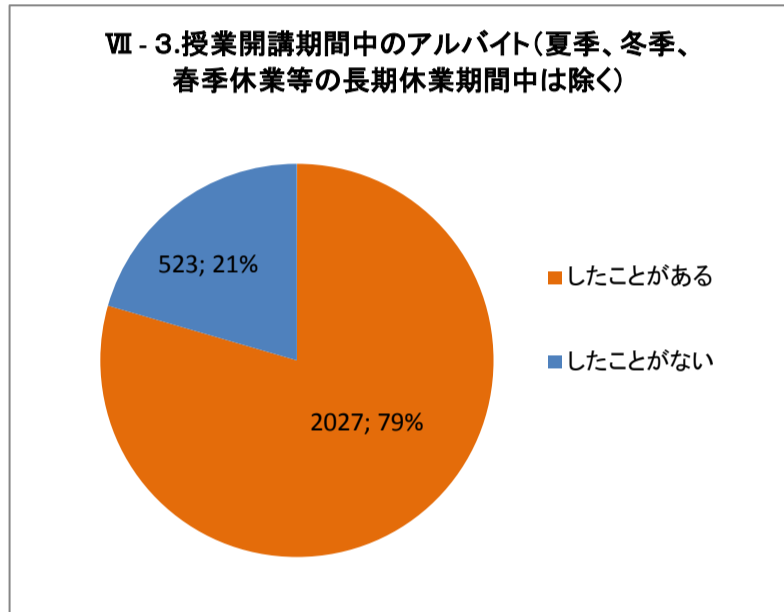
学部別集計の結果は実際に経済的動機があることを否定するものではないが、他に、時間的余裕の多さとの関連も示唆される。

つまり、時間的な余裕がアルバイトの引き金となり、実際にアルバイトをして得られる経済的効果からさらにもはやそれなしではやっていけずに「絶対に必要」という感覚が生まれる、という解釈は許されそうである。

【その他】

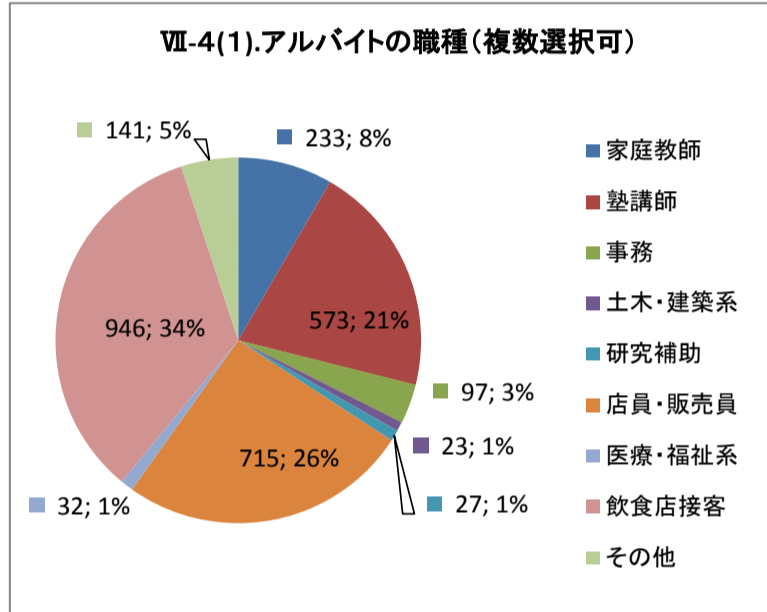
留学費用、労働の経験を積みたい、人間関係の構築(いろんな人に出会うことで、いろんな話ができる)、修学費、買い物、交通費、なんとなく、奨学金返済及び国民年金免除分返済等、貯金、課金、自動車学校代、保険料、うつ病予防、就活、車、食事、教科書代

VII-3



大半の学生にとって普段の生活がアルバイトとは無縁でないことが示されている。

VII-4(1)

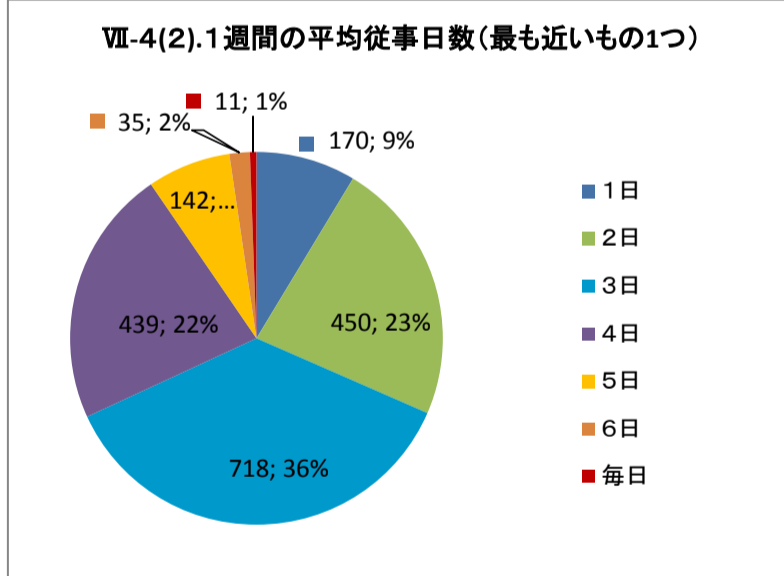


必ずしも専攻内容と関係があるとは言えない、幅広い業種において本学の学生が社会で一定の役割を担っていることに驚かされる。

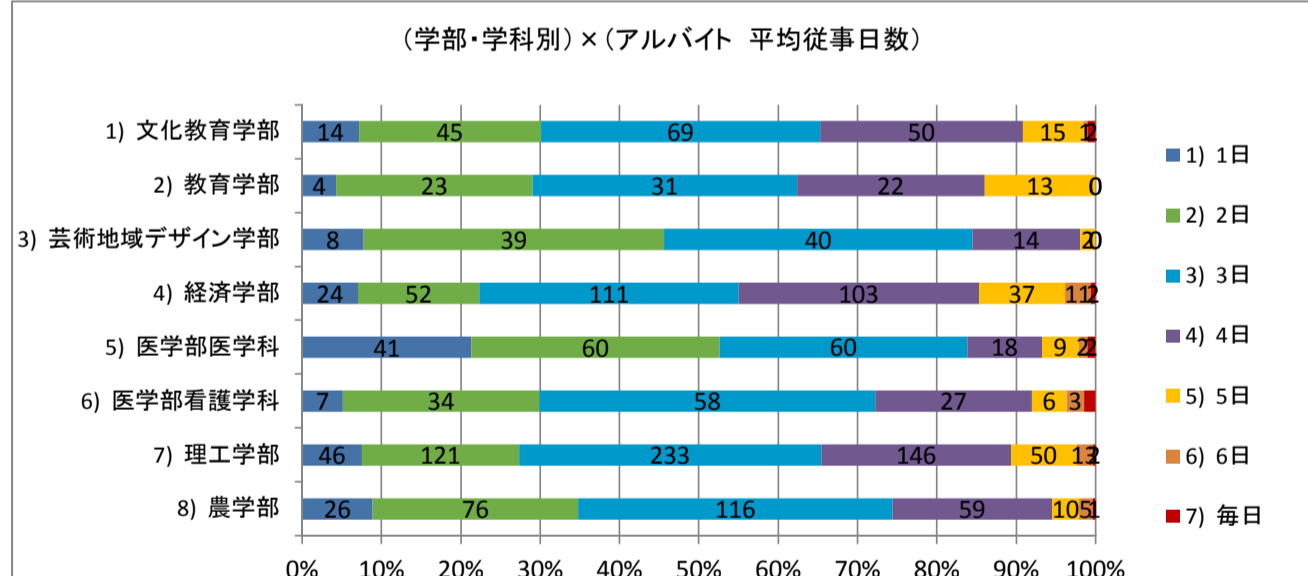
【その他】

留学生のチューター、飲食店厨房、イベントスタッフ、コールセンター、引越越し、新入生アドバイザー、プライダル、プール監視員、サービス業、漁業、品出し、サンプリング、ホテル清掃、ドライバー、コーチ、インストラクター、試験監督、巫女等

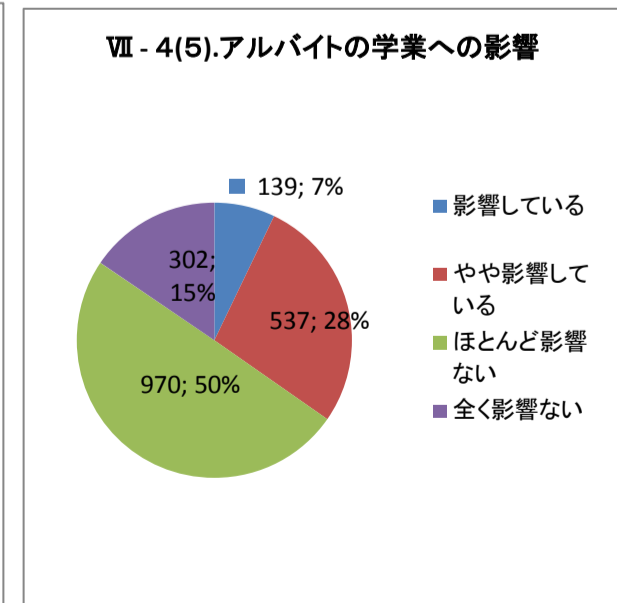
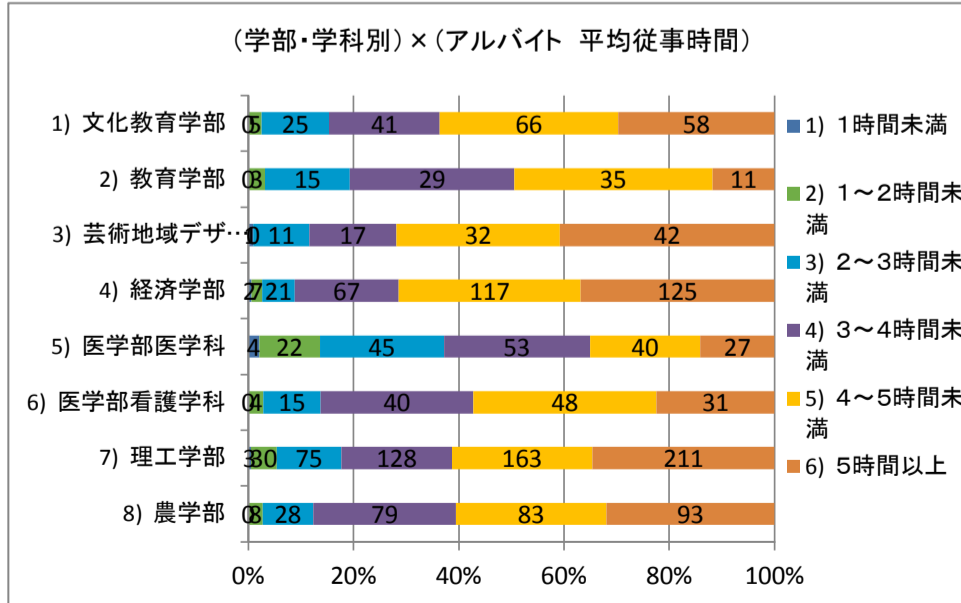
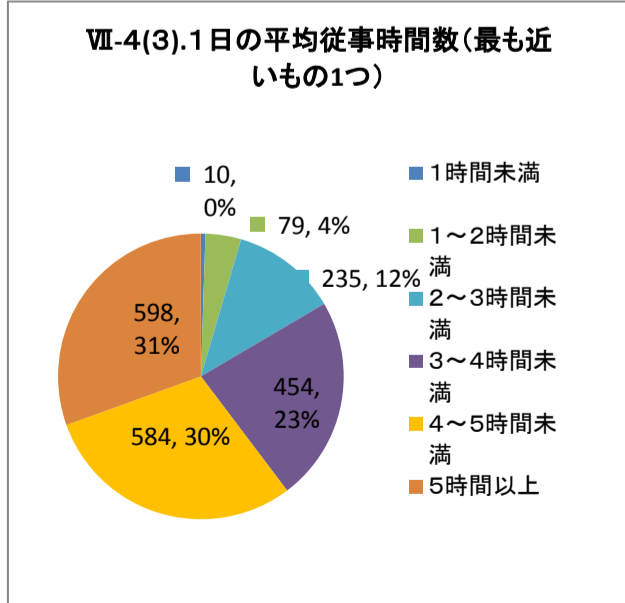
VII-4(2)



学部・学科別の従事日数は、曜日による授業時間数の偏り具合も反映しているのではないかと考えられる。講義が(ほとんど)ない曜日があれば、その日に何かアルバイトでも、と動機づけられても不思議ではない。



VII-4(3)、VII-4(5)

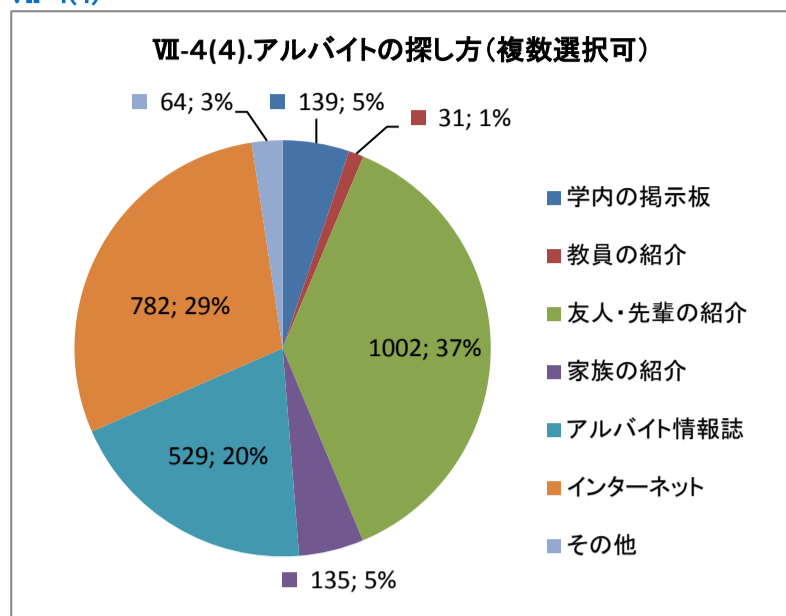


時間数がかなり長い場合、深夜か深夜近くまでアルバイトが及ぶケースも多いと想定するのが自然である。

その場合には翌日の講義受講にも影響が出てくることは避けられないと考えられるので、この点十分に注意して欲しい。

実際、「5時間以上」とした31%の人のほとんどは、学業に「影響している」か「やや影響している」の回答者に含まれるのではないかと心配になる。

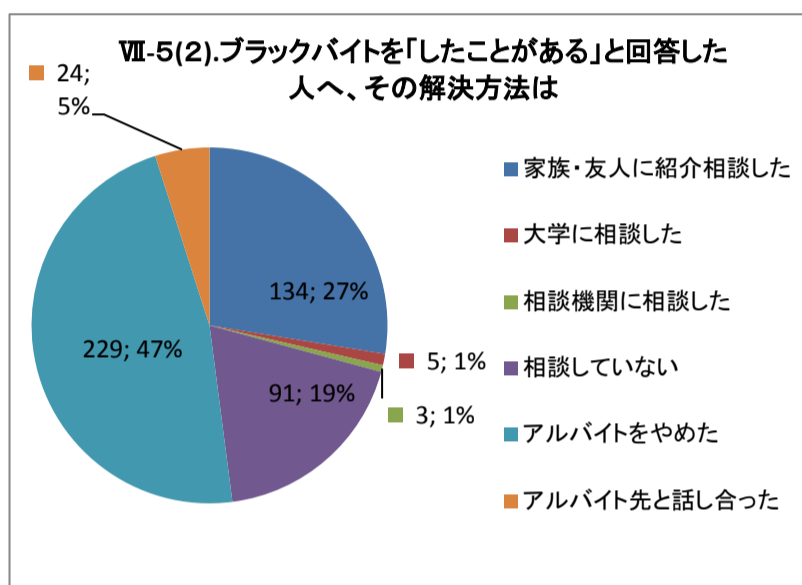
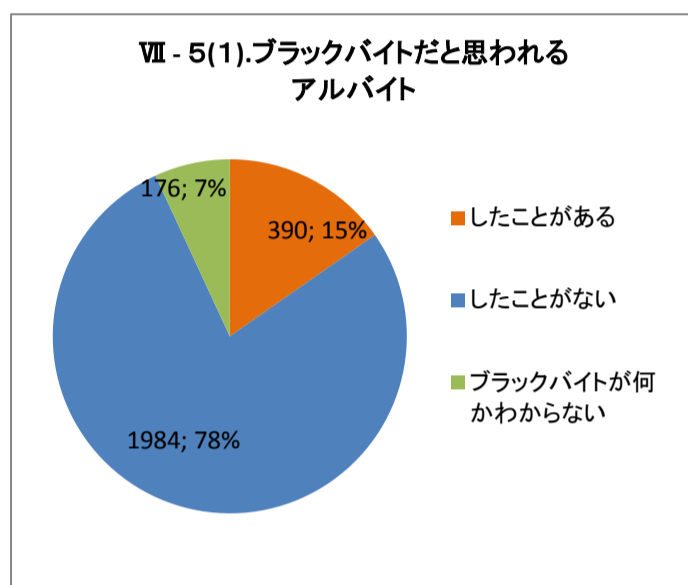
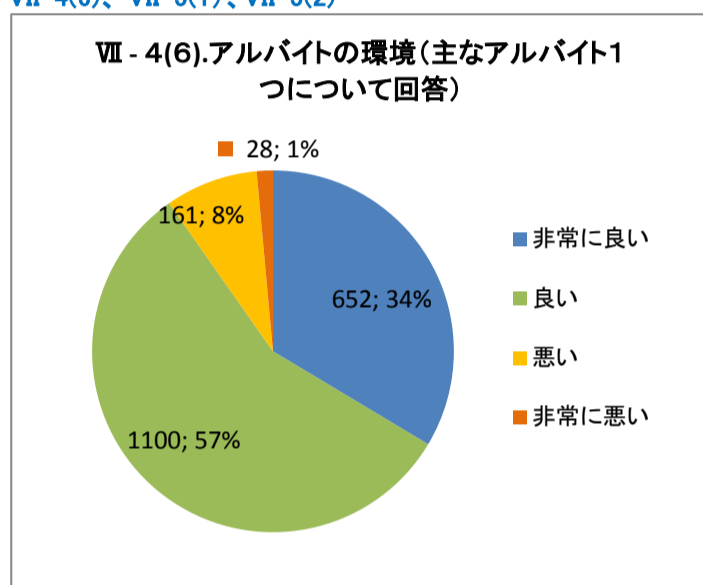
VII-4(4)



【その他】
店の貼紙、近所、直接、知人、スカウト、チラシ
開業、通っていた塾

友人・先輩や家族からの紹介はある意味でリスクが低いかも知れないが、特にインターネットで得られる情報に対しては慎重な判断を下して欲しい。
また、家族にも、その適否に関しては事前に相談することを勧めたい。

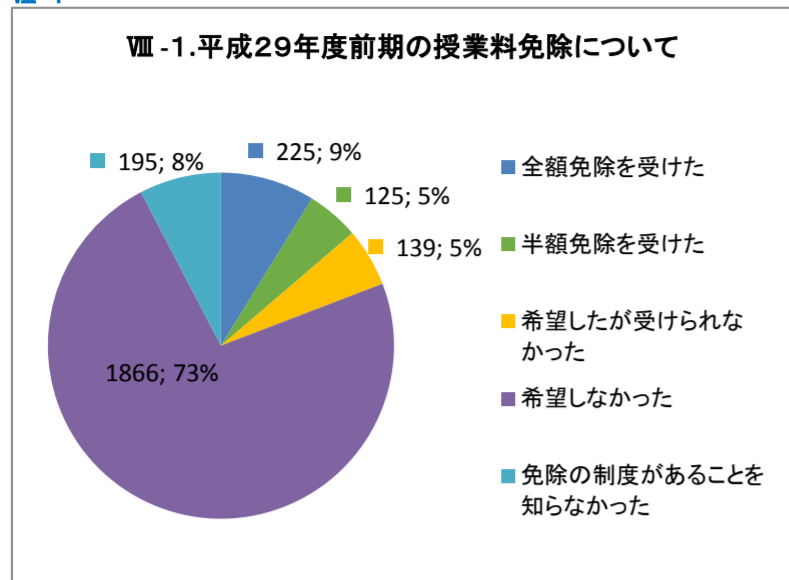
VII-4(6)、VII-5(1)、VII-5(2)



大抵の場合、アルバイト自体には特に問題がないようである。また、問題がある場合でもやめられるようである。しかし、問題を抱えたままやめられない状況に陥ったのなら、やはり何らかの形で大学に相談してもらいたい。

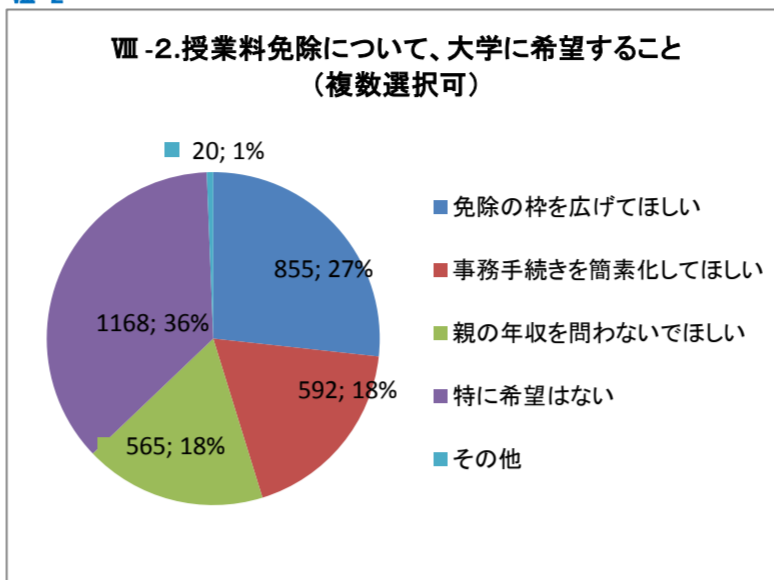
VIII. 授業料免除に関する事項

VIII-1



授業料免除について、全額免除もしくは半額免除を受けたものが15%、希望したが受けられなかったものは5%いるが、本人の努力次第で授業料免除を受けることが可能ではないかと考える。

VIII-2



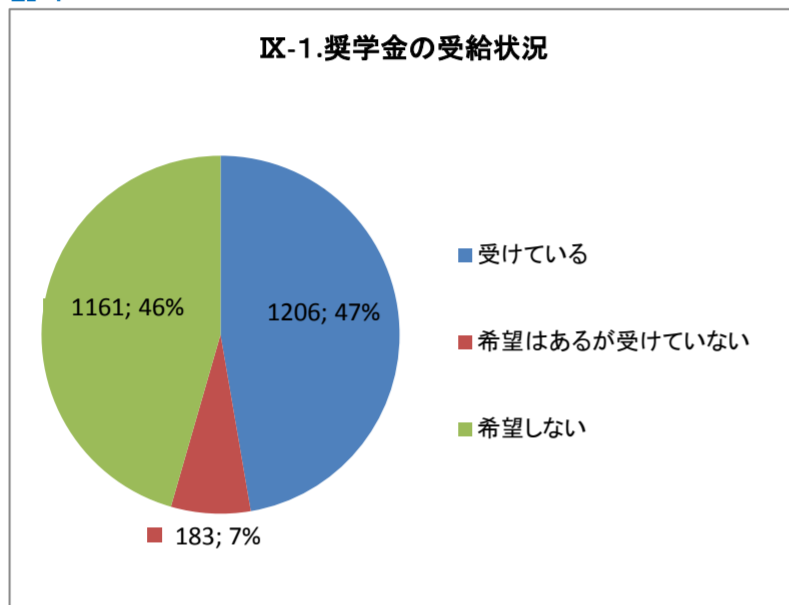
授業料免除に関する大学への希望事項において、事務手続きの簡素化を希望している学生が18%いた。設問VIII-1の回答から授業料免除手続きを行った学生のほとんどが手続きの簡素化を希望していることが推測される。

【その他】

- ・授業料を減らして欲しいです。現在は知識を得る道に強烈な不平等があります。お金持ちしか大学にいけません。
- ・受け付け期間を増やして欲しい。
- ・金利を減らしてほしい、債務も考慮してほしい。
- ・家賃にも食費にも家庭にお金を入れられない兄弟の年収を考慮しないでほしい。
- ・提出する書類が多すぎる、申請の結果発表が遅い。
- ・後期で合格したので、授業料免除申請手続きの日が合格後の書類が送られてきた直後だったため、行けなかった。どうにかして欲しい。
- ・前期と後期に分ける必要性が分からない。
- ・学業成績の基準が厳しい。特に医学部では良い成績を取るのが難しい。
- ・医学部は6年もあるので考慮してほしい。
- ・姉などは同居こそすれ、奨学金の返済等、基本的に家の家計に協力してもらうことはできないため、できれば同居人の年収を問わないでほしい
- ・鍋島の申請日を増やしてほしい
- ・期間を延ばして欲しい。早めに連絡して欲しい。

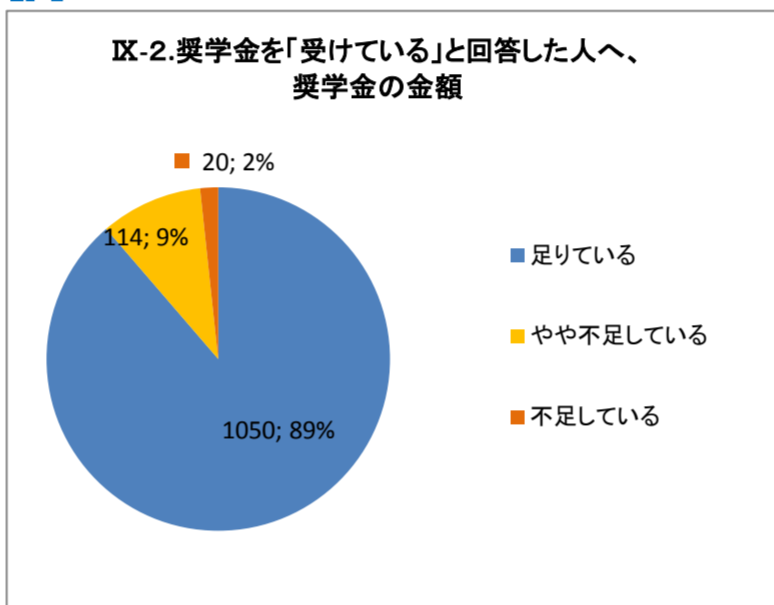
IX. 奨学金に関する事項

IX-1



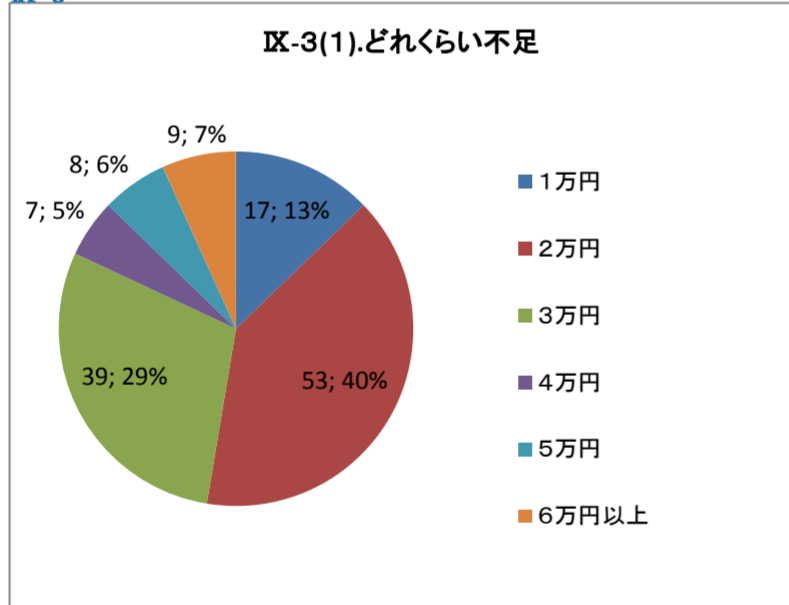
学生の半数近くが奨学金を受給しており、日本学生機構の調査結果と同程度の割合であった。

IX-2



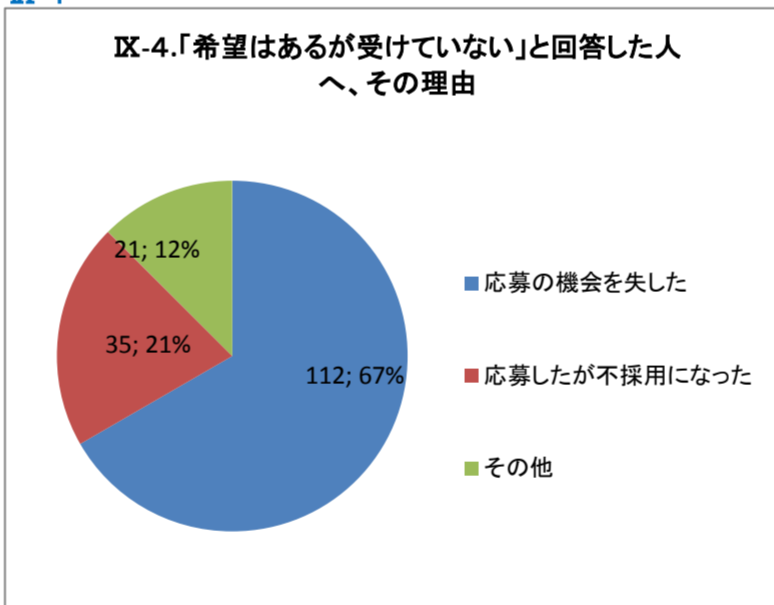
奨学金受給者の9割は奨学金の金額に満足しているが、やや不足、不足と答えたものが約1割存在することから、不足している学生の生活状況や学業への影響が気になる。

IX-3



奨学金で不足する金額は、半数は2万円以内であることから生活の工夫で対処可能とも考えられるが、3万円不足と答えたものが3割、4万円以上不足と答えたものが2割弱存在することから、経済的に困窮している学生への対応が求められる。

IX-4

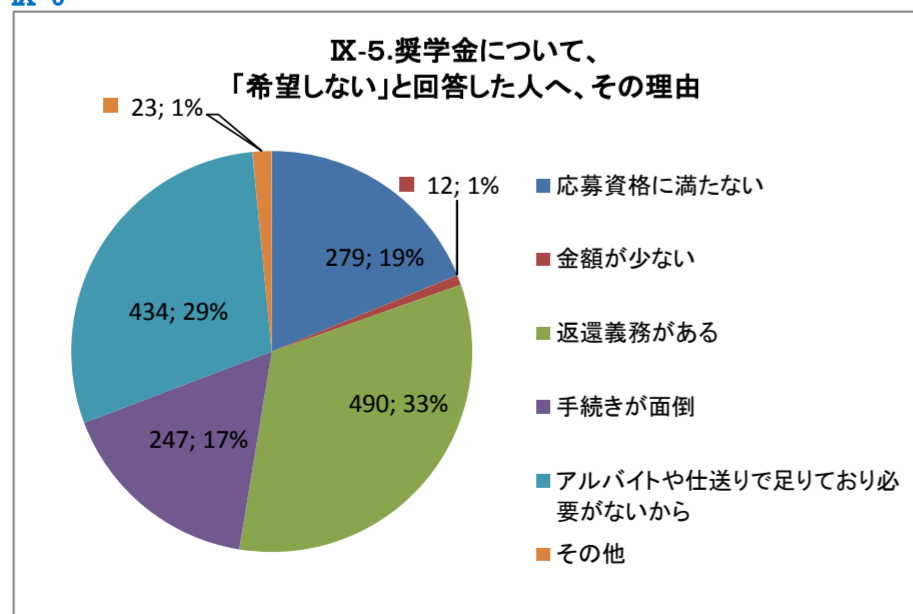


奨学金の受給希望がありながら受けていないものの理由は、応募の機会を失ったと答えたものが67%いることから、アナウンスの方法等について今後検討を要する。

【その他】

- ・両親ではない家族の年収が結構あったため、採用されないだろうと考えて応募しなかった。
- ・留学生向けの貸与型奨学金がないといわれた
- ・親の年収的に無理だと感じた
- ・利子付きの奨学金になったため
- ・来年に向け申請している段階
- ・留年したら切られた
- ・家庭の事情を詳細に書くのが嫌だった
- ・親が反対した
- ・授業料免除を受けたから
- ・収入が受けられる枠を越えているから。
- ・実際は祖父の収入であり、私達には何も還元されていないお金も世帯収入となってしまったため。

IX-5



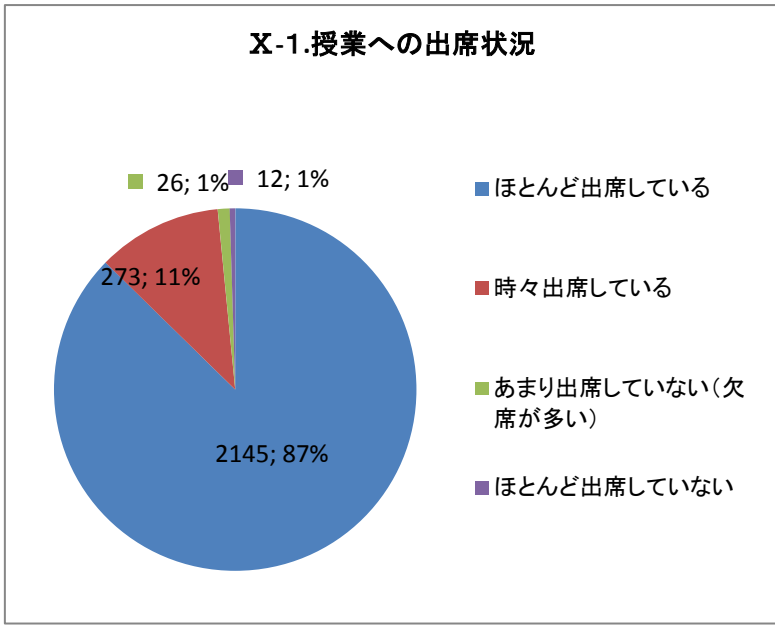
奨学金受給を希望しない理由で最も多い回答は、返還義務があることであった。奨学金の返還については、卒業後の返還が経済的負担となるケースも多く報告され、社会的に問題となっていることから、学生が受給を受けるか否かの判断基準になっていることが伺える。

【その他】

- ・大学三年でやめた。
- ・アパート代と光熱費を最低限まで減らして、まだなんとか暮らせます。餓死はしません。この状況で他人が頑張って得たお金をうけとるのは信念に反します。
- ・親が学費は払うから受けなくていいと言われた。
- ・返金できるかわからないから
- ・兄が2人奨学金を受けているから
- ・本当の紳士を目指したいから
- ・受けていたが臨時収入により返還した
- ・借金したくない
- ・そこまでの成果が見込めない

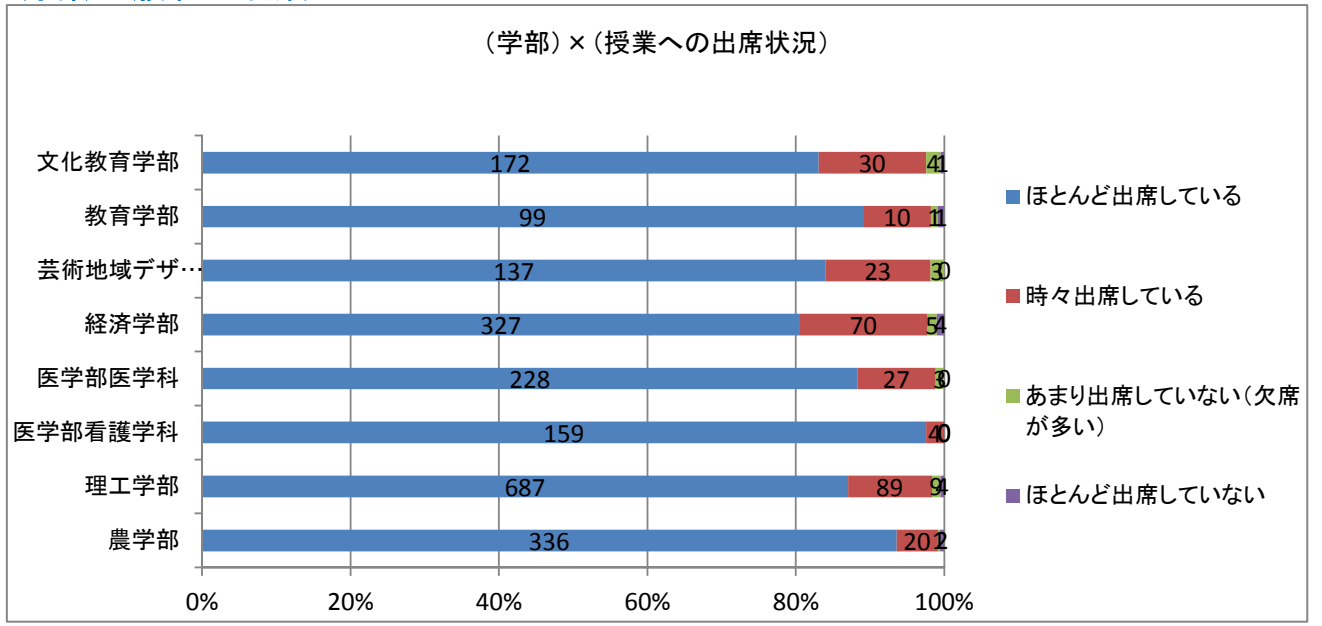
X. 学業に関する事項

X-1.



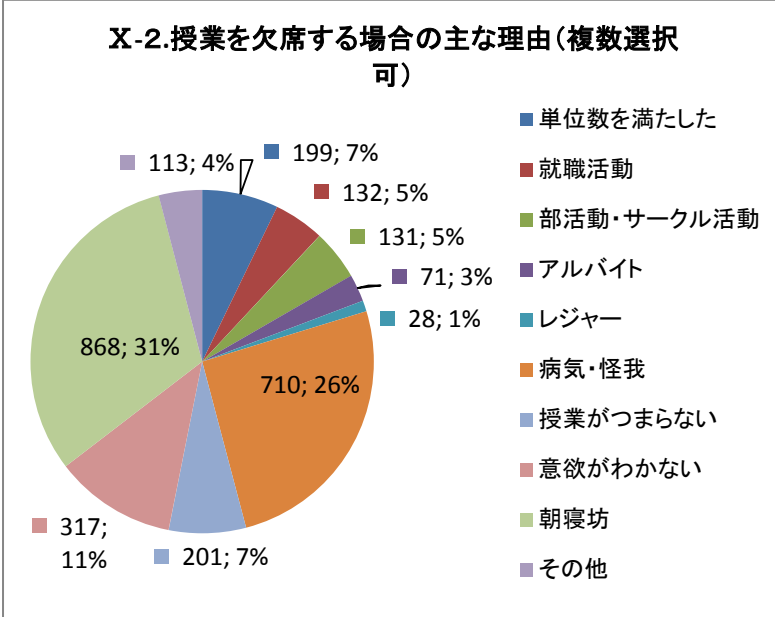
授業に「ほとんど出席している」と回答した学生が最も多かったのは、当然であるが、「時々出席している」表現を変えれば時々しか出席していない学生が11%もいることは注目に値する。

(学部) × (授業への出席)



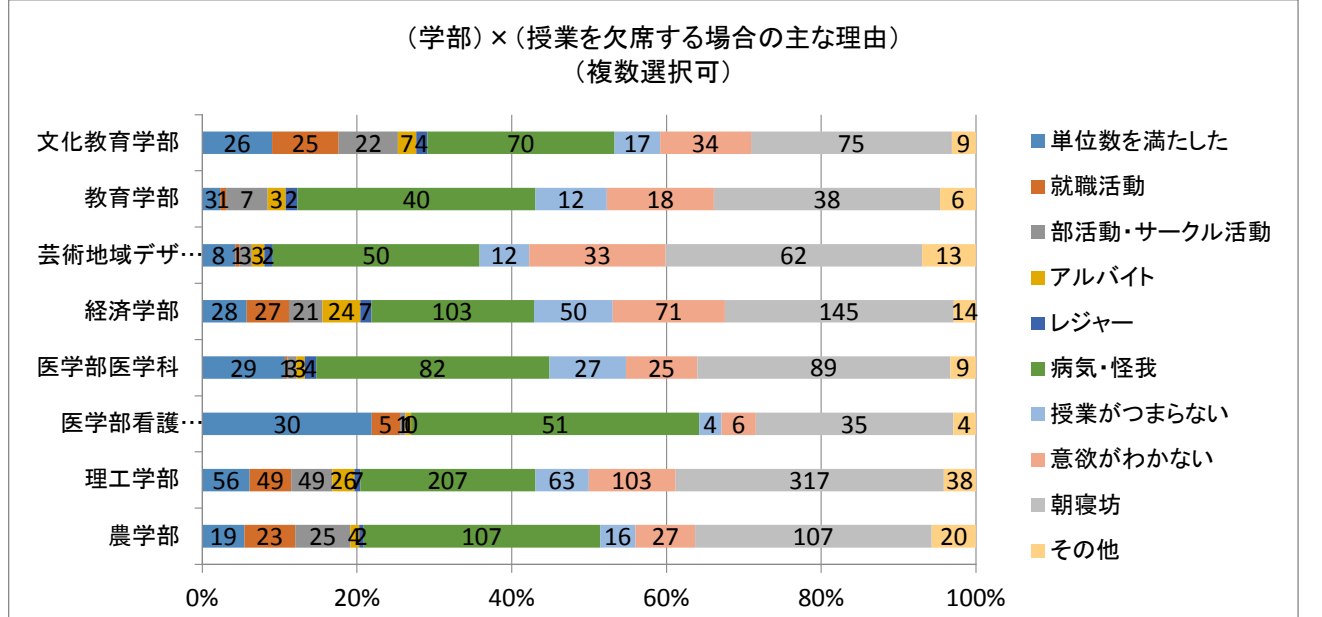
医学部看護学科の出席状況は特筆すべきものがある。国家試験という目的があるからなのかもしれないが、教員が学生達をどのように導いているのか興味もたれる。

X-2.



病気や怪我で授業を欠席する割合が高いのは妥当であるが、それを抑えて理由のトップに来たのが「朝寝坊」であり、これが世間で言うところの大学生気分であろうか。割合としてはもっと減らしたいところである。「意欲がわかない」理由は様々であろうが「授業がつまらない」こともその一因なのかもしれない。教員は今一度自分の授業を振り返ってみるべきである。

(学部) × (欠席理由)

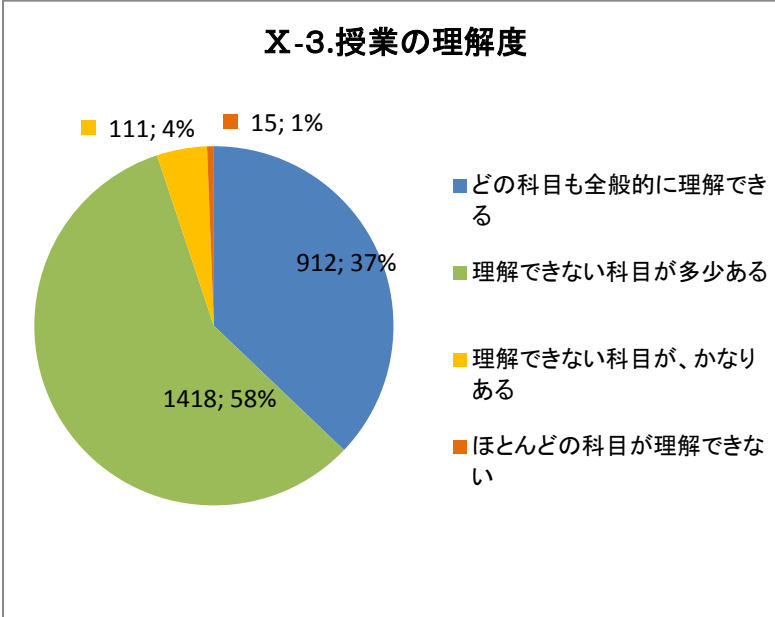


「授業がつまらない」、「意欲がわかない」の割合が多い学部は注意を要する。

【その他】

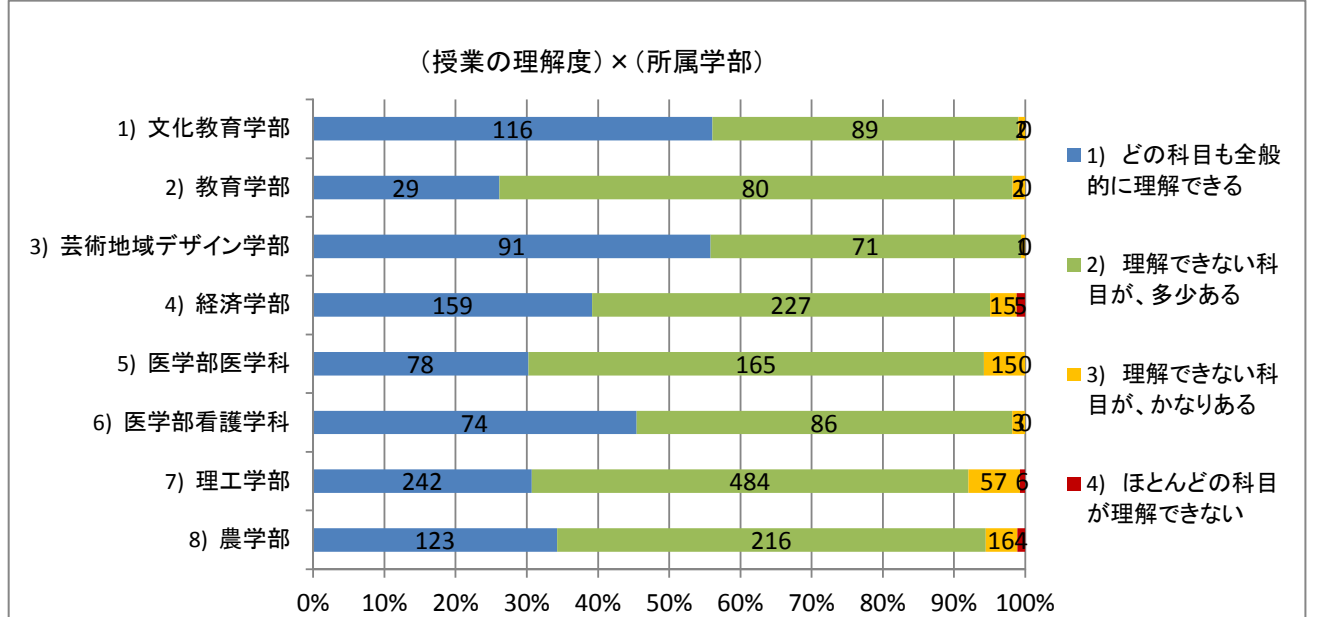
- ・課題が終わっていなかったため、自分の勉強
- ・先生の説明より、ネットでの説明のほうが正しい。先生の説明が分かりません
- ・授業を欠席したことがない。
- ・実習、研究、学会
- ・公共交通機関の遅延
- ・自然災害、悪天候
- ・家から遠くてめんどくさい
- ・勉強環境が悪い。
- ・家族旅行、ライブ、自動車学校

X-3.



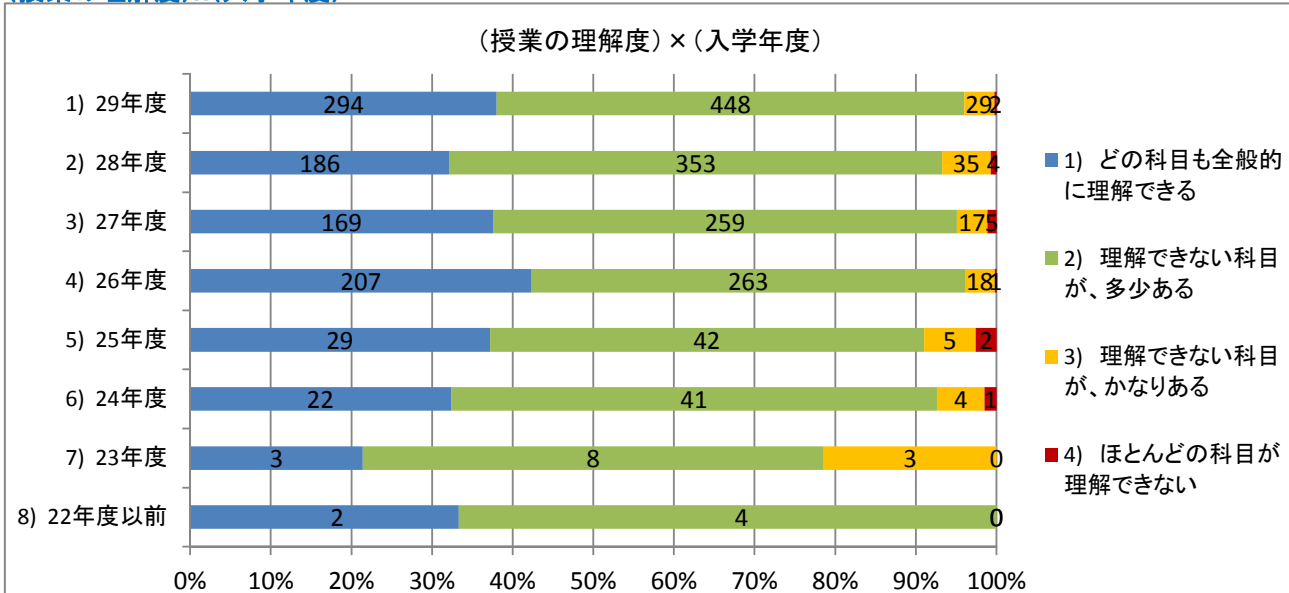
理解できない科目があるのは仕方がないのだが、それに対してどのようなアプローチをしたのが重要である。

(授業の理解度) × (所属学部)



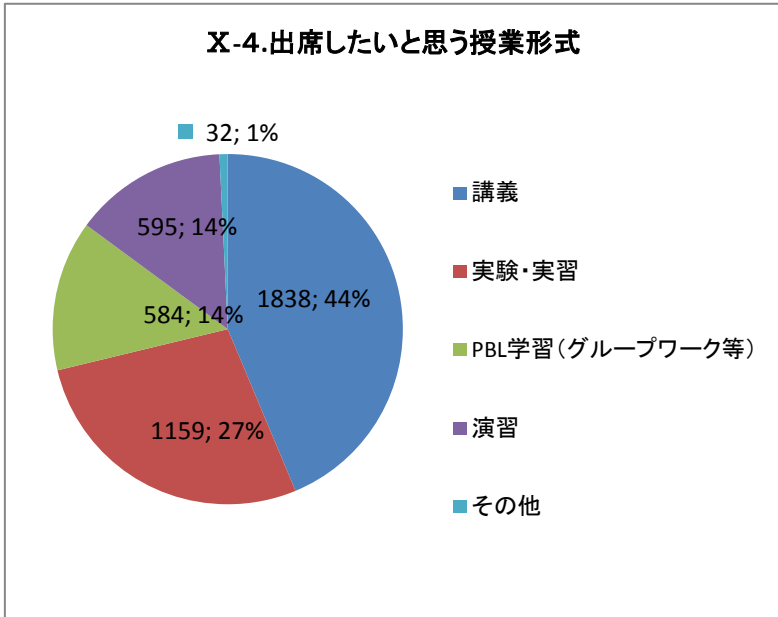
全ての学部で授業の理解度は高いと評価できるが、経済学部、医学部医学科、理工学部、農学部では数%の学生が「ほとんどの科目が理解できない」または「理解できない科目が、かなりある」と回答していることに注意しなければならない。

(授業の理解度) × (入学年度)



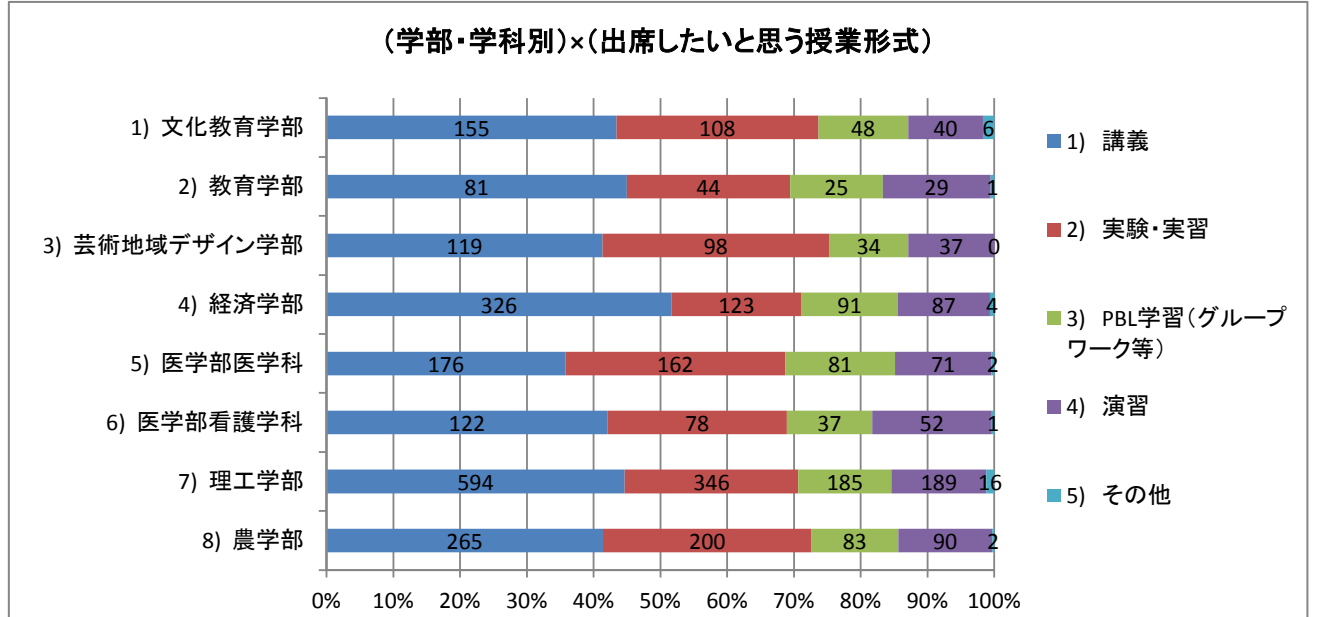
26年度から29年度の入学生については、多少のパラツキは見られるが大きな差は見られない。しかし強いてあげるなら28年度入学生の理解度が低いことであるが、2年次に開講されている授業科目によるのか、2年生の中だるみなのか、理由が気になるところである。24、25年度の値を与えているのは医学部医学科生が主である。

X-4.



「実験・実習」、「演習」、「PBL学習」のトータルが50%を超えているのは、それらが重要であるとの認識とともに、そのような形式の授業が楽しいという側面も反映していると推察される。

(学部・学科別)x(出席したいと思う授業形式)

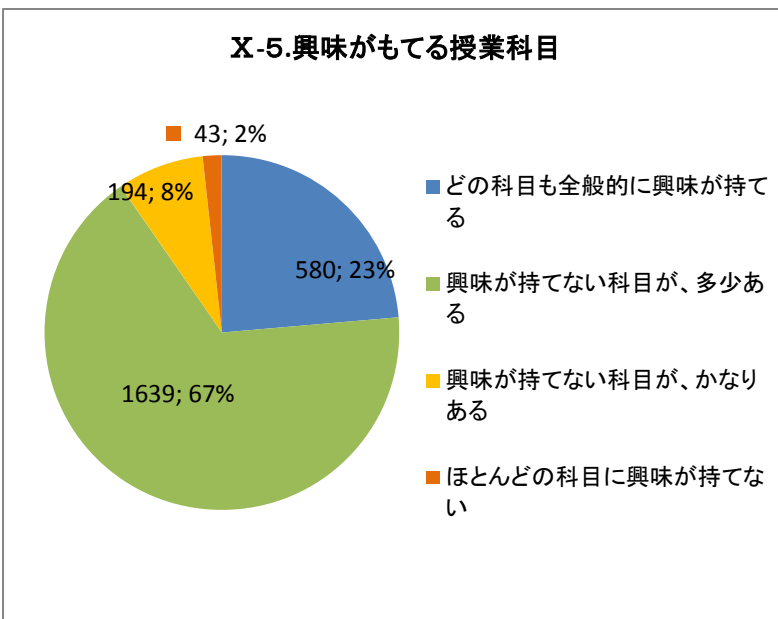


思いの外、学部・学科ごとのバラツキが小さいという印象である。しかし、その微妙な違いは、学部・学科の特徴を反映しているのかもしれない。

【その他】

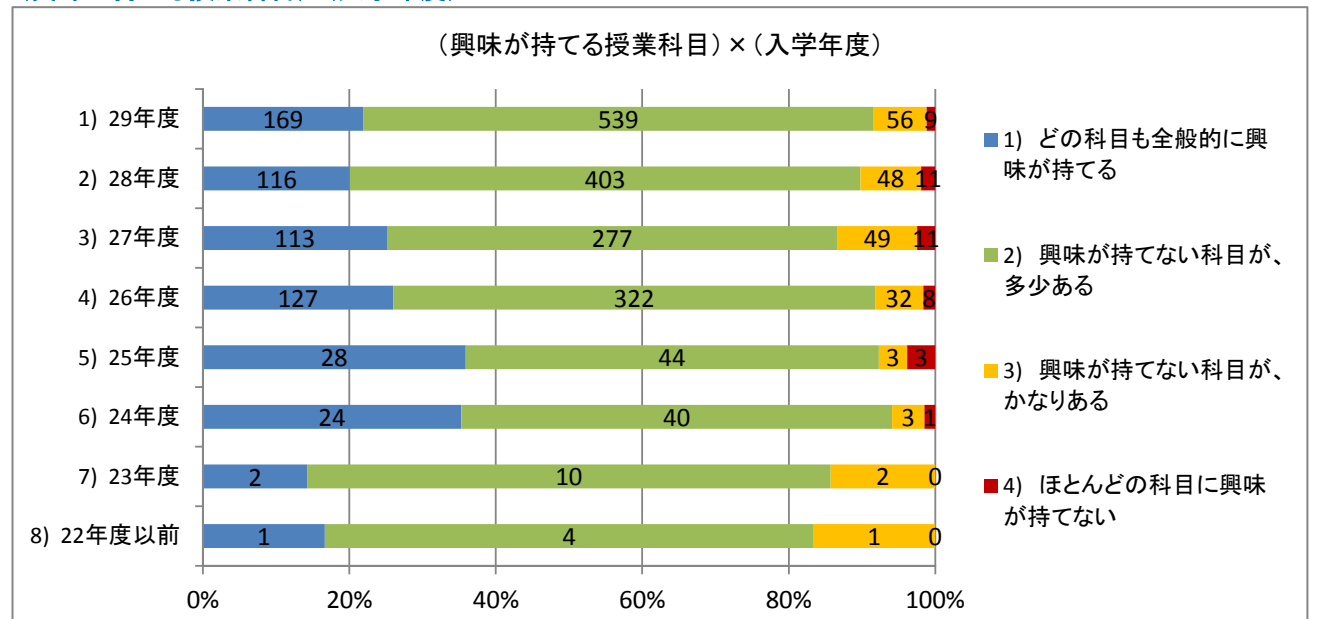
- ・どれもいいです。授業形式には問題はありません。・ディスカッション、それぞれの形式のやり方には問題があります。・体を動かすつまり、先生には問題があります。・フィールドワーク
- ・アクティブラーニング
- ・自分の見識が広がるのであれば形式は問いません
- ・出席必須の授業
- ・PowerPointを使わない講義;
- ・課題などを強要しない科目(自主学習に任せる科目)・ネット授業

X-5.



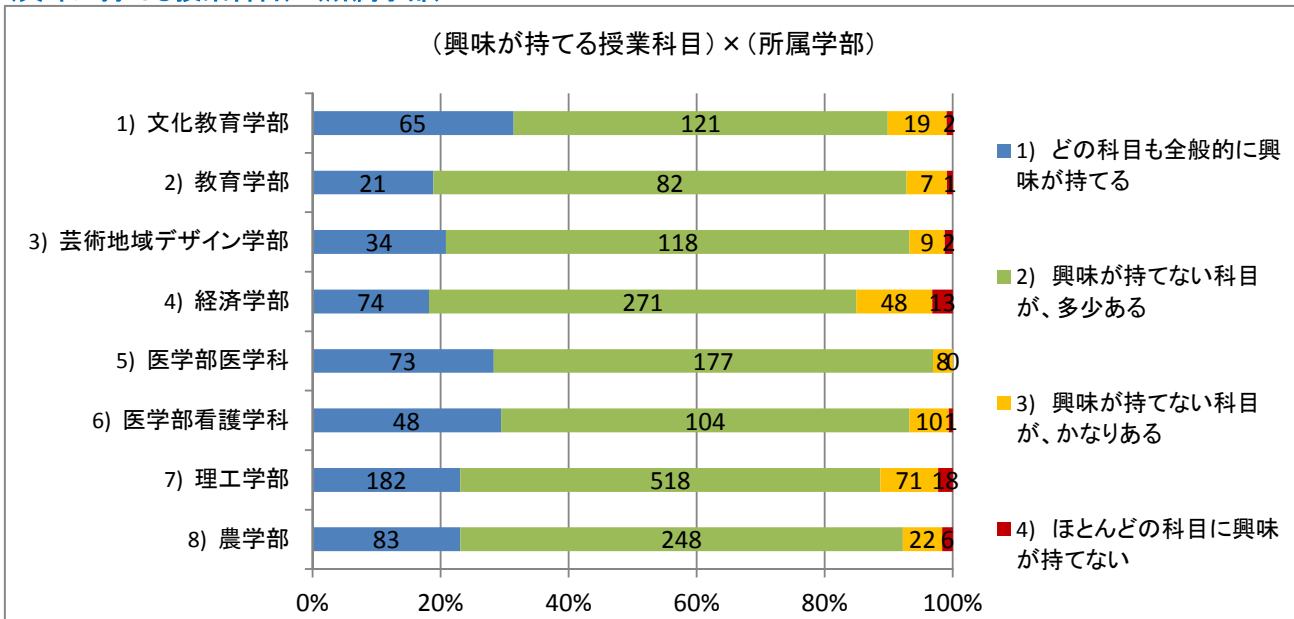
妥当な結果であると思われる。良し悪しは別にして、担当教員は興味を持たれていない(興味を持つ学生が少ない)科目であることを認識すべきである。

(興味もてる授業科目)x(入学年度)



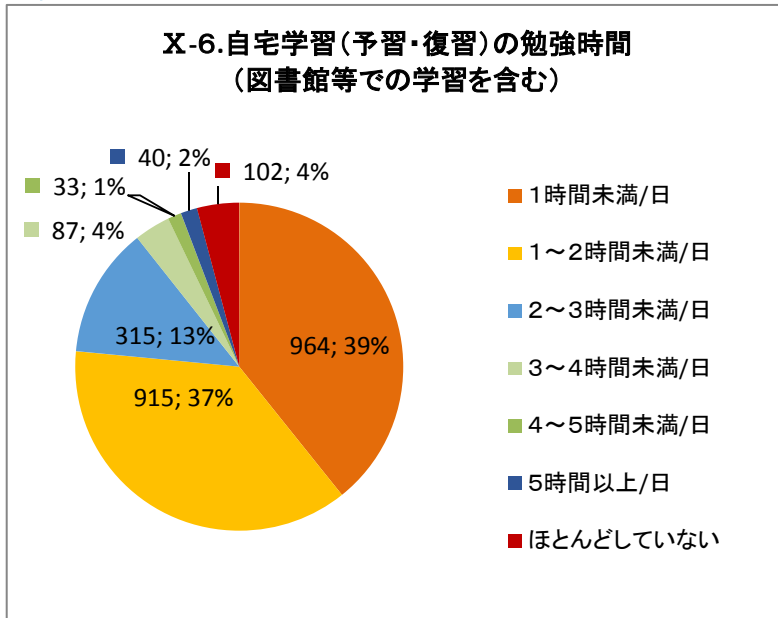
少なくとも26年度から29年度の入学生については、授業の理解度と相関が考えられる結果となった。

(興味もてる授業科目)x(所属学部)



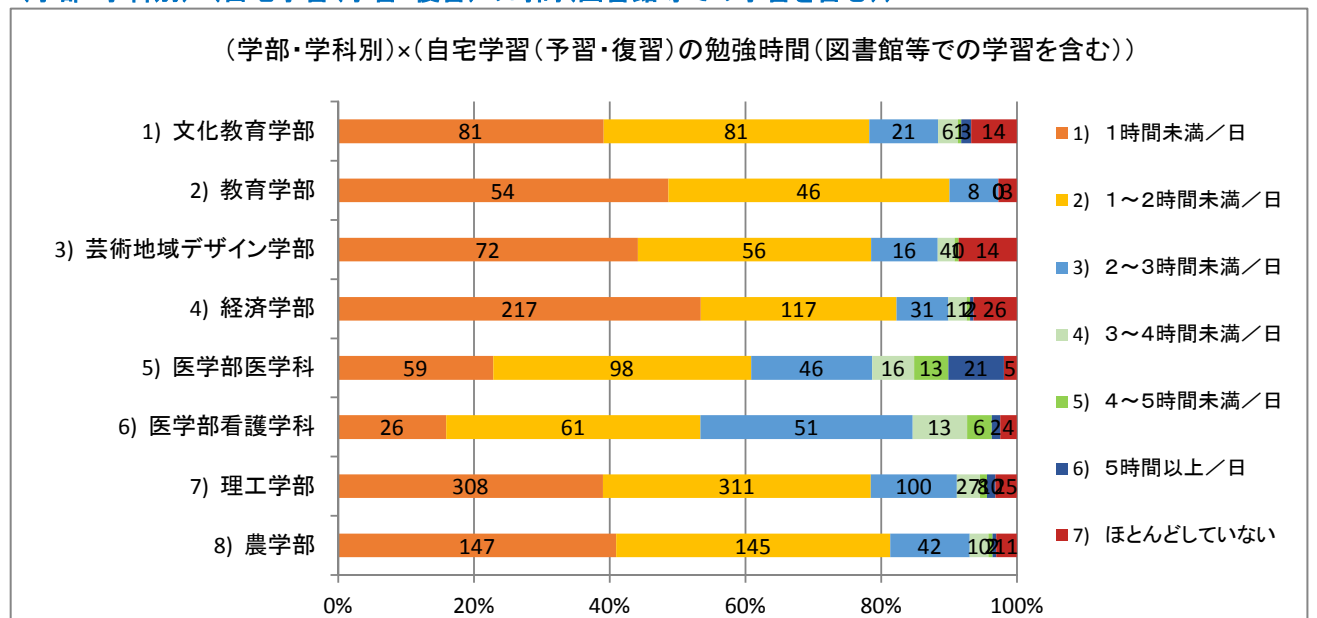
将来の職業に直結した医学部医学科や看護学科などは興味を持って授業を受けている学生の割合が多い傾向にあった。逆に経済学部は興味を持たない科目が多い学生の割合が高い傾向にあった。

X-6.



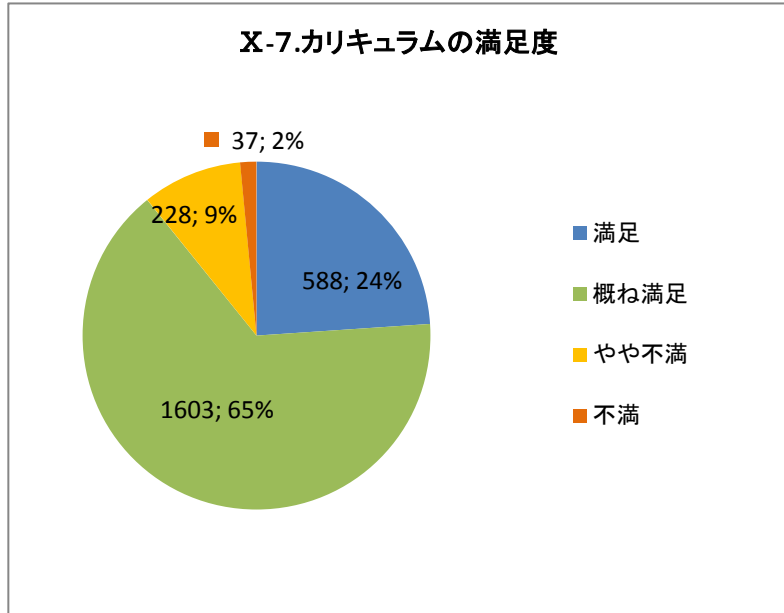
予想された結果であるが、学生の予習・復習時間が十分に確保されているとは言い難い。1コマの授業に対して90分の予習と90分の復習が課せられているはずである。

(学部・学科別)x(自宅学習(予習・復習)の勉強時間(図書館等での学習を含む))



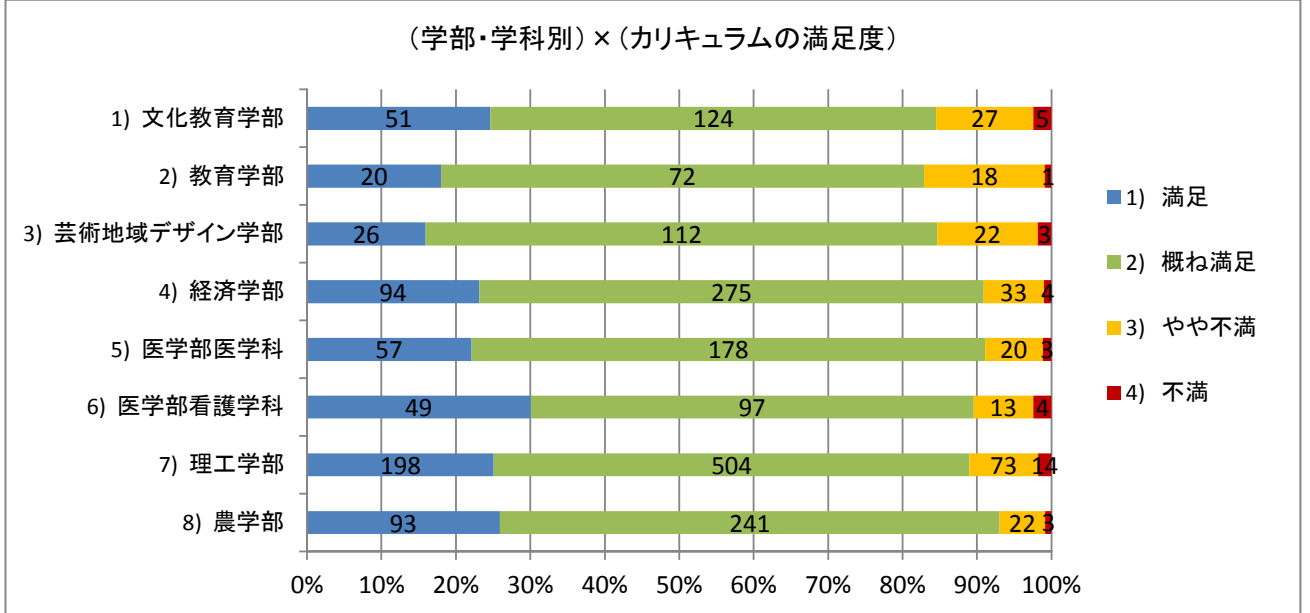
学部学科の特徴を反映していると考えられる。特に国家試験が課せられている医学部医学科と看護学科の学生は相対的にはよく勉強している。

X-7.



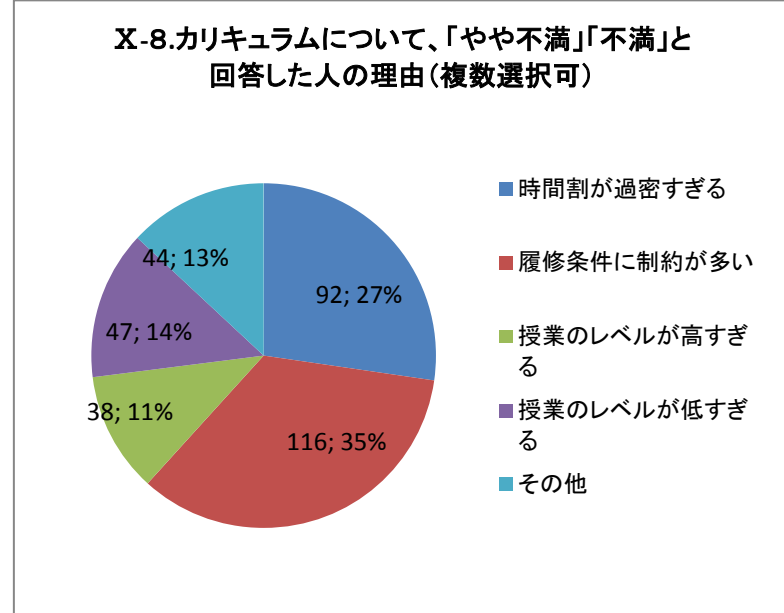
妥当な結果であると思われる。

(学部・学科別)x(カリキュラムの満足度)



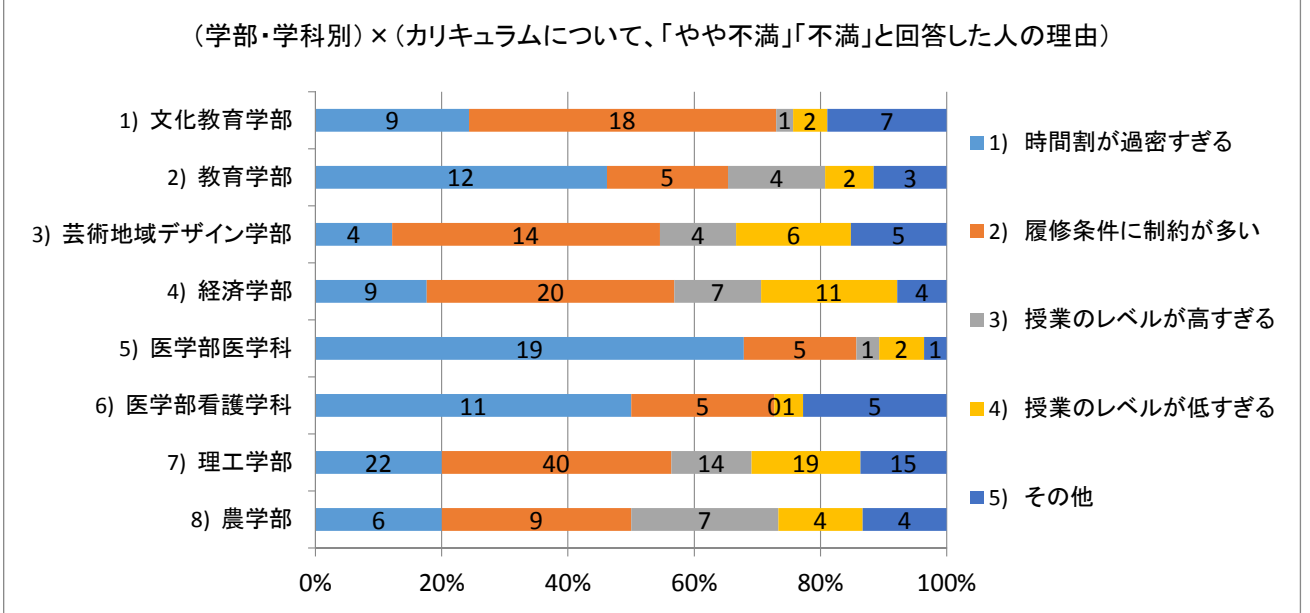
どの学部・学科もカリキュラムの満足度は高い傾向にあった。

X-8.



全学部の結果であり、学部・学科別の詳細は次のクロス集計を参照。

(学部・学科別)x(カリキュラムについて、「やや不満」「不満」と回答した人の理由)

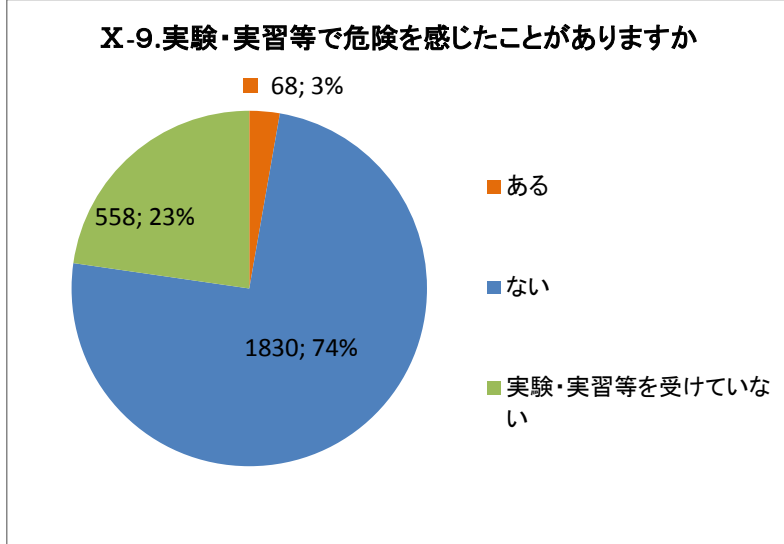


良し悪しは別にして、教育学部と医学部の学生は、「時間割が過密すぎる」と感じている。また、芸術地域デザイン学部、経済学部、農学部などは授業のレベルに不満を持っている学生の割合が高い傾向にある。

【その他】

- ・すでにできる授業も受けなければなりません。
- ・英語が母国語でもTOEICうけないといけないようなルールがある。制度に時間が無駄されますし、勉強やる気もとられません。
- ・興味のある科目が少ない
- ・理解しにくいテストのためだけの授業
- ・先生のやり方があわない、教員によって質が異なる
- ・望まないインターフェイスを4期受けるのは苦痛
- ・教職科目の隔年開校はきつい
- ・文系と差がありすぎる
- ・授業が1限と5限にあたりして、授業同士の待ち時間が長い、時間割の組み方が悪い
- ・テストのスケジュールが過密
- ・講義内容がわかりにくい
- ・選択必修と選択必修が1コマに被ることがある
- ・コースへの分属が早すぎる。
- ・学部の改訂で取得見込みだった免許を諦めなければならない友人いた

X-9.

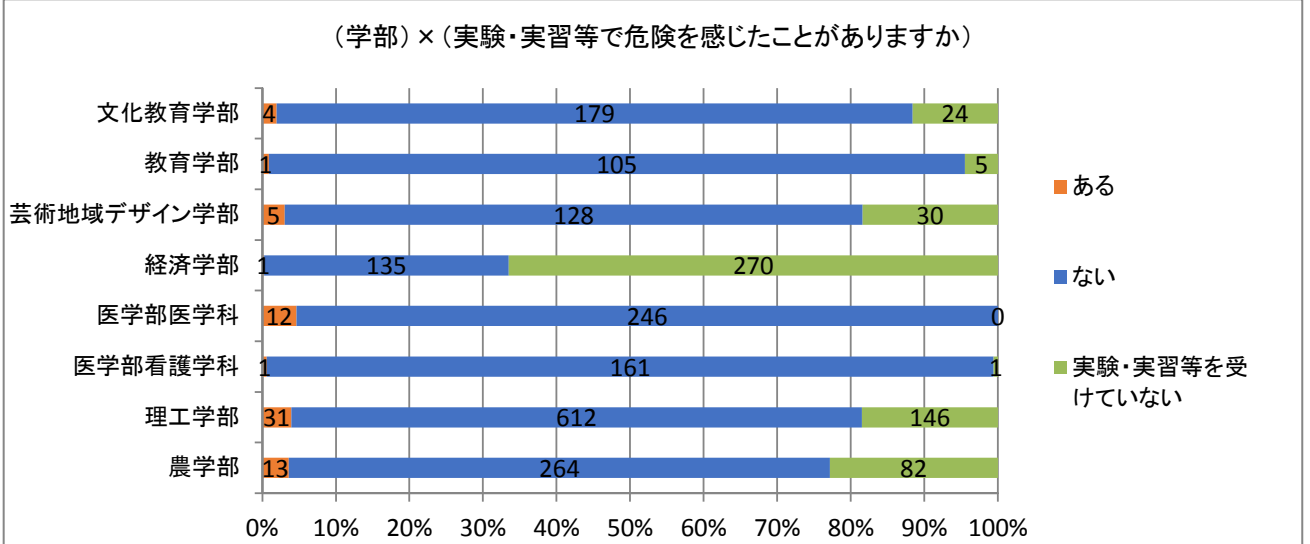


実験・実習はおおむね安全に行われていることがうかがえる。しかし、実験・実習を受けている学生の中で危険を感じたことがある学生の割合は約3.6%となり、決して低い数字ではなく注意を払わなければならない。

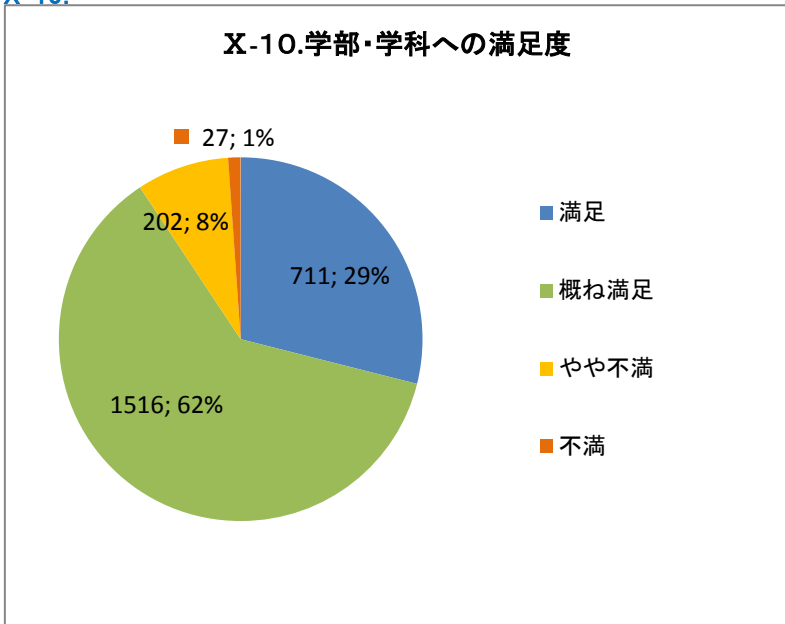
【あると回答した人の意見】

- ・実習先の児童からセクハラ行為を受けそうになった
- ・危険を感じはするものもあるが、気を付けていれば別段問題はない。
- ・ガスバーナーで髪が少々焦げた
- ・高電圧を扱う実験の際に、感電しそうになった。
- ・班員が硫酸の入った試験管を乱雑に扱い床に落とした。
- ・機材が危険、実習で高速で回転する刃物を扱うことがあった
- ・刃物で怪我した、温度計をわったこと、刃物の取り扱い、狭い空間で複数人が作業に取り掛かったため
- ・足元が悪いフィールドで岩に頭から転びそうになったとき。
- ・必修の実験科目を受講した際に、高温の実験器具に誤って素手で触ってしまい、火傷しかけたことがあった。
- ・危険な薬品を使用するため、薬品の皮膚への付着
- ・病院実習での感染の危険、針刺し、薬品の破損
- ・車椅子に乗る実習で操作を誤り転倒した
- ・入院患者がストーカー
- ・先生に理不尽なことばかり言われて、精神がやみそうだった
- ・ユニボ操作中にバランスを崩し、倒れそうになった
- ・高電圧を使った実験など感電の可能性があるもの
- ・実習中睡眠時間が2時間しかとれなかった時、実家から通っていた友人は、居眠りで事故にあいかけた

(学部)x(実験・実習等で危険を感じたことがありますか)

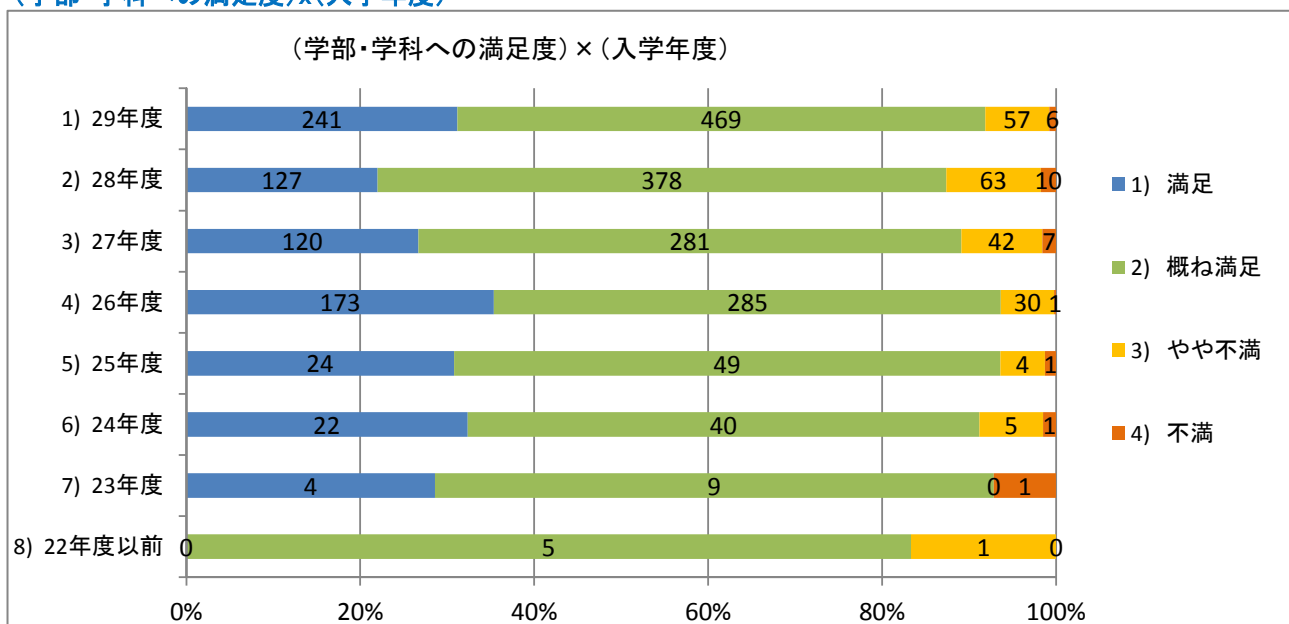


X-10.



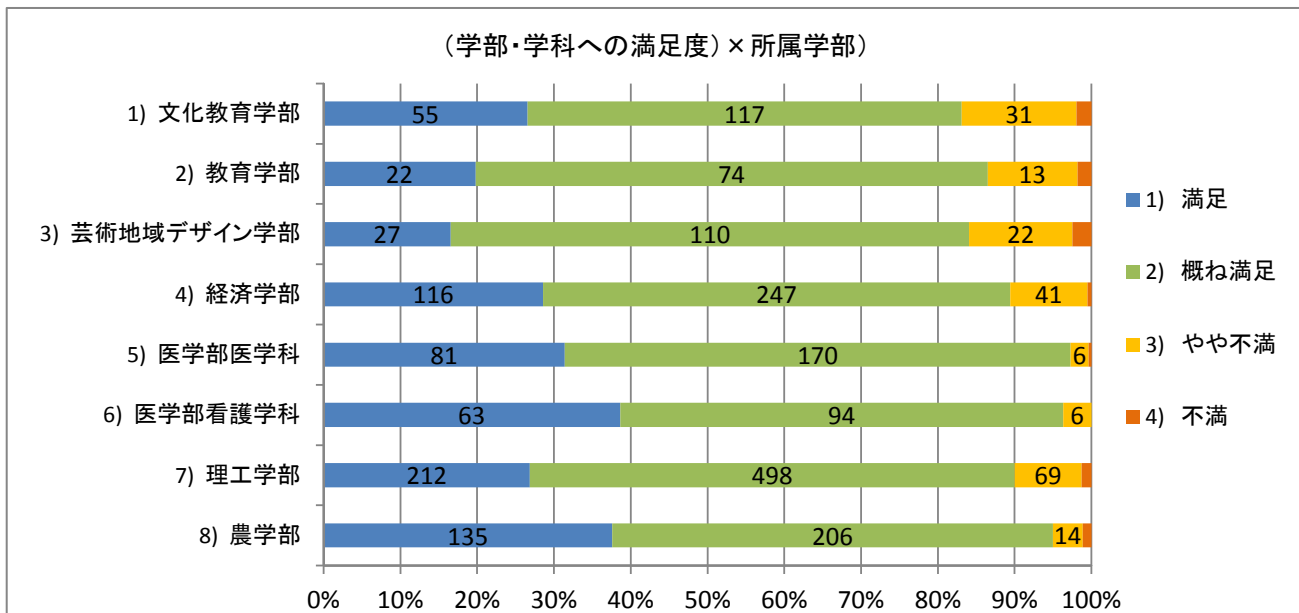
全学部の結果であり、詳細は次のクロス集計を参照。

(学部・学科への満足度)×(入学年度)



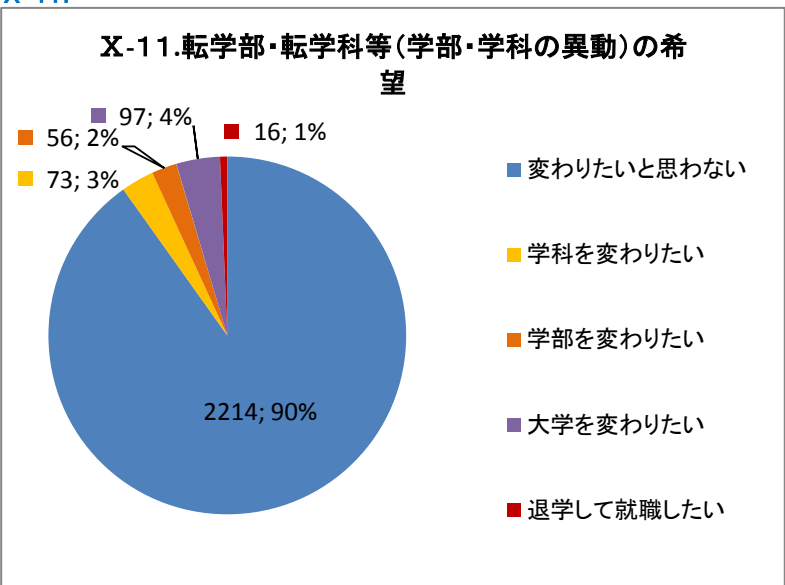
28年度入学生は、学部学科への満足度が低い傾向にあることがわかる。また、28年度入学生は、授業への理解度、興味も持てる授業の割合も低い傾向にあったことから、来年度以降の追跡調査が必要かもしれない。

(学部・学科への満足度)×(入学年度)



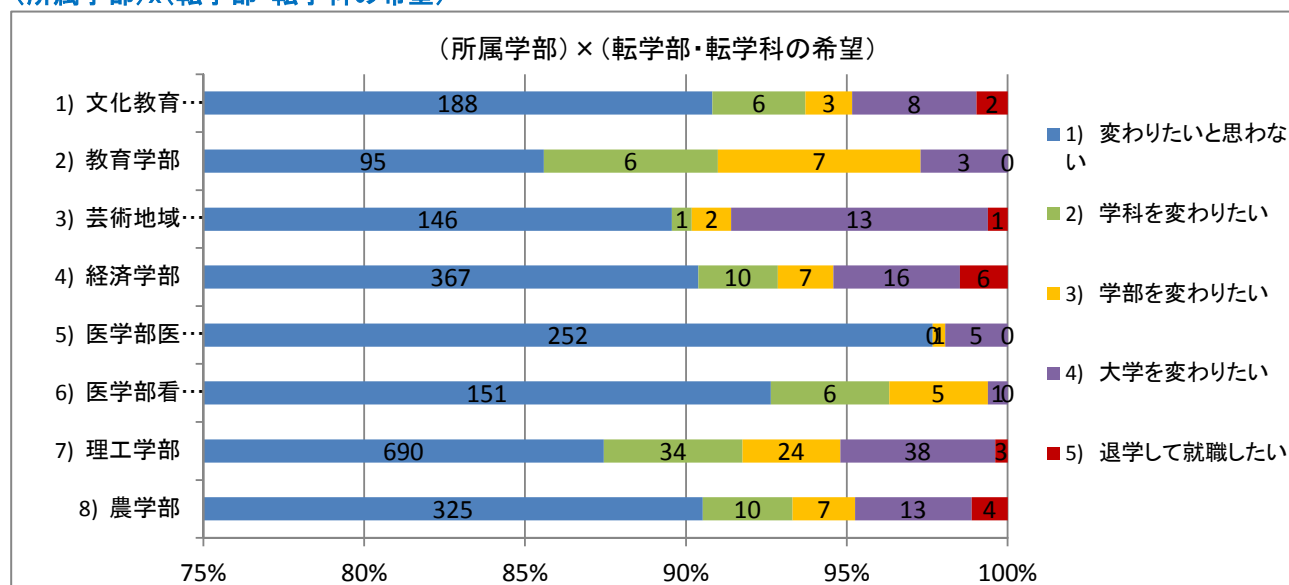
学部学科への満足度は、医学部や農学部などが高く、逆に文化教育学部、芸術地域デザイン学部や教育学部が低い傾向にある。

X-11.



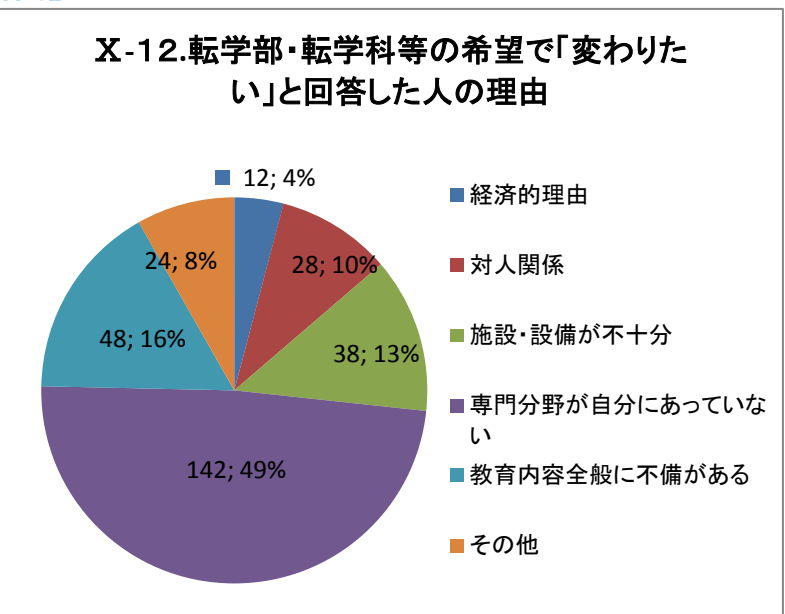
「大学を変わりたい」は、いわゆる大学のブランドを求めている学生も少なからず含まれていると考えられ、学ぶ内容の変更を希望する転学部や転学科とは、異なるニュアンスを含んでいる。そしてそれらを希望している学生は約10%であった。一概に比較はできないが、就業者に対する転職希望者の割合(10.1%)とほぼ同じであることは非常に興味深い。

(所属学部)×(転学部・転学科の希望)



医学部医学科は、希望者がごく少数であったが、教育学部、芸術地域デザイン学部、理工学部はその割合が10%を超えていた。また、芸術地域デザイン学部は大学を変わりたいと考えている学生の割合が最も高くなった。

X-12

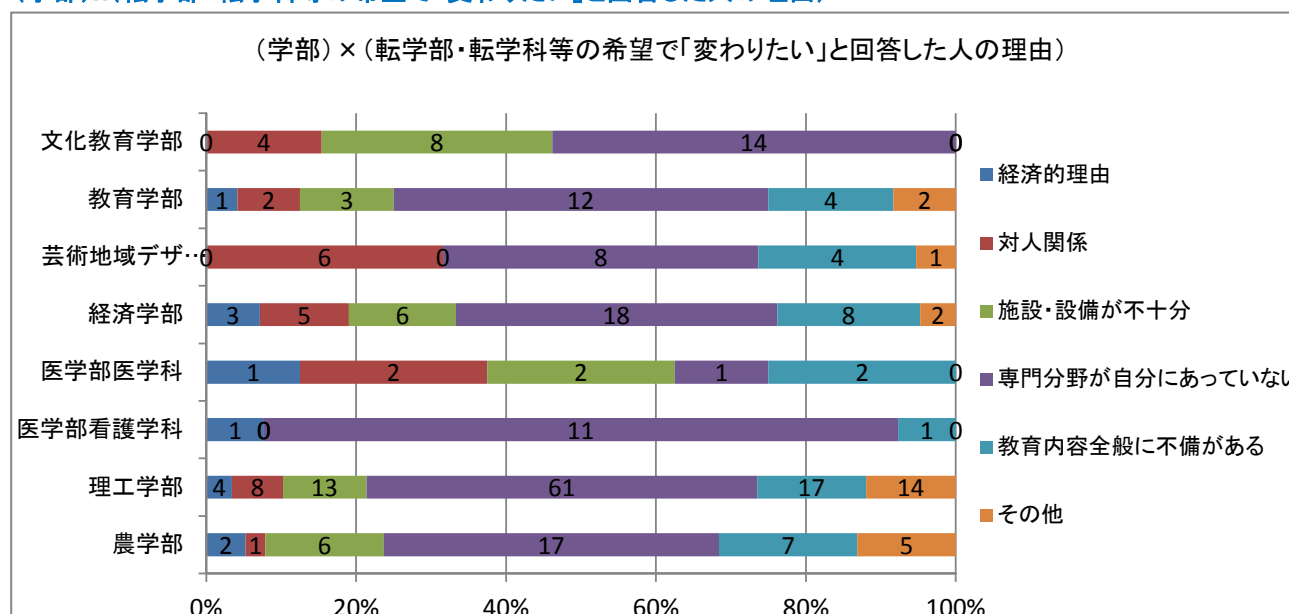


転学部・転学科等を希望する理由としては妥当であると考えが、対人関係が10%にもものぼるという結果には注意を払う必要がある。

【その他】

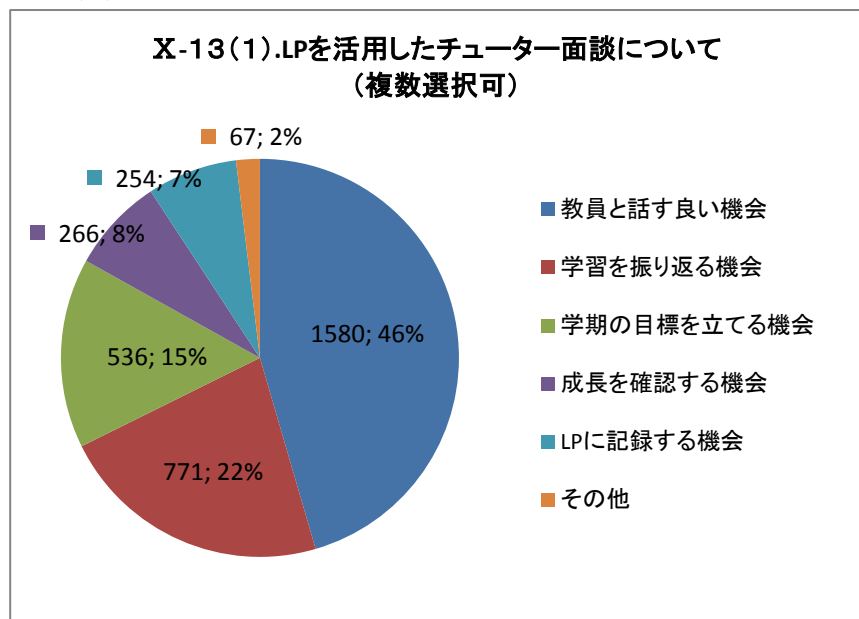
- 卒業に必要な科目の履修を強要されるから
- 就職幅、将来就職したい地域の大学に行きたかった
- 新しい環境に身を置きたい、もっと他分野に学びたい
- 今の分野も興味はあるが、もっと興味のある分野が他にある
- 他の大学に勉強したいことが見つかった
- 資格が取れない
- 家から遠い、家を出たい
- 元々違う学部志望だった
- 思っていたのと違った

(学部)×(転学部・転学科等の希望で「変わりたい」と回答した人の理由)



医学部医学科を除いては、「変わりたい」理由のトップは「専門分野が自分にあっていない」であった。

X-13(1)

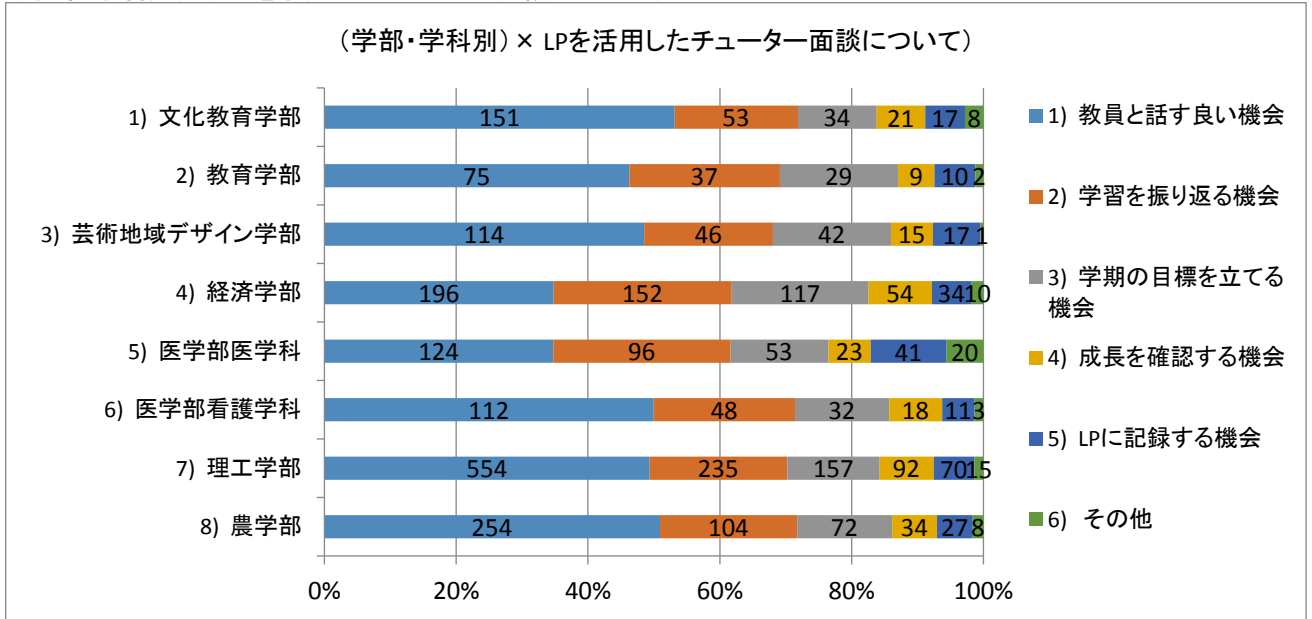


選択肢の設定の問題もあるかもしれないが、多くの学生がLPを活用したチューター面談をポジティブに評価していることは歓迎すべきである。また、「教員と話す良い機会」がトップであったことを考えると、意外にも学生は今よりもっと教員と話をしたがっていると判断される。

【その他】

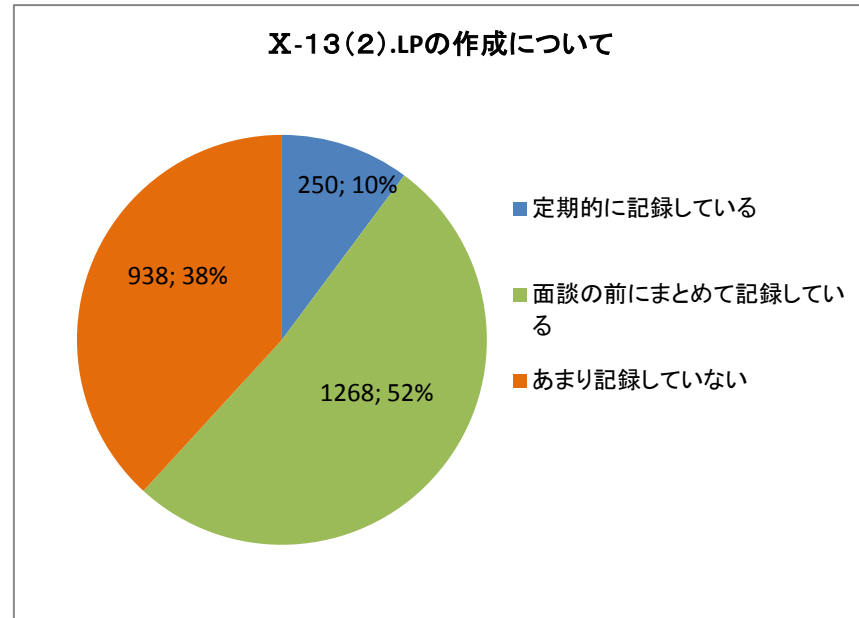
- ・意義を感じない。形式的な面談が行われるが、チューターの先生も学生も面倒だと思っているのが伝わってくる。
- ・活用できていなかった
- ・チューターに悩みを聞いてもらえる。;
- ・あまり役に立っていないと思う
- ・LPの意味が全くわかりません。書いても何も変わりません。勉強時間を減らす手間だけです。
- ・チューター面談が無い
- ・ダメ出しを受ける機会

(学部・学科別)x(LPを活用したチューター面談について)



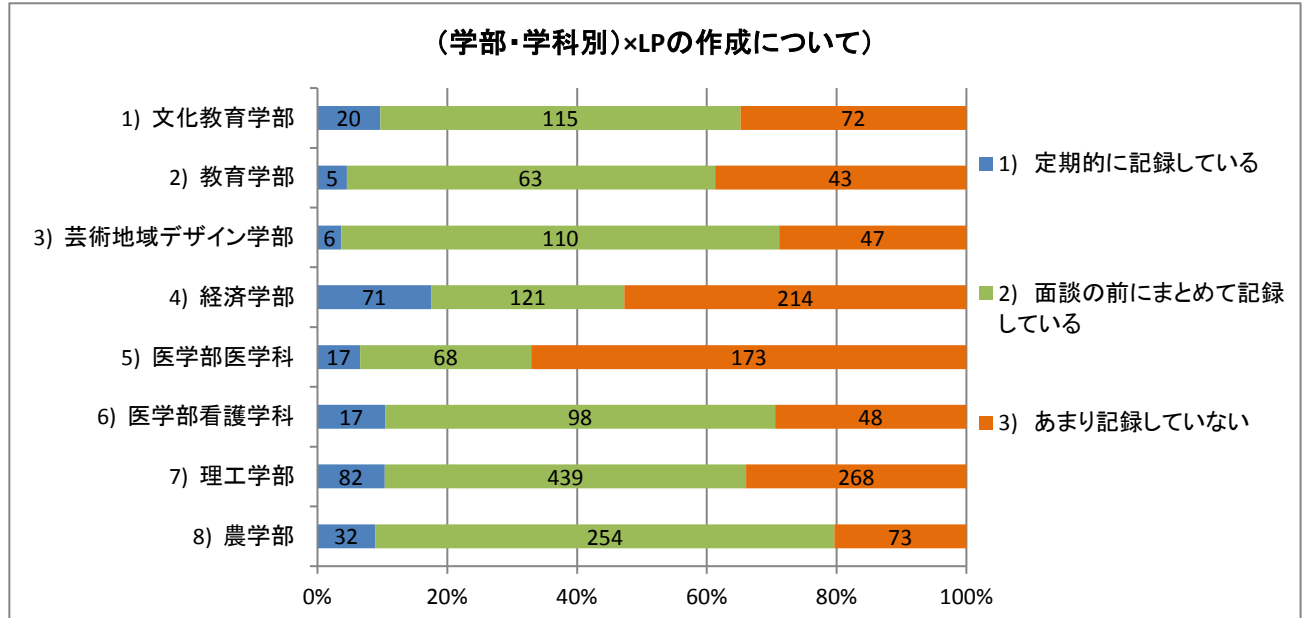
経済学部と医学部医学科の学生は、LPを活用したチューター面談を「教員と話す良い機会」と捉えている学生の割合が低かった。

X-13(2)



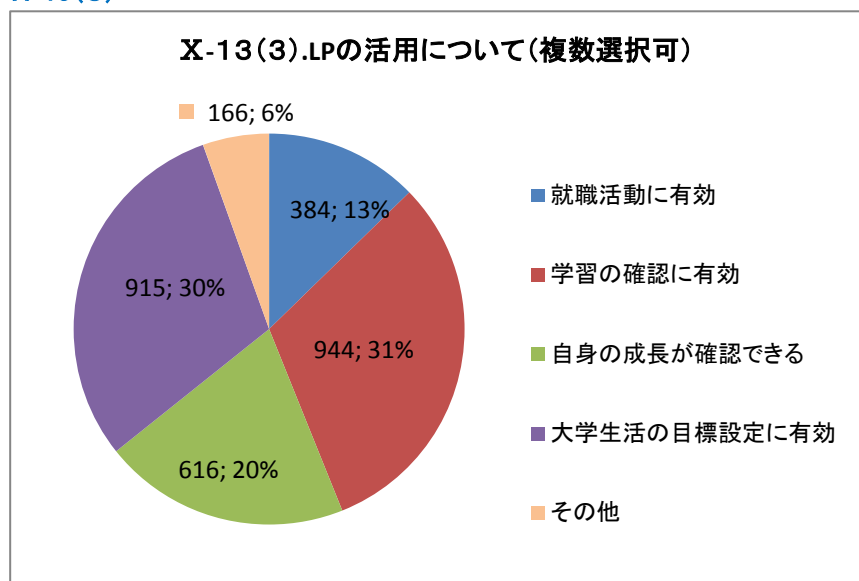
学生はLPを作成することになっているにもかかわらず、「あまり記録していない」学生の割合が約40%と高かった。

(学部・学科別)x(LPの作成について)



経済学部や医学部医学科は「あまり記録していない」が50%を上回った。医学部に至っては70%に届く勢いである。一方、農学部ではその値が20%程度であり、入力率が高いことを反映していた。

X-13(3)

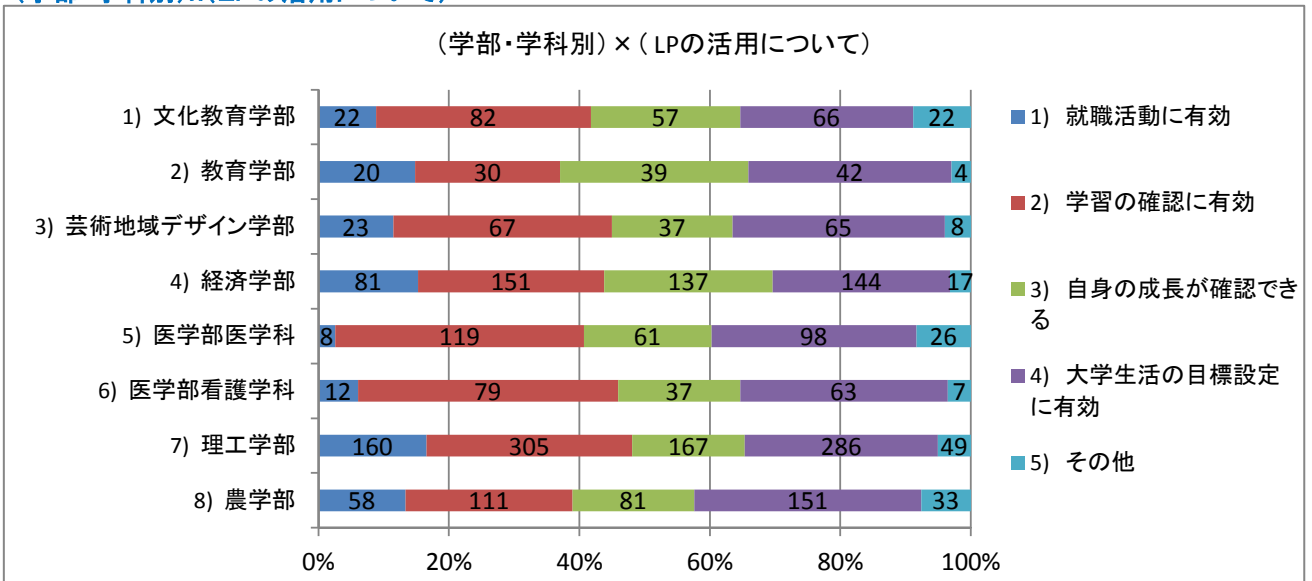


選択肢の設定の問題もあるかもしれないが、多くの学生がLPの有効性を認めていると理解できる。

【その他】

- ・記録媒体になる
- ・有効だと思わない、特に意味を感じない
- ・よくわからない、存在自体忘れがち
- ・望まないインターフェイスを4期受けるのは苦痛
- ・意欲の維持
- ・義務的なもの
- ・アバウトすぎる項目に対して、きちんと答えられていないから、何のためにもならないと思う。
- ・自分自身あまり活用できておらず反省しています
- ・質問の意図がわからないことが多いため、書いても活用しにくい

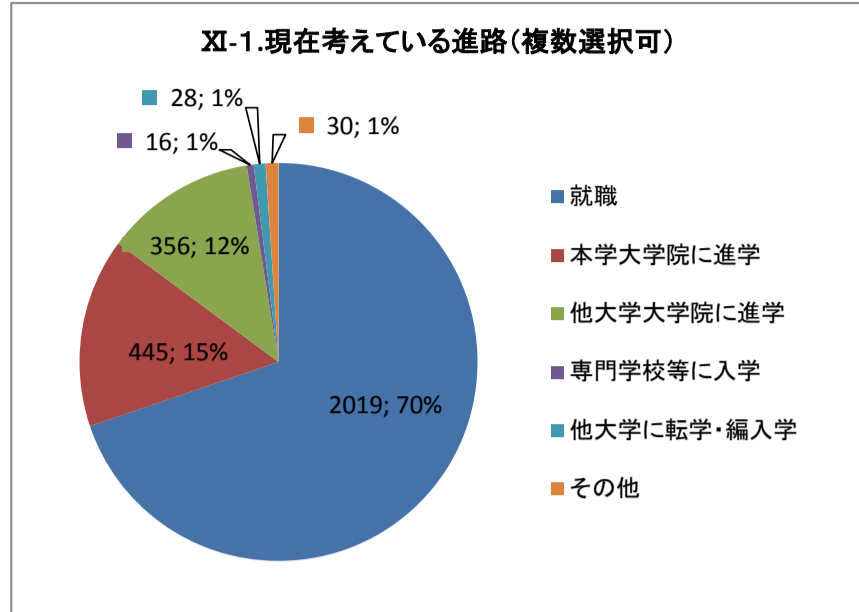
(学部・学科別)x(LPの活用について)



「就職活動に有効」の割合などは、医学部の特徴がよく反映された結果となった。医学部医学科の学生が、相対的にLPに対して冷めた見方をしていた理由の1つであると考えられる。

XI. 進路に関する事項

XI-1

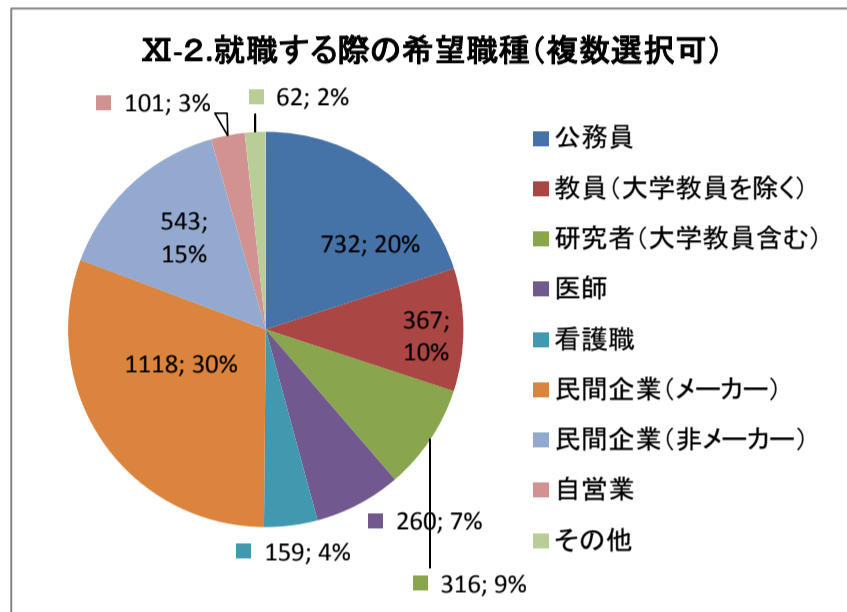


【その他】

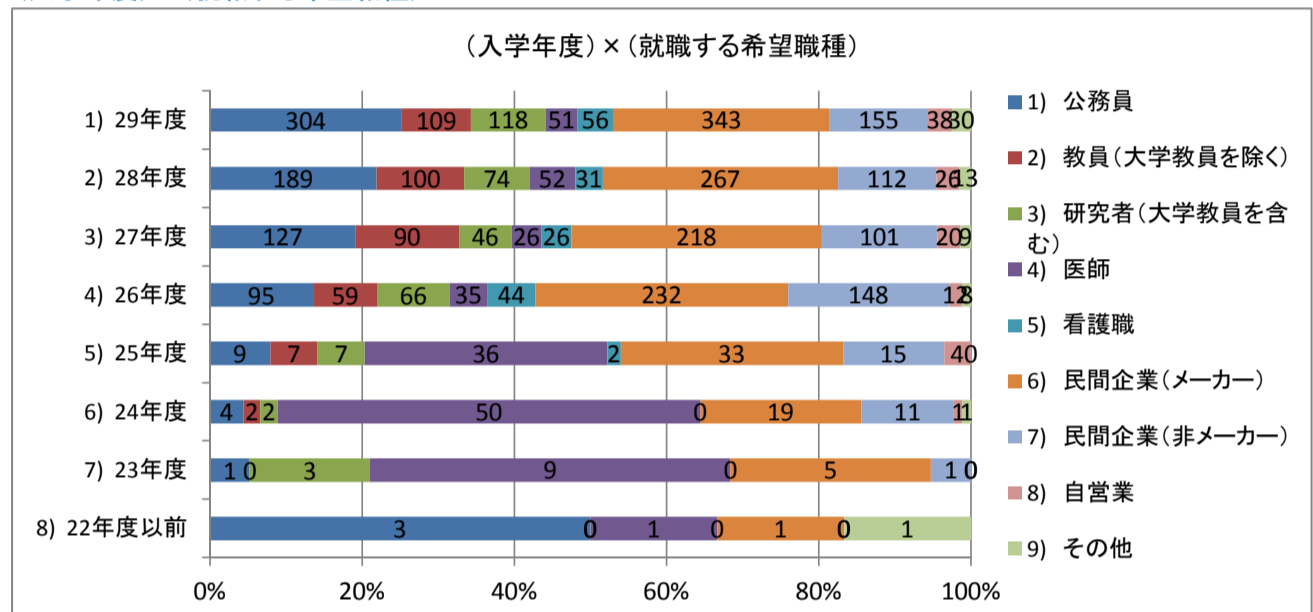
- ・佐賀大学卒業まで勉強して他大学へ
- ・海外の大学・大学院へ留学、語学留学
- ・海外に就職
- ・起業、作家、フリーランスデザイナー、家業手伝い
- ・未定

進路は、70%の学生が就職を考えており、本学大学院または他大学大学院への進学を考えているものが同程度で合わせて27%であることから、学生の大半は進路を決定できている。しかしながら、少数ではあるが、専門学校への入学、他大学への転学・編入学などを考えている学生がおり、それらの学生は進路に迷いながら日々過ごしている可能性がある。

XI-2



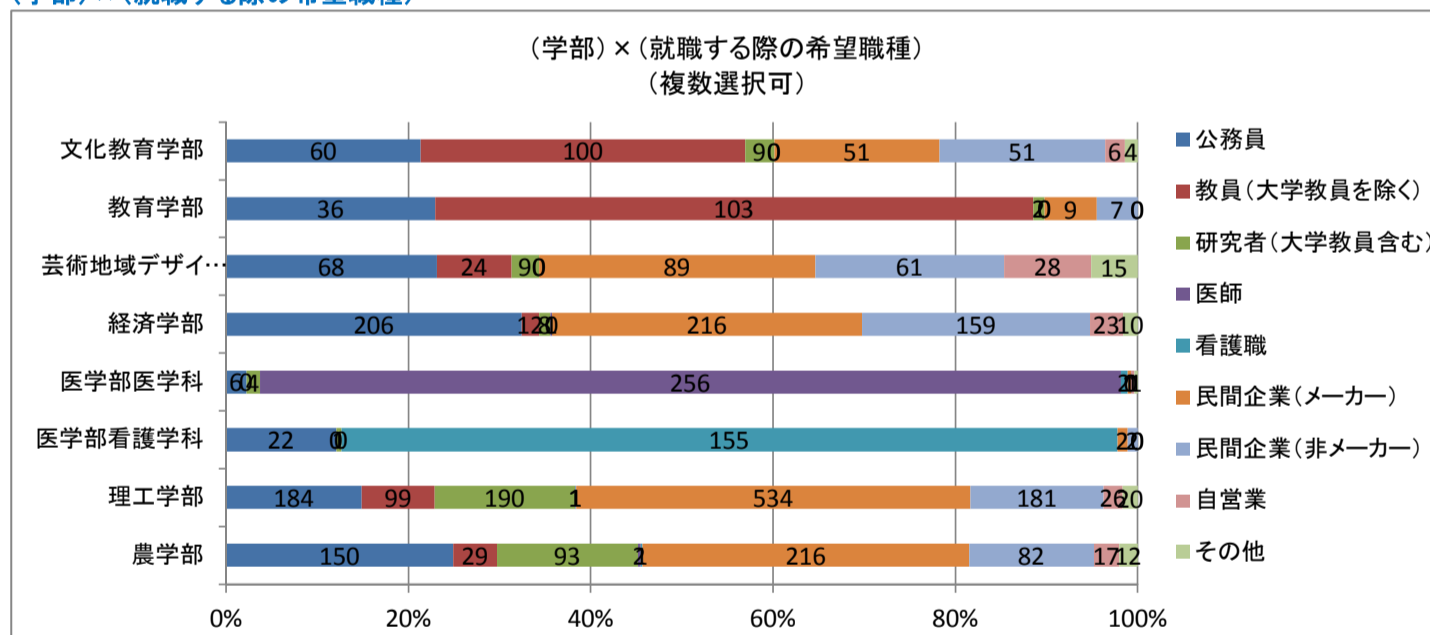
(入学年度) × (就職する希望職種)



希望職種はメーカー非メーカーを合わせた民間企業希望者が45%と最も多く、次いで公務員20%、教員10%と続く。

入学年度別にみると、公務員を希望する学生割合が増え、反対に民間企業希望者が減っている。平成25年度以前の入学者の中で医師を希望する割合が多いのは、医学部医学科は6年制であることから調査母集団における医学部学生の占める割合が多いことの影響と考える。学部別にみると、教育学部、文化教育学部において教員を希望する者が多いのは当然の結果といえる。農学部や理工学部では研究者を希望する学生が他学部より多いのは特徴的であろう。経済学部は公務員を希望する学生の割合が他学部に比べて多い。医学部医学科・看護学科は国家試験に基づく専門職を希望しており目的は明確である。

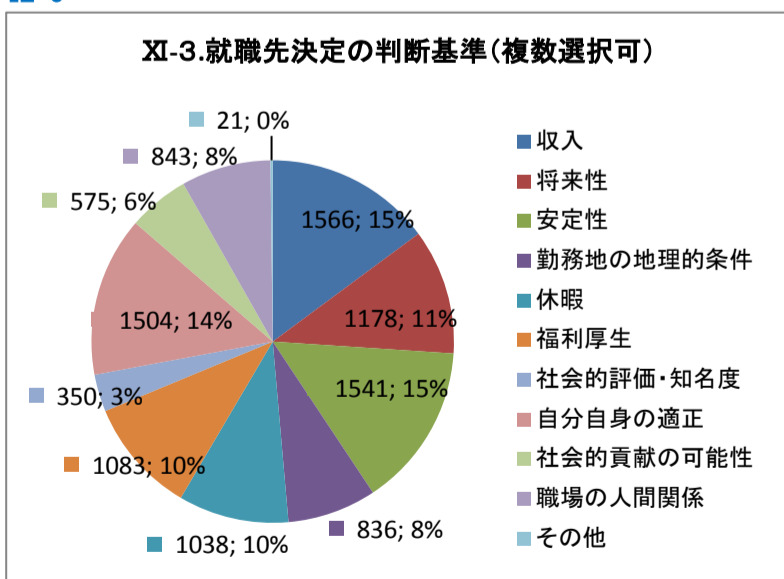
(学部) × (就職する際の希望職種)



【その他】

- ・フリーランス、作家、デザイナー、アナウンサー、マスコミ、メディア関連、
- ・自衛官、行政書士等、技術者、建築系、塾講師、学芸員
- ・半官半民の会社、大学教員、研究者、弁護士
- ・サッカー選手、俳優、アーティスト、アイドル
- ・未定

XI-3

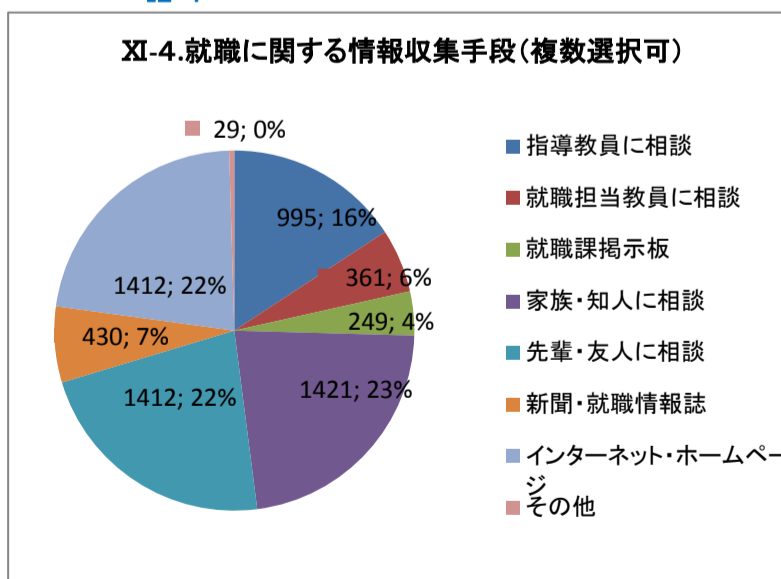


就職先決定の判断基準は、収入・将来性・安定性などを挙げるものが多く、将来に渡って安定した生活基盤を得たいという願望が伺える。また、自分自身の適正を判断基準にしているものも14%おり、判断基準の中で優先順位が高い。判断基準の中で、どれかが突出することがないことから、バランスよく判断しているのではないかと考える。

【その他】

- ・自分の得意な分野とあっているか、仕事内容
- ・やりがい、面白さ、生きがい、自分がやりたいこと
- ・企業が持つ理念。仕事への熱意。
- ・教育制度や研修制度
- ・飲み会

XI-4



就職に関する情報収集で比較的多いのは、家族・知人に相談、先輩・友人に相談、インターネット・ホームページであった。インターネットを活用し、身近な人に相談しながら情報収集している様子が伺える。就職担当教員より、指導教員に相談しているものの割合が多いことから、日ごろの授業や研究などで接する機会が多い教員に気軽に相談しているのではないかと考える。

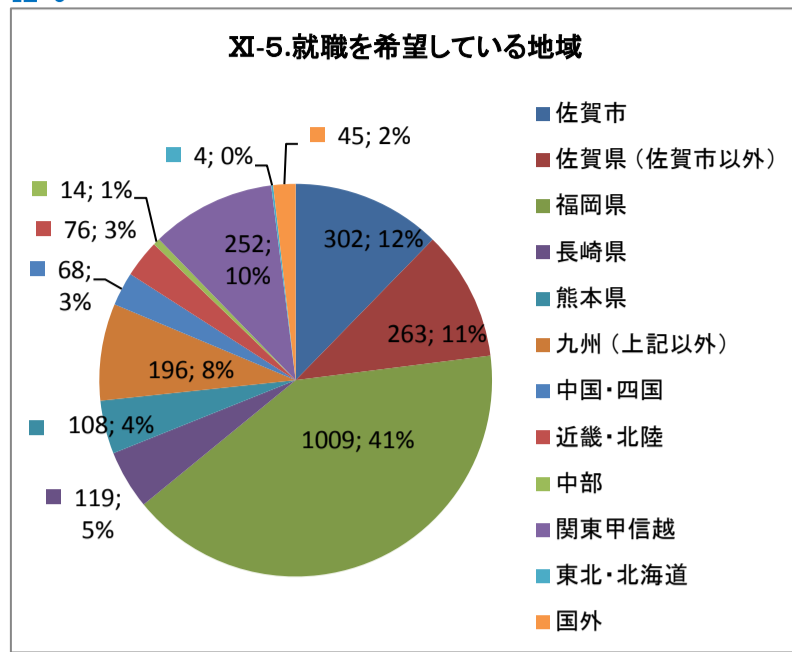
【その他】

- ・説明会参加や現場見学、病院見学、イベント、OB
- ・公務員講座、教員採用試験対策講座、学内説明会、生協

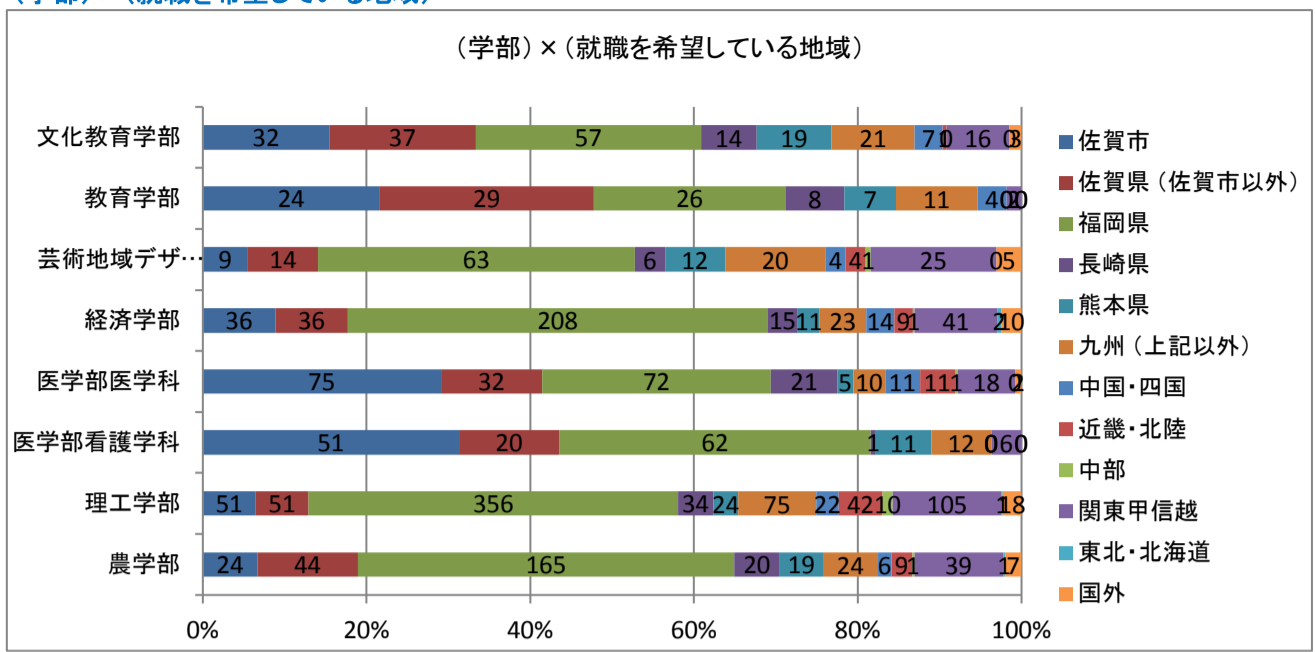
【その他】

- ・ハローワークやジョブカフェ佐賀等
- ・キャリアデザインの授業
- ・わからない、考えていない、相談していない

XI-5



(学部) × (就職を希望している地域)

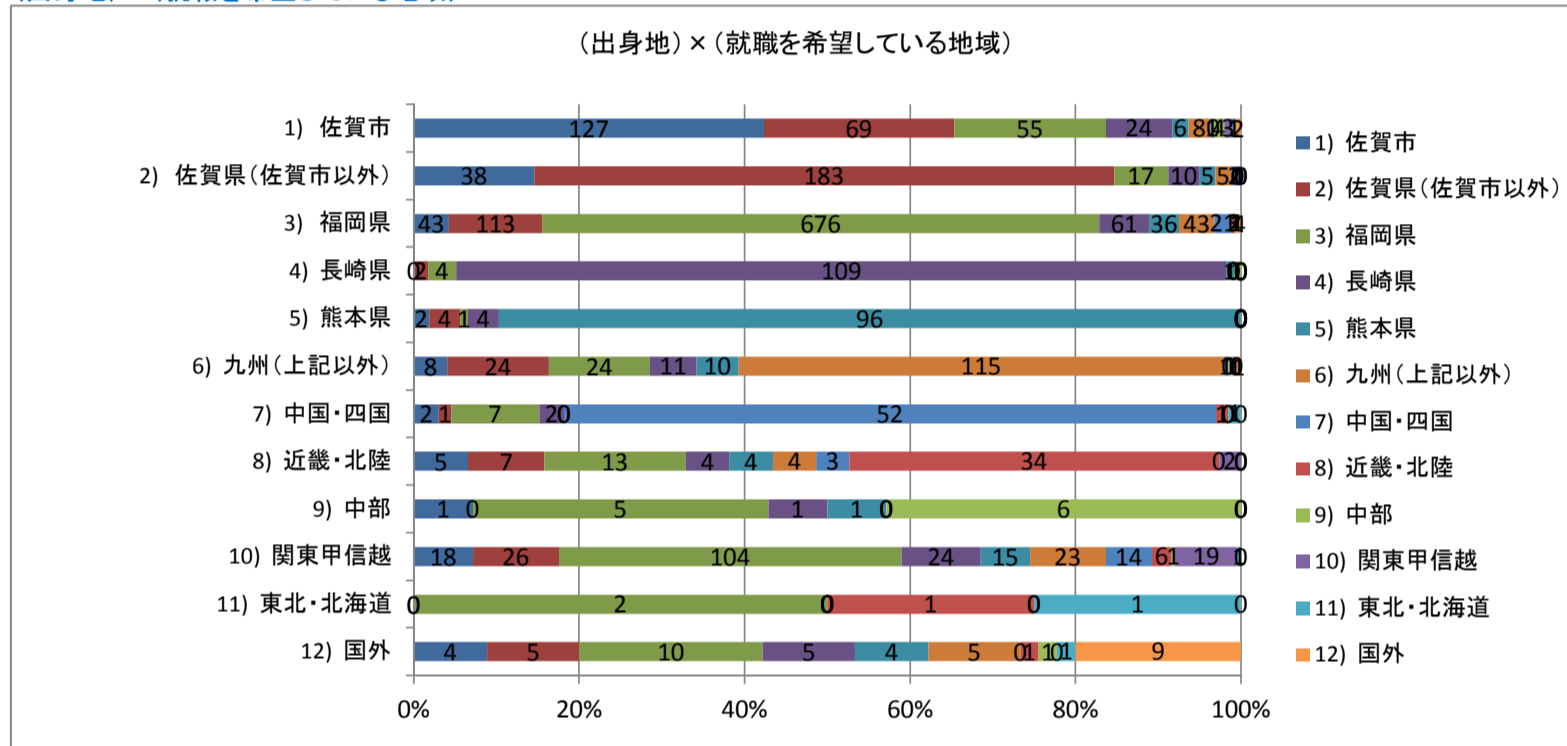


就職を希望する地域は福岡県が41%と最も多く、佐賀市を含めた佐賀県内が23%であった。福岡、佐賀を含めた九州内での就職を希望する学生は81%となることから、地元で働きたいと考える学生が多いことが伺える。ただし、九州の中でも福岡県に集中していることから、人口の偏在化や地域経済への影響が懸念される。特に佐賀県は、福岡へのアクセスが非常に良いことから、福岡県への就職を希望する学生が多いと考えられる。

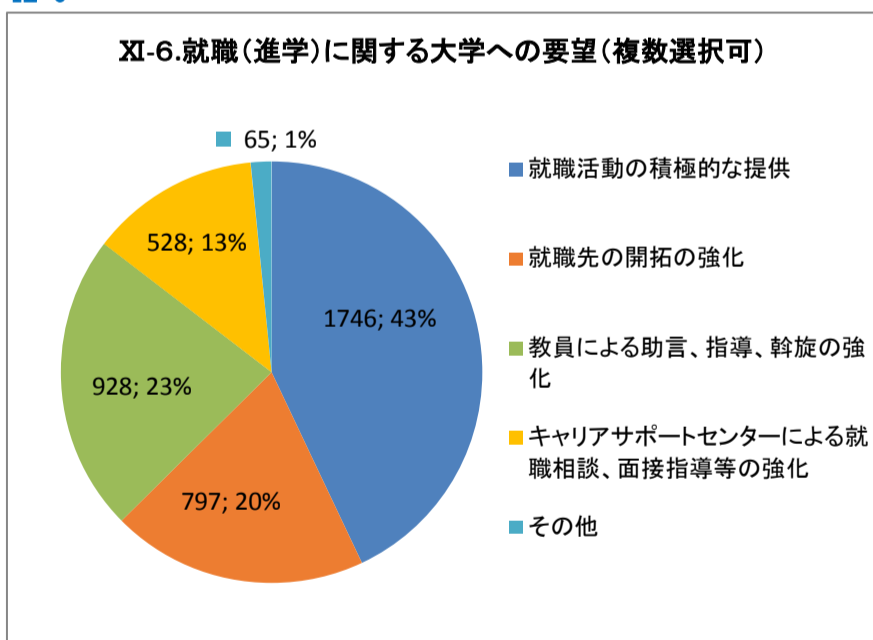
学部別にみると、教育学部は佐賀市を含む佐賀県内を希望する学生の割合が半数近く、佐賀県内で教員を目指す学生が多いことが伺える。医学部医学科・看護学科の学生も他学部比べて佐賀市を含む佐賀県内を希望する学生の割合が多く40%を超えている。これは、医学部附属病院を含め、県立病院や国立病院、行政など安定した就職先が確保できることが一因と考えられる。芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部は福岡県での就職を希望する学生が40%を超えている。学生が希望する民間企業が福岡県に偏在している影響と考える。

出身地別にみると、出身地への就職を希望する学生が多いことがわかる。

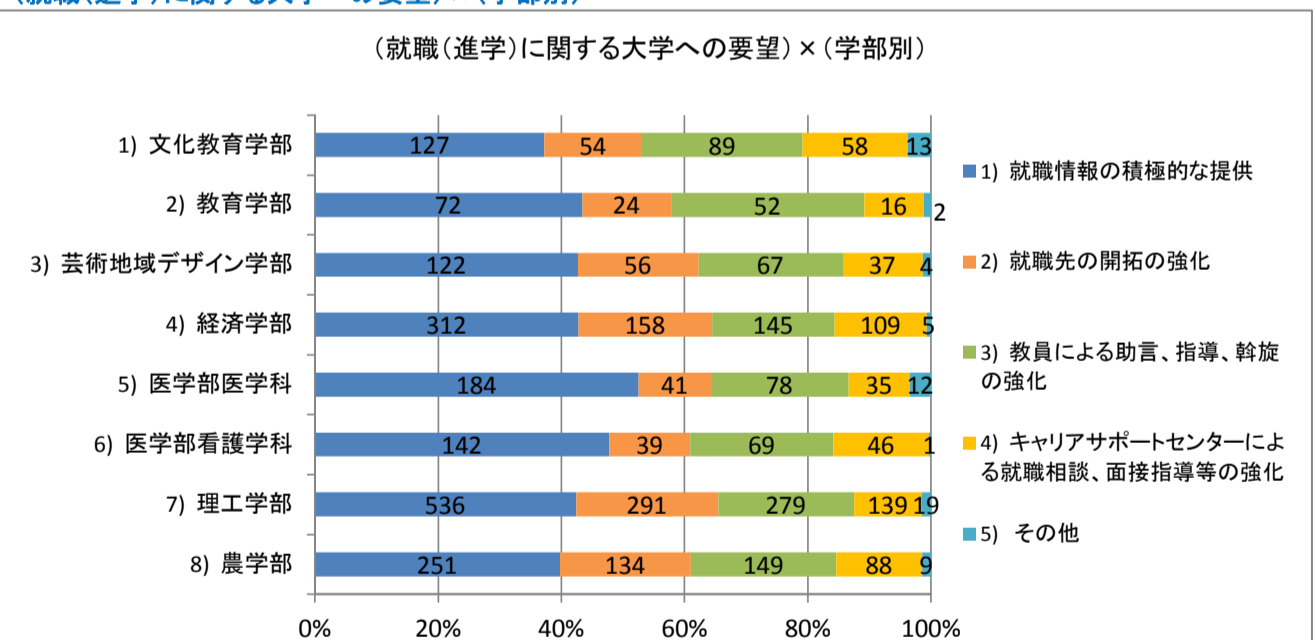
(出身地) × (就職を希望している地域)



XI-6



(就職(進学)に関する大学への要望) × (学部別)



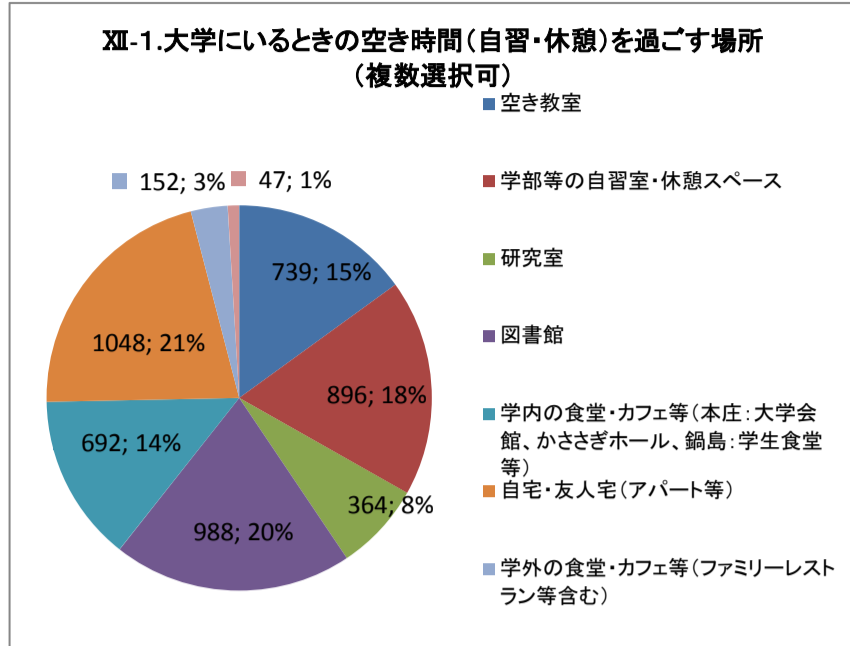
就職(進学)に関する大学への要望では、就職活動の積極的な情報提供が最も多く43%を占める。学生への情報提供手段については早急に改善策を講じる必要があると考える。次いで、就職先開拓の強化(20%)、教員による助言・指導・斡旋の強化(23%)を希望する割合も比較的多いことから、教員の積極的な就職支援を求めていることが伺える。

【その他】

- ・いつもの企業見学を提供していただきありがとうございます。
- ・具体的な指導など(水曜だけでなく、複数日にわたる)
- ・キャリアセンターの職員に話しかけづらいところをどうにかしてほしい。
- ・魅力的な広告
- ・就職の講義などを早い時期に開講してほしい
- ・1年のうちから就活のことを教えてほしい
- ・面接指導をいつでもやってほしい
- ・自分は、経団連の採用活動の開始が〜というニュースを真に受けて就職活動に乗り遅れたので、後輩たちにはそのことをきちんと認知させてほしい
- ・就職活動などでの遠隔地への交通費の一部ないしは全額の支給。これは、もっと学生に活躍してほしいと思っているのであれば、即座にするべきです。選別も必要だと思いますが。
- ・東京への就職を身近にしてほしい。九州外の情報提供
- ・佐賀に持っていきたくて頑張らないでほしい
- ・地方の企業
- ・親に対する企業説明会をしてほしい。
- ・海外企業の情報提供

XII. 本学図書館の利用に関する事項

XII-1

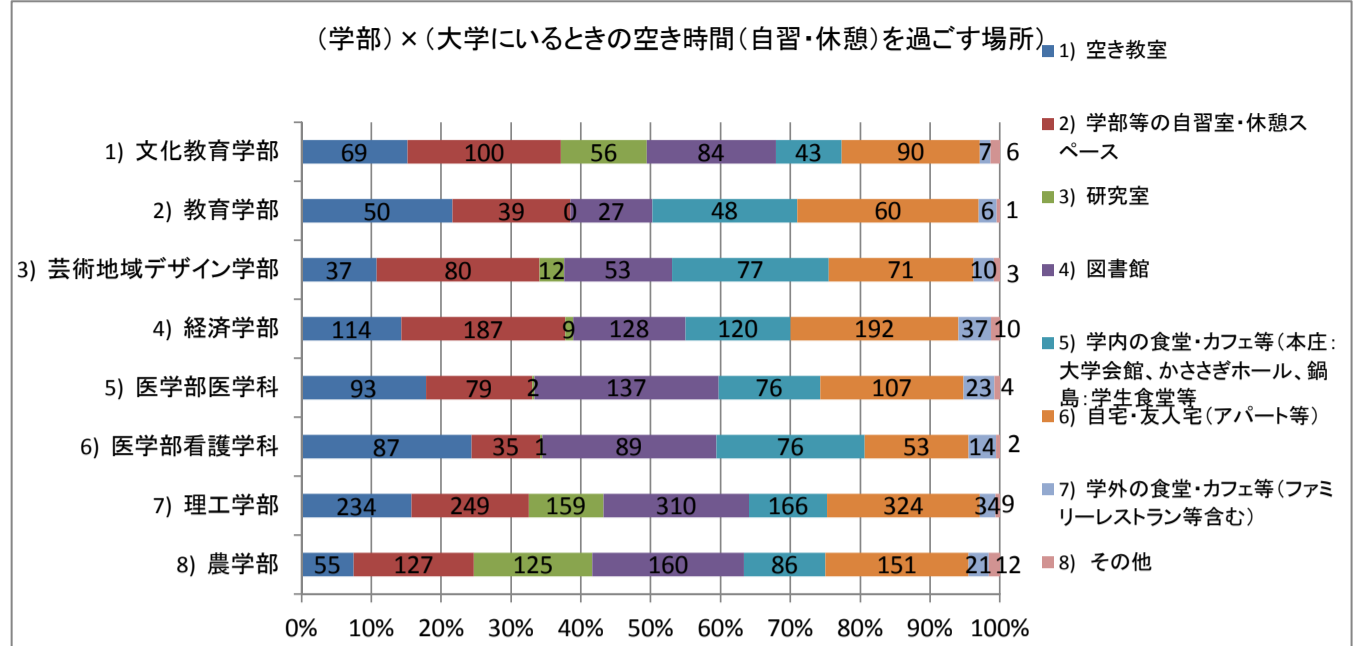


学内の施設では20%の「図書館」から14%の「学内の食堂・カフェ等」まで大きな差がない。学内施設の利用については、学部のある位置の影響もあると考えられる。

【その他】

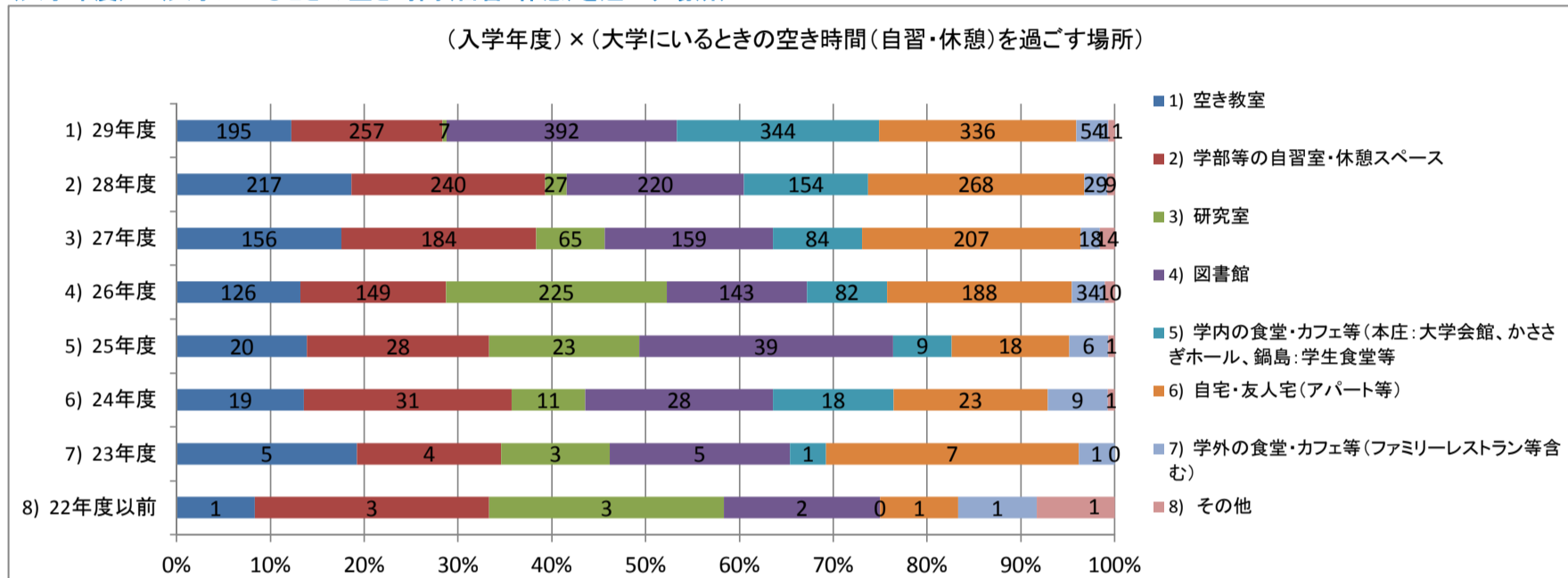
- ・情報基盤センター、大講前広場、人が通らない階
- ・空いている時間は無い
- ・部室、トイレ
- ・自分の車の中

(学部) × (大学にいるときの空き時間(自習・休憩)を過ごす場所)



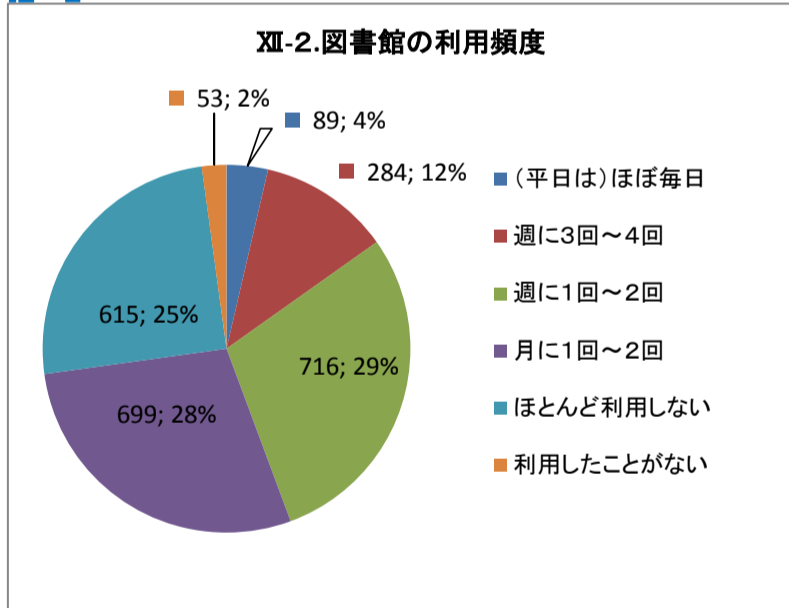
医学部、農学部は「図書館」の割合が最も高く、理工学部も含めて自然科学系学部の方が「図書館」の割合が高い傾向にある。理工学部、農学部は、「研究室」の割合が他学部と比較して高い。

(入学年度) × (大学にいるときの空き時間(自習・休憩)を過ごす場所)



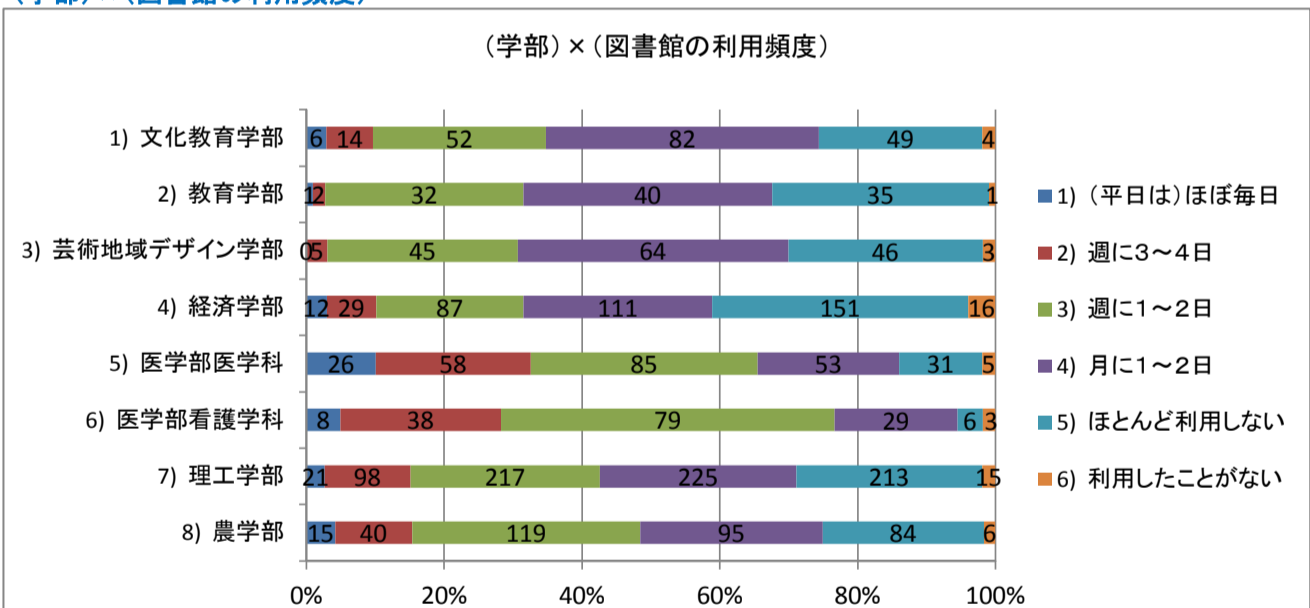
学年が上がるにつれて「図書館」の割合が減少する。27年度(3年生)になると「研究室」の割合が高くなり、26年度(4年生)ではその傾向が顕著になる。25年度(5年生)で「図書館」の割合が高いのは、医学部臨床実習の空き時間の利用が考えられる。

XII-2



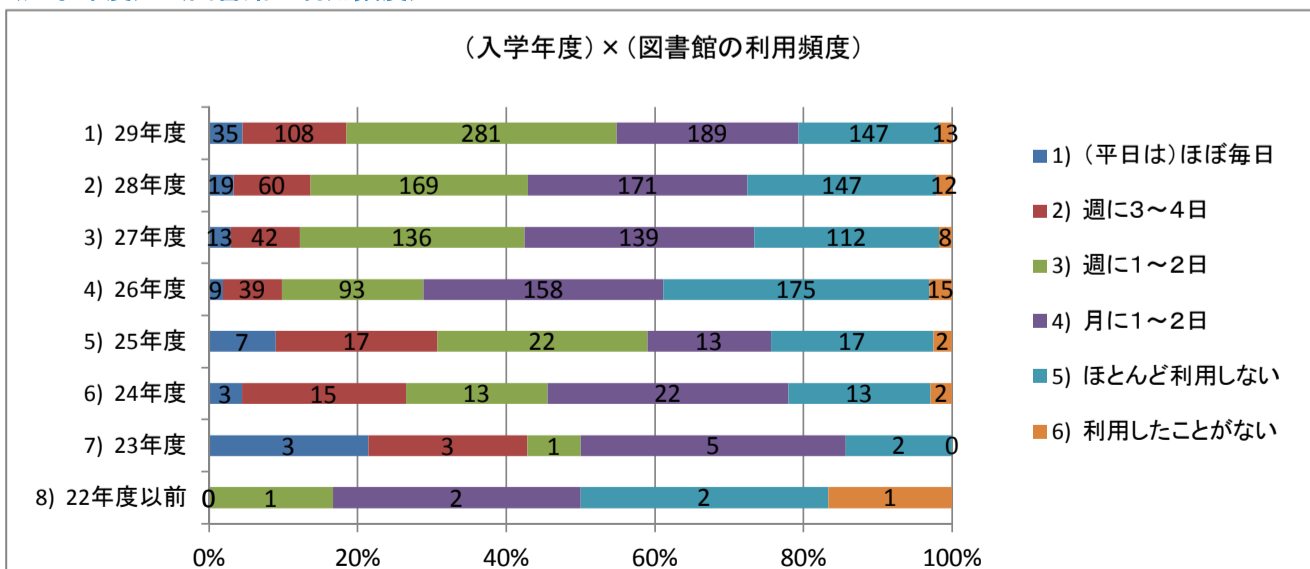
「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」が合わせて27%と高い割合を占めている。逆に週1回以上の利用割合は45%と半数に達しておらず、十分に利用されているとは言い難い。

(学部) × (図書館の利用頻度)



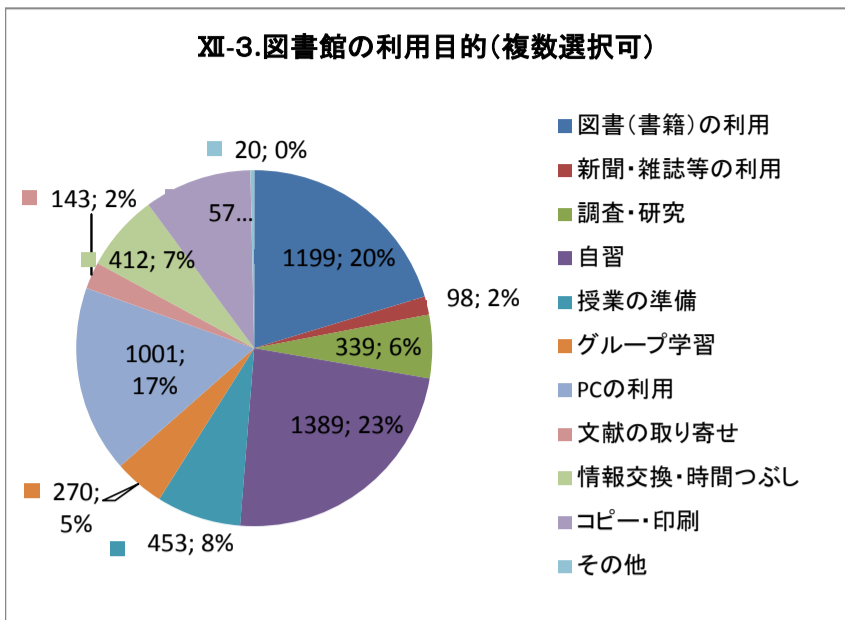
本庄地区の6学部では、「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」を30%以上を占めている。経済学部では42%に達しており、貸出人数・冊数が低い傾向にあることと照応している。医学部は医学科で約65%、看護学科で約76%が週1回以上利用しており、本庄地区と比較して利用頻度が高い。利用頻度の低い学生には、レポート作成時の資料収集等で図書館が有用であることを様々な形で伝えていく必要がある。

(入学年度) × (図書館の利用頻度)



29年度(1年生)は週1回以上が約55%を占めているが、28年度(2年生)、27年度(3年生)は約42%と減少し、26年度(4年生)になると約29%と減少がより進む。学年ごとのニーズの把握を検討する必要がある。

XII-3

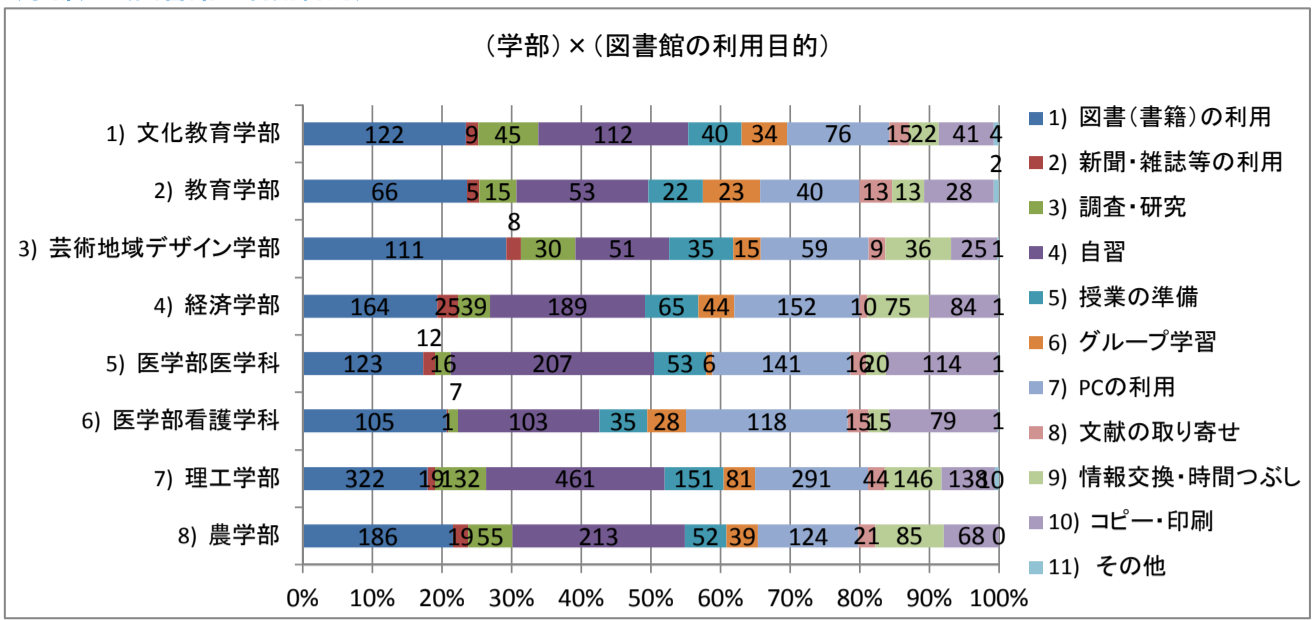


「自習」、「図書(書籍)の利用」、「PCの利用」が上位に来ており、場所としての利用、情報機器の利用と多様に活用されていることがうかがえる。

【その他】

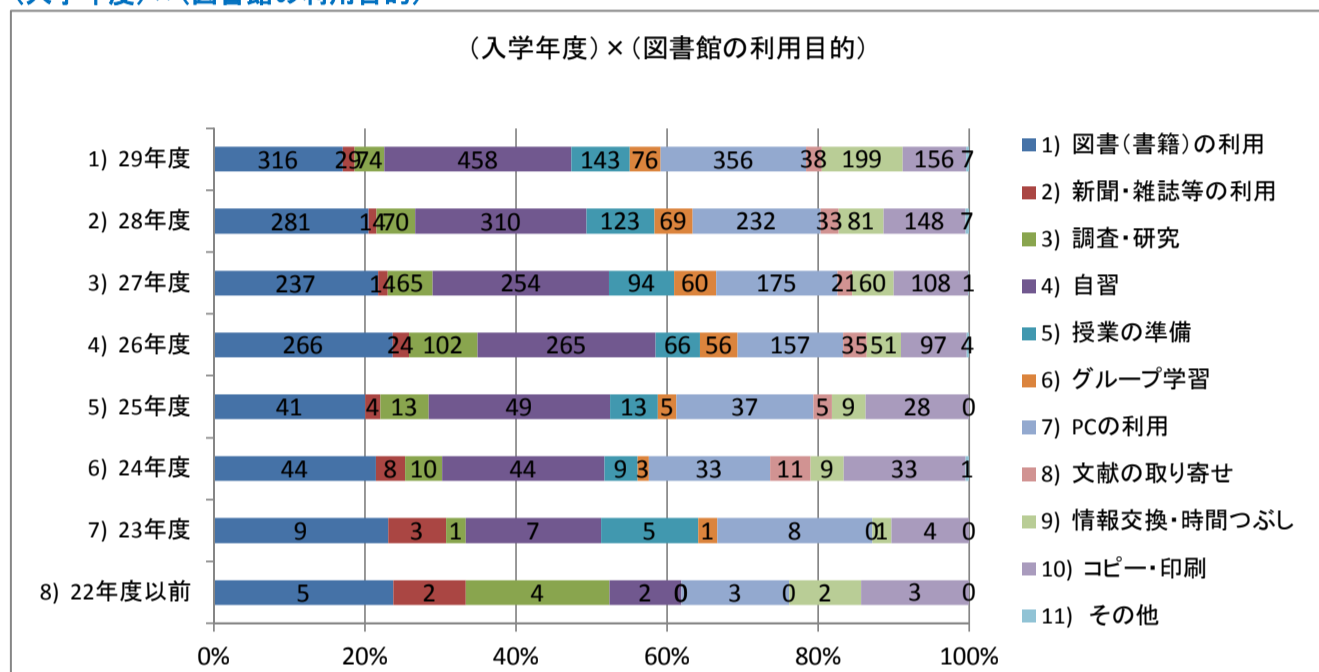
- ・レポート作成
- ・ミーティング、部活の話し合い
- ・3階は隣のグループ室でうるさいです。勉強はできません。グループ室が一階に設置したほうがいいと思います。
- ・2階はオードバイ、体育館、水泳場で煩いです。勉強は困難です。
- ・どの階も鼻をすする人・風がある人・病気がいる人が多すぎ勉強ができません。

(学部) × (図書館の利用目的)



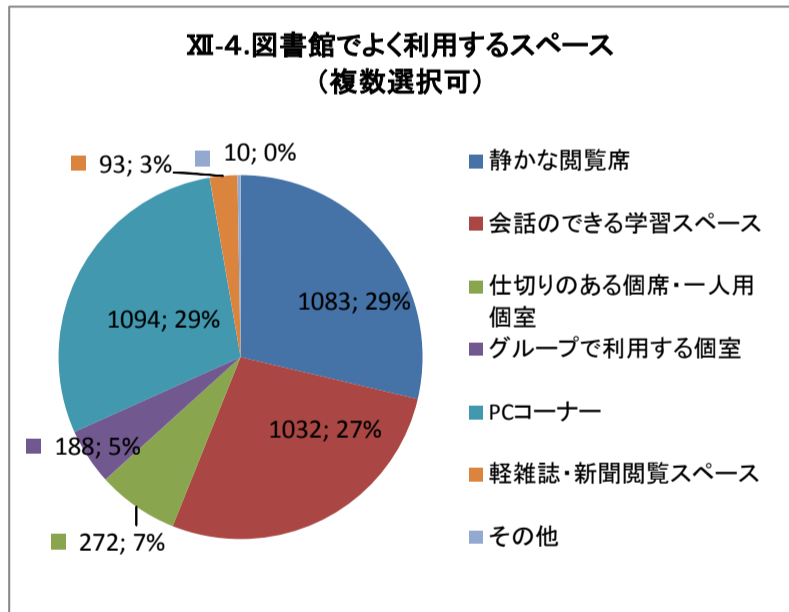
芸術地域デザイン学部は「図書(書籍)の利用」の割合が高く、学部生の貸出冊数が多いことと照応している。医学部医学科は「自習」の割合が高く、医学部看護学科は「PCの利用」の割合が高い。医学部では「コピー・印刷」の割合が比較的高い。

(入学年度) × (図書館の利用目的)



学年が上がるにつれて「図書(書籍)の利用」、「調査・研究」の割合が増加し、「情報交換・時間つぶし」、「PCの利用」は減少する。28年度(2年生)と27年度(3年生)の傾向には大きな差異は見られない。

XII-4

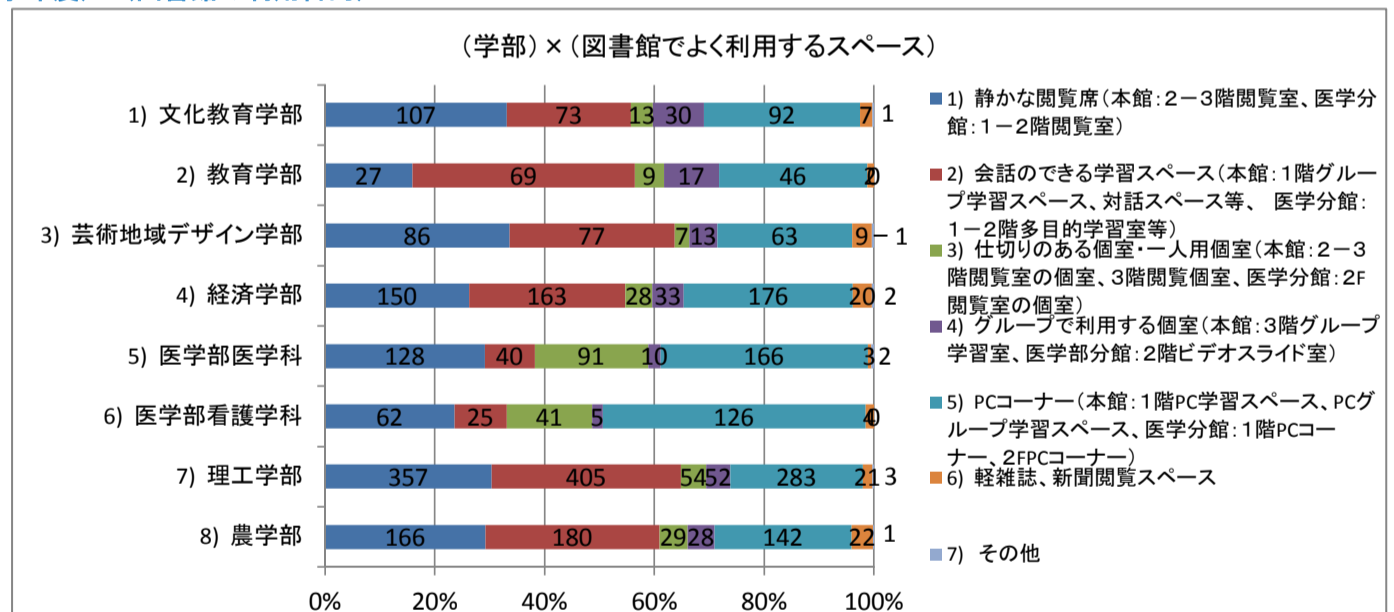


「PCコーナー」、「静かな閲覧席」、「会話のできる学習スペース」がバランスよく利用されている。PC必携化に伴う図書館のPC設置台数減少を想定し、持ち込みPCの利用を前提としたサービス等、今後の対応を検討していく必要がある。

【その他】

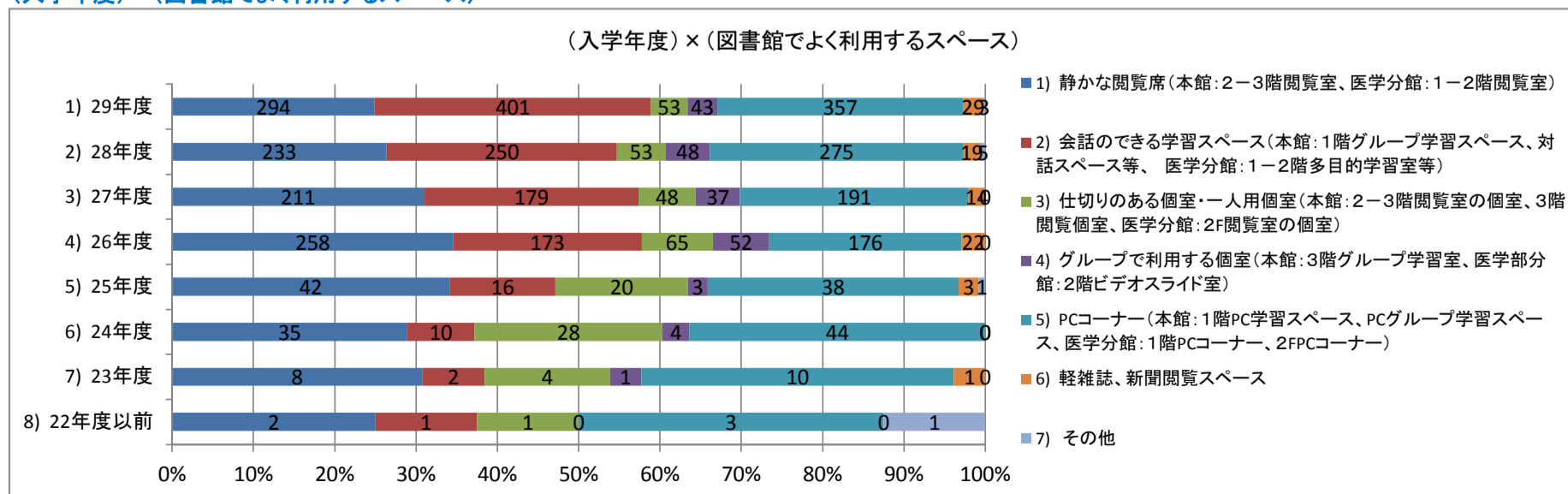
- ・2-3階の学習スペース
- ・DVD見るところ、書架

(入学年度) × (図書館の利用目的)

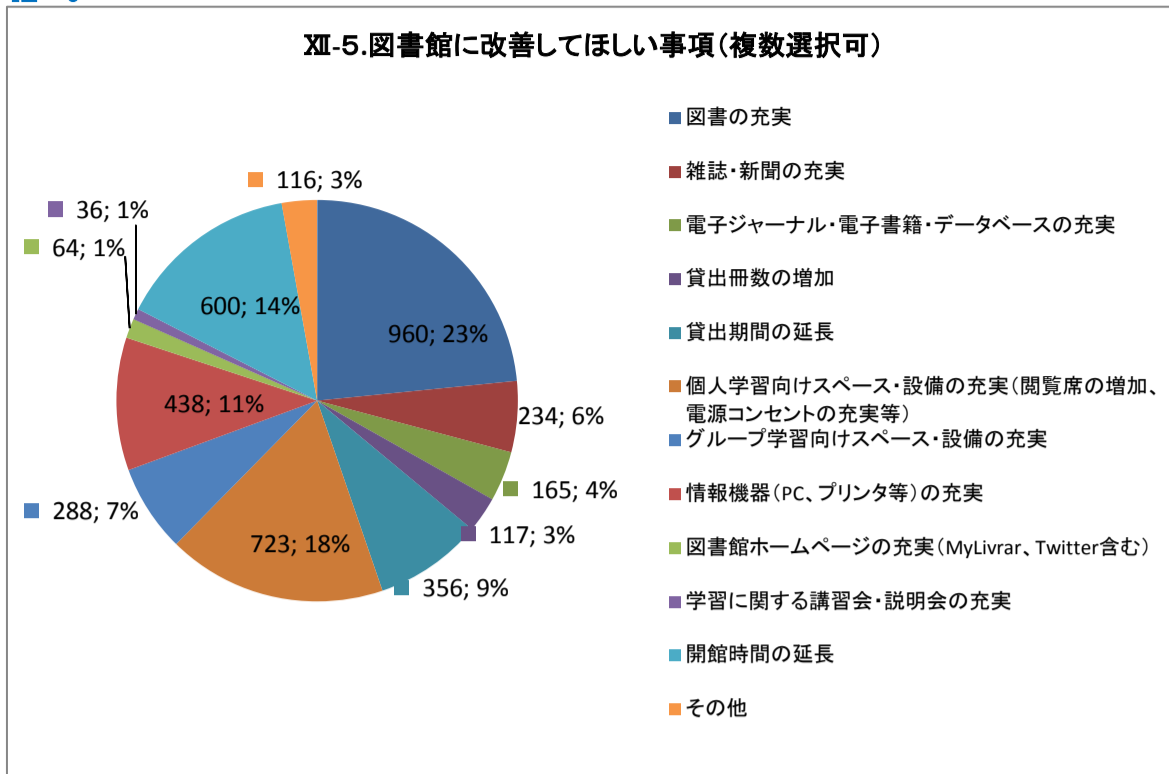


教育学部で「会話のできる学習スペース」の割合が高く、文化教育学部で「静かな閲覧席」の割合が高いのは、学年ごとの傾向が反映されていると思われる。芸術地域デザイン学部で「静かな閲覧席」の割合が最も高いことは、利用目的で「図書(書籍)の利用」が多いことに照応していると思われる。経済学部は「PCコーナー」の割合が最も高く、理工学部、農学部は「会話のできる学習スペース」の割合が最も高い。医学部は「PCコーナー」の割合が高く、看護学科に顕著であることは、利用目的の結果と照応している。また、「会話のできる学習スペース」、「グループで利用する個室」の割合が低い。

(入学年度) × (図書館でよく利用するスペース)



学年が上がるにつれて「会話のできる学習スペース」の割合が減少し、「静かな閲覧席」の割合が増加する。



【その他】

- ・2階にエアコンを設置してほしい、空調をもっと快適な温度設定にしてほしい、
- ・病気・風がある人は図書館に来ないでほしいです。
- ・予約が入ってない、すでに延長をしたことある本について:カウンターで返却してからすぐにまた貸し出しできるようにしてほしいです。
- ・2階と3階の窓側の長いスペースを分けて欲しいです。現在は壁などがなくて、10メートル離れている人の鉛筆さえ聞こえて集中ができません。
- ・もっと沢山より小さな勉強スペースがいいと思います。
- ・24時間営業してほしい
- ・資格取得用のコーナー
- ・論文のジャーナルを増やしてほしい、最新版の文献が欲しい、定期的な医学書の更新
- ・仕切りのある個室ではないと勉強できないため仕切りのある個室を増やして欲しい。
- ・適度な空調
- ・けしごむのかすを受付にもっていくのではなく、学生が利用できるゴミばこを設置してほしい
- ・長期にわたって返還されていない図書が存在することを解決してほしい
- ・水曜の午後の使えない時間をなくしてほしい

【教育用端末のことを指していると思われる】

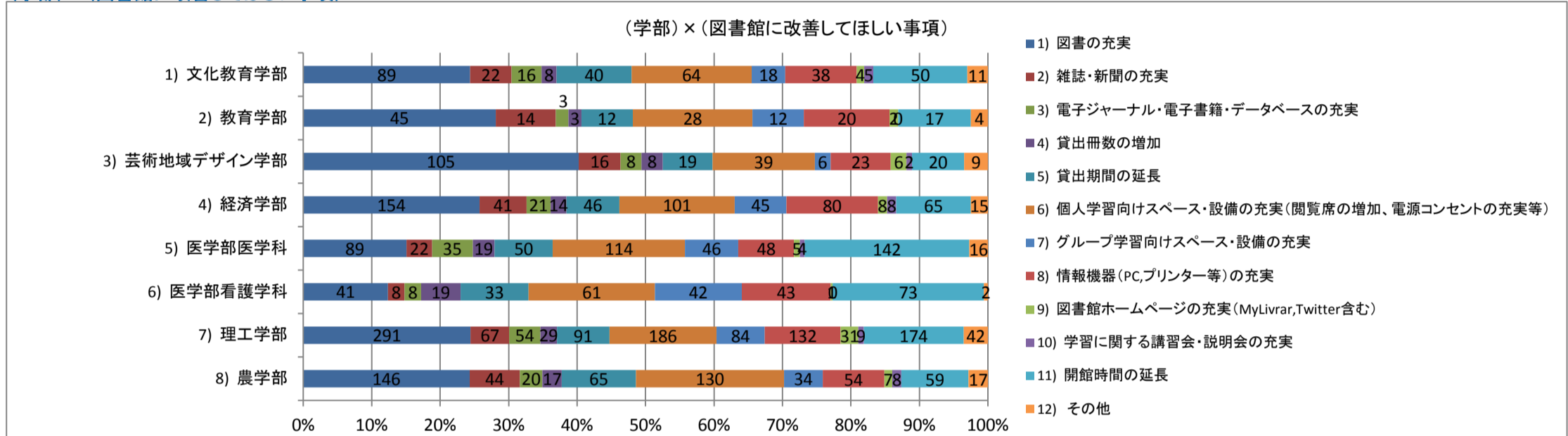
- ・仮眠所
- ・小難しくなくやさしい書籍も増やしてほしい
- ・害虫・清潔感(ゴキブリやその他の虫がいないような)、
- ・静かな閲覧室で話している人をよく見かけるので注意してほしい。
- ・休日も夜まで開館してほしい
- ・本の置場所をもっとわかりやすくしてほしい。
- ・コピーするときの金額を抑えてくれたらうれしいです。
- ・エレベーターを健常者にも使いやすくしてください

【低階層では利用を控えるよう依頼していることを指していると思われる】

- ・有料論文が閲覧できるようにしてほしい

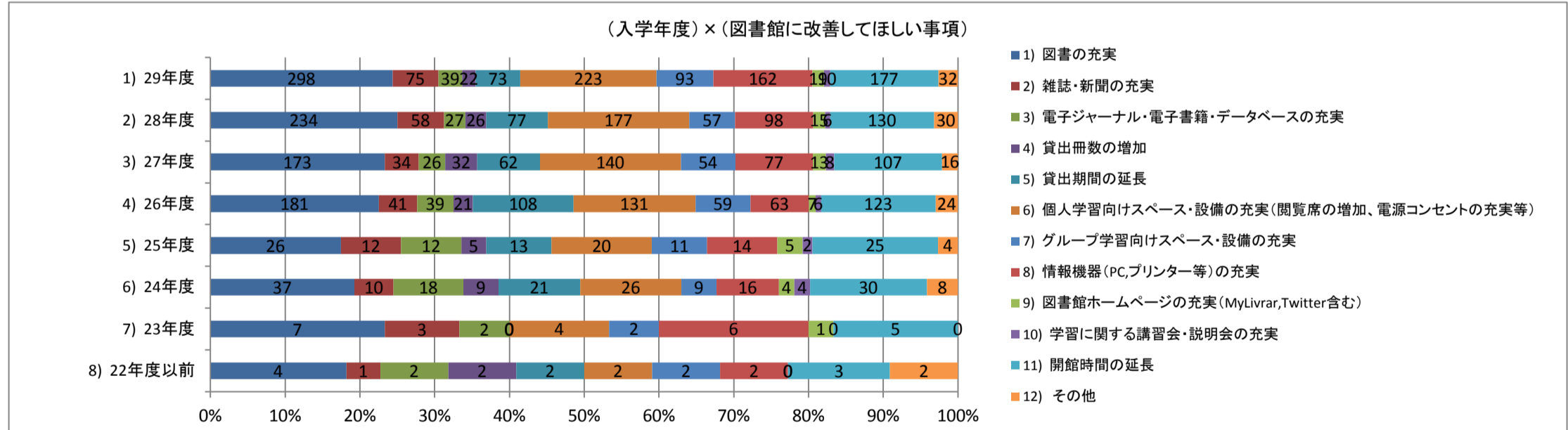
「図書の充実」、「個人学習向けスペース・設備の充実」はどの学部においても高い。「開館時間の延長」は医学部からの要望が強い。この結果からは、学部生の貸出冊数の減少は、現在の図書購入が質・量ともに十分にニーズに応えられていない可能性があると言える。「仕切りのある個室・一人用個室」の利用割合は少ない(7%)が、「個人学習向けスペース・設備の充実」の改善希望は高く(18%)、現状ではニーズに十分応えられていないことが考えられる。

(学部) × (図書館に改善してほしい事項)



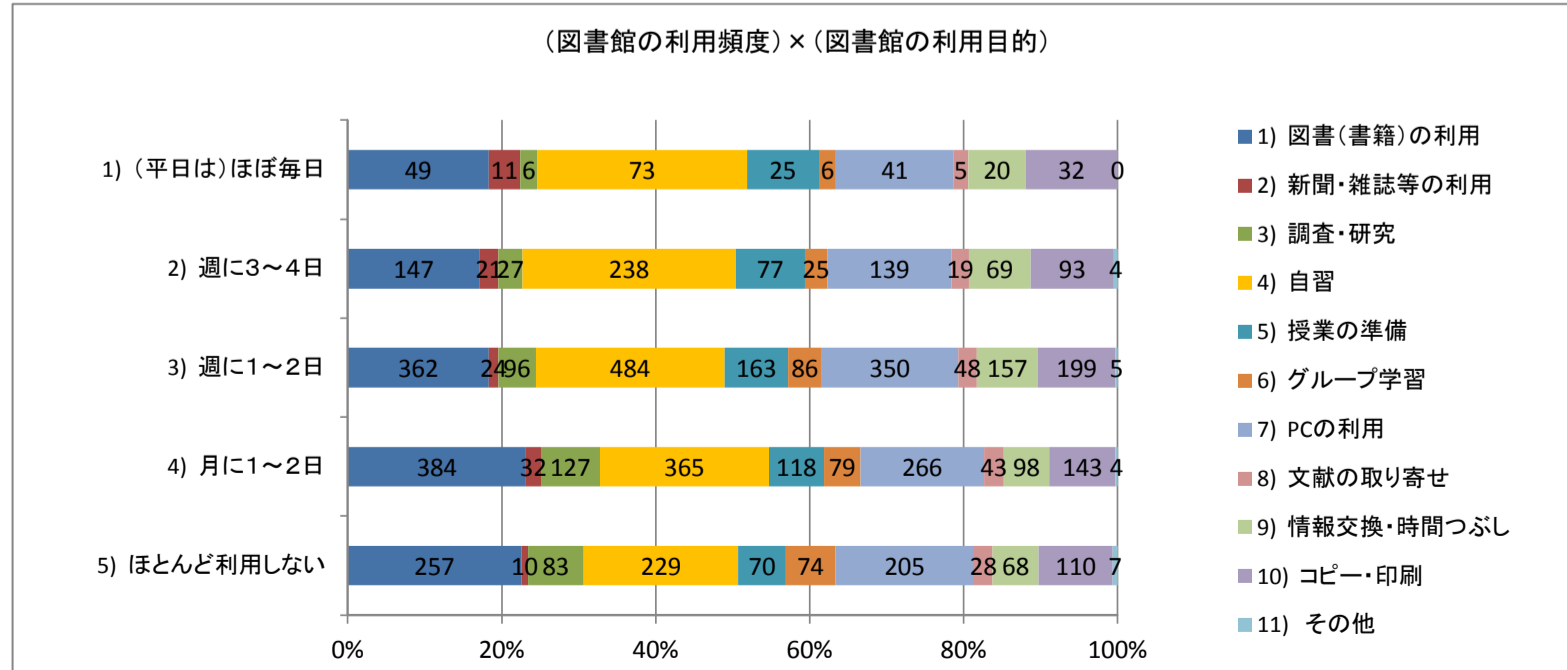
本庄地区ではいずれの学部も「図書の充実」の割合が高い。芸術地域デザイン学部で顕著であり、これは利用目的の傾向と合致し、学部生の貸出冊数が多いこととも照応する。農学部で「個人学習向けスペース・設備の充実」が21%を超えており、他学部と比較して高い割合を示している。医学部では「開館時間の延長」が22%を超えており、最も高い。医学部看護学科では「グループ学習向けスペース・設備の充実」の割合が、他学部と比較して高い割合を示している。農学部、医学部看護学科は、よく利用するスペースではそれぞれ「個人学習向け」、「グループ学習向け」の割合は高くなく、現在の施設がニーズに対応できていない可能性がある。

(入学年度) × (図書館に改善してほしい事項)



学年間で顕著な傾向の違いは見られない。26年度(4年生)で「貸出期間の延長」の割合が比較的高くなるのは、利用目的で学年が上がるほど「図書(書籍)の利用」が上昇することと照応している。

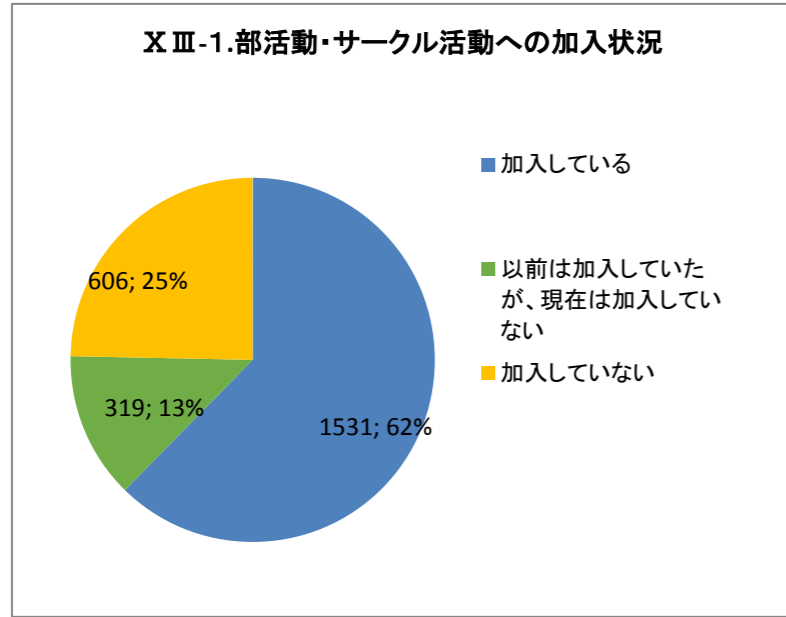
(図書館の利用頻度) × (図書館の利用目的)



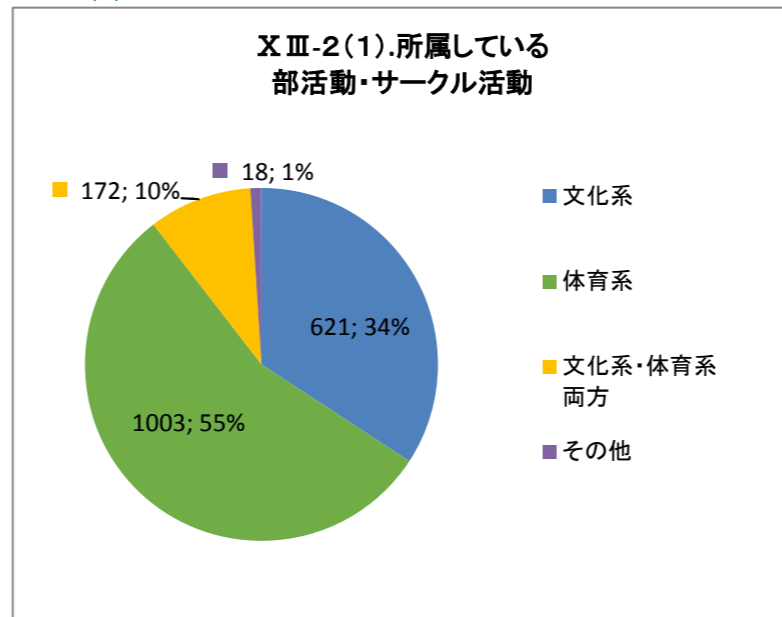
利用頻度が低くなると「図書(書籍)の利用」の割合が増加しているのは、資料利用の必要性がなければ来館しないことを表しているか。

XIII. 学内における部活動・サークル活動に関する事項

XIII-1



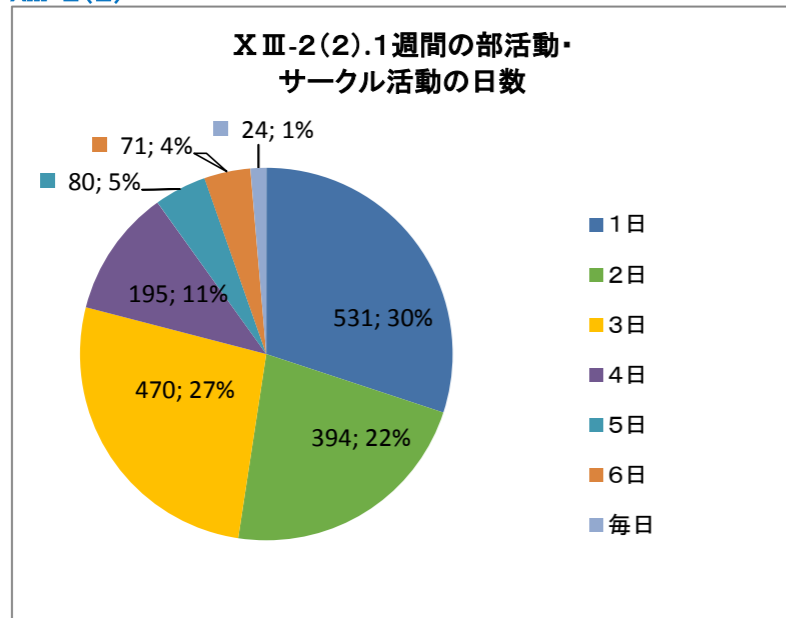
XIII-2(1)



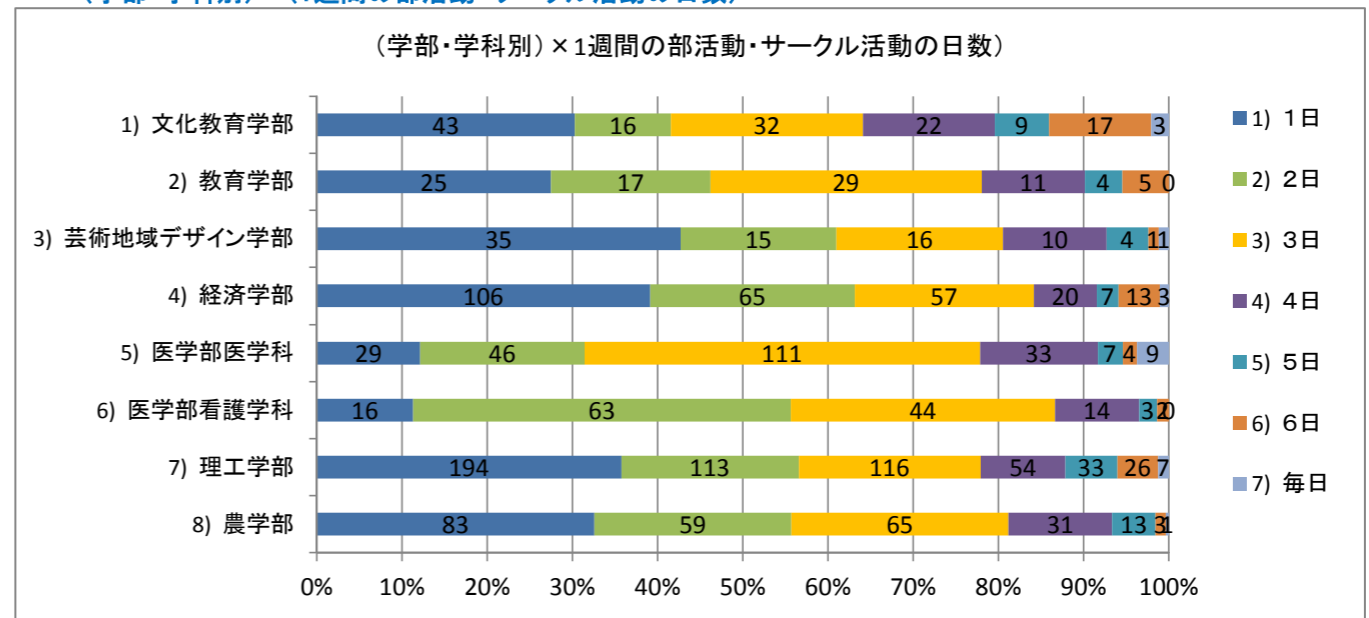
【その他】
・ボランティア系、農業系
・学生委員会、学友会、学園祭中央実行委員会

約2/3の学生が何らかの部活動・サークル活動に加入している。また、その中でも2/3の学生は体育系の部活動・サークル活動に加入している。

XIII-2(2)

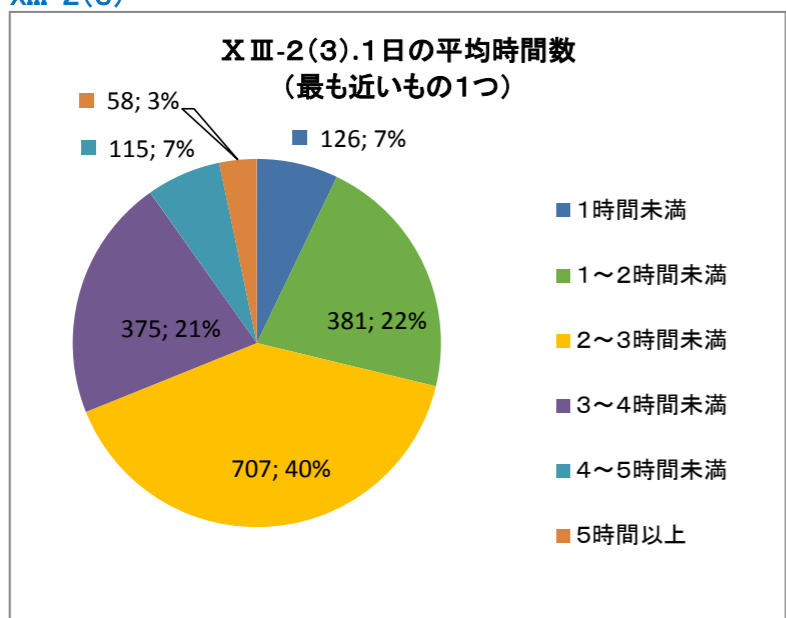


(学部・学科別) × (1週間の部活動・サークル活動の日数)

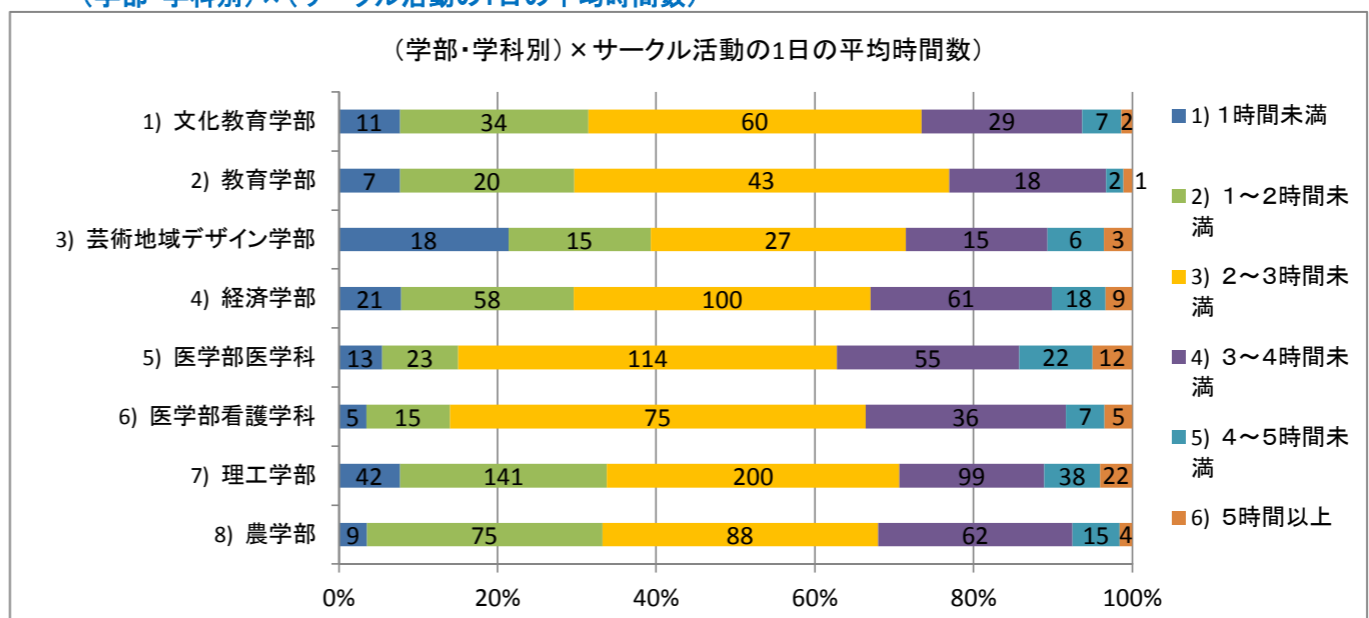


1週間の活動日数3日以下の学生が約80%を占める。医学部の学生では2日以上活動している学生の割合が他学部比べて高い傾向がある。

XIII-2(3)

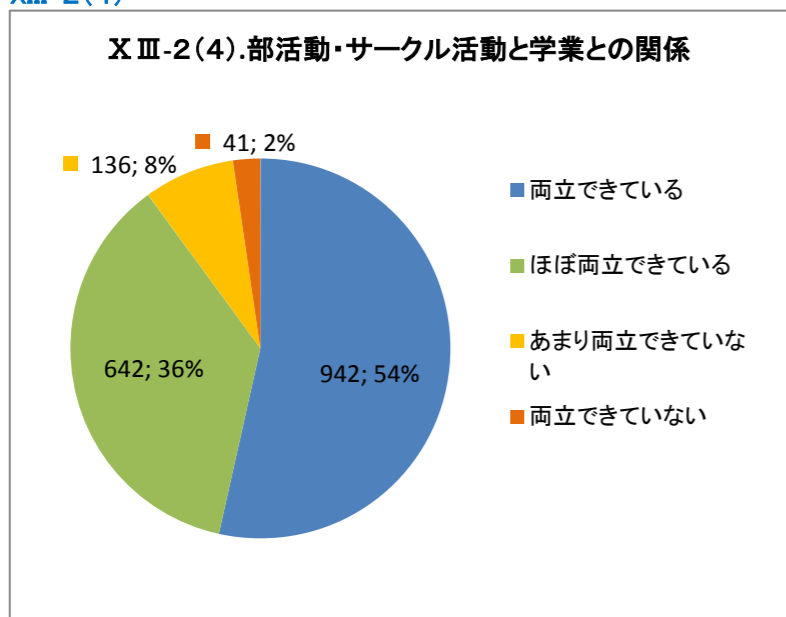


(学部・学科別) × (サークル活動の1日の平均時間数)

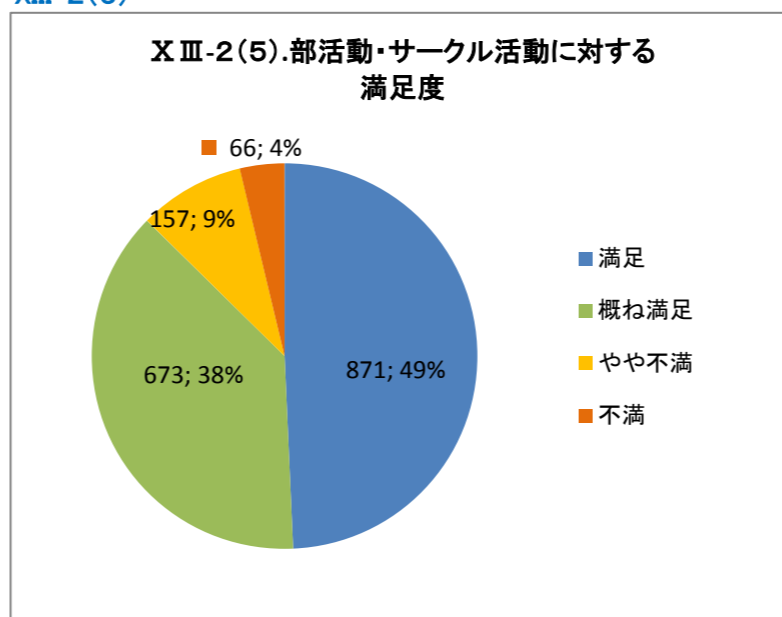


1日の活動時間2～3時間の学生が最も多い。医学部の学生では2日以上活動している学生の割合が他学部比べて高い傾向がある。

XIII-2(4)



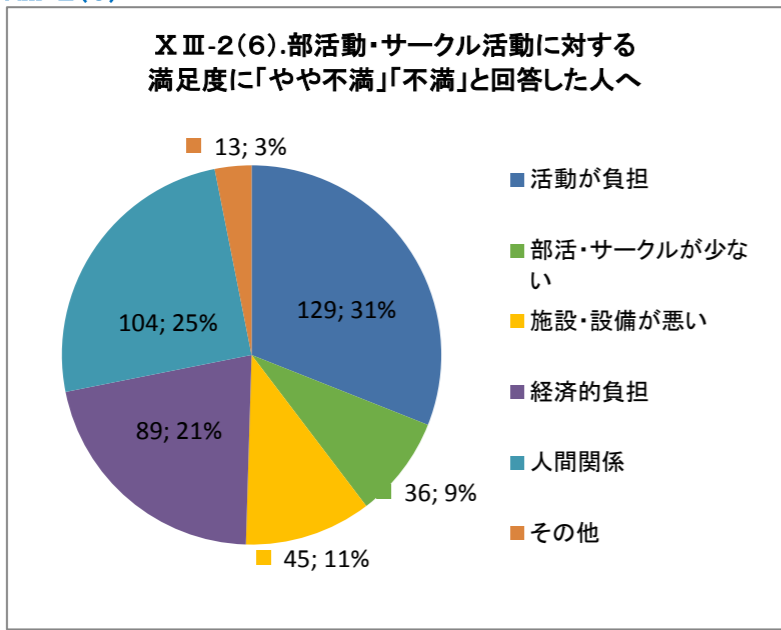
XIII-2(5)



多くの学生が部活動・サークル活動と学業との両立が(ほぼ)できていると回答しているが、1割の学生はこれらの活動が学業に影響していると懸念される。

9割近くの学生は部活動・サークル活動に概ね満足している。

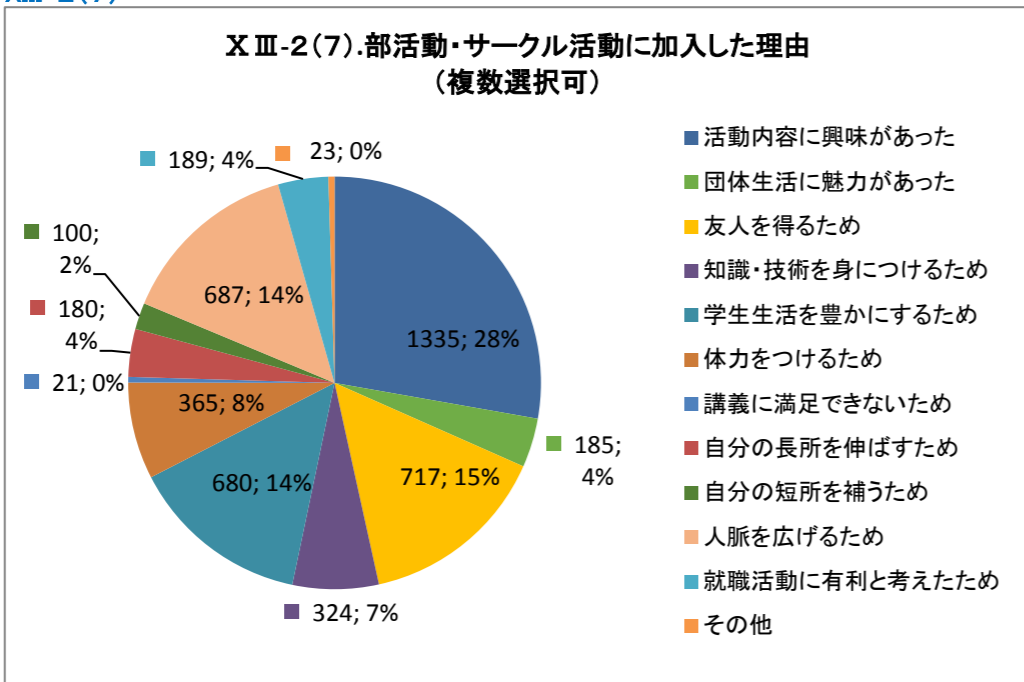
XIII-2(6)



【その他】

- ・電車で通っているため時間的な負担が少々ある
- ・時間が合わない、活動時間が長すぎた
- ・辞められないところ
- ・単純に楽しくない、めんどくさい、サークルでやるのが少ない、活動日数
- ・部員の倫理観の欠如など

XIII-2(7)

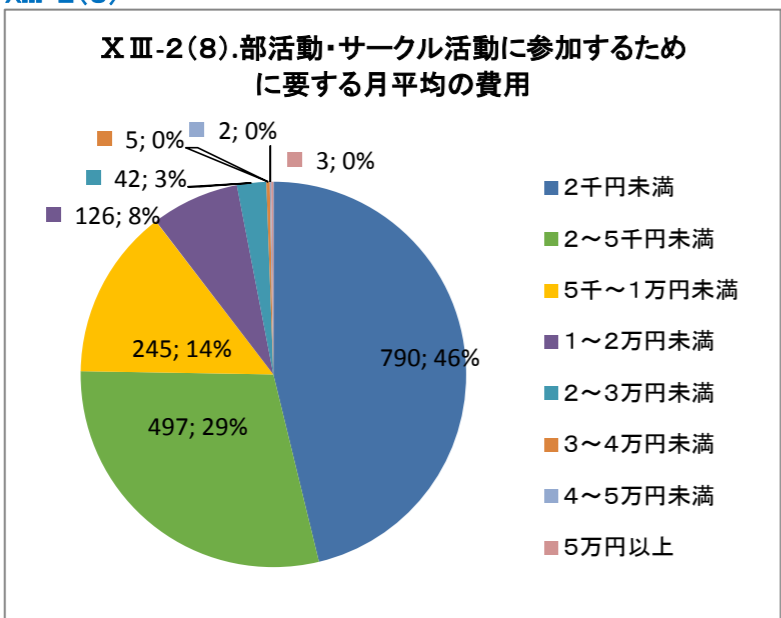


【その他】

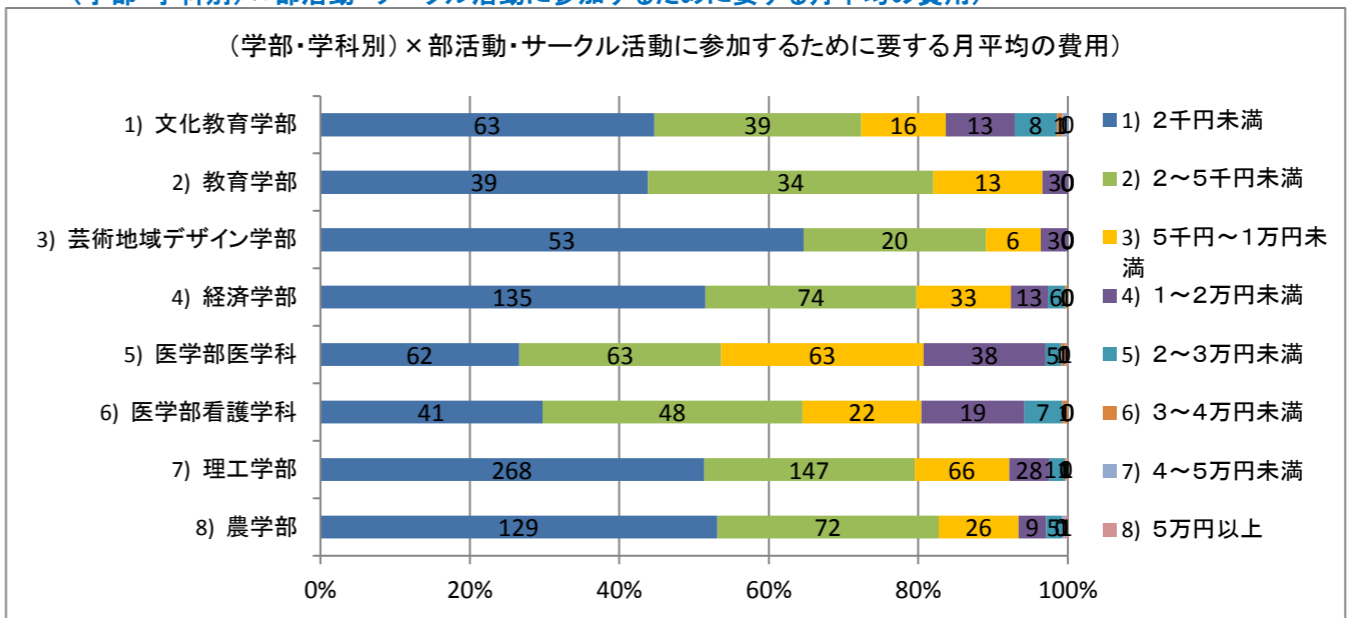
- ・勧誘を受けたため
- ・暇つぶし、気分転換に、人手が足りなかったから
- ・楽しむため、高校の延長、新しいことをしてみたかったため
- ・留学に有利と考えたため
- ・その競技に未練があったから

加入した理由として活動自体に興味があったと答えた割合は3割以下であり、友人を得る、人脈を広げる、学生生活を豊かにする、など活動内容よりもコミュニティー形成に重点を置いた理由が目立つ結果となった。

XIII-2(8)



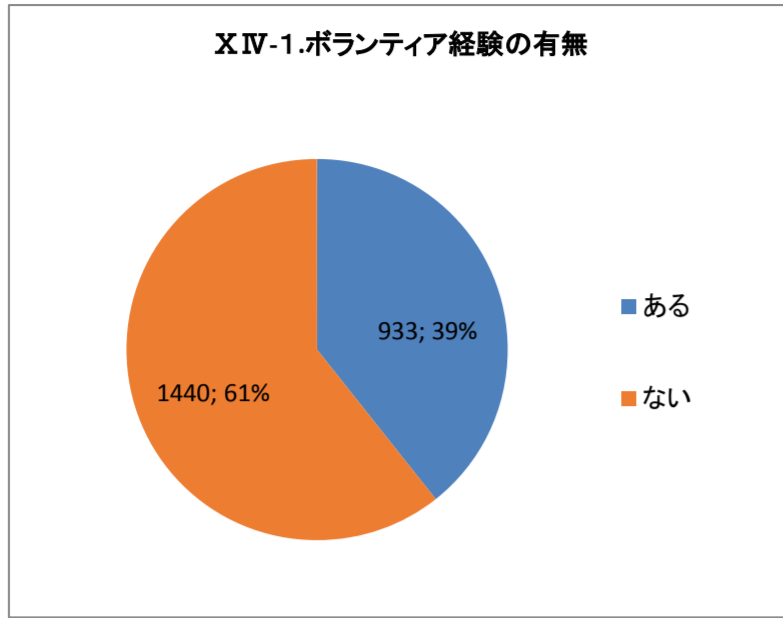
(学部・学科別) × 部活動・サークル活動に参加するために要する月平均の費用



多くの学生は月平均1万円未満の費用負担であるが、一部には5万円以上と高額な費用がかかっている学生も見られる。また、学部別では医学部の学生の負担が他学部に比べ多い傾向がうかがえる。

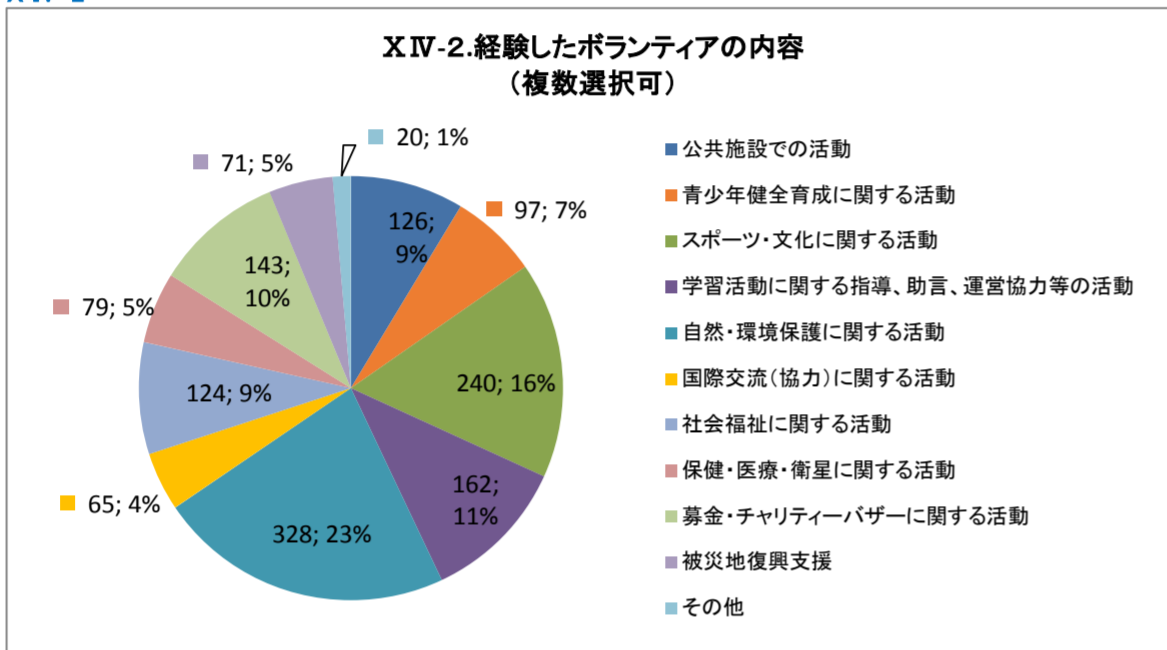
XIV. ボランティアに関する事項

X IV-1



ボランティアについての社会的認知や需要の高まりもありそれを経験する学生の割合は増加の一途をたどると思われる。

X IV-2

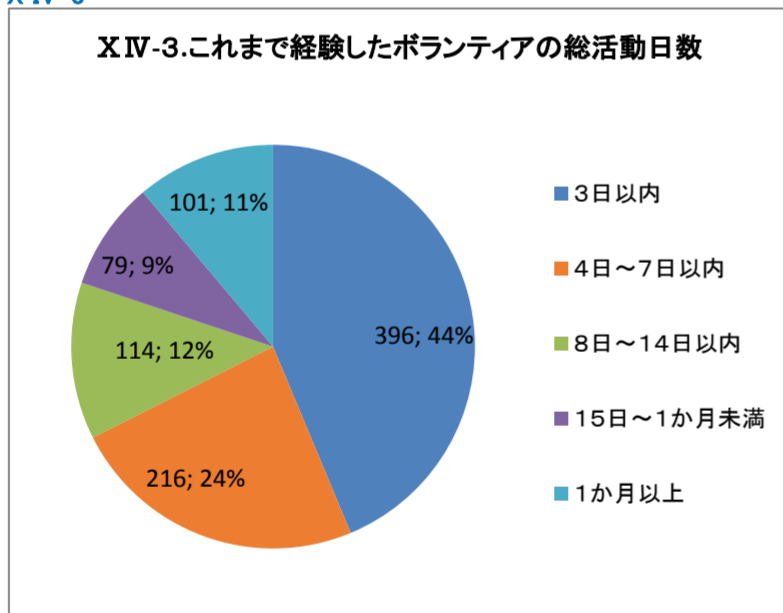


【その他】

- ・オープンキャンパス
- ・赤十字、献血、防犯、キャンプボランティア、動物愛護関係
- ・医療系イベントのグラフィックレコーダー、髪の毛の提供
- ・地域の活動、祭りスタッフ、清掃活動
- ・離島の子供たちの交流
- ・政治運動

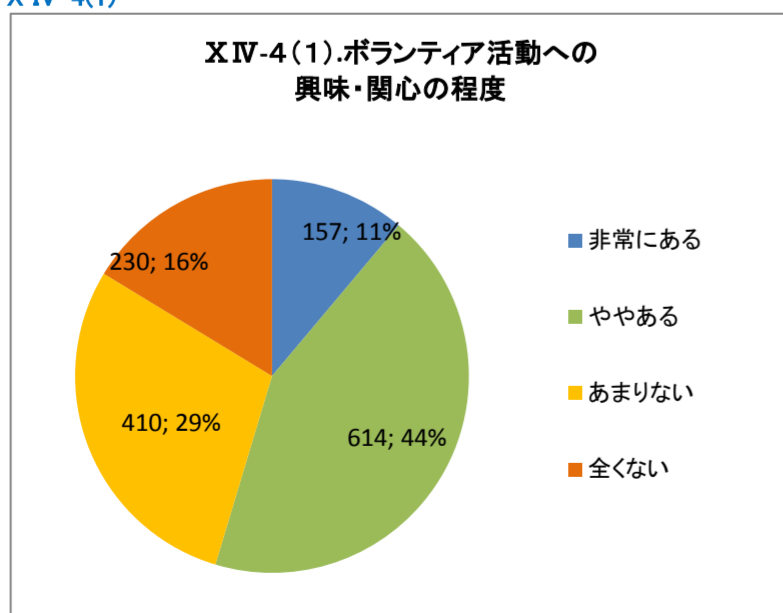
少なくともきっかけとしては、大学の教育・研究活動と何らかの関わりがあるものが多いのではないかと推察される。

X IV-3



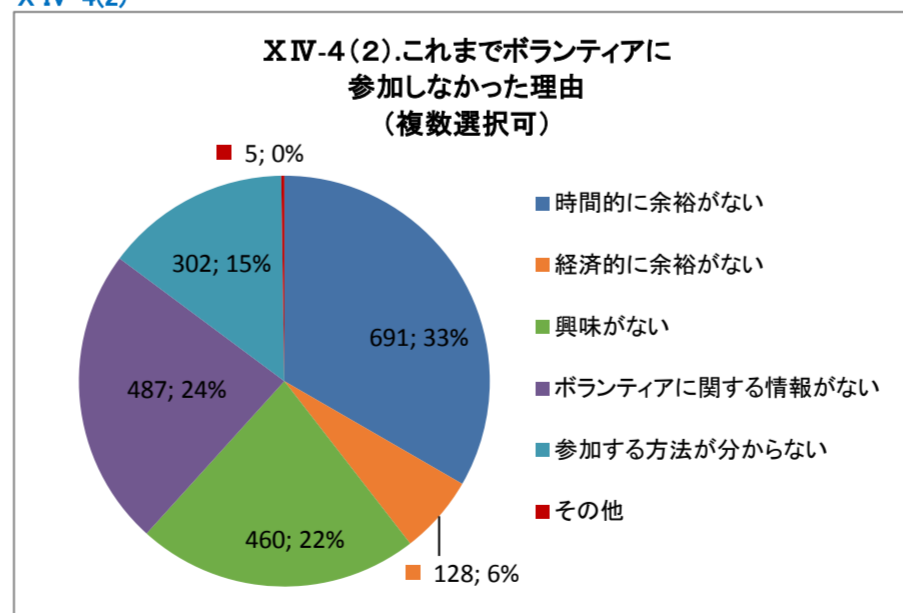
ボランティア経験者の内、トータルで1ヶ月以上とした人が1割もいるという結果は、日頃学生と接していて意外だという感じを覚える。おそらくは貴重な体験もしていると思われるので、それを共有できる機会があっても良いのではないだろうか。ただし、それぞれボランティア精神で、学生の自主的なやり方を期待する。

X IV-4(1)



大学にボランティアについての情報提供窓口などあれば参加するであろう学生が潜在する可能性が示唆されている。

X IV-4(2)

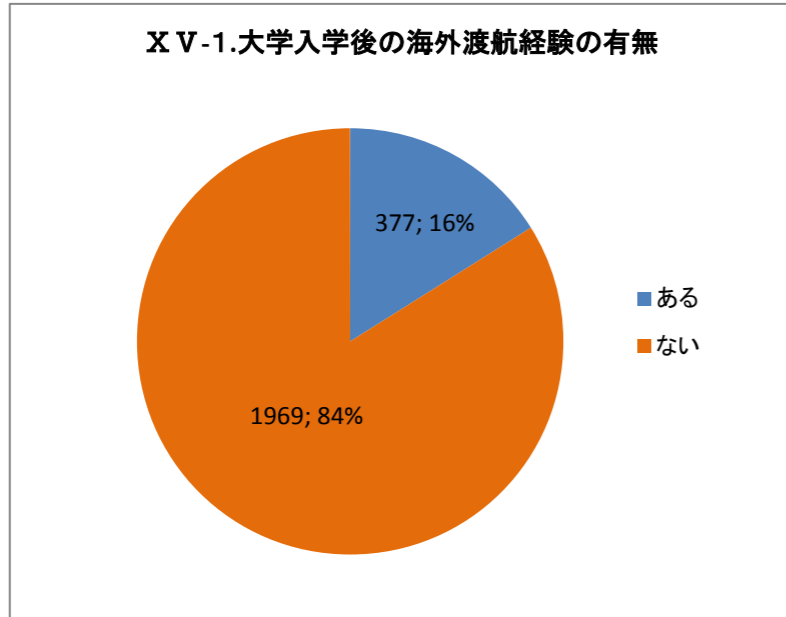


【その他】

- ・お金がもらえないから
- ・未だ自分に社会へ貢献できるだけの技能があると考えていない
- ・めんどくさい
- ・うまく説明できない

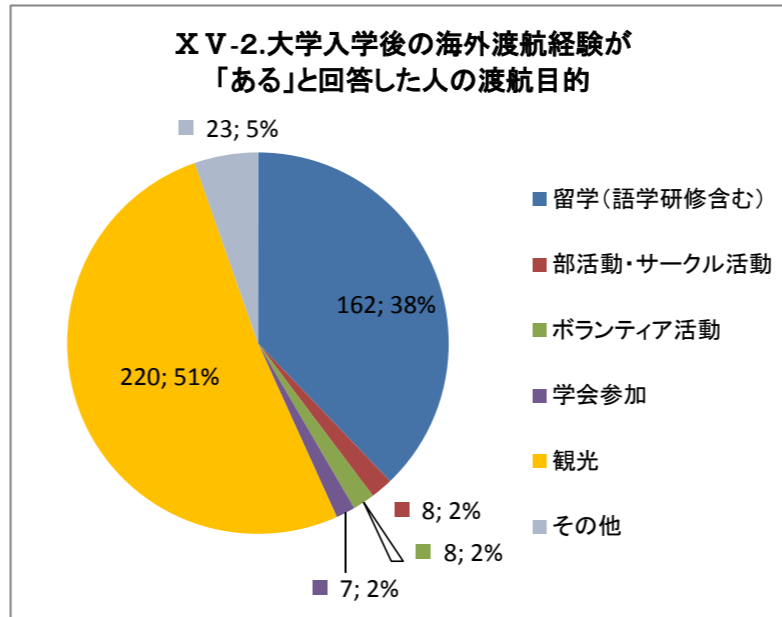
XV. 海外渡航に関する事項

XV-1



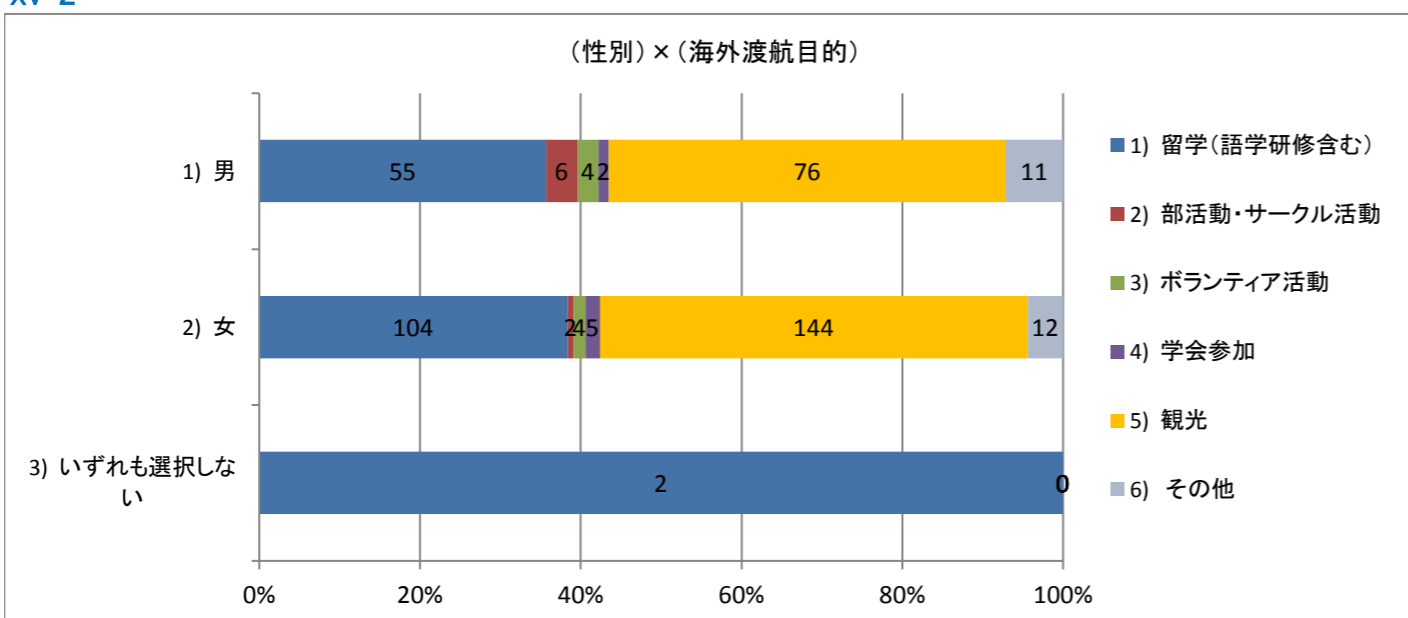
学年別の値は不明であるが、海外渡航経験があると答えた学生の割合は16%とそれほど高くない印象であった。

XV-2



過半数の学生は観光目的であったが、留学(語学研修を含む)が約4割と、比較的高い割合であった。

XV-2

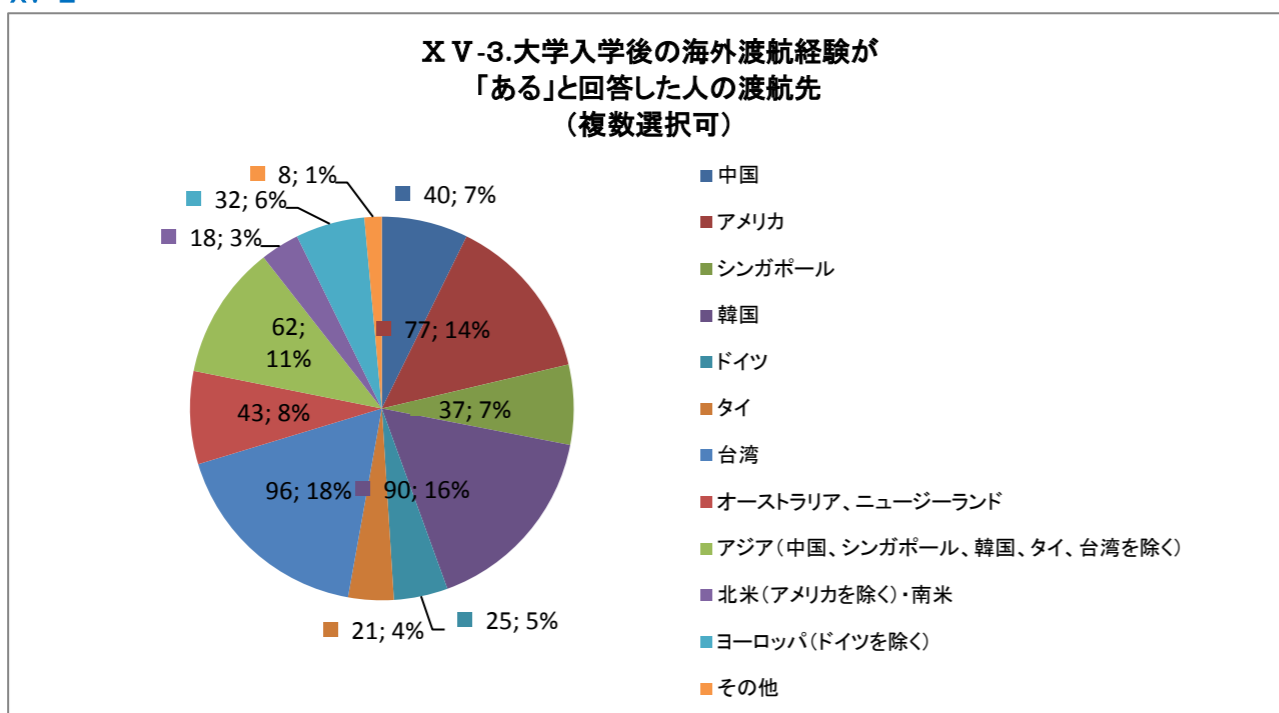


【その他】

- ・帰省、帰国
- ・海外実習、講義の一環、研究室の研修
- ・インターンシップ、集中講義
- ・国立青少年機構主催の研修、平和学習
- ・学外の海外プログラム;

性別による顕著な差は見られなかった。

XV-2

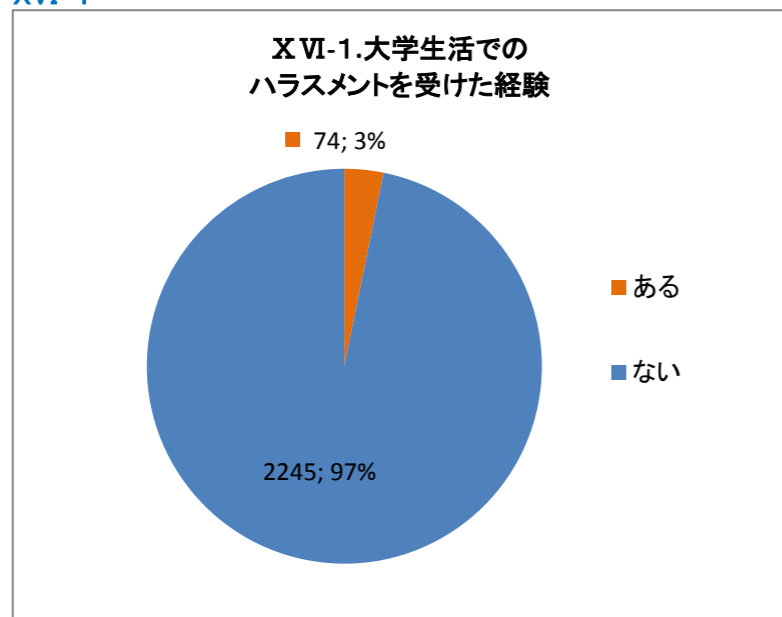


【その他】

- ・香港、マレーシア、インドネシア、カンボジア
- ・フィジー
- ・カメルーン

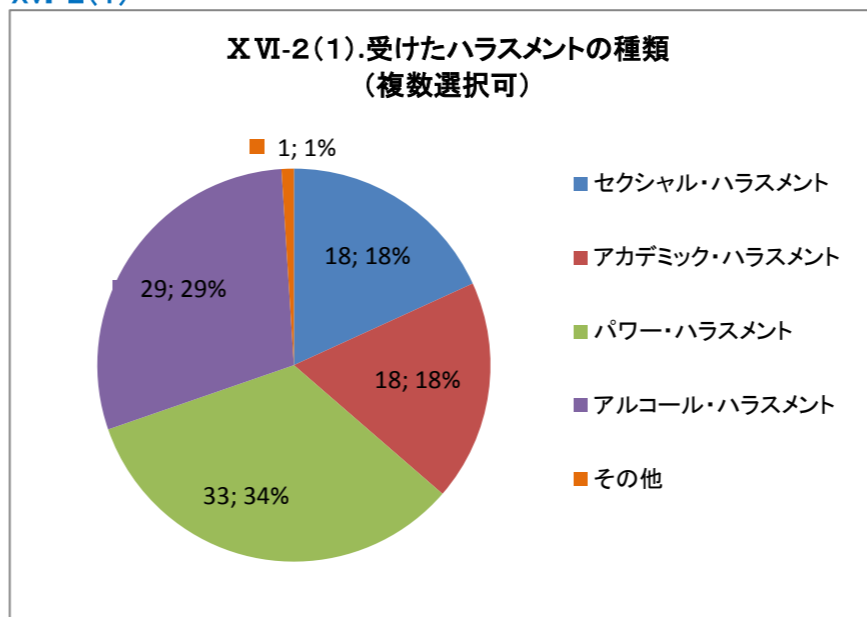
XVI. ハラスメントに関する事項

XVI-1



割合は高くはないものの、3%の学生がハラスメントを受けた経験があるという事実は重く受け止める必要がある。

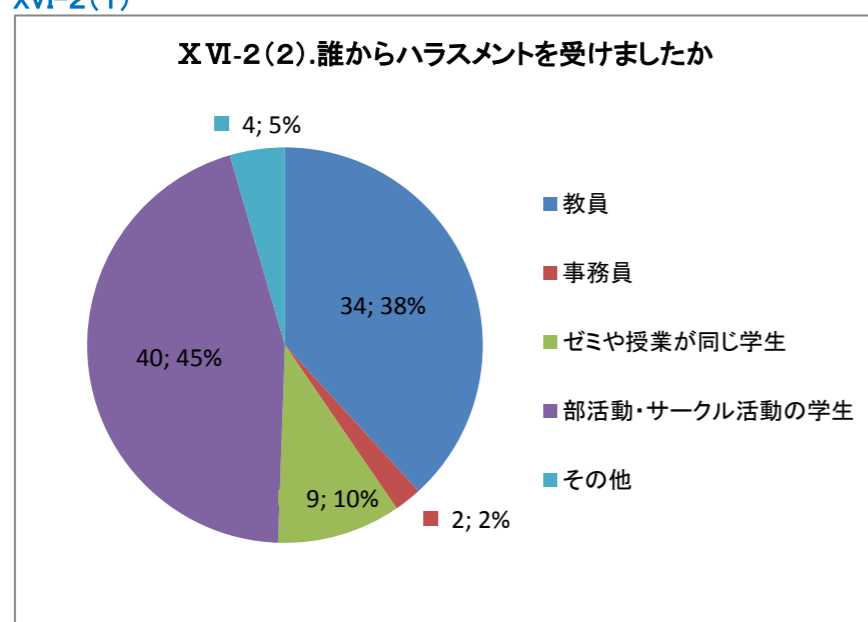
XVI-2(1)



【その他】
・SOGI・ハラスメント(性的マイノリティーの人たちへの差別的な発言や嫌がらせ)

受けたハラスメントの種類は様々であるが、パワー・ハラスメント、アルコール・ハラスメントの割合がやや高い。

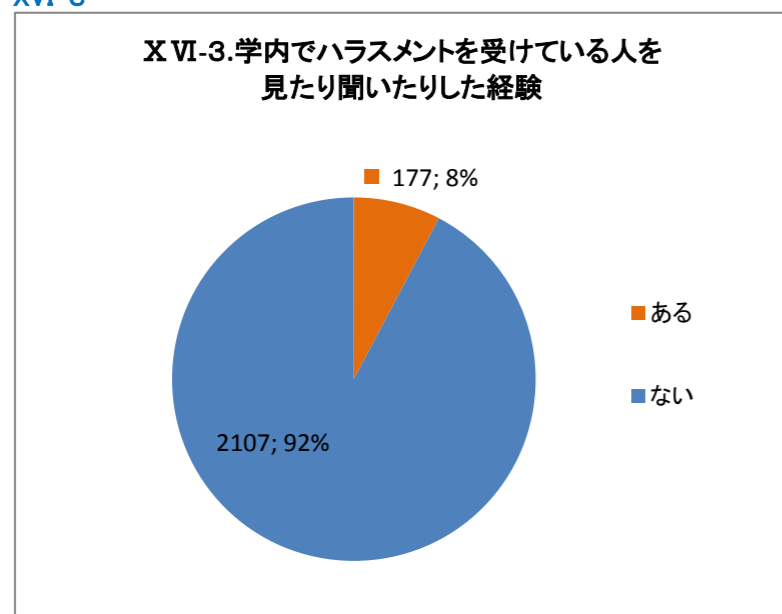
XVI-2(1)



【その他】
・アルバイト先、学科の先輩

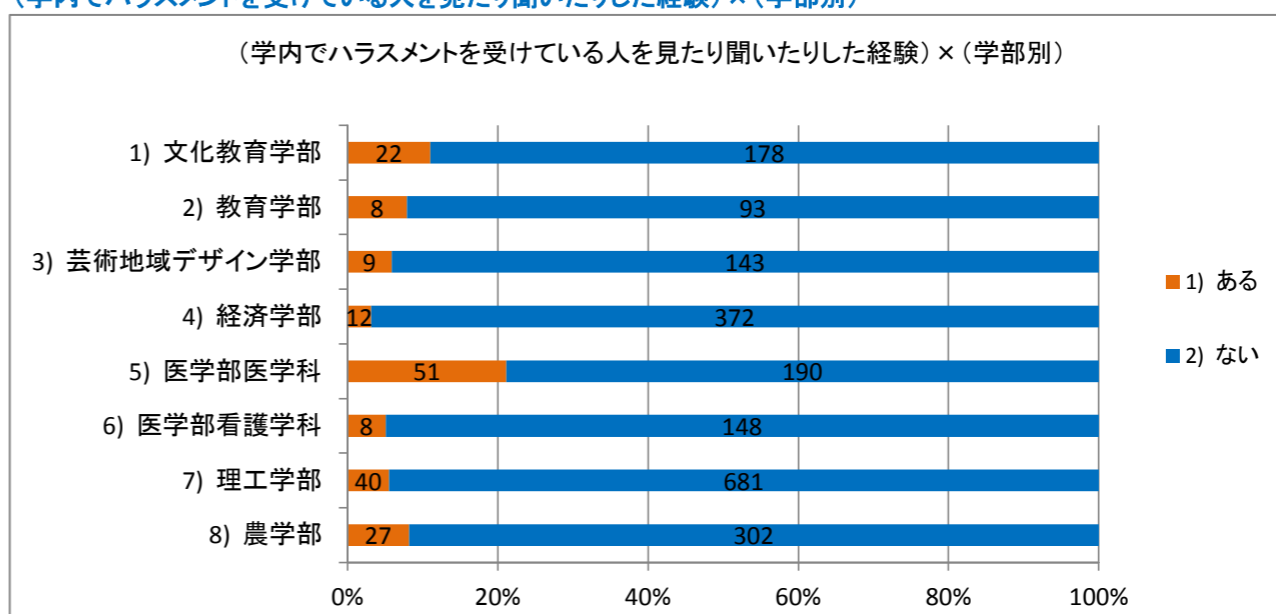
ハラスメントを受けた相手は部活動・サークル活動の学生の割合が最も高いが、教員も約4割となっている点は留意する必要がある。

XVI-3



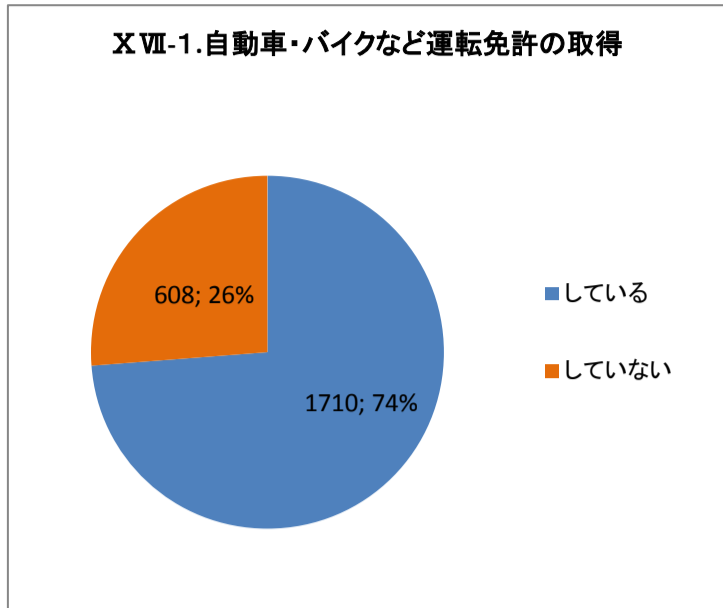
1割近くの学生がハラスメントを受けている人を見たり聞いたりした経験があり、中でも医学部医学科で割合が高い傾向が見られる。

(学内でハラスメントを受けている人を見たり聞いたりした経験) × (学部別)

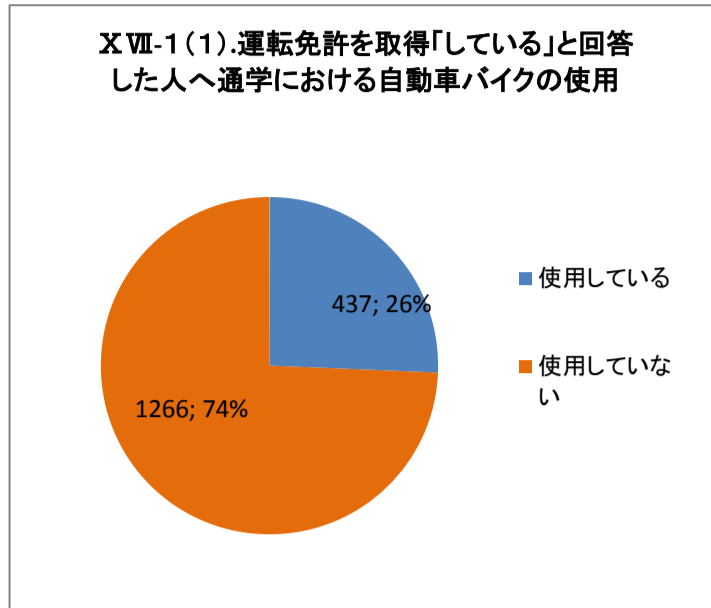


XVII. 交通安全及び学内の治安等に関する事項

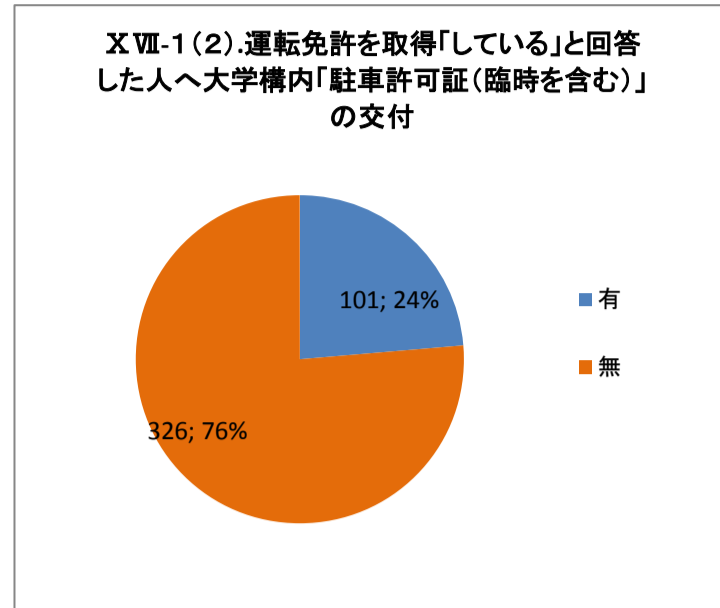
XVII-1.



XVII-1(1).

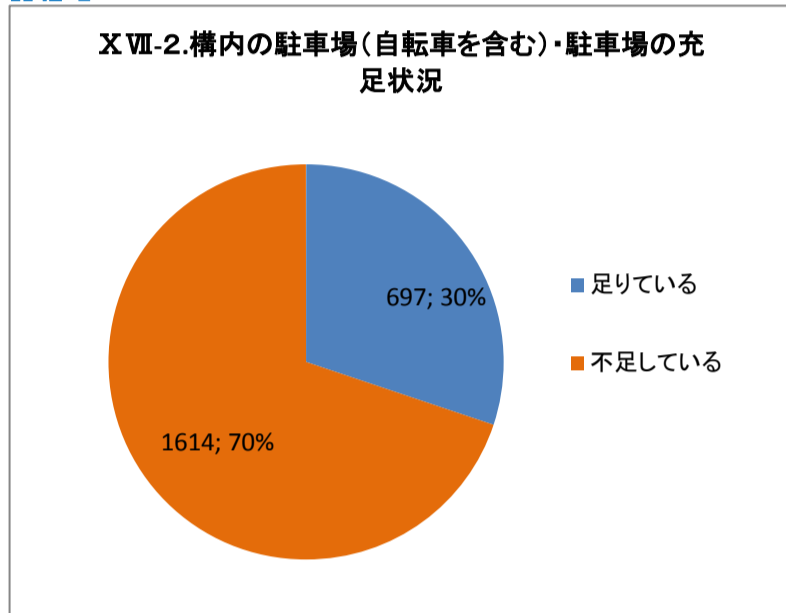


XVII-1(2).

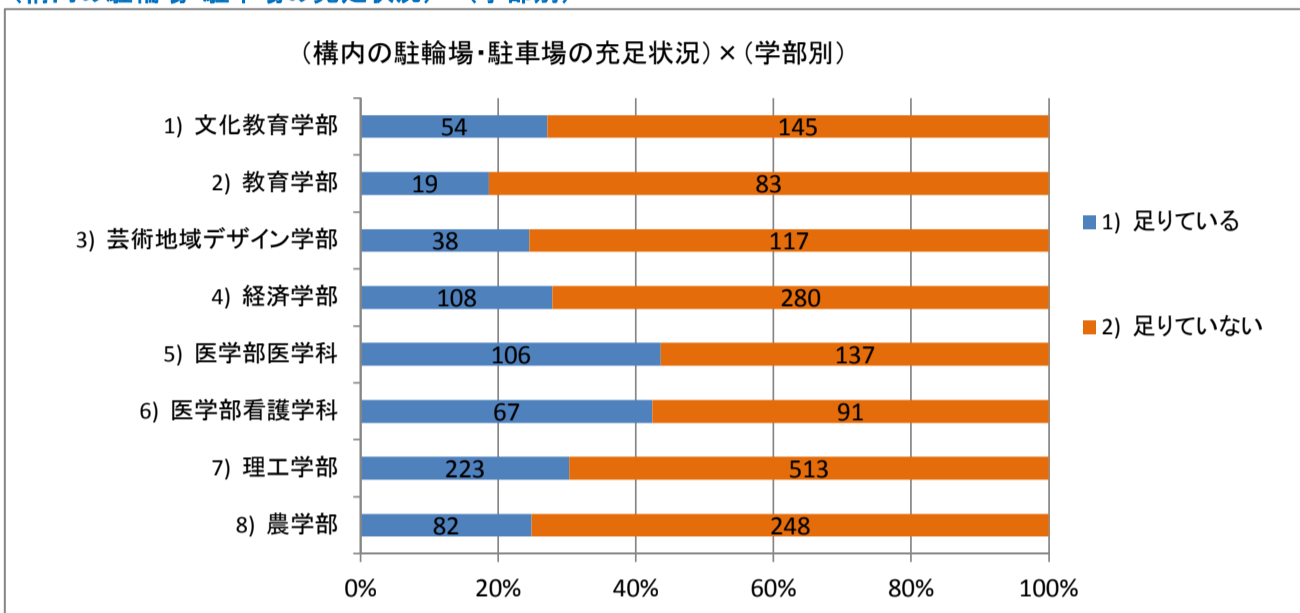


自動車・バイクの運転免許取得者の3割弱の学生が通学に自動車バイクを利用し、その中の8割弱の学生が大学外に駐車していた。

XVII-2

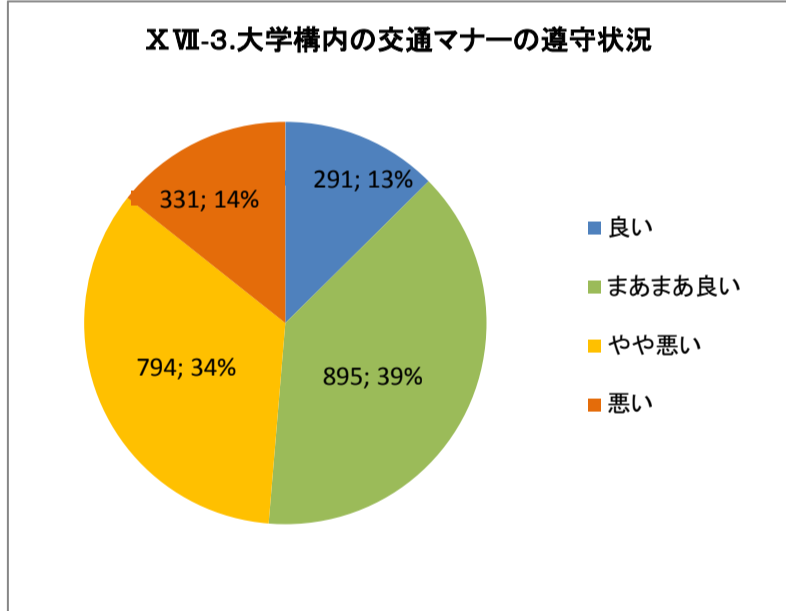


(構内の駐輪場・駐車場の充足状況) × (学部別)



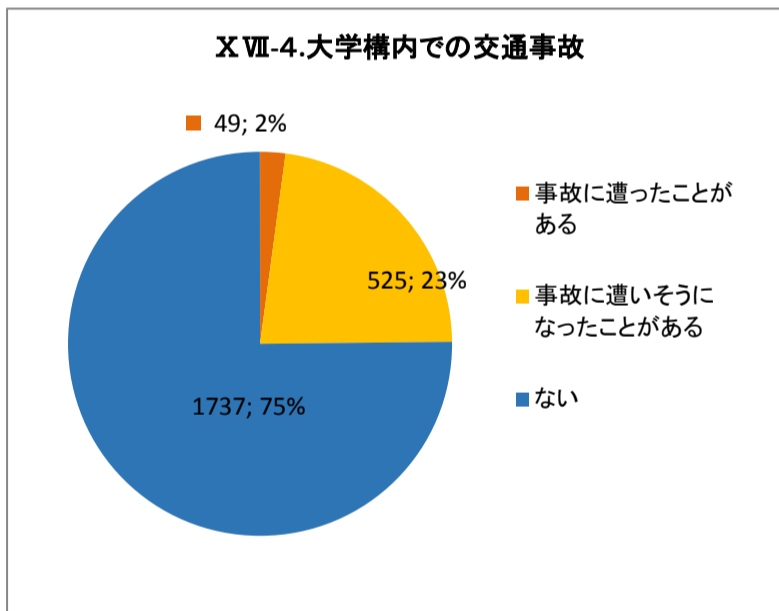
構内における慢性的な駐車場のスペース不足が読み取れ、特に、本庄キャンパスにおいて駐車場のスペース不足の傾向が顕著である。

XVII-3



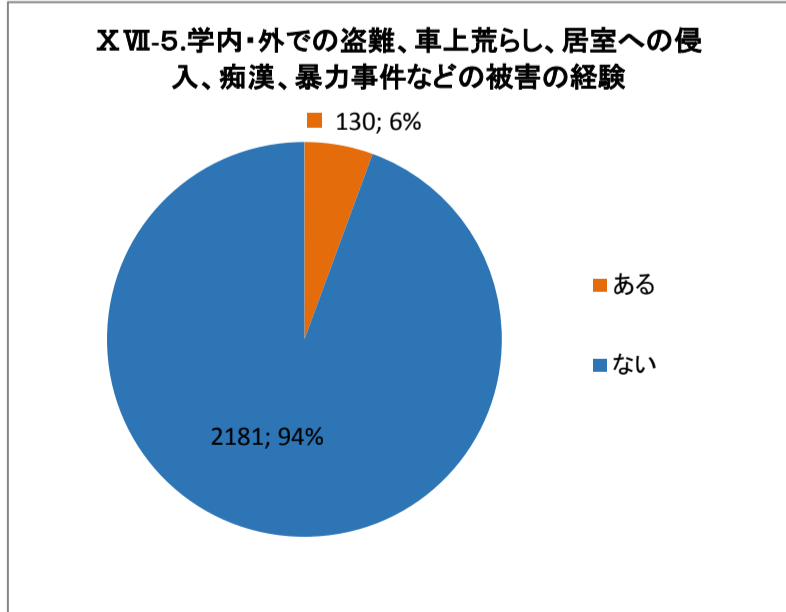
交通マナーの「やや悪い・悪い」がほぼ半数を占めており、今後も継続的に交通マナーを遵守させるよう取り組む必要がある。

XVII-4

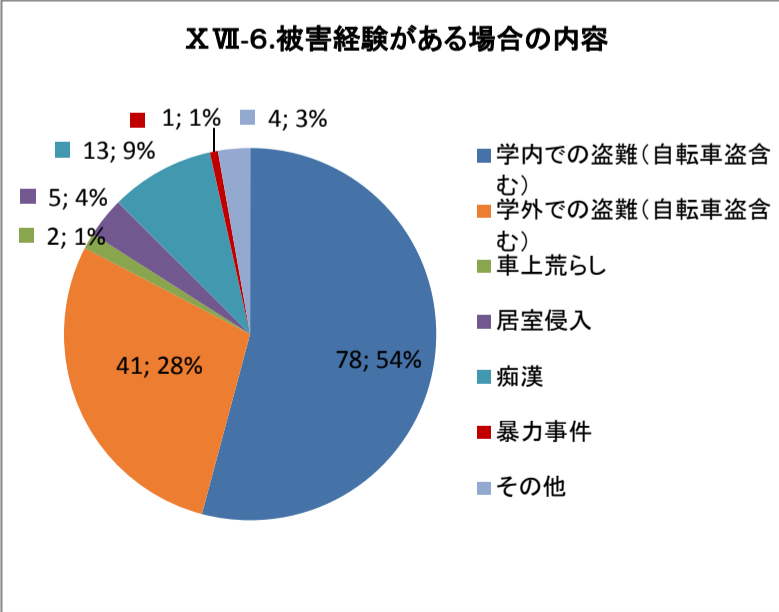


構内の交通事故に「遭ったことがある、遭いそうになったことがある」は25%であった。その詳細な内訳は不明であるが、交通マナーを向上させること等によって、これらの割合を減らす必要がある。

XVII-5



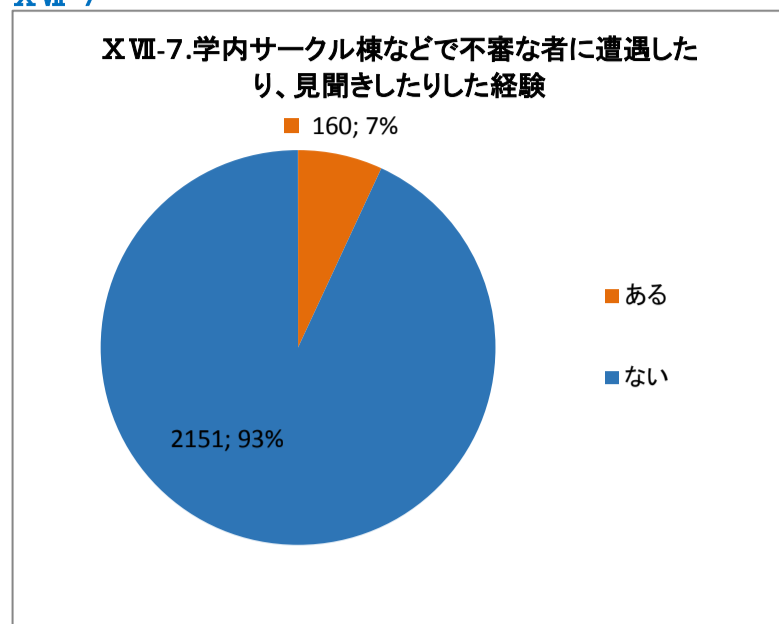
XVII-6



【その他】
・傘の盗難、原付の盗難未遂、声掛け、盗撮

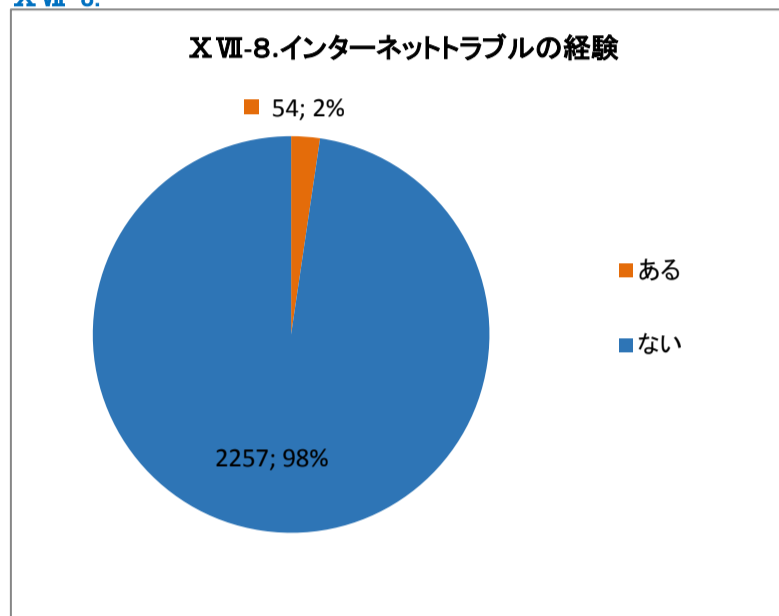
学内外での被害経験者で、盗難被害が8割程度を占めた。今後とも、自転車施錠の徹底など盗難を未然に防ぐ具体策を広く学生に告知する必要がある。

X VII-7



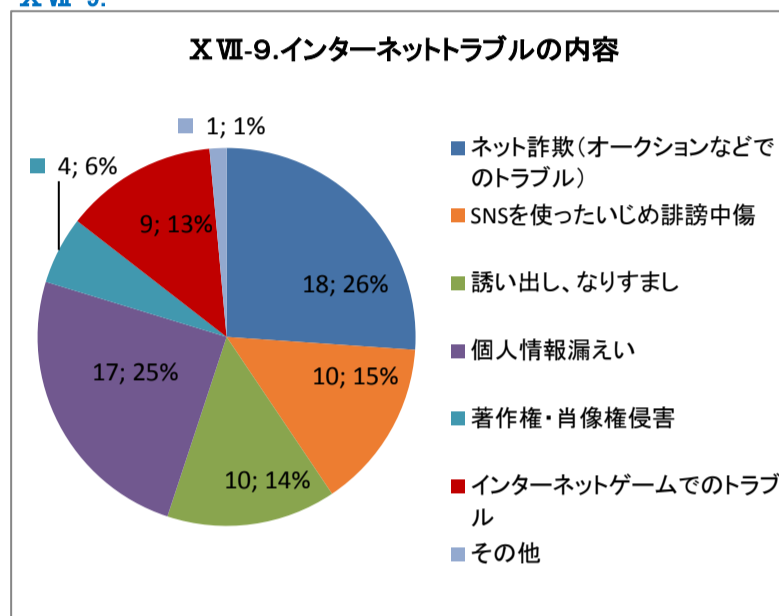
学内の不審者の遭遇及び情報については、7%と低かった。不審者の情報を精査し、頻発する場所があれば何らかの対処が必要であろう。

X VII-8.



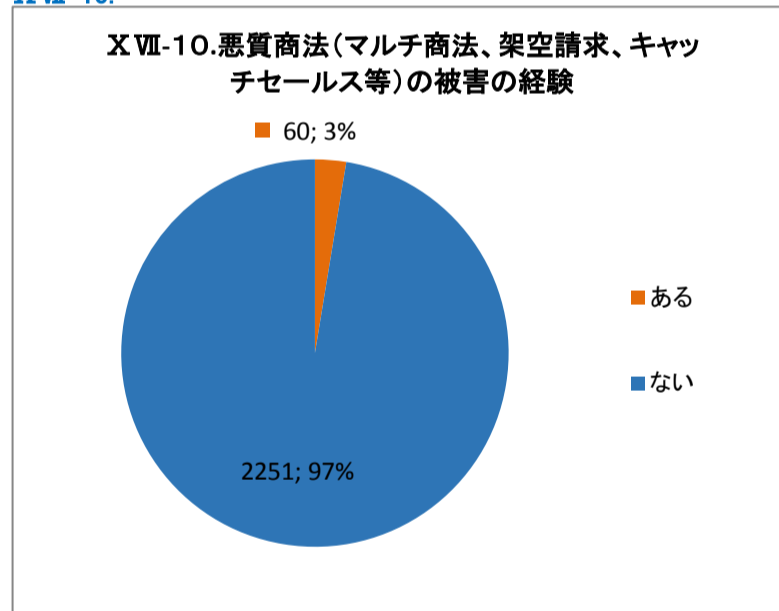
インターネットトラブルの経験者は少なかった。今後もインターネットトラブルについての指導を周知徹底していく必要がある。

X VII-9.



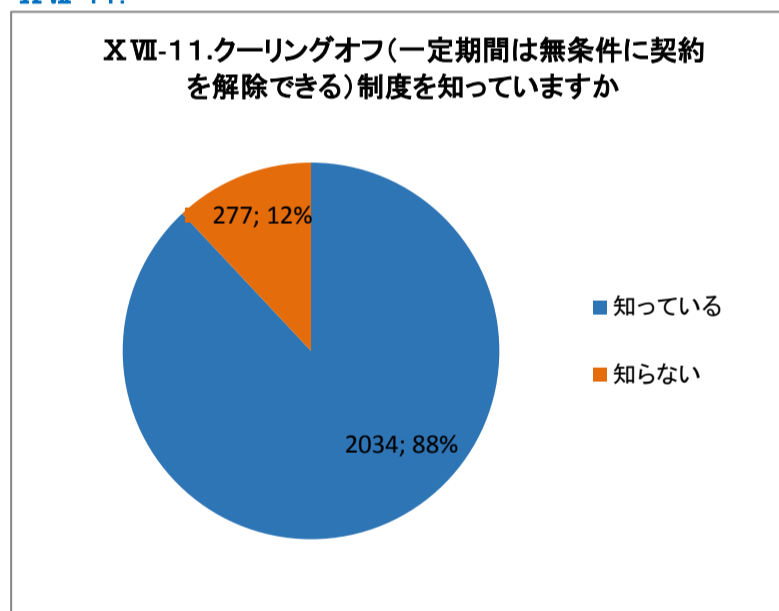
【その他】
・カードの不正利用

X VII-10.



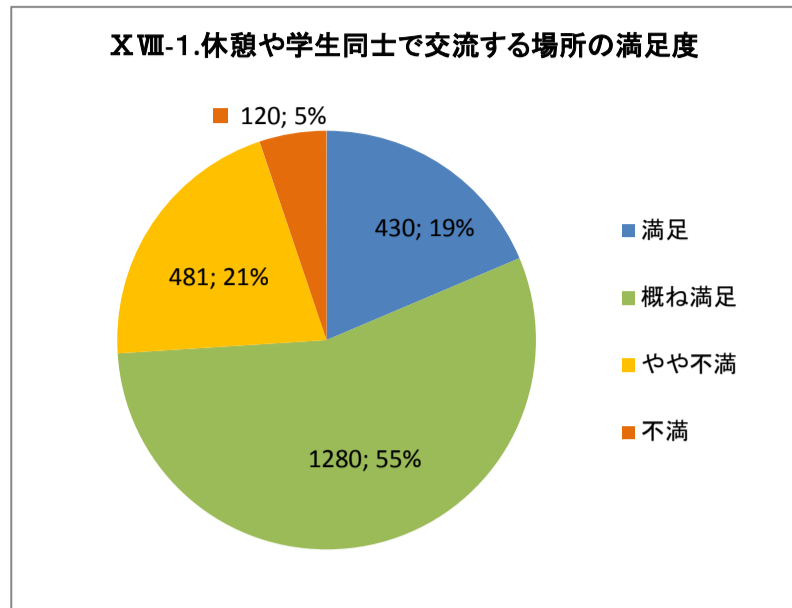
悪質商法の被害経験者は3%と少なかったが、クーリングオフ制度を知らない学生は12%であった。クーリングオフ制度をはじめ、悪徳商法に関する情報とその対応策を学生に定期的に周知する機会が必要であろう。

X VII-11.

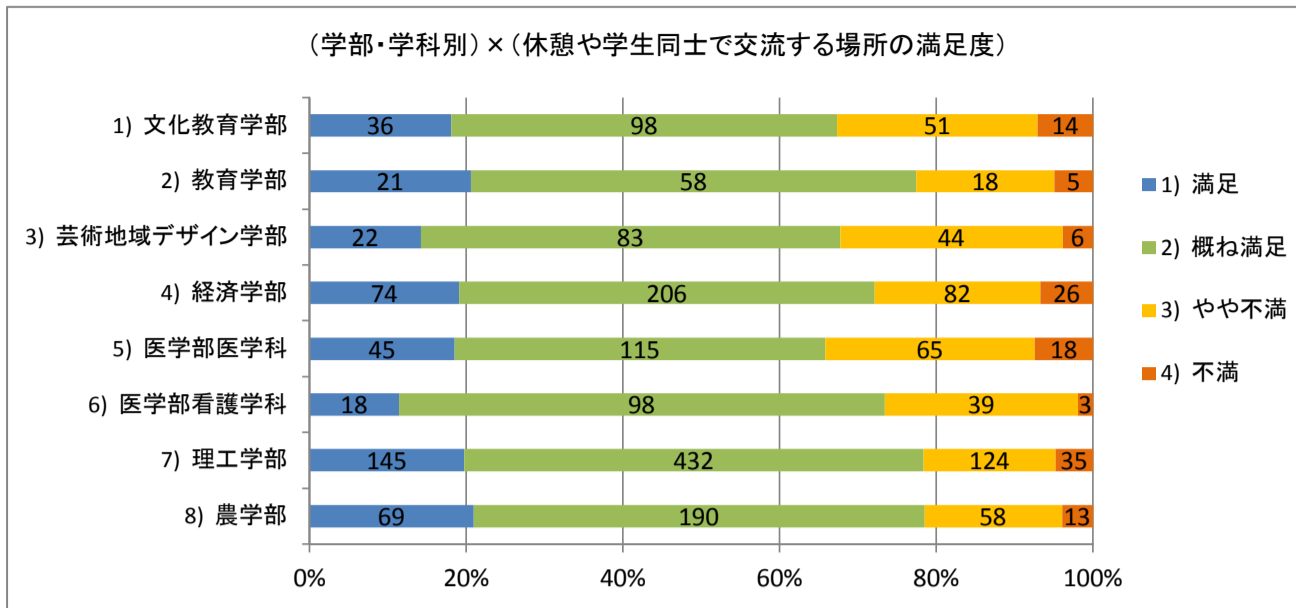


XVIII. 大学の施設・設備などに関する事項

XVIII-1

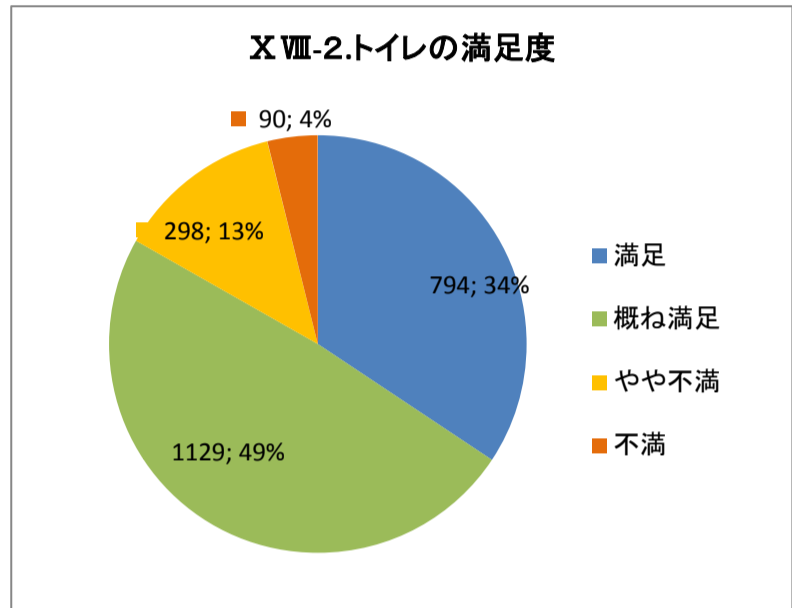


(学部・学科別) × (休憩や学生同士で交流する場所の満足度)

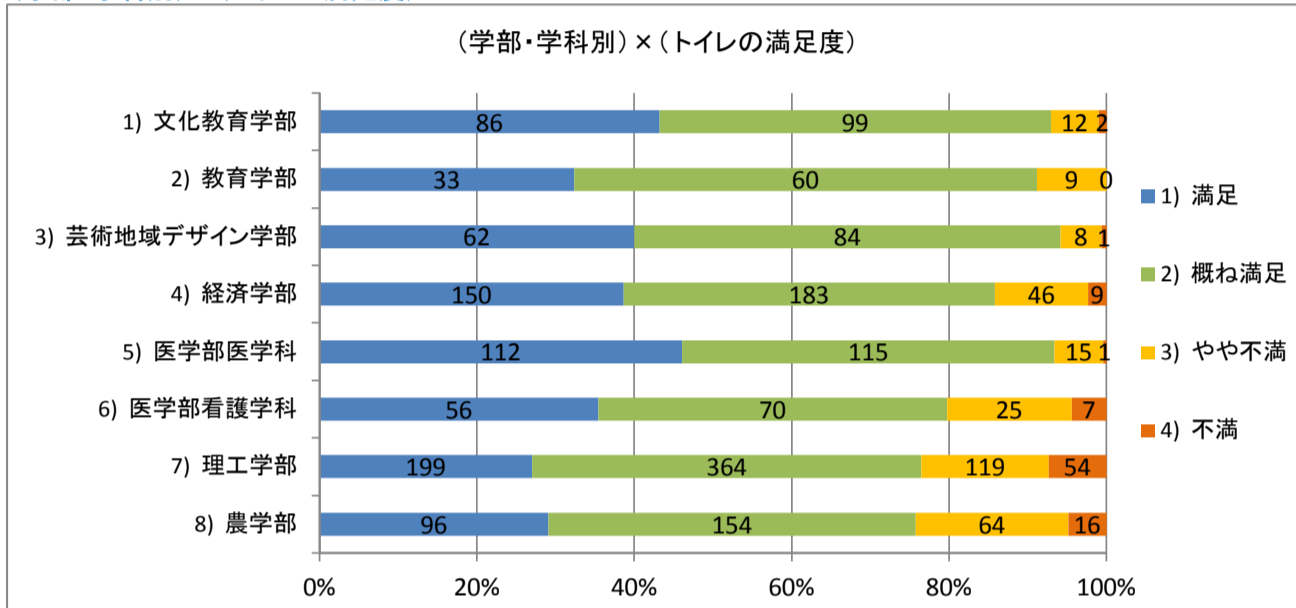


休憩や交流場所の満足度は、「満足、概ね満足」で74%と比較的高かったが、学部別では、文化教育学部、芸術地域デザイン学部、医学部医学科の満足度は他学部と比べ低い傾向を示した。

XVIII-2

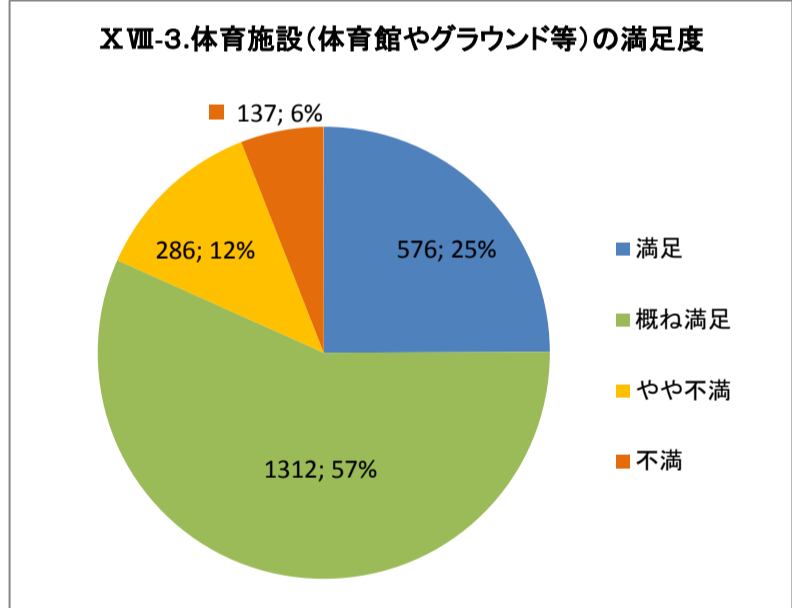


(学部・学科別) × (トイレの満足度)

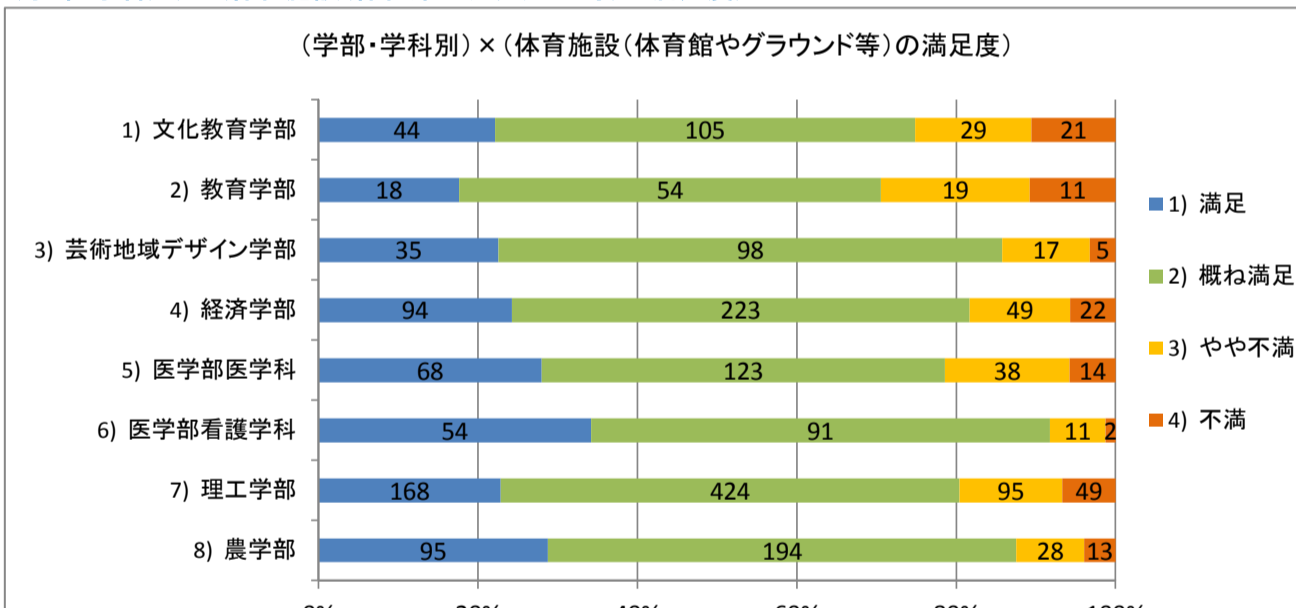


トイレの満足度は「満足、概ね満足」で83%と高かった。学部別では、医学部看護学科、理工学部、農学部の満足度が他学部よりも低い傾向を示した。

XVIII-3

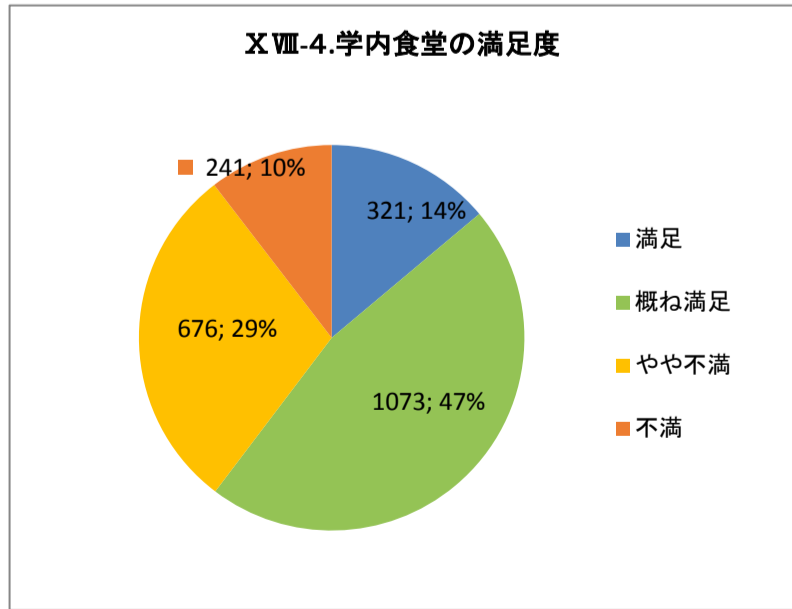


(学部・学科別) × (体育施設(体育館やグラウンド等)の満足度)

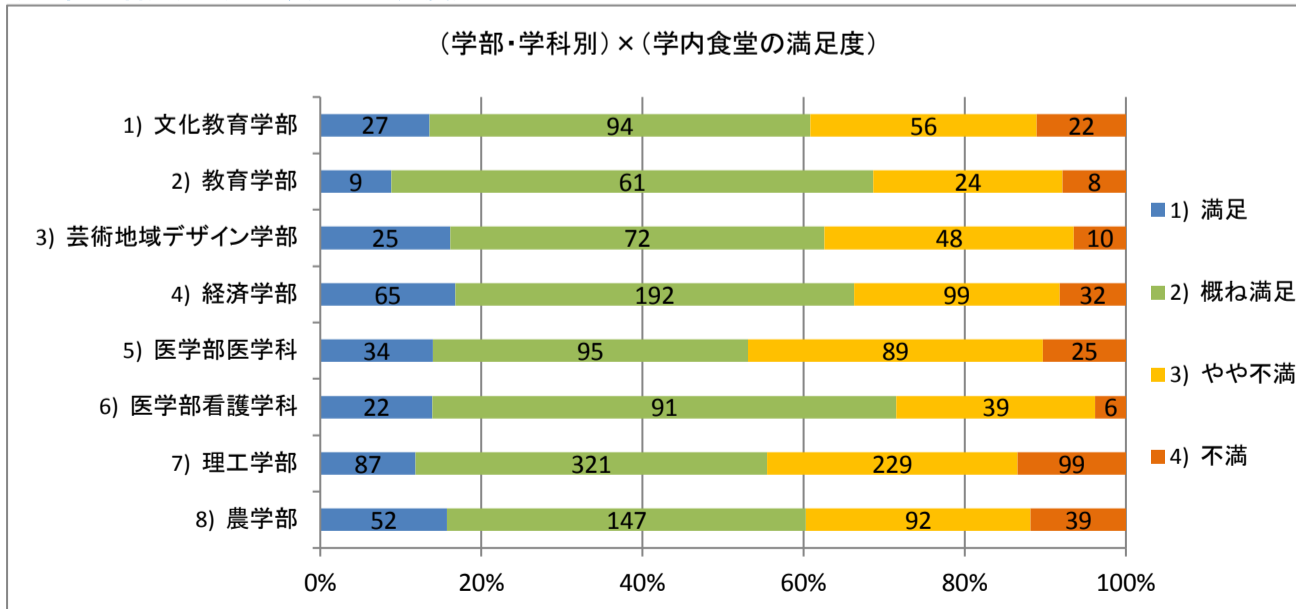


体育施設の満足度は「満足、概ね満足」で82%と高かった。学部別では、文化教育学部、教育学部の満足度が他学部よりもやや低い傾向を示した。

XVIII-4

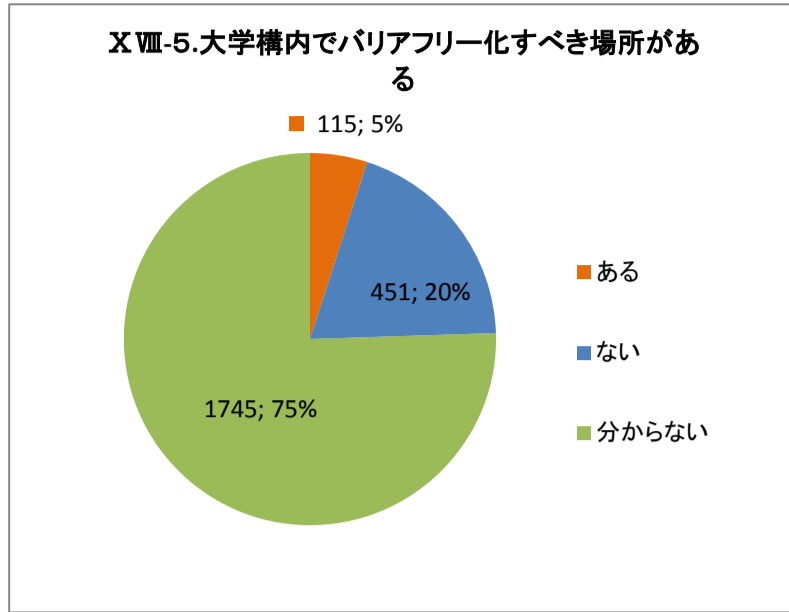


(学部・学科別) × (学内食堂の満足度)



学内の食堂は、他の構内施設と比較して、満足度(満足、概ね満足)は61%と低かった。学部別では、農学部と理工学部の「不満」の割合は、他の学部と比較してやや高い傾向にあった。かさざきホールのリニューアルによって、理工学部と農学部の満足度の改善に繋がるか注視する必要がある。

XVIII-5

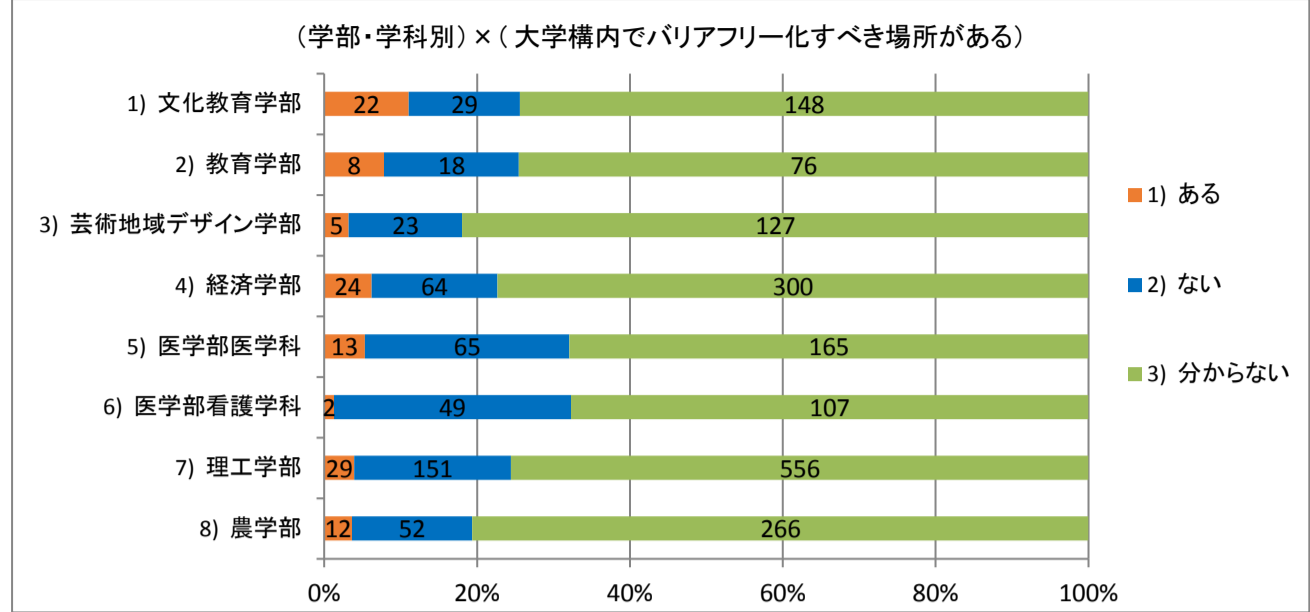


バリアフリー化すべき場所について、「ある」の回答は5%と低く、「分からない」は75%であった。「ある」の回答で、トイレの広さを含めたバリアフリー化の意見が複数見られ、今後の検討課題と思われる。

【あると答えた人】

- ・部活動棟の階段、足の悪い子が何人か二階で活動する部にいるが上の階へ上がりやすくするべき、少しでも体が不自由な人には厳しい作り。
- ・茶道部の先生が高齢なので3階まで来ていただくのもいつまで来ていただけるか不安。
- ・経済4号館にエレベーターがない、教養大講、エレベーターがない棟、経済学部の棟全般
- ・かささぎホール、大学学生会館にはエレベーターがないと思う。大学会館の売店の通路の狭さ
- ・大学会館の入り口
- ・農学部1号館、農学部本館はエレベーターがひとつしかない
- ・文教3号館、教育2号館3号館が階段のみ、教育1号館1階女子トイレ
- ・スポーツセンターの2階など、エレベーターを設置した方がいいと思う場所があるか
- ・講義棟と看護科棟の間の通路、臨床講堂
- ・トイレが狭いのではないか、スロープの増設、教室内、トイレ
- ・教務課の棟にエレベーターの設置、学生センターの建物はエレベーターがないから。
- ・学生センターへの入り口にスロープをつけたら良いと思う。
- ・講義室の椅子は車椅子の人が座るには不適切
- ・図書館前の階段、メインストリートの歩道などの細かい段差
- ・階段を使わずにエレベーターに到達することは可能であるが、大きな遠回りをしないといけなのでは意味がない。
- ・図書館の前の歩道、体育館の前の歩道、教養棟の裏、階段
- ・アグリセンター
- ・理工学部4号館は車椅子で入りにくい。
- ・全ての校舎。トイレが狭い。エレベーターがない、遠い。自動販売機はバリアフリーにならないんですか？

(学部・学科別) × (大学構内でバリアフリー化すべき場所がある)



【その他【自由記述】】

1. 教育に関すること

- 文教 ・学科や分野によって、ゼミ室等があるところとないところがあるのは、不公平だと感じる。
- 文教 ・自然災害等の時に休校にするかどうかを学祭の時のように早く決めてほしい。朝6時半に発表されても遅い。
- 文教 ・中高の免許科目の開講が減っており、履修計画が上手くいかず困っているので、改善をお願いします。
- 文教 ・講義によって支払いを求められる教科書代が高いものがあるのが気になります。
- 文教 ・不当に思えるほど高い教科書を必ず買わせる先生がいる。
- 教育 ・補講の情報を、補講日の2週間前には知りたい。
- 教育 ・成績を学外でも見られるようにしてほしい。
- 教育 ・ネット授業が増えとうれしいです。
- 教育 ・実習の計画が発表されるのがとにかく遅い。
- 芸術 ・時間割の組み方をちゃんととれるようにしてほしい
- 芸術 ・学外でも成績の閲覧ができるようにしてほしい。帰省している場合など、必ずしも長期休暇中にすぐ大学へ行ける状況とは限らないので、他大学のように 学外から閲覧ができた方が焦りも減り、精神衛生上良いかと思う。
- 理工 ・理工学部生の教職の履修について、専門周辺科目と教職科目(火曜一限)が被っているのでとても不便。
- 理工 ・理工学部・機能物質化学科の基本教養科目の単位数12単位は多すぎる。
- 理工 ・研究室配属の基準を年度で統一してほしい。→1年生から考えながら勉学に励むことができ、全体的な学力向上につながると思う。
- 理工 ・教職科目の講義の提示が遅い。提示が遅いならばメールすればいいと思う。理工学部の生徒にとっては提示場所までにかかり距離がある。不便。
- 理工 ・英語の担当の先生の授業が苦痛である。
- 理工 ・理工学部の教授を対象として、年に数回でもよいので、他学部・他学科の講義を見学する機会を設けて教員としての意識向上や指導法改善を図り、たくさんの教授たちと相互研鑽し、交流した方が良いと思う。
- 理工 ・教授自身の教育の質を向上させる為、各教科ごとの最適な授業方法を学ぶ研修会等への参加を毎年数回義務付けることが必要であると考える。
- 理工 ・教科書を早めに確実に取り寄せてほしい。授業に間に合わない上、一度強引に購入しに行った際それで遅刻をした。
- 理工 ・専門周辺科目の履修登録においてインターネット上で申し込みができるのに対して当選の確認、抽選から外れた場合の履修登録手続きがインターネット上でできない。これは非合理的ではないでしょうか？全てインターネット上でできるようにしろと意見したのですが反映される気配もありません。
- 理工 ・LiveCampusの認証番号は、一番最初の文の所に表示すべき
- 理工 ・学業成績が学内LANからしか見られないというのはどう考えてもおかしい。学外で頑張ってる人がそのために帰らなければならない可能性だって出てきてしまうかもしれない。
- 理工 ・教務システムを使いやすくしてほしい。
- 農 ・単位取得状況が卒業条件を満たしているかの確認が複雑なので、もう少し分かりやすくしてほしい。
- 農 ・講義室の椅子が固すぎる。
- 農 ・編入生に対する履修の負担が重い。無理やり受けさせられる感が強い。同じ内容や全く専門外の講義を受けることも多々あるので、つまらないし教員・学生双方時間の無駄。編入試験の合格後の入学確約書の提出期限をもっと早めてほしい。優秀な学生が他大学へ逃げ、結局追加募集を行うことになる。労力の無駄。入試課あほすぎ。
- 農 ・講義レベルが低い。
- 農 ・台風による休講などは早く連絡してください。この前の台風による休講の連絡は遅すぎます。
- 農 ・LPいらないます
- 医・医 ・試験の結果を、再試の時期に関わらず、できるだけ早く出すように努めて欲しい。また、結果が1ヶ月以上かかる場合はいつ出るのか連絡して欲しい。
- 医・医 ・国家試験前などになるとPBL室が上級生に占拠されてしまうので、グループ学習できる個室が増えると試験前などに利用できてよい。
- 医・医 ・PCからプリンターで印刷するとき、今は学内では年間上限枚数ありの白黒印刷に限られているが、カラー印刷もできるようにすると実習などのレポートや授業に必要な”

- 医・医 ・医学科卒業試験の本試験と再試験の日程が近く、再試験のために勉強し直す猶予が無い。勉強を促し合格者を増やすなら、本試験と再試験の日程を少し空けるべきかと思う。
- 医・看 ・履修登録の案内や次学期の時間割は早めに知らせてほしい。予定が組めない。

2. 課外活動に関すること

- 文教 ・トレーニングルームの設備をもっと充実させてほしいです壊れているものもありトレーニング中の怪我等危険だと思います。
- 文教 ・ウエイトルームを広く、綺麗にしてほしい
- 文教 ・部活動がもっと活発に活動出来るように体育施設を充実させて欲しい。
- 文教 ・体育施設の設備が悪いと思う。
- 文教 ・体育館を増やしてほしい
- 文教 ・体育館の設備をよくしてほしい。
- 文教 ・グラウンドを芝に変えてほしい
- 文教 ・弓道場の守衛による戸締りが早すぎる
- 文教 ・陸上競技場の質が悪すぎます。
- 文教 ・第二サークル会館の製氷機が1つしかないので夏場に氷がなくなることがあり熱中症の危険が高まるので、増やすべきだと思います。
- 文教 ・野球場の駐車場が使えなくなったので路上駐車が増えてかなり迷惑しています。関係していないのに警察がきて練習が中断になったこともあります。オレンジのポールにより道幅も狭まり人や車が混み合う光景も目にします。ぜひ以前のように開放してください。
- 教育 ・体育施設に関して、筋力トレーニングをする施設の設備の老朽化が激しく、壊れている器具もいくつかあり危険なので改善してほしい。また入口の冷水機を早く治してほしい。
- 教育 ・体育館をもっと広くするか綺麗にするかして、とにかくどうにかしてほしい。体育館の環境がとても悪い。
- 教育 ・部活動の金銭的補助をしてほしい。
- 芸術 ・部活の練習場が増えると嬉しい できれば鏡付きがいい
- 理工 ・トレーニングルーム(筋トレ)の充実化
- 理工 ・体育系サークル会館の筋トレルームの整備をしてもらいたいです。床のタイルが剥がれてたり、壁に穴が空いてたり、筋トレ器具が古くなってたりしているので綺麗にしてもらいたいです。
- 理工 ・ウエイトルームの整備、冷水機の修理をして欲しい。
- 理工 ・誰でも使えるジムがほしい
- 理工 ・体育会サークルの部室や道場、トレーニングルーム、シャワー室などがある建物(多トレの横)の給水機を早く直して欲しい。
- 理工 ・体育館を部活以外の者にもあけて欲しいです。マイナーなスポーツはサポートされていません。大人向けの遊具をもっと設置したら嬉しいです(例えば鉄坊の隣で)。現在、「かつこいい」と評価があるスポーツ(例えばパクール)はどこでもできません。大学だけではなく佐賀市全体が楽しいスポーツする場所を提供していません。⇒運動不足⇒生活習慣病。
- 理工 ・野球のグラウンドの水はけがすごく悪くて雨が降ったら2~3日くらいグラウンドが使えない状態なので、もう少し水はけのいいグラウンドにしてほしい。
- 理工 ・サークル会館(文系)をきれいにしていただけるとありがたいです。(主にトイレ)
- 理工 ・文化系サークル会館を24時間開放にしてほしい。警備員はいらない。
- 理工 ・文化系サークル会館の閉館時間変更を利用者への通知・相談がなく行われたことがあり、強く不満を感じている。
- 理工 ・大学祭の中央実行委員会の負担が肥大化していると思います。
- 理工 ・学祭をもっと楽しいものにして欲しい。
- 農 ・サークル活動を行う場がない。
- 農 ・スポーツセンターのシャワーをキレイにしてほしい
- 農 ・佐賀大学グラウンドの400mトラックのコースの除草をお願いします。刈ってもすぐ伸びて走れなくなるので、除草していただきたいです。
- 農 ・サークル会館の建て替えの予定はありますか？
- 医・医 ・鍋島の体育館は雨の日はかなり滑って危険。どうにかしてほしい。
- 医・医 ・鍋島キャンパスのプールを直して欲しいです。

医・医 ・鍋島のプールを早く修理してください。部活ができません。

3. その他学生生活に関すること

- 文教 ・悪質な宗教勧誘を見かけなくなったのが学内生活の水準を引き上げ、なおかつ新入生への安心感へと繋がったように思われる。自分も何度も絡まれ鬱陶してしまいがなかつたので嬉しかった。今後もより良い学生生活を享受する為に悪質な宗教勧誘を撲滅するような環境作りをして頂けるとありがたいと思う。
- 文教 ・就職のサポートをもう少しして欲しかった、他大学に比べ、学内での企業説明や就活サポートが手薄いように感じる。
- 文教 ・就活のことに限らず今後は学生生活課や教務課などでももう少し学生に対し親身になってほしいと思う
- 文教 ・就職センターの面接練習の予約がとれない
- 文教 ・大学のいろんなアドレスから携帯にメールが来るので確認したりするのが少し面倒です。
- 教育 ・大学内、外において宗教団体が二、三人のグループを作り、半ば強引に取り囲むようにして勧誘してくるので、これに対し何らかの対応してほしい。自分も去年数回声をかけられたりした。場所としては、大学前のセブンイレブン駐車場や学生会館付近の裏門だった。大学内の学生会館付近の駐輪場。
- 教育 ・学費免除を親の収入で見てほしくないです。
- 教育 ・教務課の職員の態度が気になる。海外研修先が少ない。掃除が行き届いてない部屋がある。
- 教育 ・自習やグループ活動ができる場所、印刷できる場所を増やしてほしいです。
- 芸術 ・アルバイトなどをもっと紹介してほしい。
- 芸術 ・ログインする時のワンタイムパスワードがメールで送信されないことがあります。(メアドは登録してあります。)
- 経済 ・経済学部の窓口の方の対応が非常に悪いです。仕事を増やすなど言わんばかりの対応でやる気がありません。
- 理工 ・授業料免除制度の対象者を増やしてほしい。
- 理工 ・教務課、学生生活課の先生方の表情や対応が冷たく、立ち寄りがたいので改善していただきたい。
- 理工 ・勉強やなくていいから他学部生とか留学生との交流の機会が欲しい
- 理工 ・大学の自習室を増やしてほしい
- 理工 ・自習室の机の上に床に置いたリュック等を置かないように注意喚起する貼り紙をしていただきたい。
- 農 ・学務課の学生に対する態度をもう少し改めてほしい。入学初年度で履修についてわからないことがあったので質問したところ、高圧的に上からものをいう方がおられた。特に年配の男性。確かに、年齢的にも立場的にも上である
- 農 ・教務課と学生センターの閉まる時間を遅めてほしいです
- 農 ・アメリカや東京にあるような進んだものを積極的に取り入れてほしい。また、取り入れたならライブキャンパスで宣伝してほしい。東京でやっている、セミナー、講演会を開催してほしい。
- 農 ・大学生生活に必要な情報(学業関係も含む)はライブキャンパスで統一してほしい。
- 農 ・掲示板が複数あり、かつ古い情報も多いから必要な情報を見分けるのに時間がかかる。
- 医・医 ・学生課はサークルに対してもっと敬意を持って仕事をしてほしい
- 医・医 ・学生課が仕事をしない。どうでもいい仕事ばかりする。留学の機会を増やして欲しい。
- 医・医 ・24時間学習できるスペースが欲しい。本庄には個別の学習ブースがあるのに、何故鍋島にないのか理解できない。
- 医・医 ・自習する場所を増やして欲しい
- 医・医 ・学習室が少ない
- 医・看 ・医学部にも寮をつくるべき。また、かささぎ奨学金のさらなる充実や、医学部の学生の留学にも力をいれてほしい。
- 医・看 ・未成年の飲酒禁止や、飲酒運転禁止を徹底して欲しい。

4. 図書館に関すること

- 教育 ・図書館利用を大学生のみ利用できるようにして欲しい、
- 教育 ・高齢者一般の人がうるさい、自習の妨げとなる
- 教育 ・土日祝日の図書館の閉館時間を21時くらいまでにしてほしいです。
- 理工 ・図書館のグループ室5でエアコンの音がやや大きいです。
- 理工 ・図書館に数学書をもっと入荷してほしい。特に洋書。和書でも改訂前のものだったり、いつまでもシラバス図書になっていて借りづらいものもある。
- 理工 ・図書館の扇風機が足りなくてクーラーもあまり効きすぎなくて夏に図書館での勉強がしづらい

- 農 ・以前同学部友人が図書館において知らない男性(中年くらい?いわゆるおじさんと呼ばれるくらいの歳っばい)に、PCで調べ物をしている時に突然怒鳴られたと言っていたのですが、他にも同様の事に遭った学生等はいらっしゃいますか?この事が少し心配で入口近くの窓際のPCがあるあたりはあまり利用していません。
- 農 ・図書館前広場の笹の管理をしてください。夏になると笹がのびて道がなくなっていました。
- 医・医 ・図書館に最新の論文やガイドライン、参考書がないのは困る。
- 医・医 ・図書館を24時間開館にしてほしいです。
- 医・医 ・図書館のコピー機増やしてほしい
- 医・医 ・図書館の医学書がほとんど10年前のものなどなので、役に立ちません。
- 医・医 ・最新の医学書を置いて下さい。
- 医・医 ・最新の医学書を置いてください。医学書は5年以上前の情報は使えなくなります。

5-1. 施設・設備に関すること

- 文教 ・文化教育学部の設備を理系棟のように良くして下さい。
- 文教 ・もっと休憩する場所や自由に使えるスペースを増やして欲しい
- 文教 ・大会館を広くして欲しいです。
- 文教 ・大会館の芝生と道路を区切る段差に金属の柵と鎖がありますが、芸術棟から会館へ直線で向かう時に足を引っ掛けやすいので鎖を撤去して頂きたいです。
- 文教 ・芸術棟の2階と3階にプラスチック用のゴミ箱を設置して頂きたいです。
- 文教 ・教養一号館の階段が汚いのですが清掃の方を雇ってないのでしょうか。
- 教育 ・音楽棟の練習室などを防音室にして頂きたいです。音漏れが酷く、練習に集中できません。良い練習環境が欲しいです。
- 教育 ・雨の日の移動が辛いので学内全域を屋根で覆うべき。
- 教育 ・企業の設営よりも既存設備の拡充をしてほしいです。
- 教育 ・大学の校舎内、特に教養棟の埃や汚れがひどく見苦しいので掃除をしてほしい。
- 芸術 ・昼休みの時間にクーラーがつかないので、つくようにしてほしい
- 芸術 ・自販機の増加
- 芸術 ・コインロッカー的な簡易荷物預かりの場所が学部棟に欲しい。朝から来て5限に使う資料やPCをずっと持ち歩くのは負担。
- 理工 ・休み時間にクーラーを消すのをやめて欲しい
- 理工 ・施設間の移動をもっと簡易にして欲しい。特に夏季は汗をよくかくので外がきついです、せめて時間外にもクーラーをつけられるようにして欲しい
- 理工 ・日曜や祝日に学部棟に入れず、レポートの提出を落としそうになったので見直して欲しい。
- 理工 ・土日に入れない事がある
- 理工 ・講義室付近に自販機が欲しい。かささぎホールの改修のために空き時間に飲み物を確保することができず、授業に集中できなかった経験がある。さらに、かささぎホールの改修が終わったとしても自販機があれば4階教室から急いで買いに行く手間も省ける。
- 理工 ・授業がないときに過ごすスペースがもっとほしい
- 理工 ・空きコマにゆったりできて、設備も充実してきる部屋をもっと増やしてほしい
- 理工 ・実家通いだっただころ、空き時間の過ごし方にすごく困った。そういう人でも気軽に休める空間をつくって欲しいとずっと思っていた。仮眠室や、普通に会話しても大丈夫な部屋(勉強、食事等を目的としていない)などがあるといいと思っていた。また、学科によっては分厚い教科書を何冊も必要な日があり、ただでさえ通いは電車で立ったりするので疲れる。利用可能なロッカーなどがあるといいとおもった。
- 理工 ・なんだか寂しくなるので、あんまり木を切って欲しくないです。
- 理工 ・雨天時に濡れない環境づくりをしてほしい。建物と建物の移動の際 例)通路に屋根つけたり
- 理工 ・図書館テラス作るより駐輪場増やしてください
- 農 ・冷暖房をどうにかしてください
- 農 ・研究室に在籍する前は、コインロッカーがあると助かる場面が多くあった。
- 農 ・大学内に荷物をおけるロッカーが欲しいです。
- 農 ・食堂、教室改築や休憩室の減少で、ご飯を食べるスペースが不足していると思います。対応をお願いします。

- 農 ・空き時間に自由にスポーツができる施設があればよいなと思います。
- 農 ・農学部大講義室の後ろの喫煙所の場所を切実に変更して欲しいです。風がある日ない日関わらず授業中にもものすごく煙が入ってきて授業に集中できません。
- 農 ・軽い喘息持ちなんですけど咳が止まらなくて辛いです。どうかお願いします。
- 農 ・農学部の喫煙所の場所を変えて欲しい。農学大講で授業の時に、タバコの匂いが入ってくる。
- 農 ・美術館を作った意味がわかりません。はこ作るのが好きなんですか？美術館作るお金があったなら、サークル会館と学生会館を新しくしてください。
- 農 ・学内の看板に古い地図が残ったままです。地図を更新してください。
- 農 ・学生会館の前の芝生の回りを鎖で囲って入れなくしてる意味がわかりません。解放してほしいです。
- 農 ・休憩するスペースが少ない。
- 医・医 ・講義棟の24時間開放
- 医・医 ・快適に学習できるスペースと、適切な温度管理のされた場所が少なすぎて、貴重な空き時間に学習にありつきにくくなっています。工事などの関係上仕方ないかもしれませんが、学生のマナーの向上を前提とした上で、もう少しだけ学習スペースを充実させていただきたいです。
- 医・医 ・路面の水はけを良くしてほしいです。
- 医・看 ・改修工事が行われている途中であるが、看護学科棟は赤レンガのままである。
- 医・看 ・大学に明るいイメージを持っていたので、最初に来た時にイメージと違うと感じた。外装だけでなく、古さもあって医学科棟のキレイさに比べると床や壁など痛みがあって、電気は節電のためにつけることができないにしても暗く、建物内の雰囲気も暗いと気分も暗くなると思う。

5-2. トイレに関すること

- 文教 ・トイレの荷物掛けが高くて届かない。
- 文教 ・校内の洗面所に石鹸が置いてないことが多い。衛生面での不安があるのでストックを置いておいてもらいたい。洗面所内自体はいつも非常に綺麗で使いやすい。
- 教育 ・トイレをもっと増やしてほしい
- 教育 ・多目的トイレが少なすぎだと思います。
- 教育 ・トイレがいつもきれいなので、他の大学の友人に自慢しています。ありがとうございます。
- 芸術 ・サークル会館の男子トイレの壊れた便器を直して欲しいです。よろしく願い申し上げます。
- 理工 ・理工学部院棟の4階の女子トイレが一つしかないのはとても不便だ。いつも並んでいる。
- 理工 ・理工学部棟のトイレを増やしてほしい
- 理工 ・理工学部のトイレを洋式にするべき。
- 理工 ・ウォシュレット付きの清潔なトイレを増やしてほしい
- 理工 ・改装しないでいいとこ改装してる。理工学部7号館のトイレ汚すぎるからそっちからして。
- 理工 ・すべてのフロアに男子トイレを作ってほしい
- 理工 ・一部の学科にしかトイレに石鹸が配備されていないので、全ての学科のトイレに石鹸を配備してほしい。
- 理工 ・理系の方のトイレにもせっけんを置いてほしい。
- 理工 ・すべての棟のトイレにハンドソープを置いてほしい。特に理工学部と会館。
- 理工 ・理工学部の棟のトイレには、石鹸がどうしてないのですか？
- 理工 ・理工学部のトイレにキレイキレイみたいな石鹸がほしいです。
- 理工 ・トイレの洗面所に石鹸がある棟とない棟がある。なるべく、全ての棟の洗面所に石鹸を設置して欲しい。
- 理工 ・トイレにせっけんをおいてほしい。
- 理工 ・サークル棟のトイレをきれいにしてほしい
- 農 ・トイレの個室の数を増やして欲しい”
- 農 ・理系の棟にも、パウダールームや、綺麗なトイレが欲しいです。文系の棟のような。
- 農 ・トイレの個室をきれいにしてほしい。
- 農 ・ウォシュレットが付いているトイレが少ないので何とかしてほしいです。
- 農 ・和式トイレをなくして欲しい。情報基盤センターのトイレを洋式トイレにして欲しい。

- 農 ・サークル会館のお手洗いにハンドソープを常備してほしい。
- 医・医 ・女子トイレの清掃について不満がある。使用中に男性清掃員が入ってくる、汚物入のゴミを透明な袋にまとめて人目につく場所に放置してある、などあまりいい気持ちがない。

5-3. 駐車場等に関すること

- 文教 ・駐車場をもっと増やしてほしい。また、駐車場の料金が高いので違法駐車が増えている。
- 教育 ・学内の駐車場が非常に不足しており、駐車場外の場所に停める人がいるので学内駐車場を拡張してほしいです。
- 教育 ・駐車場の車の管理を徹底してほしい。
- 教育 ・駐車場の充実をお願いいたします。
- 教育 ・駐車場利用許可認定の幅をもう少し広げてもらいたい。
- 理工 ・駐車場のスペースが圧倒的に足りていないと思う
- 理工 ・車で通学者に対して学内の利用許可の条件を緩和してほしい。
- 理工 ・駐車許可証の交付を半期ごとにおこなってほしい
- 理工 ・駐車スペースにも余裕があるように見えるので県内在住の学部生にも駐車許可証の発行をしてほしい。
- 理工 ・佐賀大学内の駐車場の年間契約できる条件をもっと緩くしてほしい。
- 理工 ・大学構内(本庄キャンパス)の東西の移動バスカード一枚で通行できるようにしてほしい。
- 理工 ・バスカードの利用期限を一日にしてほしい。
- 農 ・農学部の駐車場が狭すぎる。また、かさざぎ会館職員なども農学部駐車場に停めるため、農学部の学生が停められない状況が多すぎる。
- 農 ・駐車場数があまりにも少ない。
- 農 ・コンピューター室の裏の駐車場スペースを、自転車が通り抜けれる道を作って欲しい
- 農 ・駐車券をまとめ買ったときの、領収書では、1日2度目の入場に手間がかかるので見直してほしい
- 医・医 ・不適切な駐輪や駐車を取り締まることなく、適切な審査を行わないまま駐車許可を濫造しているがために構内の駐車場は乱れており、モラルのかけらもない。
近隣に居住している学生にもみだりに発行することで、本来必要な人間(通学生や職員など)が取得できない、駐車できないという状態を6年にわたって見てきた。
6年で一度も改善することがなかったので今後もこの大学には無理かもしれないが、迷惑を被っている人が多くいることから目を背けてはならないと感じる。
- 医・医 ・学内駐車場の駐車許可証について、一枚のカードを使い何台も駐車している部活や、現在佐賀大学に通学・通勤していない人(卒業生や退職された先生)のカードを不正に使用している人がいるせいで駐車スペースが少なすぎる。
お金を払って正式に自分のカードを使っている人がかわいそう。学生だけでなく病院の職員の方のほうも困ると思う。
駐車許可制度がなくなるのはすごく困るが、不正に使用しているのはやめるべき。
- 医・医 ・駐車場の許可証を低学年にも発行してほしい。(それ相応の審査の上で)
- 医・医 ・5、6年生にならないとパスカが貰えないので、通学時間の長い人についてはもう少し早く貰えるようになるといいと思います。

5-4. 駐輪場等に関すること

- 文教 ・屋根がある駐輪場を増やしてほしい
- 文教 ・大学正門側の道路に面したサークル会館近くの駐輪場(ほっともつと向かい)に貼ってある「自転車は左側通行」の掲示が進行方向の左側に貼られているため、右側通行の自転車に見えるように反対側に貼って欲しいです。
- 教育 ・駐輪場を増やしてほしい。
- 教育 ・駐輪場の屋根が錆びているところがあるので対応してほしい
- 芸術 ・駐輪場が足りないと感じる。
- 芸術 ・駐輪場の確保をして欲しい
- 芸術 ・駐輪場の屋根の増加
- 理工 ・自転車道と歩道をわけてほしい
- 理工 ・佐賀市内にあるような自転車専用の道路や歩行者専用の道を定めるなどして、交通整理をできるだけ行ってほしい。
- 理工 ・学生の駐輪のマナーを徹底してほしい
- 理工 ・駐輪場を広くしてください。

- 理工 ・理工学部の駐輪場に屋根を作ってほしい
- 理工 ・理工学部院棟の駐輪場を屋根つきにしてほしい
- 理工 ・車と同じようにバイクも構内に入れるようにしてほしい。
- 農 ・学内に自転車通行帯を設置してほしい
- 農 ・駐輪場がかなり不足しているから増設すべきだ
- 農 ・自転車の数の割に駐輪場が少なすぎだと思います。
- 農 ・図書館横の駐輪場を充実させてください。
- 医・医 ・駐輪場に屋根をつけてほしい。
- 医・看 ・駐輪場が狭すぎて、停めてはいけないところに停めている人がたくさんいます。停めてはいけないというのであれば、もっと広くしていただけるとありがたいです。

5-5. かささぎホール改修工事等に関すること

- 教育 ・早く工事を終了していただきたいです。カササギ食堂・教養棟
- 教育 ・改修工事を早く終わらせてほしい
- 理工 ・かささぎホールの工事を早急に進めてほしい。
- 理工 ・はよかささぎ欲しい
- 理工 ・かささぎ食堂の一日も早い再開を心待ちにしております。
- 理工 ・かささぎ食堂」を早く開けてほしい
- 理工 ・かささぎが建て治し終わるまで、学食の販売を理工学部でもっとしてほしい。
- 理工 ・かささぎホール改修に関する情報を公表してください。 弁当販売のスペースを理院棟内に設けてください。 学生に対して特に情報公開という面で甘いと思われる部分が散見されます。しっかりと伝えるべきところは伝えるようにしてください。自分たちが聞きに来ないからといった上からの態度は今の時代にはそぐわない旧態依然とした考え方だと 思われます。その辺をもっと意識して頂けるとさらに安心して学業に取り組むことが出来るのではと愚考いたします。
- 農 ・かささぎを早くopenしてください。そして、工事を実施するのならなゼミールを販売する際に教えて下さらなかったのか 理解できない。詐欺行為に近く、返金の方法もあり得なかった。 教えて下されば買うわけ無かったのにとっても不愉快な思いをしました。
- 農 ・なるべく早く、かささぎホールを利用できるようにしてほしい。
- 農 ・かささぎはやくなおしてほしい
- 農 ・かささぎ食堂が工事中で購買や食堂の利用が大変不便です。理系(農学)棟に、プレハブで構わないので購買店の 需要があると思います。
- 農 ・かささぎが改装中のあいだもう少し理系学部への販売の配慮をしてほしい。雑貨ふくむ
- 農 ・建物の建て替え時期をどうにかできなかったのか。
- 農 ・かささぎが使えなくなってお昼ご飯を食べたり買ったりするのが不便なので、理系の方に仮設の売店を作って 欲しいです。

6. 食堂に関すること

- 文教 ・食堂が美味しくない
- 文教 ・食堂がせますぎる。
- 文教 ・学食スペースを増やしてほしい
- 文教 ・学食を広くしてほしい
- 教育 ・学食で、揚げ物以外のメニュー(主菜)を増やして頂きたいです。
- 教育 ・並びがひどいです
- 教育 ・食堂の値段を下げるか量を多くしてほしい
- 教育 ・生協の弁当が高い
- 教育 ・食事ができるスペースを増やしてほしい。
- 教育 ・学食は学生会館とかささぎだけでは足りないなので、学食を提供するところをつくってほしい。
- 教育 ・昼食を食べるスペースが非常に不足しているので、早急に確保してほしいです。

- 教育 ・弁当を1人で食べる際にテーブルを1人で占領してしまうことになり、グループで食べる際には座れないなどの問題があるので、飲食が可能な「おひとり様専用テーブル」を設置してほしいです。
- 教育 ・ホームページで食堂メニューについて知ることが出来ると嬉しい。
- 芸術 ・学生会館の学食が不潔である。害虫をよく目にする。頗る不快である。
- 理工 ・食堂のメニューに変化をつけてほしい。
- 理工 ・学食のとり天ポン酢を復活させてほしい
- 理工 ・もっと学食を安くしてください、あるいは安くてもお腹が膨れるものを置いてください
- 理工 ・食堂を増やしてほしい。
- 理工 ・学食の設備をもう少し充実してほしい。
- 理工 ・学食を民間の企業に委託して、競争をしてほしい。それができないなら、学生たちを満足させたら。
- 農 ・食堂をもっと充実してほしい(和洋折衷楽しめる内容にしてほしい)
- 農 ・学食のメニューをもう少し増やすか、フェアの期間を長くしてほしい。
- 農 ・もう少し魚のメニューが増えてくれると嬉しい。
- 農 ・学食のクオリティが低い。
- 農 ・食物アレルギーの人にやさしい食事を提供してほしい
- 農 ・食物アレルギーの表示をするべきだ
- 農 ・学食の値段をもう少し安くしてほしい。
- 農 ・食堂の飯が高い
- 農 ・学食 生協の商品が高い
- 農 ・食堂や売店をもっと広くしてほしい
- 農 ・昼時は食堂が人であふれかえっていてとても食事できるような状態じゃないので何とかしてほしいです。
- 農 ・大学内に店舗を増やして欲しい
- 医・医 ・食堂が小さい
- 医・医 ・医学部の食堂を広くしてほしい。
- 医・医 ・医学部の学食が狭いと思います。
- 医・医 ・医学部の学食のメニューをもう少し増やしてほしいです。
- 医・医 ・学生食堂の開館時間延長
- 医・看 ・医学部学食の席が足りないので、増やして欲しい
- 医・看 ・鍋島の学生食堂のレジが2つというのはあまりにも少ないと思っている。毎日建物の外まで列が伸びていて、効率が悪く時間がかかりすぎなのでは・・・。

7. 生協に関すること

- 文教 ・学生会館のパウゼが人の多さに対して狭すぎます
- 教育 ・カササギ食堂がなくなってミールカードユーザーとして、とても不便になり不満です
- 理工 ・生協の弁当が、ミールカードの分を回収するためなのか、やや割高に感じられる。また、弁当に野菜の量が少ないのでもう少し野菜を多く使った弁当がほしい。
- 農 ・ミールカードが飲み物だけ買う時に使えないのは嫌だ。
- 農 ・カササギ購買と、パレットの品揃えが若干異なるのが困る時があった。
- 医・医 ・購買スペースの充実と拡充や、鍋島での大学生協運営の書店ができるとうい。
- 医・医 ・大学生協の窓口を鍋島にもつくってほしい。自動車学校の申し込みを大学生協で行ったら、本庄に行かないと手続きができず、交通費や時間などで手間取って大変だった。

8. その他

- 文教 ・文系の研究費の増加
- 文教 ・全体的に不満が多い学生生活でした。特に就職活動のときは他大学とのサポートの質の違いを感じました。せめて他の国立大学と同レベルにしてほしいです。
- 文教 ・いい教授は他大学に引き抜かれ、質の悪い授業をする教授が多いと思います。

- 文教 ・教員の服装に関して。職員の方は全員ちゃんとしていらっしゃいます。短パンで学内を歩いていらっしゃる、ある方を見ると悲しくなります。一般企業では考えられません。 その方は、就職指導はできないでしょうね。指導をお願いします。
- 文教 ・こういった調査の類への回答を繰り返し求めてくるのはできれば止めていただきたい。回答するしないに自由があるのであれば何度もお願いするのは妙だし、どうしても回答させたいなら義務にすればいいかと思われます。
- 教育 ・佐賀駅から大学までのバスを増やして欲しいです。(本当はバス会社の方に言うべきかも知れませんが…)
- 教育 ・アンケートは無記名にしてください。
- 教育 ・アンケートは無記名をお願いします。送信したら名前とアドレスが発信者に伝わるのはとても嫌です。
- 教育 ・海賊王になりたい。
- 教育 ・たのしいです
- 芸術 ・柔軟性
- 理工 ・佐賀駅からのバスの本数が少ない。平日常時とまでは言わないが、(バス会社と話し合っ)本数の多い時間を作って欲しいです。雨の日とか特に悲惨です。
- 理工 ・佐賀駅と大学間で無料のバスを運行して欲しいです。また、駅と大学間のバスの便数を増やして欲しいです。
- 理工 ・駅から近くしてほしい
- 理工 ・草刈りをなるべく勉強時間外にさせて欲しいです(～9時、18時～)。特に図書館周辺の刈りがあったら勉強はできなくなります。
- 理工 ・その差が佐賀大(佐賀大が上とは言っていない)をやめてください
- 理工 ・トイレの使い方が汚い人が多い。飲み会後のマナーがとても悪いと思います。
- 理工 ・パン・おにぎりの袋のプラスチックのゴミの分別がいまいちわからない。
- 理工 ・大学構内で、ゴミの放置が目立つ。
- 理工 ・喫煙スペースの範囲を大きくはみ出して喫煙しているのが目立つ。
- 理工 ・自転車の並走、両耳イヤホン、スマホみながら運転、傘さし運転をする者が多く、大変危険。
- 理工 ・交通ルールや法律を守って欲しい。大学敷地内と県道の定義が曖昧過ぎる。バイクを県道の路肩に停車すれば守衛さんに注意され、警察は普通に大学敷地内である駐輪場へ入ってくる。
- 理工 ・アンケートの質問数を減らしてほしい。
- 理工 ・概ね満足です。
- 農 ・研究費を増やしてほしい、足りなさすぎる
- 農 ・もう少し、研究に対して投資をすべき。
- 農 ・教員の退官に対する速急な後継教員の補填。
- 農 ・農学部でもお弁当を販売したり、自動販売機を設置してほしい。
- 農 ・質問が多くて大変でした。
- 農 ・満足しています。
- 医・医 ・鍋島キャンパスには生協がない分、購買のようなものを充実させてほしい。
- 医・医 ・クズを医師にするのは良くないと思います。
- 医・看 ・本庄と鍋島の直通のバスを出してください！
- 医・看 ・朝の通学と帰宅が自転車では大変なこと、市営バスの運賃が学生には高いことから、本庄から鍋島キャンパスまでの送迎バスを出して欲しい。
- 医・看 ・木曜日にも本庄キャンパスへのシャトルバスを出してほしい。
- 医・看 ・アンケート集計おつかれさまです。

ラーニングポートフォリオには、学生からの要望を記入するシステムが搭載されているが、そこに記入される件数は極めて少ないのが通常である。しかし、今回の自由記載では驚くほど多くの意見が寄せられた。あらためて学生諸君の多様性を認識する良い機会となった。基本的に全ての記載を載せているが、個人の特定につながるものはその限りではない。

学生生活実態調査ワーキンググループ構成員名簿

区分	氏名	所属	職名
委員長	鈴木章弘	農学部	教授
構成員	岡島俊哉	教育学部	教授
構成員	有馬隆文	芸術地域デザイン学部	教授
構成員	井上亜紀	経済学部	准教授
構成員	田淵康子	医学部	教授
構成員	半田賢司	工学系研究科	教授
構成員	徳田 誠	農学部	准教授
構成員	郡山益実	全学教育機構	准教授
構成員	河野美奈	学務部	学生生活課長
構成員	田中信行	学務部	学生生活課副課長
構成員	市山 薫	医学部	学生課副課長

あ と が き

現在の大学にとって学生生活の実態や学生の考えを把握することは極めて重要であり、ましてや大学憲章の中で「学生中心の大学づくり」を標榜している佐賀大学にとっては何をか言わんやである。そしてそのための学生生活実態調査が実に10年ぶりに本学において実施された。これだけ間が空いてしまうと、前回の調査項目では、内容やその必要性などが現実に則さない部分も出てきており、今回は質問事項を検討するところから開始した。そして「やるからには、これもあれも」という具合に質問事項が増えていき「答えるのが大変だった」というコメントを少なからずいただいてしまった。したがって、膨大な設問に答えてくれた学生諸氏にまずはお礼を申し上げたい。調査の実施については外部に委託することなく Office365 の Forms を用いてアンケートを作成しており、アンケート項目の入力の途中で予期しない問題なども見つかって、設問を2つのパートに分けざるを得なかった。この点はアンケートの全問解答への障壁になった可能性があり今後の課題としたい。また結果の集計に際しては、結果の最終出力の確固たるイメージを持たずに進めてしまったこともあり、多くの時間を費やすことになってしまった。これも反省点の1つである。

私自身が肝心の結果を初めて見た時は、なぜかドキドキするのを感じてしまった。選択肢から選ぶタイプの質問事項ではほとんどが想定内の結果として捉えられたが、自由記載の部分に関しては、想定外のオンパレードであったからである。普段学生はおとなしいと感じているが、これだけ多岐に渡った意見が大量に出てくるということは、現在のシステムでは不十分で、今以上に効率よく学生の意見を吸い上げられるシステムを構築する必要があるように思われる。何れにしてもこの結果には「学生の実態と学生の思い」が詰まっている。「学生中心の大学づくり」に是非とも生かさなければならない。

巻末で恐縮であるが、本調査を行うにあたり各学部から選出された学生生活実態調査ワーキンググループの先生方及び学生生活課の職員の皆様には多大なるご尽力をいただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

平成30年3月

平成29年度佐賀大学学生生活実態調査

ワーキンググループ委員長

鈴木 章弘